

- PARVUM GRADUALE -

典 礼 聖 歌 集

Editio quarta



光 明 社

1 9 5 9

Tenrei seikashū
Editio IV

IMPRIMATUR.

Sapporo, In festo Transfigurationis

D. N. Jesu Christi, die 6. Augusti 1959.

+ *Benedictus Tomizawa*
episcopus Sapporensis

序

カトリック式典の壮重さは、グレゴリオ聖歌が歌われる正式典礼によつてこそ、初めて得られるのであるが、そのグレゴリオ聖歌が昔のままの四線に四角な音譜、しかもラテン語原文では、一般信徒にはどうしても近寄りがたいうらみがある。で、この難点を和らげるため、現代音譜に書き改めた本書を刊行したのである。

外国語の発音を国字（かな文字）で現わすことについては、いろいろな意見をきくが、ここに編者の方針とその理由とを明確にしておきたい。

わが国において国語中に用いられる外来語が、いわゆる日本的に書かれ、発音もその国字どおりにされるのは当然である。だれもがたやすく発音し得るためには、国字をややくしく配列することはこれを避くべきであり、調子もむりに原語のそれにこだわる要のない場合もあろう。また日本人から見て異様に感ずる発音などは変更されることもあろう。すなわち、これらの際は日本語なみに取り扱うべきであつて、原語とへだたりがあるのも、やむをえないのである。それを非科学的、非常識だなどと評するのは当たらない。世界共通といわれる単語でも、よく調べてみるならば、それぞれ各国の特徴があつて、同一だとはいわれないのである。

しかし本書にある国字をそれと同様にみてはならない。それはラテン語として歌うものであり、かつ聖座の規定による「ローマ発音」に、なるべく近い書き方をしたからである。そこに無理が生じたことは必然であつて、どんなたでもこれを了解されると思う。

だが「これではなんと読むのかわからない」と言われるお方もあろうが、それは日本語にはない発音のものだけであつて、かかる記号の付いているもの、かかる国字の綴りはかく発音するとの約束なのである。たとえば、ある歌書には一律にチとしてあるのを、本書では原音通り、^チイ、^チイ、チの三種に分類し、またツを^ツウとしたなどである。もしこうしないなら、たとい正しい発音を教えられても、つい国字通りチ、ツと言ってしまうおそれがある。また国字は必ずラテン語と並べられてはあるが、国字だけを見ても発音は相当正しくできるようにとの考えからでもある。

「こんなわずかな発音を区別する必要はない」といわれるお方もあるが、立場を逆にして考えていただきたい。外国人が小さなことだとして、あまり注意せず自国語の発音、調子で日本語を語つたならば、われわれはどう感ずるであろうか。わからないばかりでなく、場合によつては、こっけいなことさえある。ゆえに、特に聖歌隊員は直接司祭についてよく学び、カトリック典礼ラテン語の標準発音であるローマのそれ（学的ラテン語の発音とは一致しない）を、できうるかぎり正確にされんことを切望する。

なお一言申し添えたい。それはすでに一般化している外来語を、特別の理由もないのに、ことさら原語どおりに発音しようとすることについてである。一、二の例をあげる。Ξイオン（本書138ページ）は、日本語の中では（カトリック聖歌集242番）国字どおりシオンであり、また祈祷書にペトロとあるかぎり、日本語の中でペ、ロなどと言うのは、正しいとはされない。この日本語の場合、外国語の場合はいつもこれを、はつきり区別し、混同しないよう特に強調したい。

しかし、いかに発音正しく、いかに巧みに、またいかにうるわしく歌われようとも、もし祈りの心がこれに伴なわないならば、その歌は天主の前にどれほどのねうちがあるだろうか。実に信心深い祈りの精神をこめて歌うことこそ、歌う祈りであるグレゴリオ聖歌の生命であつて、聖歌隊員の夢にも忘れてはならない第一要件である。

第四版の序

この「典礼聖歌集」の第三版を世に送って以来、聖会の儀式執行に関し礼部聖省から新规定が多数発令されたので、本書にも改訂が必要になった。それはなにかんづく聖会の保護者聖ヨゼフの祝日はもはや曆に載っていないのでそのミサは省き、聖母被昇天のミサの全文を新たにし、そのいと清きみ心の祝日を変更し、聖週間の最も重要な聖歌、わけても聖木曜日の二つのミサを挿入したことであるが、また葬式の際の聖歌も、日本司教会議により出された新定式集にのっとして改め、詩篇、マグニフィカトおよびベネディクトゥスには、枝の主日の詩篇と同様に新しいテキストを用いた。なお諸方面からの要望に応じて、いわゆる共唱ミサの際にも使用できるよう階段祈祷などのラテン語文を入れた。

これらの改訂によって本版は約四十ページ紙数が増加したが、それだけに今までよりもいっそうわが教会の要求にかなうことと信ずる次第である。

千九百五十九年八月二十日

発行者しるす

凡 例

グレゴリオ曲はソレームの方式にしたがって現代音譜に書き改めたが、いろいろの理由から自由に移調してあることを、おことわりする。

上あるいは下に横線の付いている音譜は、すこし伸ばして歌うのである。クリスマを示すギザギザの印、∧の印、スラー、小音譜、なお五種の区分記号（復線、大線、中線、小線、およびまれにある句点）など、こまかい点の歌いかたについては、ここにくわしくは述べないが、すべて指揮者の意見に従われない。

グレゴリオ曲の中途において臨時にある変化記号は、本位記号が記されないかぎり、五種の区分記号のうちそのいずれかが来るまでを有効とした。また調号として用られている変化記号に対する本位記号も、変化記号が記されない限り、やはり次に来る区分記号まで有効とした。なおこの定めに従うならば当然不要とされる記号が時々あるのは、ただ注意のために付けられたのである。わかりきったことのようにであるが、グレゴリオ原譜では、これらの記号が別な規則で扱われているので、あえてここに述べたのである。

グレゴリオ曲以外の楽譜中、第五線にある垂線(↓)は呼吸する所を示したのである。

「おりかえし」が最初におかれてある賛歌は、すべて本歌と交互に歌いながらも（各節毎にこう歌うよう記した賛歌もあるが）、最後は必ず「おりかえし」をもつて歌の結びとする。また本歌を全部うたわず数節で中止する場合でも、同じく「おりかえし」をもつて終わることを忘れぬように願いたい。

合唱曲は各位の希望に応じて収めたのであるが、ピエ・ペリカネ（280ページ）以外は合唱部を省き斉唱で歌ってもよい。

ラテン語中イタリック体の所は先唱、他の普通字体の所は斉唱する部分であるが、前者には○後者には▲を付けていつそうはつきりさせた。ただし詩篇、続唱などには、この規定通りできないものがあつたから、その番号の奇数、偶数によって歌い方を定められたい。なお○と▲を縦に二個以上ならべてある所は、その歌を先唱と斉唱で互いに繰り返して歌うのである。

第一部ミサ聖祭の歌詞にある星(*)は、たいいてい先唱と斉唱との境い目を示すのである。第二部の賛歌に二節以上の歌詞がある場合、かたかなの所に

付けた星は、息を切る所を示したのである。共に歌いやすくするために付けたのである。

本書にある国字の使用法を無論完全とは信じていないが、特殊発音のものを次に掲げる。

si	zy	ti	ti-a	tu	di	du	hu	la	li	lu	le	lo
スイ	ズイ	テイ	ツイア	トウ	ダイ	ドウ	ホウ	ラ	リ	ル	レ	ロ
va	vi	vu	ve	vo	wi	we	wo	t				
ヴァ	ヴィ	ヴ	ヴェ	ヴォ	ウィ	ウェ	ウォ	ト				

ラテン語にはアクセント記号(´)を付した。ただし一語が二音綴のものは、第一音綴にアクセントのあるのが通例なので、この場合にはほとんど記号を省略した。

第一部には、歌隊に必要がなく司祭が唱える書簡、その他が掲げてあるがこれは歌隊員に、その祝日の意義をある程度さとらせ、祈りの精神を起こさせるためである。第二部にある祈願文も同様の意味で載せられたものでありかつ司祭の便利をも考えたからである。

いま本書を通覧するとき、なお不満や見おとしもないではないが、長い間ご尽力下された方々に心から謝意を表明し、天主がその働きに報いたまわんことを祈ると共に、各位の好意ある意見を望んでやまない。

目 次

第一部 ミサ聖祭

灌 水 式	Ad aspersionem Aquæ benedictæ	
平 時 に	Extra tempus paschale	1
復 活 節 に	Tempore paschali	2
聖フランシスコ・ザヴェリオ祭	In festo S. Francisci Xaverii	5
聖 母 無 原 罪 祭	In festo Immaculatæ Conceptionis B. M. V.	12
聖 誕 祭	In Nativitate Domini	
第 一 ミ サ	Ad primam Missam	19
第 三 ミ サ	Ad tertiam Missam	26
公 現 祭	In Epiphania Domini	34
日本二十六聖殉教者祭	Ss. Petri Baptistæ, Pauli Miki et 24 soc., Mm.	41
枝 の 主 日	Dominica II. Passionis seu In Palmis	
聖 枝 祝 別 式	De benedictione Ramorum	50
聖 枝 行 列	De processione cum ramis benedictis	56
聖 木 曜 日	Feria V. In Cena Domini	
聖 香 油 ミ サ	De Missa Chrismatis	59
晚 餐 ミ サ	De Missa Solemni Vespertina in Cena Domini	69
聖 金 曜 日	Feria sexta in Passione et Morte Domini	82
復 活 聖 夜 祭	Vigilia Paschalis instaurata	91
復 活 聖 夜 ミ サ	Missa solemnus vigiliae paschalis	100
復 活 祭	Dominica Resurrectionis	108
昇 天 祭	In Ascensione Domini	117
聖 靈 降 臨 祭	Dominica Pentecostes	124
聖 体 祭	In festo Corporis Christi	133

聖	心	祭	In festo Ss. Cordis Jesu	147		
聖	ペトロ	聖パウロ	祭	In festo Ss. Apostolorum Petri et Pauli	156	
聖	母	被昇天	祭	In festo Assumptionis B. M. V.	164	
聖母の	汚れなき	み心	祭	In festo Immaculati Cordis B. M. V.	171	
大	天使	聖ミカエル	祭	In dedicatione S. Michaelis Archangeli	179	
王	たる	キリスト	祭	In festo Christi Regis	188	
諸	聖	人	祭	In festo Omnium Sanctorum	196	
ミ	サ	通常	文			
	復活節	ミサ	通常文	Tempore paschali (I)	205	
	聖母	ミサ	通常文	In festis B. M. V. (IX)	210	
	信	経		Credo	215	
ミ	サ	順	序	Ordinarium Missæ	219	
死	者	ミ	サ	Missa pro Defunctis	231	
赦	禱	式		Absolutio ad tumbam	252	
大	人	の	葬	式	Exsequiarum ordo	257
埋	葬	式		Ad sepulcrum	266	

第二部 賛 歌

聖	体	賛	歌							
ア	ヴェ	・	ヴェ	ルム	Ave verum	273				
サ	クリス	・	ソ	レム	ニス	Sacris solemniis	274			
パ	ニス	・	ア	ン	ヂ	エ	リ	クス	Panis angelicus	276
オ	・				ク	ア	ム	O quam	277	
エ	ッ	チ	エ	・	パ	ニス		Ecce panis	278	
ボ	ネ	・	パ	ス	トル			Bone pastor	278	
オ	・	サ	ク	ルム				O sacrum	279	

	ピ エ・ベ リ カ ネ	Pie pelicane (三部合唱)	280
	オ ・ サ ル タ リ ス	O salutaris (三部合唱)	282
聖	心 賛 歌		
	コ ル ・ ド ウ ル チ エ	Cor dulce	283
	コ ル ・ イ エ ス	Cor Jesu	284
聖	名 賛 歌		
	イ エ ス ・ ド ウ ル チ ス	Jesu dulcis	284
イ	エ ズ ス 賛 歌		
	オ ・ イ エ ス	O Jesu (二部合唱)	286
	イ エ ス ・ デ ウ ス	Jesu Deus (二部合唱)	287
聖	母 賛 歌		
	オ ・ サンク テ イ ス ス イ マ	O sanctissima (二部合唱)	288
	ア ヴ エ ・ マ リ ス ・ ス テ ル ラ	Ave maris stella	289
	オ ム ニ ・ テ イ エ	Omni die	291
	サル ヴ エ ・ レ ジ ナ ・ チ エ リ ト ウ ム	Salve regina cœlitum (二部合唱)	292
	サル ヴ エ ・ マ テ ル	Salve Mater	294
	スタ バ ト ・ マ テ ル	Stabat Mater	296
	コン コ ル テ イ ・ レ テ イ ッ イ ア	Concordi lætitia	298
	聖 母 連 禱	Litaniæ lauretanæ	300
聖母交唱	アル マ ・ レ デ ム フ ト リ ス	Alma Redemptoris	305
"	ア ヴ エ ・ レ ジ ナ	Ave Regina	307
"	レ ジ ナ ・ チ エ リ	Regina cœli	309
"	サル ヴ エ ・ レ ジ ナ	Salve Regina	310
聖	ヨ ゼ フ 賛 歌		
	テ ・ ヨ セ フ	Te Joseph	312
	サル ヴ エ ・ パ テ ル	Salve pater	314

聖節賛歌						
待降節	ロ		ラ		テ	Rorate 315
聖誕節	レ		ソ		ネト	Resonet (三部合唱) 318
"	ア		デス		テ	Adeste (三部合唱) 320
四旬節	アト		テン		デ	Attende 322
"	パル	チエ	・ド	ミ	ネ	Parce, Domine 323
"	ヴェ		クスイル		ラ	Vexilla 324
"	オ		・		クルクス	O Crux 325
復活節	オ	・	フィ	リ	イ	O filii 326
"	カン	タ	テ・ド	ミ	ノ	Cantate Domino (四部合唱) 328
聖霊節	ヴェ	ニ	・クレ	ア	トル	Veni Creator 330
感謝唱						
	テ	・	デ		ウム	Te Deum 332
	マ	ニイ	フィ		カト	Magnificat 338
	マ	ニイ	フィ		カト	Magnificat (三部合唱) 340
雑詠						
	オ		レ		ムス	Oremus 342
	トウ	・	エス	・	ペトルス	Tu es Petrus 343
	ダ	・	パ		チエム	Da pacem 344
降福式祈願文						Orationes ante benedictionem 345
降福式賛歌						
	タン		トウム	・	エルゴ	Tantum ergo (二種) 347
	タン		トウム	・	エルゴ	Tantum ergo (三部合唱二種) 348
降福式賛美						351
司教入堂歌						In receptione Episcopi 352
授堅式						Pro confirmandis 354

第 一 部

三 廿 聖 祭

灌 水 式

AD ASPERSIONEM AQUAE BENEDICTAE

平 時 に Extra Tempus Paschale



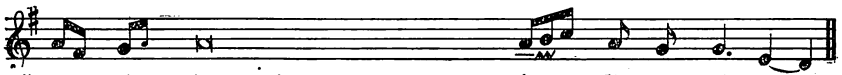
A- spér- ges me * Dó- mi- ne, hys- só- po, et mun-
 ア スペル ジエス メ ▲ ド ミ ネ ヒス ソ ポ エト ムン
 (われを注ぎたまえ) 主よわれをヒソブにて注ぎたまえ しかしてわれ



dá- bor: la- vá- bis me, et su- per ní- vem
 ダ ボル プ ヲア ビス メ エト ス ペル ニ ヲエム
 は清くならん われを洗いたまえ しかして雪にまさりて

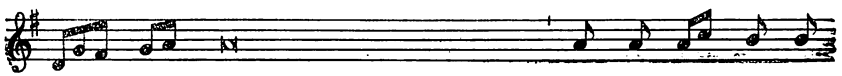


de- al- bá- bor. Ps. Mi- se- ré- re mé- i, Dé- us,
 デ アルバ ボル ○ ミ セ レ レ メ イ デ ウス
 白くならん 詩. ああ天主われをあわれみたまえ

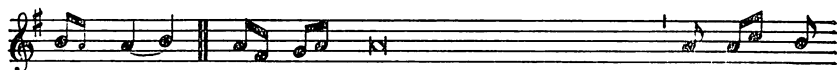


* se- cún- dum má- gnam mi- se- ri- cór- di- am tú- am.
 ▲ セ クン ド ヲム マ ニヤム ミ セ リ コル ヲイ ア ヲウ ア ヲ
 主の大いなる慈悲によりて

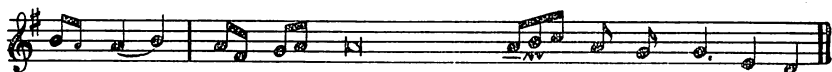
(受難の主日と枝の主日には次のグロリアを省く)



Gló- ri- a Pá- tri, et Fí- li- o, et Spi- ri- tu- i
 ○ ヲリ ア パ トリ エト ヲイ リ オ エト ス ビ リ トウ イ
 光 栄 は 聖 父 と 聖 子 と 聖 霊 と に あ れ



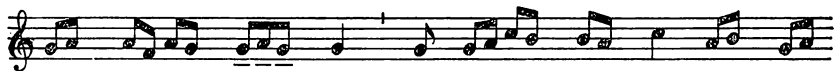
San-cto. * Sic- ut é-rat in prin-cí-pi-o, et nunc, et
 サンクト ▲ スイクト エラトインプリチピオ エトヌンク エト
 始めにありしごとく 今もい



sem-per, et in saé-cu-la saé-cu- ló-rum. A-men.
 セムペル エトインセクテセクポルムアメン
 つも 世々に至るまで しかあれかし

(最初に戻りアスペルジエス・メを3行目の前半まで歌い、次に4ページのオステンデに移る)

復活節に Tempore Paschali



Vi-di a-quam* e-gre-di-én-tem de
 ヴィダイ アクワム ▲ エグレ ディエンテムデ
 (われは水を見たり) われは聖殿の右方より



tem-plo, a lá-te-re déx-tro,
 テムプロ ▲ アテレデクストロ
 流るる水を見たり



al-le-lú-ja: et óm-nes, ad quos
 アルレリュヤ ▲ エトオムネスアドクオス
 主を賛美せよ その水(恵み)に



per-vé-nit á-qua i-sta,
 ペルヴェニト ▲ アクアイスタ
 浴する人々はことごとく



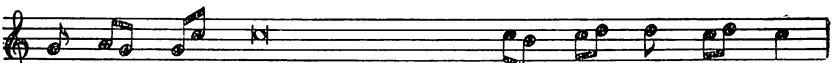
sál- vi fá- cti sunt, et di- cent,

サ^ル ヲイ ヲア クタイ ス^{ント} エ^ト タイ チ^エント
救 わ れ て 叫 ぶ ら く



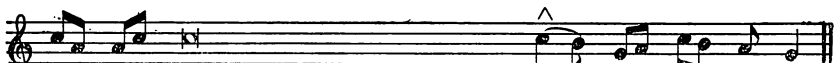
al- le- lú- ja, al- le- lú- ja.

ア^ル ・ レ ル ヤ ア^ル レ ル ヤ
主 を 賛 美 せ よ 主 を 賛 美 せ よ



Ps. Con- fi- té- mi- ni Dó- mi- no, quó- ni- am bo- nus :

○ コ^ン フ^イ テ ミ ニ ド ミ ノ ヲ^ニ ア^ム ポ^ヌ ス
詩. なんじし主を賛美せよ けだし主は善なるおん方にましまし



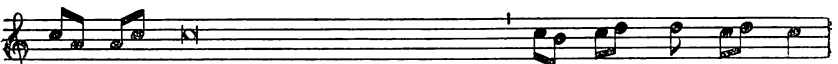
* quó- ni- am in saé- cu- lum mi- se- ri- cór- di- a é- jus.

▲ ヲ^ニ ア^ム イン セ ク ル ム ミ セ リ コ ル タイ ア エ ヌ
そのあわれみは永遠に絶ゆることなければなり



Gló- ri- a Pa- tri, et Fi- li- o, et Spi- ri- tu- i San- cto.

○ ヲ^リ ア パ^{トリ} エ^ト フ^イ リ^オ エ^ト ス^ピ リ^ト ウ^イ サ^ン ク^ト
光 栄 は 聖 父 と 聖 子 と 聖 霊 と に あ れ



* Sic- ut é- rat in prin- cí- pi- o, et nunc, et sem- per,

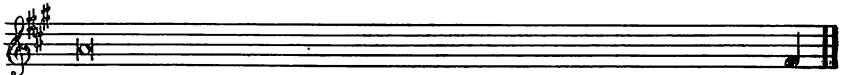
○ ス^イ ク^ト エ^ラ ト イン プ^{リン} チ^ピ オ エ^ト ス^ンク エ^ト セ^ム ペ^ル
始 め に あ り し ご と く 今 も い つ も



et in saé- cu- la saé- cu- ló- rum. A- men.

エ^ト イン セ ク ラ セ ク ル ム ア[・] メ^ン
世 々 に 至 る ま で し か あ れ か し

(最初に戻り「イ・ア」を6行目の終りまで歌ってから次に移る)



V. O-stén-de nó-bis, Dó-mi-ne, mi-se-ri-cór-di-am tu-am.
 ◎ オ ス テ ャ デ ノ ビ ス ド ミ ネ ミ セ リ コ ル テ イ ア ム ト ウ ア ム
 主よおんあわれみをわれらに示したまえ

Al-le-lú-ja.

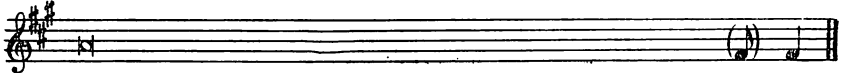
(復活節には右を加える)

ア ル レ ル ヤ
主を賛美せよ

R. Et sa-lu-tá-re tú-um da no-
 ▲ エ ト サ ル タ レ ト ウ ウ ム ダ ノ
 またみ救いをわれらに与えたまえ

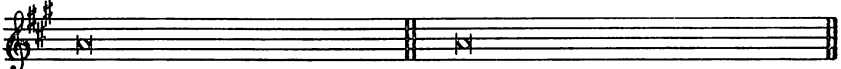
bis.

Al-le-lú-ja.
ア ル レ ル ヤ
主を賛美せよ



V. Dó-mi-ne, ex-aú-di o-ra-ti-ó-nem mé- am.
 ◎ ド ミ ネ エ ク サ ャ テ イ オ ラ ャ イ オ ネ ム メ
 主よわが祈をききいれたまえ

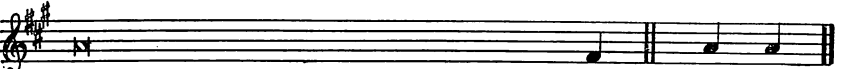
R. Et clá-mor mé-us ad te vé- ni-at.
 ▲ エ ト ク ラ ャ モ ル メ ウ ス ア フ テ ャ エ ニ ア ト
 わが叫びをしてみ前に至らしめたまえ



V. Dó-mi-nus vo-bis-cum. R. Et cum spí-ri-tu tu-o.
 ○ ド ミ ヌ ス ャ オ ビ ス ク ム ▲ エ ト ク ム ス ピ リ ト ウ ト ウ オ
 ねがわくは主なんじらと共に またなんじらの霊と共にいままんことを

Orémus: Exaúdi nos, Dómine sancte, Pater omnipótens, ætérne Deus: et mittere dignéris sanctum Angelum tuum de caelis; qui custódiat, fóveat, prótegat, visitet, atque deféndat omnes habitántes in hoc habitáculo.

聖なる主、全能の父、永遠の天主、われらのねがいを聞き入れたまいて、天より主の聖き天使をつかわしたまえ。しかして天使をしてこの住家（聖堂）にあるすべての人を守り、いつくしみ、覆い、訪い、また（悪魔）を防がしめたまえ。



Per Chri-stum Dó-mi-num no-strum. R. A-men.
 ペ ル ク リ ス ト ウ ム ド ミ ヌ ム ノ ス ト ル ム ▲ ア メ ャ
 われらの主キリストによりて しかあれかし

聖フランシスコ・ザヴェリオ祭

S. FRANCISCI XAVERII CONFESSORIS

入 祭 文 Introitus



Lo- qué- bar * de te- sti- mó- ni- is tú-
 ロ ッエ バル ▲ デ テステイ モニ イストウ
 われ 語れり 主 の 証 明 に つ き て



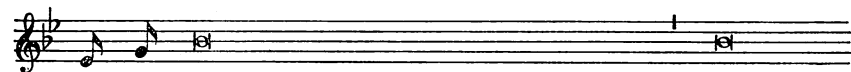
is in con- spé- ctu ré- gum, et non con-
 イス イン コン スペクトウ レ グム エト ノン コン
 王 た ち の 前 に。 さ れ ば 恥 あ ら



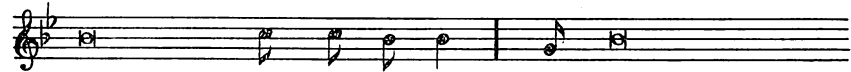
fun- dé- bar: et me- di- tá- bar in man- dá-
 フンデ バル エト メテイ タ バル イン マン ダ
 さ り き。 ま た 深 く 思 い 廻 ら せ り 主 の



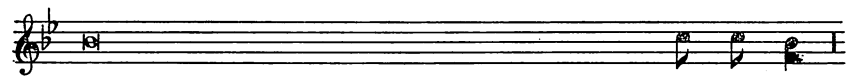
tis tú- is, quæ di- lé- xi ni- mis.
 テイストウ イス ッエテイ レ ックスイ ニ ミス
 掟 す な わ ち わ が い と も 愛 す る と こ ろ を ば。



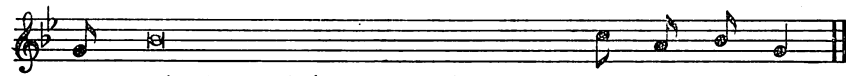
Ps. Lau- dá- te Dó- mi- num, óm- nes gén- tes, lau- dá- te
 オ ヲ ヲ ダ テ ド ミ ヌ ム オ ム ネ ヌ ッエンテス ヲ ヲ ダ テ
 詩. 贊 美 せ よ 主 を ば、 す べ て の 異 邦 人 よ。 贊 美 せ よ



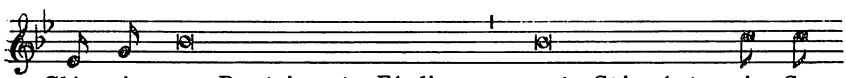
é- um, óm- nes pó- pu- li, * quó- ni- am con- fir-
 エウ ム オ ム ネ ヌ ポ プ リ ▲ ックオ ニ ア ム コンフィル
 主 を ば、 す べ て の 民 よ。 そ は 堅 め ら



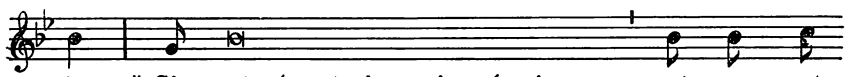
má-ta est su-per nos mi-se-ri-cór-di-a é-jus,
 マタエスト スペル ノス ミセリコルタイ ア エ ユス
 るればなり、われらの上に 主のあわれみは。



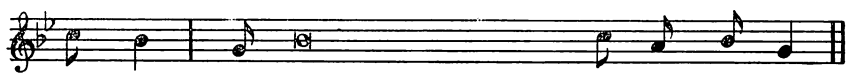
et vé-ri-tas Dó-mi-ni má-net in æ-tér-num.
 エト ヴエリタス ドミニ マネト イン エテルヌム
 また主の真実は止まるなり、永遠に。



Gló-ri-a Pa-tri, et Fí-li-o, et Spi-rí-tu-i San-
 ゴッポリアパトリ エトフィリオ エトスピリトウイサン
 光栄あれ 聖父と聖子と 聖霊とに



cto, * Sic- ut é-rat in prin-cí-pi-o, et nunc, et
 ット ▲スイクトエラトインプリンチピオ エトヌンク エト
 始めにありしごとく 今も



sem-per, et in sáe-cu-la sáe-cu-ló-rum. A-men.
 セムペル エトインセクドラセクポルム アメン
 いつも 世々に至るまでしかあれかし

Oratio

集 禱 文

Deus, qui Orientalium gentes beati Francisci prædicatione et miraculis Ecclesie tue aggregare voluisti: concede propitius, ut cujus gloriosa merita veneramus, virtutum quoque imitemur exempla. Per Dominum nostrum Jesum Christum filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

R. Amen.

天主よ、主は聖フランシスコの説教と奇蹟とによりてインドの民らを主の聖会に加うることをおぼしめたまいしかば、ねがわくはおん慈悲によりて、その榮ある功德を尊敬するわれらをして、その善徳の模範に学ばしめたまわんことを、主と聖霊と共に世々活きかつしろしめしたまう天主、聖子、われらの主イエズス・キリストによりて。 ▲ アーメン。

Epistola

*Lectio Epistolae beati Pauli Apostoli
ad Romanos (Rom. 10, 10-18)*

Fratres, cordē enim creditur ad justitiam, ore autem confessio fit ad salutem; dicit enim Scriptura: Omnis qui credit in illum, non confundetur. Non enim est distinctio Judaei et Graeci; nam idem Dominus omnium, dives in omnes qui invocant illum. Omnis enim quicumque invocaverit nomen Domini, salvus erit. Quomodo ergo invocabunt, in quem non crediderunt? Aut quomodo credent ei quem non audierunt? Quomodo autem audient sine praedicante? Quomodo vero praedicabunt, nisi mittantur? sicut scriptum est: Quam speciosi pedes evangelizantium pacem, evangelizantium bona! Sed non omnes obediunt Evangelio; Isaias anim dicit: Domine, quis credit auditui nostro? Ergo fides ex auditu, auditus autem per verbum Christi. Sed dico: Numquid non audierunt? Et quidem in omnem terram exivit sonus eorum, et in fines orbis terrae verba eorum.

R. (侍者のみ) Deo grátias.

書 簡

使徒聖パウロ、 로마人に贈りし
書簡の朗讀 (羅, 10, 10-18)


兄弟たちよ、そは心には信じて義とせられ口には宣言して救霊を得べければなり。すなわち聖書にいわく、たれにもあれかれを信ずる人は辱められじ、と。けだし万民の主は唯一にましまして、頼み奉る一切の人に対して豊にましまして、ユデア人とギリシヤ人との別ある事なし。ゆえにたれにもあれ、主のみ名を呼び頼む人は救わるべし。しからば未だ信ぜざりし者をいかにしてかこれと呼び頼まん、未だ聞かざりし者をいかにしてかこれを信ぜん、宣ぶる人なくば、いかにしてか聞くべき、つかわされずばいかにしてか宣べん。録して、あな麗し、幸に平和を告げ、善事を告ぐる人々の足、とあるがごとし。されども皆福音に随えるには非ず、すなわちイザヤいわく、主よ、われらに聞きて信ぜし者はたれぞや、と。されば信仰は聞くより起り、聞くはキリストのおん言葉をもつてす。されどわれは言わん、かれらは聞えざりしか、と。しからず、しかもその声は全界に行き渡り、その言葉は地の極にまで及べり。

・天主に感謝し奉る。

昇 階 唱 Graduale



Jú- stus * ut pál- ma flo- ré- bit: sic- ut
 ニ ストウス ▲ ウト パル マ ヲ レ ビト スイ クト
 (訳詞はリページにある)



cé- drus Lí- ba- ni
 ゼエ ドルス リバ ニ



mul- ti- pli- cá-

ムルタイ ナリカ

bi- tur

ビトゥル



in dó-

インド

mo Dó- mi- ni.

モドミニ



V. Ad an-nun- ti-

○ ア アンヌンツイ



án- dum ma-

アンダムマ



ne mi-

ネミ

se- ri- cór- di- am tú-

セリコルタイアトゥ



am, et ve- ri- tá-

ア エトエリタ



tem tú-

テムトゥ

am

ア



* per nó- ctem.

▲ ペル

ノテム

賛 唱 Alleluia

○ Al- le- lú- ja * ij.
 ▲ ア ル ピ ル ヤ (二回)

V. Be- á-
 ○ ベ ア

tus vir, qui sú- fert ten-
 トウス ヴィル ヴィ スフ フエルト テン

ta- ti- ó- nem: quó- ni- am cum pro-
 タ ヲイ オ ネム ヴオ ニ アム クム プロ

bá- tus fú- e- rit, ac- cí- pi- et
 バトウス フエ リト アッチピ エト

co- ró- nam * ví- tæ.
 コ ロ ナム ▲ ヴィ テ

昇階唱 訳詞

義しき者は棕欄のごとく栄えん。リバノンの香柏の木のごとく主の殿堂に茂り育たん。こは朝にはおん仁慈を、夜々には主の真実を告げんためなり。

賛唱 訳詞

アレルヤ、アレルヤ。試みを忍ぶ人は福なり。そは鍛錬を経て後、生命の冠を得べければなり。アレルヤ。

Evangelium

福 音

*Sequentia sancti Evangelii secundum
Marcum (Marc. 16, 15-18)*

十 マルコ聖福音の続唱 (可、16, 15-18)

In illo tempore dixit Jesus discipulis: Euntes in mundum universum, prædicate Evangelium omni creaturæ. Qui crediderit et baptizatus fuerit, salvus erit; qui vero non crediderit, condemnabitur. Signa autem eos qui crediderint, hæc sequentur: In nomine meo dæmonia ejicient, linguis loquentur novis, serpentes tollent, et si mortiferum quid biberint, non eis nocebit; super ægros manus imponent, et bene habebunt.

その時、イエズス弟子たちにのたまいはるは、なんじら、全世界に行きて、すべての被造物に福音を宣べよ。信じかつ洗せらるる人は救われ信ぜざる人は罪に定められん。さて信ずる人々にはこれらの徴伴わん、すなわちかれらはわが名によりて悪魔を追い払い、新しき言語を話し、蛇を捕え、死毒を飲むも身に害なく、病人に按手せばその病癒えん、と。

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

▲ キリストに光栄あらんことを。

奉 献 文 Offertorium



Vé-ri-tas mé-a * et mi-se-ri-
 ヲ エ リ タ ヌ メ ア ▲ エ ト ミ セ リ
 わ が 真 実 ま た わ が



cór-di-a mé-a cum í-
 コ ル ヲ イ ア メ ア ク ム イ
 あ わ れ み は か れ と 共 な ら ん。



pso: et in nó-mi-ne mé-o ex-
 ソ エ ト イン ノ ミ ネ メ オ エ ッ
 し か し て わ が 名 に よ り て 高



al-tá-bi-tur cór-nu é-jus.
 サ ル タ ビ ト ウ ル コ ル ヌ エ ヌ ス
 め ら れ ん そ の 角 (聖人の力を云う) は。

Secreta

密唱

Præsta nobis, quæsumus, omnipotens
Deus, ut nostræ humilitatis oblatio et
pro tuorum tibi grata sit honore San-
ctorum, et nos corpore pariter et mente
purificet. Per Dominum...

全能なる天主、ねがわくは謙遜なるわれ
らの犠牲をして聖人の榮譽のためにみ旨に
適わしめ、かつこれによりてわれらを靈肉
共に清めたまわんことを。主と……

序唱 Præfatio 聖ミカエル祭の序唱と同じ (135ページ)

聖体拝領唱 Communio



Be- á- tus sér- vos, * quem, cum vé- ne-
べ ア トウス セル ヴス ▲ クエム クム エ ネ
福 なり しもべ、 すなわち主の米ら



rit Dó- mi- nus, in- vé- ne- rit vi- gi- lán- tem:
リト ド ミ スス イ ヲ エ ネ リト ヲ イ ジ テン テム
ん 時 日さめたるを見出だされしは。



a- men dí- co vó- bis, su- per óm- ni- a bó-
ア メン テイ コ ヲ オ ビス ス ペン オム ニ ア ボ
まことにわれ告ぐなんじらに。 すべてのわが所



na sú- a con- stí- tu- et é- um.
ナスア コン ステイ トウ エト エ ウム
有物を つかさどらしめん、 かれに。

Postcommunio

聖体拝領後の文

Quæsumus, omnipotens Deus, ut qui
caelestia alimenta percipimus, intercedente
beato Francisco Confessore tuo, per hæc
contra omnia adversa muniamur. Per
Dominum...

全能の天主、ねがわくはわれらが拝領し
奉りし天上の糧と主の証聖者なる聖フラン
シスコの伝達とによりて、われらをすべて
の災禍より守りたまわんことを。主と……

聖母無原罪祭

IMMACULATAE CONCEPTIONIS B. M. V.

入 祭 文 Introitus



Gau- dens gau- dé- bo * in Dó- mi- no,
 ガッ デンス ガッ デ ボ ▲ インド ミノ
 たのしみ たのしむなり 主において。



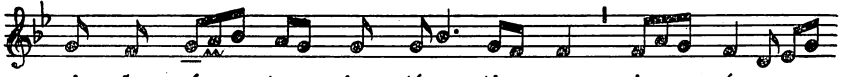
et ex-sul-tá- bit á- ni- ma mé- a in
 エト エクス スル タ ビト ア ニ マ メ ア イン
 また 喜びにたえず わ が 魂 は わ



Dé- o mé- o: qui- a ín- du- it me
 デ オ メ オ ヲイ ア イン ドウ イト メ
 が天主によりて。 そは主着せられたればなり、われに



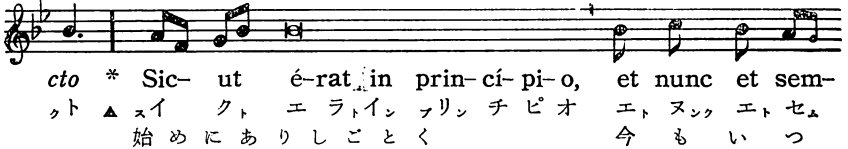
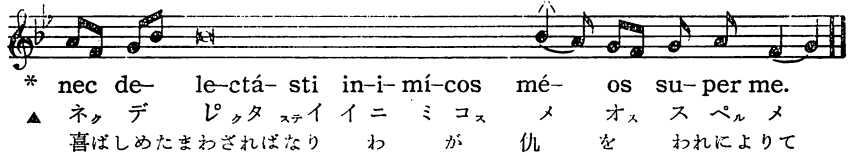
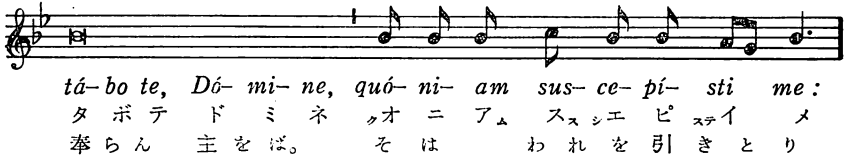
ve- sti- mén- tis sa- lú- tis, et
 ヲ エステイ メン タイ ス サ ル タイ ス エト
 救 済 の 衣 を、 また



ín- du- mén- to ju- stí- ti- æ cir- cúm-
 イン ドウ メン ト ヲ エステイ ヲイ エ チル クム
 正 義 の 上 衣 を まとわせたれば



de- dit me, qua- si spón- sam or- ná-
 デ ヲイ ト メ ヲ ア スイ スポン サム オル ナ
 なり われに、 花嫁のごとく 装われたり



Oratio

集 禱 文

Deus, qui per immaculatam Virginis
 Conceptionem dignum filio tuo habitacu-
 lum præparasti; quæsumus, ut qui ex
 morte ejusdem filii tui prævisa, eam ab
 omni labe præservasti, nos quoque mundos,

天主よ、主は童貞の無原罪のおん孕りをもつておん子に妙なる住家を備えたまいしにより、ねがわくは主がこの聖子のご死去の功德によりてあらかじめかれをすべての汚れより守りたまひしごとく、われらをも

ejus intercessione, ad te pervenire concedas. Per eundem Dominum nostrum Jesum Christum filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

R. Amen.

Epistola

Lectio libri Sapientiae (Prov. 8. 22-35)

Dominus possedit me in initio viarum suarum, antequam quidquam faceret a principio. Ab æterno ordinata sum et ex antiquis, antequam terra fieret. Nondum erant abyssi, et ego jam concepta eram; necdum fontes aquarum eruperant, necdum montes gravi mole constiterant; ante colles ego parturiebar: adhuc terram non fecerat, et flumina, et cardines orbis terræ. Quando præparabat cælos aderam, quando certa lege et gyro vallabat abyssos, quando æthera firmabat sursum et librabat fontes aquarum, quando circumdabat mari terminum suum, et legem ponebat aquis ne transirent fines suos, quando appendebat fundamenta terræ, cum eo eram cuncta componens, et delectabar per singulos dies, ludens coram eo omni tempore, ludens in orbe terrarum. Et deliciæ meæ esse cum filiis hominum. Nunc ergo, filii, audite me: beati qui custodiunt vias meas! Audite disciplinam, et estote sapientes, et nolite abjicere eam. Beatus homo qui audit me, et qui vigilat ad fores meas quotidie, et observat ad postes ostii mei! Qui me invenerit, inveniet vitam, et hauriet salutem a Domino.

R. (侍者のみ) Deo grátias.

そのおん伝達によりて清きがままに主に至らしめたまわんことを、主と聖靈と共に世々生きかつしろしめしたもう天主、このおん子、われらの主イエズス・キリストによりて。▲アーメン。

書簡

智書の朗讀 (箴言, 8, 22-35)

主は元始よりして、物を創造りたもうに先立ち、その道の始めに当りわれを有したまえり。われは永遠より、地のいまだ造られざる前の古より立てられ淵いまだあらず、泉いまだ湧き出でざるに、われすでに孕り、山山いまだその大なる威容を定められざるに、丘に先立ちてわれ生れたり。時に主はいまだ地をも河をも地球の枢軸をも造りたまわざりき。かれが天を備えたまいし時、われはみ許に在り、かれが一定の法則と境界とをもて淵を囲みたまひし時、上に蒼窮を堅め、泉を据えたまいし時、海の周圍にその限界を設け、水のために法則を定めて、その境界を越えざらしめたまいし時、また地の基を据えたまいし時、われはかれのみ許にありて一切を整え日毎に喜び、いつもそのみ前にて楽しみ、地球の上にて楽しむ、わが喜びは人の子らと共に在ることなり。されば今、子らよ、われに聞け、わが道を守る者は幸福なるかな。規律に注意して賢くなれ、これをしりぞくるなかれ。幸福なるかな。われに聞き、日毎わが戸口を見張り、わが門の柱を守る人。われを見出す者は生命を見出し、主より救済を得ん。

▲天主に感謝し奉る。

昇階唱 Graduale



Be-ne-dí-cta es tu, * Vír-go Ma-rí-a,

ベネデイ ヌタ エストウ ▲ ヴィルゴ マリア

(訳詞はJ6ページにある)



a Dó-mi-no De-o ex-cél-so

アドミノ デオ エクスセルソ



præ óm-ni-bus mu-li-é-ri-

プレ オムニ ブス ムリエリ



bus su-per ter-rám.

ブススペルテルラム

V. Tu gló-

○ トウ ヌロ



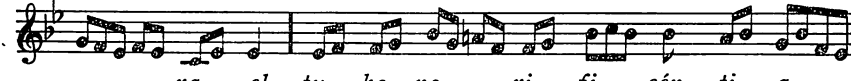
ri-a Je-rú-

リア イエル



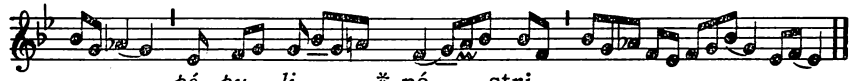
sa-lem, tu lae-tí-ti-a Is-

サレム トウ レティティア イス



ra-el, tu ho-no-ri-fi-cén-ti-a

ラエル トウ ホノリファイチエンティア



pó-pu-li * nó-stri.

ポプリ ▲ ノストリ

賛 唱 Alleluia

○ Al- le- lú- ja * ij.
 ▲ アレ ル ヤ (二回)

V. To- ta
 ○ ト タ

pul- chra es, Ma- ri- a,
 プル クラ エス マ リ ア

et má- cu- la o- ri- gi- ná-
 エト マ ク ラ オ リ ジ ナ

lis * non est in te.
 リス ▲ ノン エスト イン テ

昇階唱 訳詞

童貞マリアよ。なんじは地上のすべての女の中より、天主にてまします主に祝せられたもう。なんじはイエルザレムの光榮、なんじはイスラエルの喜び、なんじはわが民の誉なり。

賛唱 訳詞

アレルヤ、アレルヤ。マリアよ、なんじはことごとく麗しくしてなんじに原罪の汚れなし。アレルヤ。

Evangelium

*Sequentia sancti Evangelii secundum
 Lucam (Luc. 1, 26-28)*

In illo tempore: Missus est Angelus Gabriel a Deo in civitatem Galilææ cui nomen Nazareth, ad virginem desponsa-

福 音

ルカ聖福音の続唱 (註、1, 26-28)

その時、天使ガブリエル、ガリレアのナザレトと云える町に、ダヴィド家のヨセフと名づくる人の聘定せし童貞女に天主より

tam virō cui nomen erat Joseph, de domo David, et nomen virginis Maria. Et ingressus Angelus ad eam dixit: Ave, gratia plena; Dominus tecum, benedicta tu in mulieribus.

つかわされしが、その童貞女名をマリアと云えり。天使かれの許に入来りて云いけるは、めでたし恩寵に満てる者よ、主なんじと共にまします、なんじは女の中にて祝せられたる者なり、と。

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

▲キリストに光榮あらんことを。

奉 献 文 Offertorium

A- ve, * Ma- ri- a,
 ア ヲエ ▲ マ リ ア

めでたし マ リ ア

grá- ti- a ple-
 ヲラ ヲイ ア ヲレ

聖 寵 満 て り

na: Dó- mi- nus
 ナ ド ミ ス

主

té- cum: be- ne- dí-
 テ クム ベ ネ タイ

おん身と共にあり 祝せられ

cta tu in mu- li- é-
 ヲタ トウ イン ム リ エ

たもうなり おん身は女の中にて。

ri- bus, al- le- lú- ja.
 リ ブス アレ ル ヤ

Secreta

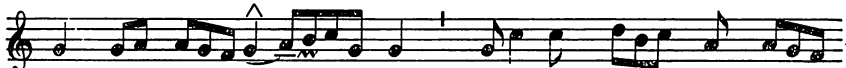
密唱

Salutarem hostiam, quam in sollemnitate immaculatæ Conceptionis beatæ Virginis Mariæ tibi, Domine, offerimus, suscipe et præsta, ut sicut illam tua gratia præveniente ab omni labe immunem profitemur, ita ejus intercessione a culpis omnibus liberemur. Per...

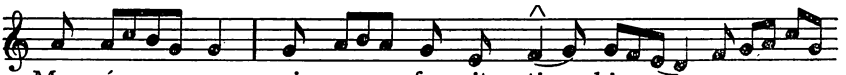
主よ、ねがわくは童貞にまします聖マリアの原罪なきおん孕りの大祝日においてわれらが主に捧げ奉る救霊の犠牲を受けたまい。かつわれらは主があらかじめ童貞を聖寵によりてすべての汚れを玷なく守りたまひしことを信じ奉るがゆえにそのおん伝達によりてすべての罪科より救い出したまわんことを。主と……

序唱 Præfatio 聖母被昇天祭と同じただし “in assumptione” 「被昇天において」の代り “in conceptione immaculata” 「無原罪のおん孕りににおいて」と唱える

聖体拝領唱 Communio



Glo-ri-ô- sa * di-cta sunt de te,
 ♪^ロリ オ サ ▲^{テイ} ♪^タ ス ♪^ス デ テ
 栄えあること なんじにつきて語られたり



Ma-ri-a: qui-a fe-cit ti-bi ma-
 マリ ア ♪^イ ア ♪^エ チ ♪^{テイ} ビ マ
 マリ ア よ そ は なんじになしたまいたればなり、大いなる



gna qui pò- tens est.
 ♪^ヤ ♪^イ ♪^ポ テンス エスト
 事を 全能なるおん者は。

Postcommunio

聖体拝領後の文

Sacramenta quæ sumpsimus, Domine Deus noster, illius in nobis culpæ vulnera reparant, a qua immaculatam beatæ Mariæ Conceptionem singulariter præservasti. Per Dominum nostrum Jesum Christum filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

われらの天主にてまします主よ、ねがわくは主が栄福なる聖マリアのおん孕りのみをすべての罪に汚さることなく守りたまひしがごとく、今授かりし秘蹟によりてわれらの罪の玷を補いたまわんことを、主と聖霊と共に世々生きかつしろしめしたもう天主、聖子、われらの主イエズス・キリストによりて。

R. Amen.

▲アーメン。

聖 誕 祭

IN NATIVITATE DOMINI

第一ミサ AD PRIMAM MISSAM.

入 祭 文 Introitus



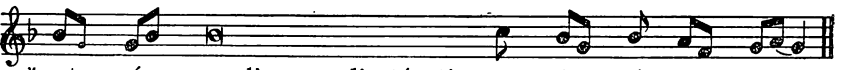
Dó- mi- nus * dí- xit ad me: Fí- li- us
 ド ミ ヌス * デイ クス イト ア フ メ ヲイ リウ ス
 主 は われに 曰えり なんじはわが子



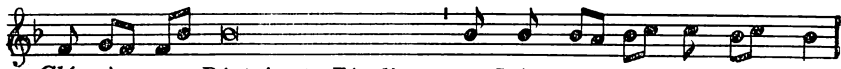
mé- us es tu, é- go hó- di- e gé-
 メ ウス エ ス トウ エ ゴ ホ デイ エ ジエ
 な り われ 今日 なんじを生めりと



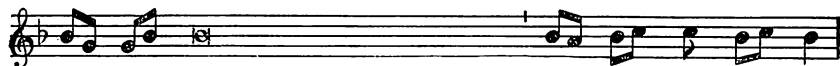
nu- i te. Ps. Qua- re fre- mu- é- runt gén- tes
 ス イ テ オ ヲ ア レ ヲ レ ム エ ル ト ジエン テス
 詩. 何とて異邦人は振るい起り



* et pó- pu- li me- di- tá- ti sunt in- á- ni- a?
 ▲ エト ポ プ リオ メ デイ タ デイ スト イ ナ ニ ア
 民らはむなしきことを謀りしぞ

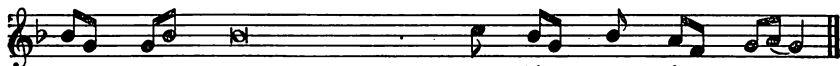


Gló- ri- a Pá- tri, et Fí- li- o, et Spi- rí- tu- i Sán- cto.
 ○ ヲ リ ア パトリ エト ヲイ リオ エト スピ リ トウ イ サン ト
 栄光は 聖父と 聖子と 聖霊と に あれ



* Sic- ut é- rat in prin- cí- pi- o, et nunc, et sem- per

▲ スイ クト エ ラト イン プリン チ ピオ エト ヌンク エト セム ペル
 始めにありしごとく 今 も い つ も



et in saé- cu- la sæ- cu- ló- rum. A- men.

エト イン セ ク ラ セ ク ロ ルム ア メン
 世々に至るまで しかあれかし。

Oratio

Deus, qui hanc sacratissimam noctem
 véri Lúminis fecisti illustratióne claréscere:
 da, quæsumus, ut cujus lucis mystéria
 in terra cognóvimus, ejus quoque
 gaudiis in cœlo perfruámur. Qui tecum
 vivit et regnat in unitate Spiritus sancti
 Deus, per omnia sæcula sæculorum.

R. Amen.

Epistola

Lectio Epistolæ beati Pauli
 Apostoli ad Titum (Tit. 2, 11-15)

Carissime: Apparuit gratia Dei Salvatoris nostri omnibus hominibus, erudiens nos, ut abnegantes impietatem et sæcularia desideria, sobrie et juste et pie vivamus in hoc sæculo, exspectantes beatam spem, et adventum gloriæ magni Dei et Salvatoris nostri Jesu Christi: qui dedit semetipsum pro nobis, ut nos redimeret ab omni iniquitate, et mundaret sibi populum acceptabilem, sectatorem bonorum operum. Hæc loquere et exhortare: in Christo Jesu Dōmino nostro.

R. (侍者のみ) Deo grátias.

集 禱 文

この至聖なる夜を真の光明の輝きもて照らしたまいし天主よ、ねがわくは地上にて主の光明の奥義をわきまえたるわれらに天上にてその歓楽をも味わわしめたまわんことを、かれは主と聖霊と共に世々活きかつしろしめしたもう天主にてましますなり。

▲ アーメン。

書 簡

使徒聖パウロ、チトに贈りし
 書簡の朗讀 (多. 2, 11-15)

至愛なる者よ、一切の人にわが教主にてまします天主の恩寵顕れ、われらに諭すに、不敬虔と世俗の欲とを棄てて、謹慎と正義と敬虔とをもつてこの世に生活すべき事、福なる希望、すなわちわれらの教主にてまします大いなる天主イエズス・キリストの光榮なる來臨を待つべき事をもつてせり。キリストがわれらのためにおのれを付したまいしは、われらを一切の不義よりあがないて、善業に熱心なる御意に叶うべき民を、おのがために清めたまわんとてなり。なんじこれらの事をわれらの主イエズス・キリストにおいて語り、かつ勧めよ。

▲ 天主に感謝し奉る。

昇 階 唱 Graduale

*Té-cum prin-cí-pi-um * in dí-*
 テ ク ム プ リ ン チ ピ ウ ム ▲ イ ン ♪ イ

e vir-tú-tis tú-
 エ ヴ ァ イ ル ト ウ ♪ イ ス ト ウ

æ: in splen-dó-ri-bus
 エ イ ン ス プ レ ン ド リ ブ ス

san-ctó-rum, ex ú-te-ro
 サ ン ク ト ル ム エ ク ス ウ テ ロ

an-te lu-cí-
 ア ン テ ル チ

fe-rum gé-nu-i
 ♪ エ ル ム ♪ シ エ ム イ

te.
 テ

V. Dí-xit Dó-mi-nus Dó-mi-no me-
 ○ ♪ イ ク ス イ ト ド ミ ヌ ス ド ミ ノ メ



o:
オ



Sé- de a dex- tris mé-
セ デ ア デクス トリス メ



is: do- nec pó- nam in- i-
イス ド ネッ ポ ナ ャ イ ニ



mí- cos tú- os
ミ コス トウ オス



sca- bél- lum
スカ ペル ヲ



pé- dum* tu- ó- rum.
ペ ヲウ ャ トウ オ ル ャ

賛 唱 Alleluia



○ Al- le- lú- ja * ij.
▲ アレ ル ヤ (2回)

(訳詞は23ページにある)



V. Dó- mi- nus di- xit ad me:
○ ド ミヌス テイ クス イト ア ヲ メ

Fi- li- us mé- us es tu,
 フイ リ ヲ ウス メ ウス エス トウ

é- go hó-
 エ ゴ ホ

di- e * gé- nu- i te.
 テイ エ ヌ エ ス イ テ

昇階唱訳詞

主權はなんじの勢力の日において、聖なるものの輝きの中になんじと共にあらん、われ暁の星の出ずる前にわが胎内よりなんじを生めり、V.主、わが主に曰えり、われなんじの仇をなんじの足台となすまでわが右に坐せよ、と。

賛唱訳詞

アレルヤ、アレルヤ。主はわれに曰えり、なんじはわが子なり、今日われなんじを生めりと。アレルヤ。

Evangelium

福 音

† *Sequentia sancti Evangelii*

secundum Lucam (Luc. 2, 1-14.)

十 ルカ聖福音の続唱 (路. 2, 1-14)

In illo tempore: Exiit edictum a Cæsare Augusto, ut describeretur universus orbis. Hæc descriptio prima facta est a præside Syriæ Cyrino; et ibant omnes ut profiterentur singuli in suam civitatem. Ascendit autem et Joseph a Galilæa de civitate Nazareth, in Judæam in civitatem David quæ vocatur Bethlehem; eo quod

その時、天下の戸籍を取調ぶべしとの詔セザル、オグストより出でしが、この戸籍調べは、シリノがシリアの総督たりし時に始めたものなり。かくて人皆名を届けんとて、各その故郷に至りけるに、ヨセフもダヴイド家に属しかつその血統なれば、すでに懐胎せる聘定の妻マリアと共に名を届

esset de domo et familia David, ut profiteretur cum Maria desponsata sibi uxore pręgnante. Factum est autem, cum essent ibi, impleti sunt dies ut pareret. Et peperit filium suum primogenitum, et pannis eum involvit: et reclinavit eum in pręsepio. quia non erat eis locus in diversorio. Et pastores erant in regione eadem vigilantes, et custodientes vigilias noctis super gregem suum. Et ecce Angelus Domini stetit juxta illos, et claritas Dei circumfulsit illos, et timuerunt timore magno. Et dixit illis Angelus: Nolite timere; ecce enim evangelizo vobis gaudium magnum, quod erit omni populo: quia natus est vobis hodie Salvator, qui est Christus Dominus, in civitate David. Et hoc vobis signum: Invenietis infantem pannis involutum, et positum in pręsepio. Et subito facta est cum Angelo multitudo militię cęlestis. laudantium Deum et dicentium: Gloria in altissimis Deo et in terra pax hominibus bonę voluntatis.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

けんとして、ガリレアのナザレト町よりユデアのベトレヘムと云えるダヴィドの町に上れり。そこに居りし程にマリア産期満ちて、冢子を産み、布に包みて馬槽に臥させ置きたりこれ旅舎にかれらの居る所なかりしゆえなり。しかるにこの地方に牧者らありて、夜中交代しておのが群を守り居りしが、折しも主の使その傍に立ちて、天主の栄光かれらを環照らしたれば、かれら大いに懼れたり。天使かれらに云いけるは、懼るる事勿れ、そはわれ人民一般に及ぶべき大いなる喜の福音をなんじらに告ぐればなり。けだし今日ダヴィドの町においてなんじらのために教主生れたまえり、これ主たるキリストなり。なんじらこれをもつて徴とせよ、すなわち布に包まれ、馬槽に置かれたる嬰兒を見るべし、と。たちまち夥しき天軍天使に加わりて、天主を賛美し、「いと高き処には天主に光栄、地にはご好意の人々に平安」と唱えたり。

▲キリストに賛美あらんことを。

奉 献 文 Offertorium

Lae- tén- tur * caé- li, et ex-
 ♪ テントウル ▲ テエ リョ エト エクス
 (喜ばん) 天 は 喜 ば ん

súl- tet tér- ra
 スル テト テル ラ
 (雀躍せん) 地 は

an- te fá- ci- em Dó- mi-
 アッ テ ッア チ エム ド ミ
 主 の み 顔 の 前 に て 雀 躍 せ ん

ni: quó- ni- am vé- nit.
 ニ ッオ ニ ア ム ヱエ ニト
 そ は 主 来 た り た ま え ば な り

Secreta

密 唱

Accepta tibi sit, Domine, quæsumus, hodiernæ festivitatis oblatio: ut, tua gratia largiente, per hæc sacrosancta commercia, in illius inveniamur forma, in quo tecum est nostra substantia: Qui tecum vivit et regnat, in unitate Spiritus sancti Deus.

主、ねがわくは今日の祝日の供物を嘉したまわん事を、これ主の聖寵により、われらがこの至聖なる代償をもて、主の性とわれらの性とを備えたもうおん方にあやからんがためなり、主と聖霊と共に生きかつしるしめしたもう天主。

Praefatio

序 唱

Vere dignum et justum est, æquum et salutare, nos tibi semper et ubique gratias agere, Domine sancte, Pater omnipotens, æterne Deus: Quia per incarnati Verbi mysterium, nova mentis nostræ oculis lux tuæ claritatis infulsit ut dum visibiliter Deum cognoscimus, per hunc in invisibilium amorem rapiamur. Et ideo cum Angelis et Archangelis, cum Thronis et Dominationibus, cumque omni militia cœlestis exercitus, hymnum gloriæ tuæ canimus, sine fine dicentes:

聖なる主、全能の父、永遠の天主、いづれの時にも、いづれの処にも主に感謝し奉るはげに善くかつ正しく益ありてまた福なるかな。そは主のみ光栄の新しき光明は聖言のご託身の玄義によりて、われらの精神の前に照り輝きたればなり。今われらは天主を肉眼にて観奉るにより、見えざるものの愛に引き上げらるるなり。されば天使と大天使、王座と主権、またすべての天軍と共に主のみ栄えの賛美をきわまりなく詠わん。

聖 体 拝 領 唱 Communio



In splen-dó-ri-bus* san-ctó- rum, ex ú- te- ro
 イン スプレンドリ ブス△ サンクト ルム エクスウ テ ロ
 (かがやきの中に) 聖なるものの輝きの中に われ暁の



an- te lu- cí- fe- rum gé- nu- i te.
 アン テ ル チ ッエルム ジエ スイ テ
 星の出ずる前にわが胎内より なんじを生めり

Postcommunio

聖体拝領後の文

Da nobis, quæsumus, Domine Deus
 noster: ut qui Nativitatem Domini nostri
 Jesu Christi mysteriis nos frequentare
 gaudemus: dignis conversationibus ad ejus
 mereamur pervenire consortium: Qui te-
 cum vivit et regnat in unitate Spiritus
 sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.
 R. Amen.

われらの天主たる主、ねがわくはわれら
 が秘蹟においてわれらの主イエズス・キリ
 ストのご降誕に与るを歡び奉るにより、わ
 れらをして相應しき生活をもつて主と一致
 するに至るを得しめたまわんことを、かれ
 は主と聖靈と共に世々活きかつしろしめし
 たもう天主にてましますなり。

△ アーメン

第三ミサ AD TERTIAM MISSAM.

入 祭 文 Introitus



Pu- er* ná- tus est nó- bis, et fi- li- us
 プ エル△ ナ トウス エスト ノ ビス エト ヲイ リ ウス
 嬰兒 われらのために生れ 男子われらに与え



dá- tus est nó- bis: cú- jus im-pé- ri- um
 ダ トウス エスト ノ ビス ク エス イム ペ リ ウム
 ら れ た り 権 威 は そ の 肩 に

su- per hú- me- rum é- jus: et vo- cá-
 ス ペルホウ メ ルム エ ユス エト ヲ カ
 お か れ た り その 名 は

bi- tur nó- men é- jus ma- gni con- sí- li- i
 ビトウルノメンエ ユス マニコンサイリイ
 大いなる超見の 使臣と呼ばれん

An- ge- lus. Ps. Can- tá-te Dó- mi- no cán- ti- cum
 アンジェルス。カンタテドミノカンタイクム
 詩。なんじら主に向いて新たなる歌を

nó- vum * qui- a mi- ra- bí- li- a fé- cit.
 ノヴム。△グイアミラビリャフェチト
 歌え けだし主は奇しき業を作りたまいたればなり

Gló- ri- a Pá- tri, et Fí- li- o et Spi- ri- tu- i
 ○グロリアパトリエトフィリオエトスピリトウイ
 光栄は 聖父と 聖子と 聖霊とにあれ

San- cto. * Sic- ut é- rat in prin- ci- pi- o, et nunc, et
 サンクト。△スイクトエラトインプリンチピオエトヌンクエト
 始めにありしごとく 今もいつ

sem- per, et in saé- cu- la saé- cu- ló- rum. A- men.
 セムペル エトインセクラセクラム。アメン
 も 世々に至るまで しかあれかし

Oratio

Concede quæsumus, omnipotens Deus: ut nos Unigeniti tui nova per carnem Nativitas liberet; quos sub peccati jugo vetusta servitus tenet. Per eundem Dominum nostrum Jesum Christum, filium tuum qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus: per omnia sæcula sæculorum. R. Amen.

Epistola

Lectio epistolæ beati Pauli

Apostoli ad Hebræos.

(*Hebr. 1, 1-12*)

Multifariam multisque modis olim Deus loquens patribus in prophetis, novissime diebus istis locutus est nobis in Filio, quem constituit hæredem universorum, per quem fecit et sæcula. Qui cum sit splendor gloriæ et figura substantiæ ejus, portansque omnia verbo virtutis suæ, purificationem peccatorum faciens, sedet ad dexteram majestatis in excelsis; tanto melior Angelis effectus, quanto differentius præ illis nomen hæreditavit. Cui enim dixit aliquando Angelorum: Filius meus es tu, ego hodie genui te? Et rursum: Ego ero illi in patrem, et ipse erit mihi in filium? Et cum iterum introducit primogenitum in orbem terræ, dicit: Et ad Angelos quidem dicit: Qui facit Angelos suos spiritus, et ministros suos flammam ignis. Ad Filium autem: Thronus tuus, Deus, in sæculum sæculi; virga æquitatis, virga regni tui. Dilexisti justitiam, et odisti iniquitatem; propterea unxit te Deus, Deus tuus, oleo exultationis præ

集 禱 文

全能の天主、ねがわくは主のおん独子の新たなる肉体におけるご降誕によりて、久しき奴隷の身分に繋がりし罪人なるわれらを、罪の軛より解き放ちたまわん事を、主と聖霊と共に世々活きかつしろしめしたもう天主、この聖子われらの主イエズス・キリストによりて。 ▲ アーメン。

書 簡

使徒聖パウロ、ヘブレオ人に

贈りし書簡の朗讀 (來, 1, 1-12)

天主は昔予言者たちをもつて、幾度にも幾縁にも先祖たちに語りたまひしに、この末の日に至り、かつて万物の世嗣に立て、またこれによりて世を造りたまいたる聖子をもつてわれらに語りたまえり。かれは天主の光榮の輝、その本体の姿にましまして、おのが權能の言をもつて、万物を保ち、罪の潔めをなしたまいて、天においてみ稜威の右に坐したもうなり。かれが天使たちに優る者と成りたまえるは、なおその受けたまひし名のかれらに優れるがごとし。けだし天主かつて天主使たちの執れにかくは曰いしぞ、曰く「なんじはわが子なり、われ今日なんじを生めり」と。また「われかれに父たり、かれわれに子たらん」と。また冢子を更に世に入れたまひし時に曰く「天主の天使皆これを礼拝すべし」と。しかして天使たちに向いては「かれ風をその使者となし、焰をその役者と為したもう」と云えるに、聖子に向いては「天主よ、なんじの玉座は世々に在り。なんじの王位の笏は義の笏なり。なんじ正義を愛し不義を憎めり、ゆえになんじの天主たる天主は、喜

participibus tuis. Et: Tu in principio Domine, terram fundasti, et opera manuum tuarum sunt caeli. Ipsi peribunt, tu autem permanebis: et omnes ut vestimentum veterascent; et velut amictum mutabis eos, et mutabuntur; tu autem idem ipse es, et anni tui non deficient.

R. (侍者のみ) Deo grátias.

びの油をなんじが同輩に優りてなんじに注ぎたまえり」と言う。また曰く「主よ、なんじ始めに地を据置きたまえり、しかしてもろもろの天もみ手の業なり。これらは亡びん、されどなんじは永存したまい、これらは皆衣服のごとく古びん、なんじこれを上衣のごとく畳みたまわんに、これらは変るべしと雖も、なんじは同じきものにして変る事なく、なんじの齡終りなかるべし」と。

▲ 天主に感謝し奉る。

昇階唱 Graduale

Vi- dé- runt óm- nes * fi- nes tér-
 ヲイ デ ル ト オム ネス ▲ ヲイ ネス テル

(訳詞は 31 ページにある)

ræ sa-lu- tá- re De- i
 レ サル タ レ デ イ

nó- stri: ju- bi- lá- te Dé- o óm-
 ノ ストリ ユ ビ ラ テ デ オ オム

nis tér- ra.
 ニス テル ラ

V. Nō- tum fé- cit Dó-
 ○ ノ ト ウ ム ヲ エ チ ト ド

mi- nus
 ミ ヌス

sa-lu-tá- re sú- um: an-te con-spé-ctum
 サ ル タ レ ス ウ ム アン テ コ ンスペクトウム

gén-ti- um re- ve-lá- vit * ju-
 ジエン ヲイ ウ ム レ ヲエ ラ ヲイト ▲ ユ

stí- ti- am sú- am.
 ステイ ヲイ ア ム ス ア ム

賛 唱 Alleluia

Al-le- lu- ja * ij.
 ○ ア ル ル ヤ (2回)
 ▲ (訳詞は 31 ページにある)

V. Di- es san- cti- fi- cá- tus
 ○ テイ エ ス サン クタイ ヲイ カ トウ ス

il- lú- xit nó- bis;
 イ ル クスイト ノ ビス

ve- ní- te gén- tes, et ad-
 ヲエ ニ テ ジエン テス エト ア

o- rá- te Dó-mi- num, qui- a hó- di-
 ド ラ テ ド ミ ス ム ヲイ ア ホ テイ

e de-scén-dit lux ma-
エ デ シエン ヲイト ルクス マ

gna * su-per tér-ram.
ニヤ ▲ ス ペル テル ラム

昇階唱詠詞

地の果もことごとくわれらの天主の救済
を見たり、全地よ天主において喜び躍れ。

V. 主はその救済を識らしめ、異邦の民
の前にその正義を顕したまえり。

賛唱詠詞

アレルヤ、アレルヤ。V. 聖きものとされ
たる日はわれらの上に輝けり、いざ異邦の
民よ、来りて主を拝み奉れ、そは大なる
光り今日地に降りたればなり、アレルヤ。

Evangelium

Initium sancti Evangelii secundum

Joannem. (Jo. 1, 1-14)

In principio erat Verbum, et Verbum
erat apud Deum. et Deus erat Verbum.
Hoc erat in principio apud Deum. Omnia
per ipsum facta sunt, et sine ipso factum
est nihil, quod factum est. In ipso vita
erat, et vita erat lux hominum; et lux in
tenebris lucet, et tenebrae eam non com-
prehenderunt. Fuit homo missus a Deo,
cui nomen erat Joannes. Hic venit in
testimonium, ut testimonium perhiberet
de Lumine, ut omnes crederent per illum.
Non erat ille Lux, sed ut testimonium
perhiberet de Lumine. Erat Lux vera quae
illuminat omnem hominem venientem in
hunc mundum. In mundo erat, et mun-
dus per ipsum factus est, et mundus eum
non cognovit. In propria venit, et sui
eum non receperunt. Quotquot autem re-
ceperunt eum, dedit eis potestatem filios

福 音

十 ヨハネ聖福音の序文

(約、1、1-14)

元始にみ言あり、み言天主と偕に在り、
み言は天主にてありたり。これ元始に天主
と偕に在りたるものにして、万物これに由
りて成れり、成りしもの、何物もこれに由
らずして成りたるはあらず。これがうちに
生命ありて、生命また人間の光たりしが、
光暗に照ると雖も、暗これを暁らざりき。
天主よりつかわされて、名をヨハネと云え
る人ありしがその来りしは証明のためにし
て、光を証明しすべての人をしておのれに
藉りて信ぜしめんためなりき。かれは光に
非ずして、光を証明すべき者たりしなり。
み言こそ、この世に出来るすべての人を照
らす真の光なりけれ。かつて世に在り、世
またこれに由りて成りたれども、世これを
知らず、おのが方に来りしも、その族これ
を承けざりき。されどこれを承けし人々には
おのおの天主の子となるべき権能を授け
たり。これすなわちその名を信ずる者、血

Dei fieri, his qui credunt in nomine ejus: qui non ex sanguinibus, neque ex voluntate carnis, neque ex voluntate viri, sed ex Deo nati sunt. (跪く) *Et Verbum caro factum est, et habitavit in nobis: et vidimus gloriam ejus, gloriam quasi Unigeniti a Patre, plenum gratiae et veritatis.*

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

続に由らず、肉の意に由らず、人の意に由らず、天主に由りて生れ奉りたる者なり。(ひざまずく) かくてみ言は肉となりて、われらの中に住みたまえり。われらはその光栄を見奉りしが、そは父より来れる独子のごとき光栄なりき、すなわち恩寵と真理とに充ちたまひし者なり。

▲ キリストに賛美あらんことを。

奉 献 文 Offertorium

Tu- i sunt* cae- li, et tú- a
 トウ イ スト▲チエ リ° エト トウ ア
 (主のものなり) 天は主のものなり 地も主の

est tér- ra: ór- bem ter- rá- rum
 エスト テル ラ オル ベム テル ラ ルム
 も の な り 主 は 宇 宙 と

et ple- ni- tú- di- nem é- jus
 エト ッレ ニトウ ヌイ ネム エ ユス
 その中に満てるものをば 据えたまえり

tu fun- dá- sti: ju- sti- ti- a
 トウ フン ダ スタイ ユステイ ヌイ ア
 正 義 と

et ju- di- ci- um prae- pa- rá- ti-
 エト ユテイ チ ウム ッレ パ ラ ヌイ
 公 平 と は 主 の 玉 座 の

o sé- dis tú- æ.
 オ セ デイス トウ エ
 礎 な り き

Secreta

密 唱

Oblata, Domine, munera, nova Unigeniti
 tui Nativitate sanctifica: nosque a peccatorum
 nostrorum maculis emunda: Per eundem Dominum
 nostrum Jesum Christum, filium tuum, qui tecum
 vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus.

主よ、ねがわくは主のおん独子の新たなる
 ご降誕によりて、主に献げられし供物を聖
 ならしめ、かつわれらを罪科の汚れより潔
 めたまわん事を、主と聖霊と共に活きかつ
 しろしめしたもう天主、この聖子、われら
 の主イエズス・キリストによりて。

Praefatio 序 唱 (第一ミサの序唱と同じ、25 ページ)

聖 体 拝 領 唱 Communion

Vi- dé- runt óm- nes * fi- nes tér- ræ sa-
 ヴァイ デ ルント オム ネス * ヴァイ ネス テル レ サ
 ことごとく見たり地の果も

lu- tá- re DÉ- i no- stri.
 ル タ レ デ イ ノ ストリ
 われらの 天 主 の 救 済 を ば

Postcommunio

聖体拝領後の文

Præsta, quæsumus, omnipotens Deus:
 ut natus hodie Salvator mundi, sicut
 divinæ nobis generationis est auctor; ita
 et immortalitatis sit ipse largitor: Qui
 tecum vivit et regnat in unitate spiritus
 sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

全能の天主、ねがわくは今日生れたまい
 し世の救主が、永遠の生命のため神聖なる
 再生をわれらに備えたまいしがごとく、わ
 れらに不死の恩ちようをも与えたまわん事
 を、かれは主と聖霊と共に世々活きかつ
 しろしめしたもう天主にてましますなり。

R. Amen.

▲アーメン。

公 現 祭

IN EPIPHANIA DOMINI

入 祭 文 Introitus



Ec- ce * ad- vé- nit do-mi- ná- tor Dé- mi-
 エッ チエ ▲ アド ヴエ ニト ド ミ ナ ト ル ド ミ
 看 よ 主 宰 なる 主 は 来 たり たり た ま わ ん



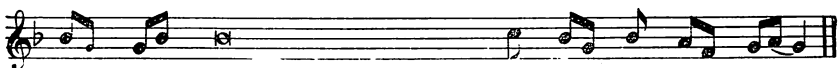
nus: et ré- gnum in má- nu é- jus,
 ヌス エト レ ニ ム イン マ ヌ エ ヌス
 そ の 掌 に は 王 権 と



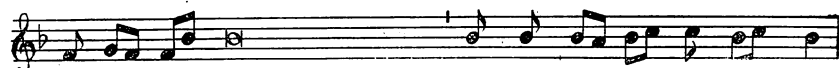
et po- té- stas et im- pé- ri- um.
 エト ポ テ スタス エト イム ベ リ ウム
 み 稜 威 と 主 権 と あ り



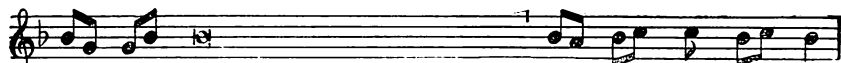
Ps. Dé- us, ju- dí- ci- um tú- um Ré- gi da: *
 ○ デ ウス ユ ヱイ チ ウム トウ ウム レ ジ ダ ▲
 天 主 よ 主 の 審 判 を 王 に 与 え



et ju- stí- ti- am tú- am Fí- li- o Ré- gis.
 ニト ヌ ステイ ヱイ アム トウ アム ヱイ リ オ レ ジス
 主 の 正 義 を ば 王 の 子 に 与 え た ま え

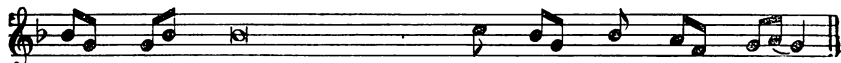


Gló- ri- a Pá- tri, et Fí- li- o, et Spi- rí- tu- i Sán- cto.
 ○ ヲ リ ア パ トリ エト ヱイ リ オ エト ス ピ リ トウ イ サン ヱト
 栄 光 は 聖 父 と 聖 子 と 聖 靈 と に あ れ



* Sic- ut é- rat in prin- cí- pi- o, et nunc, et sem- per

▲ ×イ クト エ ラト イン ヲリッ チ ピオ エト ヌック エト セム ペム
 始めにありしごとく 今もいつも



et in saé- cu- la saé- cu- ló- rum. A- men.

エト イン セ ク ラ セ ク ロ ルム ア メン
 世々に至るまで しかあれかし。

Oratio

集 禱 文

Deus, qui hodierna die Unigenitum tuum gentibus stella duce revelasti: concede propitius, ut qui jam te ex fide cognovimus, usque ad contemplandam speciem tuæ celsitudinis perducamur. Per eundem Dominum nostrum Jesum Christum, filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum. R. Amen.

天主よ、主は今日おん独子を星の出現をもつて異邦人に示したまいしにより、ねがわくは信仰によりて主をすでに認めたるわれらを、他日主を完きみ光栄の中に仰ぎ得る処に導きたまわん事を、主と聖霊と共に世々活きかつしろしめしたもう天主、この聖子、われらの主イエズス・キリストによって。 ▲アーメン。

Epistola

書 簡

Lectio Isaiae Prophetæ

(Is. 60, 1-16)

イザヤ領言書の朗讀

(コロサイ、60, 1-16)

Surge, illuminare, Jerusalem; quia venit Lumen tuum, et gloria Domini super te orta est. Quia ecce tenebræ operient terram, et caligo populos; super te autem orietur Dominus, et gloria ejus in te videbitur. Et ambulabunt gentes in Lumine tuo, et reges in splendore ortus tui. Leva in circuitu oculos tuos, et vide: omnes isti congregati sunt, venerunt tibi; filii tui de longe venient, et filiae tuæ de latere surgent. Tunc videbis et affluēs, mirabitur et dilatabitur cor tuum, quando conversa fuerit ad te multitudo maris,

起きよ、光明を放て、イエルザレムよ、そはなんじの光明は来り、主のみ栄えはなんじの上に出でたればなり。さらば見よ、暗き夜は地を覆い、暗は民をつつまん、されど主はなんじの上に出でたまわん、そのみ栄えはなんじの中に見えん。異邦人はなんじの光明に歩まん、すべての王はなんじより出ずるかがやきに往かん。なんじ目を上げて周囲を見よ、かれらは皆集いてなんじに来れり、なんじの子らは遠きより来り、なんじの女らは傍より起きん。その時なんじは見て溢れん、海に満つるもの、国民の

fortitudo gentium venerit tibi. Inundatio camelorum operiet te, dromedarii Madian et Epha: omnes de Saba venient, aurum et thus deferentes, et laudem Domino annuntiantes.

R. (侍者のみ) Deo grátias.

力はなんじに来らば、なんじの心は驚異と喜悦とに満たされん。マジアンとエファの駱駝の群は大濤のごとくなんじを覆い、サバの者は挙りて黄金と乳香とを携えて主を賛えんとて来たらん。

▲ 天主に感謝し奉る。

昇 階 唱 Graduale



Om- nes * de Sá- ba
オム ネス▲ デ サ バ

(訳詞は 37 ページにある)



vé- ni- ent áu- rum et thus de- fe- rén- tes,
ヴェニ エント アウ ルム エト トゥス デフェ レン テス



et laú- dem Dó- mi- no an- nun- ti- án- tes.
エト ラウ デム ドミノ アンヌン ツイ アン テス



V. Sú- r- ge
○ スル ジエ



et il- lu- mi- ná- re,
エト イル ミナ レ



Je- rú- sa- lem, qui- a gló-
イエ ル サレム クイ ア グロ



ri- a Dó- mi- ni su- per te
リア ド ミニ ス ペル テ



* ór- ta est.

▲ オル タ エスト

賛 唱 Alleluia



Al- le- lú- ja * ij.

○ ア レ ル ヤ (2回)

▲ (訳詞はこのページの下段にある)



V. Vi- di- mus stél- lam é-

○ ヴイ テイ ムス ステラムエ



jus in O- ri- én-

ユス イン オリ エン



te, et vé- ni- mus cum mu-

テ エト ヴエニ ムス クム



né- ri- bus ad- c- rá- re

ネ リ ブス ア ド ラ レ



* Dé- mi- num.

▲ ド ミ ム

昇 階 唱 訳 詞

サバのものは挙りて黄金と乳香とを携えて主を賛えんとて来たらん。V. 起きよ、光明を放て、イエルザレムよ、そは主のみ栄えはなんじの上に出でたればなり。

賛 唱 訳 詞

アレルヤ、アレルヤ。われら東方にてその星を見れば、礼物をもたらし主を拝せんとて来たり、アレルヤ。

Evangelium

福 音

† *Sequentia sancti Evangelii**secundum Matthaeum (Mat. 2, 1-12)*

十 マテオ聖福音の続唱

(マテオ、2、1-12)

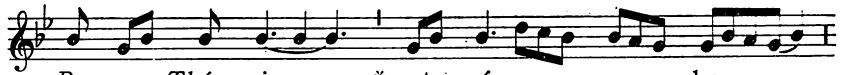
Cum natus esset Jesus in Bethlehem Juda in diebus Herodis regis, ecce Magi ab Oriente venerunt Jerosolymam, dicentes: Ubi est qui natus est Rex Judæorum? Vidimus enim stellam ejus in Oriente, et venimus adorare eum. Audiens autem Herodes rex, turbatus est, et omnis Jerosolyma cum illo. Et congregans omnes principes sacerdotum et scribas populi, sciscitabatur ab eis ubi Christus nasceretur. At illi dixerunt ei: In Bethlehem Judæ; sic enim scriptum est per prophetam: Et tu Bethlehem terra Juda, nequaquam minima es in principibus Juda; ex te enim exiet Dux, qui regat populum meum Israel. Tunc Herodes, clam vocatis Magis, diligenter didicit ab eis tempus stellæ, quæ apparuit eis; et mittens illos in Bethlehem, dixit: Ite, et interrogate diligenter de puero; et cum inveneritis, renuntiate mihi, ut et ego veniens adorem eum. Qui cum audissent regem, abierunt. Et ecce stella, quam viderant in Oriente, antecedebat eos, usque dum veniens staret supra ubi erat Puer. Videntes autem stellam, gavisus sunt gaudio magno valde. Et intrantes domum, invenerunt Puerum cum Maria Matre ejus, (跪く) *et proidentes adoraverunt eum*. Et apertis thesauris suis, obtulerunt ei munera, aurum, thus et myrrham. Et responso accepto in somnis, ne redirent ad Herodem, per aliam viam reversi sunt in regionem suam.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

その時、イエズス、ヘロデ王の時ユデアのベトレヘムに生れたまいしかば、折しも博士たち東方よりイエルザレムに來りて云いけるは、生れたるユデア人の王は何処にいますぞ、すなわちわれら東方にはかれが星を見、これを拝みに來れり、と。ヘロデ王これを知りて狼狽えしが、イエルザレムもまた挙りてしかありき。王は司祭長と民間の律法学士とをことごとく集めて、キリスト何処に生るべきかと問いたるに、かれら云いけるは、ユデアのベトレヘムに、そは予言者の録して、「ユダの地ベトレヘムよ、なんじはユダの群中に最も小さきものには非ず、けだしわがイスラエルの民を牧すべき君なんじの中より出ん」とあればなり、と。その時ヘロデ密に博士たちを召して、星の現れし時を聞匡し、かれらをベトレヘムに遣るとて云いけるは、往きて、詳に孩児の事を尋ね、そを見出さばわれに告げよ、われも往きてこれを拝まん、と。かれら王の言を聴きて出行きけるに、折しも東方にて見たりし星かれらの先に立ち、ついに孩児の居る処に至りてその上に止まれり。かれらその星を見てはなほ喜び、家に入りて孩児のその母マリアと共に居るを見、(跪きながら)平伏してこれを拝し、宝盒を開きて黄金、乳香、没薬の禮物を献げたり。かくてヘロデに返る事勿れとの示を夢に得て、他の途よりおのが国に帰れり。

▲ キリストに賛美あらんことを。

奉 献 文 Offertorium



Re- ges Thár- sis * et ín- su- læ
 レ ジエス タルスイス ▲ エト イン ス レ
 タルシスの王たち 及 び 島 々 は



mú- ne- ra óf- fe- rent:
 ム ネ ラ オッ ッエ レント
 献 物 を な さ ん



re- ges A- ra- bum et Sá- ba
 レ ジエス ア ラ ブム エト サ バ
 ア ラ ビ ヤ 人 と サバの王たちは



dó- na ad- dú- cent:
 ド ナ ア ヲ ウ シニント
 礼 物 を も た ら さ ん



et ad- o- rá- bunt é- um óm- nes
 エト ア ド ラ ブント エ ウム オム ネス
 地 の 諸 王 は かれを



ré- ges tér- ræ, óm- nes gén- tes
 レ ジエス テル レ オム ネス ジエン テス
 拝 み よ ろ つ の 民 草 は



sér- vi- ent é- i.
 セル ヱイ エント エ イ
 か れ に ま つ ら わ ん

Secreta

密 唱

Ecclesiae tuæ, quæsumus, Domine, dona propitius intueri: quibus non jam aurum, thus et myrrha profertur, sed quod eisdem muneribus declaratur, immolatur et sumitur. Jesus Christus, filius tuus, Dominus noster. Qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus.

主よ、ねがわくは慈悲をもつて主の聖会の禮物を顧みたまえ。そはこれらをもつてもはや黄金、乳香、没薬の献げらるるに非ずして、これらによりて聖子、われらの主イエズス・キリストが象られ、献げられ、かつ^ほ拝領られたまえばなり、かれは主と聖靈と共に活きかつしろしめしたもう天主にてましますなり。

Praefatio

序 唱

Vere dignum et justum est, æquum et salutare, nos tibi semper et ubique gratias agere, Domine sancte, Pater omnipotens, æterne Deus: Quia, cum Unigenitus tuus in substantia nostræ mortalitatis apparuit, nova nos immortalitatis suæ luce reparavit. Et ideo cum Angelis et Archangelis, cum Thronis et Dominationibus, cumque omni militia cælestis exercitus, hymnum gloriæ tuæ canimus, sine fine dicentes:

聖なる主、全能の父、永遠の天主、いずれの時にても、いずれの処にても主に感謝し奉るは、げに、善くかつ正しく益ありてまた福なるかな。そは主のおん独子がおわれらの死すべき身をもつて現れたまいしにより、われらをその不死なる新しき光明をもつて改造ならしめたまいたればなり。されば天使と大天使、玉座と主権、すべての天軍と共に、主のみ栄えの賛美をきわまりなく詠わん。

聖 体 拝 領 唱 Communion



Ví- di- mus * stel- lam é- jus in O- ri-
 ヲイ ヲイ ムス ▲ ステル ラム エ ユス イン オ リ
 (われら見たり) われら東方にて星を見たれば



én- te, et vé- ni- mus cum mu- né- ri-
 エン テ エト ヲエ ニ ムス クム ム ネ リ
 禮物をもたらし



bus ad- o- rá- re Dó- mi- num.
 ブス ア ド ラ レ ド ミ ヌム
 主を拝せんとて来たれり

Postcommunio

Præsta, quæsumus, omnipotens Deus;
 ut quæ sollemni celebramus officio, puri-
 ficatæ mentis intelligentia consequamur.
 Per Dominum nostrum Jesum Christum,
 Filium tuum, qui tecum vivit et regnat
 in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia
 sæcula sæculorum.

R. Amen.

聖体拜領後の文

全能の天主、ねがわくはわれらをして、
 莊嚴なる聖務によりて行いし奥義をば、淨
 められし精神をもつて悟るを得しめたまわ
 ん事を、主と聖靈と共に世々活きかつしろ
 しめしたもう天主聖子、われらの主イエズ
 ス・キリストによりて。

▲ アーメン。

日本二十六聖殉教者祭

Ss. PETRI BAPTISTAE, PAULI MIKI

ET 24 SOC., Mm.

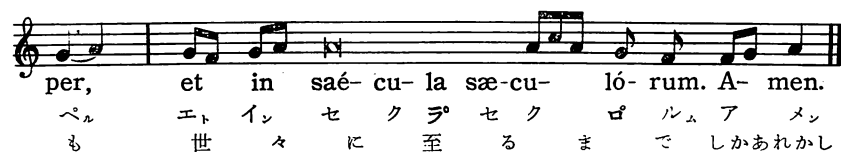
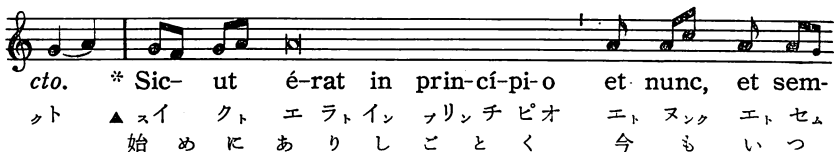
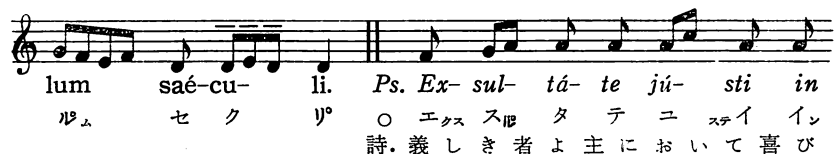
入 祭 文 Introitus

Sa- pi- én- ti- am* san- ctó- rum nar- rent
 サ ピ エン ツイ アム ▲ サン ット ルム ナル レント
 (知識を) 聖なる者の知識をば 民こぞりて

pó- pu- li, et lau- des e- ó- rum
 ポ プ リ° エト ラッ デス エ オ ルム
 語 り 集 会 は か れ ら の

nún-ti- et ec-clé- si- a: nó- mi- na au-
 ヌン ツイ エト エク クレ ス イ ア ノ ミ ナ アッ
 誉 れ を 告 げ ん か れ ら の 名 は

tem e- ó- rum vi- vent in saé- cu-
 テム エ オ ルム ヲ イ ヲ エント イン セ ク
 世 々 に 存 せ ん



Oratio

集 禱 文

Domine Jesu Christe, qui ad tui imitationem per crucis supplicium primitias fidei apud Japoniæ gentes, in sanctorum martyrum Petri Baptistæ, Pauli et Sociorum sanguine dedicasti: concede, quæsumus; ut quorum hodie sollempnia colimus, excitemur exemplis: Qui vivis et regnas cum Deo Patre in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

R. Amen.

主イエズス・キリスト、主は主に従わしめんとして、十字架の死刑によりて日本の民より出ずる信仰の初穂をば、聖ペトロ・パブチスタと聖パウロ及びその侶ら殉教者の血において聖ならしめたまいしにより、ねがわくは今日その祝日を祝い奉るわれらをして、かれらの模範に励まざるを得しめたまわんことを、聖父と聖霊と共に世々活きかつしろしめしたもう天主よ、

▲ アーメン。

Epistola

書 簡

Lectio libri Sapientiae (Sap. 5, 16-20)

Justi autem in perpetuum vivent, et apud Dominum est merces eorum, et cogitatio illorum apud Altissimum. Ideo accipient regnum decoris, et diadema speciei de manu Domini: quoniam dextera sua teget eos, et brachio sancto suo defendet illos. Accipiet armaturam zelus illius, et armabit creaturam ad ultionem inimicorum. Induet pro thorace justitiam, et accipiet pro galea iudicium certum. Sumet scutum inexpugnabile, æquitatem.

R. (侍者のみ) Deo gratias.

智書の朗讀 (智書 5, 16-20)

されど義しき者は永遠に生きその報償は主のみ許より、かれらに対する配慮はいと高き者より来たるなり。さればかれらは栄光の国と美の冠とを主のみ手より受けん。そは主そのおん右手もてかれらをかばい、そのとうときおん腕もてかれらを守りたもうべければなり。その熱心は甲冑を着け、主その敵に復讐せんとして、被造物に武器を与えたまわん。主は正義を胸甲として着け、誤謬なき審判を兜としていただき公平を打勝ちがたき楯として執り、その激しきおん怒りを研ぎて槍となしたまわん、かくて世界は主と共に愚なる者共を敵として戦うべし。▲ 天主に感謝し奉る。

昇 階 唱 Graduale



A-ni-ma no-stra, * sic-ut pás-ser,
ア ニ マ ノ ス ト ラ ▲ ヌ イ ク ト パ ス セ ル
(訳詞は 46 ページにある)



e-rép-ta est de lá-que-o ve-
エ レ ッ タ エ ス ト デ ラ ッ ク エ オ ッ エ



nán-ti-um.
ナ ン ッ イ ウ ヌ



V. Lá-que-us
○ ラ ッ ク エ ウ ヌ



con-trí-tus est, et nos lí-
コ ン ト リ ト ウ ス エ ス ト エ ト ノ ス リ

be- rá- ti sú-
 ペ ラ タイ ス
mus: ad- ju- tó- ri- um nó- strum
 ムス ア フ ユ ト リ ウ ム ノ ス ト ル ム
in nó- mi- ne Dó- mi- ni, qui fé-
 イ ヌ ノ ミ ネ ド ミ ニ ヱ イ フ エ
*cit caé- lum * et tér- ram.*
 チ ト チ エ ル ム ▲ エ ト テ ル ラ ム

賛 唱 Alleluia

(七旬節から復活祭まではこれを省いて次のページの詠唱を歌う)

○ *Al- le- lú- ja * ij.*
 ▲ ア レ レ ヤ (2回)
 (訳詞は 46 ページにある)
V. Ju- sti e- pu- lén- tur,
 ○ ユ ス タイ エ プ レ ヌ ト ウ ル
et ex- súl- tent in con- spé-
 エ ト エ ク ス ス ル テ ン ト イ ヌ コ ン ス ペ

ctu *Dé- i : de- le- ctén-*
 クトウ テ イ テ レ クテン

tur
 トウル

* *in læ- ti- ti- a.*
 ▲ イン レ タイ ッイ ア

詠 唱 Tractus

(前のページの賛唱を歌わない場合にこれを歌う)

Qui sé- mi- nant * *in lá- cri-*
 クイ セ ミ ナント ▲ イン ラ クリ

(訳詞は46ページにある)

mis, in gau- di- o mé-
 ミス イン ガッ タイ オメ

tent. V. E- ún- tes i- bant et
 テント オ ウン テス イ バント エト

flé- bant, mit- tén- tes sé-
 フレ レ バント ミト テン テス セ

mi- na sú- a.
ミ ナ ス ア

V. Ve-ni-én-tes au-tem vé-ni-ent
○ ヴエ ニ エン テス ア ヲ テス ヴエ ニ エント

cum ex- sul- ta- ti- ó-
クム エクス スル タ ヲイ オ

ne, por- tán- tes*ma- ní- pu- los sú-
ネ ポル タン テス▲ マニ プ ロス

OS.
オス

升階唱訳詞

われらの魂は狐人の囹を逃れし雀のごとく脱れたり。V. 囹は破れ、われらは救われたり。われらの助けは主の聖名に在り、かれは天地を創造したまいたればなり。

賛唱訳詞

アレルヤ、アレルヤ。義しき者は主のみ前にて愉樂を尽くして飲び躍らん、愉しみて喜ばん。アレルヤ。

詠唱訳詞

涙と共に蒔く人は喜びと共に刈入れん。V. かれらはその種を携えて涙を流しつつ出で行けど、V. その束を携え、喜びて帰り来たらん。

Evangelium

† *Sequentia Sancti Evangelii secundum Lucam (Luc. 6, 17-23)*

In illo tempore: Descendens Jesus de monte, stetit in loco campestri, et turba discipulorum ejus, et multitudo copiosa plebis ab omni Judæa, et Jerusalem, et maritima, et Tyri et Sidonis, qui venerant, ut audirent eum, et sanarentur a languori-

福音

十 ルカ聖福音の続唱

(略、6, 17-23)

その時、イエズス山より下りて平かなる処に立ちたましが、弟子の一群と共に、また夥しき群衆あり。これイエズスに聞き、かつ病を医されんとて、エデアの全地方イエルザレム及びチロとシドロンとの湖

bus suis. Et qui vexabantur a spiritibus immundis, curabantur. Et omnis turba quærebat eum tangere, quia virtus de illo exibat, et sanabat omnes. Et ipse elevatis oculis in discipulos suos, dicebat: Beati pauperes! quia vestrum est regnum Dei. Beati qui nunc esuritis! quia saturabimini. Beati qui nunc fletis! quia ridebitis. Beati eritis, cum vos oderint homines, et cum separaverint vos, et exprobraverint, et ejecerint nomen vestrum tamquam malum, propter Filium hominis! Gaudete in illa die et exsultate; ecce enim merces vestra multa est in cælo.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

辺より来たれるものなり。かくて汚鬼に悩まされる人々医され、群衆皆イエズスに触れんとて力めいたり、そは靈能かれの身より出でてすべての人を医せばなり。イエズス弟子たちの方に目を翹げて曰いけるは、福なるかななんじら貧しき人、そは天主の國はなんじらの有なればなり。福なるかななんじら今飢うる人そは飽かさるべければなり。福なるかななんじら今泣く人、そは笑うべければなり。福なるかななんじら、人の子のために憎まれ、遠ざけられ、罵られその名は悪しとして排斥せらるる時、その日には歡び躍れ、そはなんじらの報い天主において大いなればなり、と。

▲ キリストに賛美あらんことを。

奉 献 文 Offertorium

Ex-sul- tá- bunt *sán- cti in
 エクススル タ ブント ▲ サンクタイ イン
 喜び躍らん 聖人は

gló- ri- a, læ- ta- bún- tur
 グロリア レタブン トウル
 光栄において。 愉しまん

in cu- bí- li- bus sú- is: ex- al- ta-
 インクビリス イス エクサルタ
 その臥床にて。 天主の

ti- ó- nes Dé- i in fáu- ci-
 ヲイオネスデ イ イン ファウチ
 頌歌は その口にあり



(七旬節以後は次のアレリヤを省く)



Secreta

密 唱

Suscipe, Domine, munera quæ in sanctorum Martyrum tuorum Petri Baptistæ, et Pauli cum Sociis sollemnitate deferimus: et da nobis famulis tuis; ut eorum meritis in confessione tui nominis stabiles inveniri mereamur. Per Dominum nostrum Jesum Christum filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus.

主よ、ねがわくは主の殉教者なる聖ペトロ・バプチスタと聖パウロ及びその侶らの祝いにおいてわれらが献げ奉るものを受け納れたまいつかれらの功德によりて主の僕なるわれらを主の名の宣言において堅固ならしめたまわん事を主と聖霊と共に(世々)生きかつしるしめしたもう天主、聖子われらの主イエズス・キリストによりて。

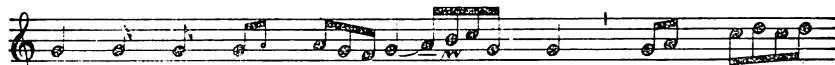
Praefatio

序 唱 (通常の)

Vere dignum et justum est, æquum et salutare, nos tibi semper et ubique gratias agere, Domine sancte, Pater omnipotens, æterne Deus, per Christum Dominum nostrum. Per quem majestatem tuam laudant Angeli, adorant Dominationes, tremunt Potestates. Cœli cœlorumque Virtutes ac beata Seraphim, socia exultatione celebrant, Cum quibus et nostras voces, ut admitti jubeas deprecamur, supplicii confessione dicentes:

げに、善くかつ正しく、益ありてまた福なることなるかな、われらの主キリストによりていずれの時にても、いずれの処にても主に感謝し奉るは。聖なる主、全能の父、永遠の天主よ。かれによりて天使は主の偉大なるを賛美し、主権は拝礼し、能力は震えるなり。天と天の勢力と、福なる熾天使は挙りて主を賛え歡ぶなり。ねがわくはかれらにわれらの声をも交えしめたまえ、さればわれらはつましき賛美をもつて謳わん。

聖体拝領唱 Communion



*Dí- co au- tem vó- bis * a- mí-*
 テイ コ アッ テ ヲ ヲオ ビス ▲ ア ミ
 されば われなんじらに告ぐ わが友たる



cis mé- is: ne ter- re á- mí- ni
 チス メ イス ネ テル レ ア ミ ニ
 (なんじらに告ぐ) お そ る る な か れ



ab his qui vos per-se- quún- tur.
 アッ ヒス ヲイ ヲオス ペル セ クン トウル
 なんじらを迫害する者をば

Postcommunio

聖体拝領後の文

Deus, qui crucis mysterium in sanctis
 Martyribus tuis Petro Baptista, et Paulo
 cum Sociis mirabiliter illustrasti: eorum,
 quæsumus, meritis et intercessione, ita
 nos per gratiam tuam in fide et caritate
 confirma; ut nullis a te tentationibus se-
 paremur. Per Dominum nostrum Jesum
 Christum filium tuum, qui tecum vivit et
 regnat in unitate Spiritus sancti Deus,
 per omnia sæcula sæculorum.

R. Amen.

十字架の玄義を殉教者なる聖ペトロ・パ
 ブラスと聖パウロ及びその侶らにおいて
 奇しくも示したまいし天主、ねがわくはか
 れらの功績と伝達とによりて、いかなる誘
 惑によりても主より離れざるよう、ご恩寵
 もてわれらを信仰と愛とにおいて堅固なら
 しめたまわんことを、主と聖霊と共に世々
 活きかつしめしたもう天主、聖子、わ
 れらの主イエズス・キリストによりて。

▲ アーメン。

枝の主日

Dominica II. Passionis seu In Palmis

聖枝祝別式 De benedictione ramorum

(最初に歌う)



Ho- sán- na * Fí- li- o Dá- vid: be- ne- díc- tus
 ホ サ_ン ナ ▲ フイ リ オ ダ_{ヴィ}ド ベ ネ_{ディ}ク トウス
 賛美あれ、 ダ_{ヴィ}ドの子に、 祝 福 あ れ、



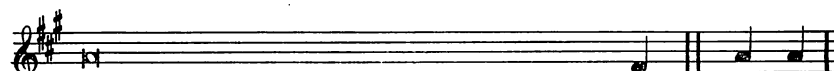
qui vé- nit in nó- mi- ne Dó- mi- ni. Rex Is-
 クイ ヲ_エ ニト イン ノ ミ ネ ド ミ ニ レクス イス
 主の御名に依りて来たれる御者に。 イ ス



ra- el: Ho- sán-na in ex- cél- sis.
 ラ エ_ル ホ サ_ン ナ イン エクス シエルス_{イス}
 ラエルの王、 賛美あれ、 いと高き処に。



V. Do- mi- nus vo- bis- cum. R. Et cum spí- ri- tu tu- o.
 ◎ ド ミ ヌス ヲ_ビス クム ▲ エト クム スピ リトウ トウ オ
 主 なんじらと共に またなんじの靈と共にあれ



Oremus..... Per omnia saecula saeculo- rum. R. A- men.
 ◎ オレムス..... ペル オムニ ア セクラ セクロ ルム ▲ ア メン
 祈願せん..... 世 々 に 至 る ま で

(司祭は枝に聖水をふりかけ、香をくゆらす)

聖枝配布 De distributione ramorum



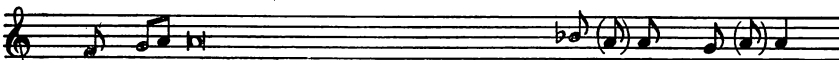
Pú- e- ri He- brae- ó- rum, * por- tán- tes rá- mos o-
 プエリ ヘブレオ ルム ▲ ポル タン テス ラ モス オ
 ヘブレオの子らは手にせり、枝を徹



li- vá- rum, ob- vi- a- vé- runt Dó- mi- no, cla- mán-
 リ ヴァ ルム オ ヴィ ア ヴェ ルント ド ミ ノ クラ マン
 櫛の(枝を)。迎え奉れり主を。さけ

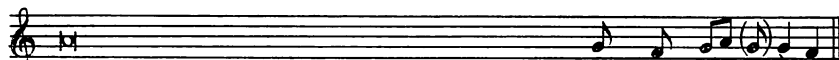


tes, et di- cén- tes: Ho- sán- na in ex- cé- sis.
 テス エト デイ テエン テス ホ サン ナ イン エクス シエ ヲ ス イ ス
 び云えらく 賛美あれいと高き処にと。



1. Dó- mi- ni est tér- ra et quae re- plent e- am, *
 ド ミ ニ エ ス ト テ ル ラ エ ト ク エ レ プ レ ン ト エ ア ム
 主のものなり地とこれに充てるもの

2. Nam í- pse sú- per má- ri- a fun- da- vit e- um, *
 ナ ム イ ヲ セ ス ペ ル マ リ ア フ ン ダ ヴ イ ト エ ウ ム
 そはかれ 海の上にこれを据え



1. ór- bis ter- rá- rum et qui há- bi- tant in e- o.
 オ ル ビ ス テ ル ラ ル ム エ ト ク イ ハ ビ タ ン ト イン エ オ
 地球とこれに住めるものは。

2. et sú- per flú- mi- na fir- má- vit e- um.
 エ ト ス ペ ル フ ル ミ ナ フ ィ ル マ ヴ イ ト エ ウ ム
 また河の上にこれを固めたればなり

Púeri

(最初にもどり、プエリを3行目の終りまで歌う) ▲ プエリ

(詩篇のなかで†のあるところは次のように歌う)



(8. Quis est iste rex gló- ri- æ? † Dóminus

(3節から6節までは、はぶかれる)

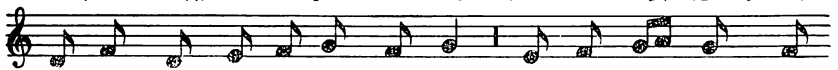
7. At-tól-li-te, pór-tæ, cá-pi-ta vé-stra, † et at-tól-li-te vos,
 アト トルリテ ポル テ カピ タ ヂエ ストラ エト アト トルリテ ヴオス
 あ げ よ 門 よ なんじらのこうべを また あ が れ なんじら
 fo-res an-ti-quæ, * ut in-gre-di-á-tur rex glo-ri-æ!
 フォ レス アンチイ クエ ウト イン グレダイアトル レクス ユロ リエ
 いにしえのとびらよ。 入りたまわん 栄えの王は
8. Quis est í-ste rex gló-riæ? † Dó-mi-nus for-tis et pot-ens, *
 クイス エスト イステ レクス ユロ リエ ド ミ ヌス フォルティスエト ポ テンス
 たれかその栄えの王なる 主なり つよく たけき
 Dó-mi-nus pót-ens in prae-li-o. Pú-e-ri……
 ド ミ ヌス ポ テンス イン プレ リオ ▲ プ エリ……
 主なり いくさにたけき(主なり)
9. At-tól-li-te, pór-tæ, cá-pi-ta vé-stra, † et at-tól-li-te vos,
 アト トルリテ ポル テ カピ タ ヂエ ストラ エト アト トルリテ ヴオス
 あ げ よ 門 よ なんじらのこうべを また あ が れ なんじら
 fo-res an-ti-quæ, * ut in-gre-di-á-tur rex glo-ri-æ!
 フォ レス アンチイ クエ ウト イン グレダイアトル レクス ユロ リエ
 いにしえのとびらよ。 入りたまわん 栄えの王は
10. Quis est i-ste rex glo-ri-æ? * Dó-mi-nus ex-er-cí-tu-um:
 クイス エスト イステ レクス ユロ リエ ド ミ ヌス エクセルチトゥム
 たれかその栄えの王なる 主 万軍の(主)
 i-pse est rex glo-ri-æ. Pú-e-ri……
 イッセ エスト レクス ユロ リエ ▲ プ エリ……
 これこそ栄えの王なれ
11. Gló-ri-a Pa-tri, et Fi-li-o, * et Spi-rí-tu-i Sanc-to,
 ユリア パトリ エト フィリオ エト スピリトゥイ サクト
12. Sic-ut é-rat in prin-cí-pi-o, et nunc, et sem-per, * et
 シクト エラト イン プリンチピオ エト ヌンク エト セム ペル エト
 in saé-cu-la sæ-cu-ló-rum. A-men. Pú-e-ri……
 イン セクラ セクロルム アメン ▲ プ エリ……
- (以上の詩篇も、次ぎのページの詩篇も、配布時間の長短にしたがつて、てきとうに歌う)



Pú-e-ri He-brae-ó-rum * ve-sti-mén-ta pro-ster-
 プエリ ヘ ッレオ ルム ▲ ヴァエヌタイ メン タ ヲロステル
 ヘブレオの子らは 衣 を 敷 け



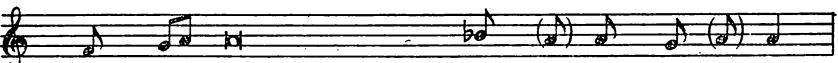
né-bant in vi-a, et cla-má-bant di-cén-tes:
 ネ バント イン ヴァイ ア エト クラ マ バント テイ チエン テス
 り、 路 じに。 さ け び 云 え ら く



Ho-sán-na Fí-li-o Da-vid: be-ne-díc-tus qui
 ホ サン ナ ヲイ リ オ ダ ヴァイ フ ベ ネ ヲイ ク トウ ス クイ
 賛美あれ ダ ヴァイド の 子 に。 祝 福 あ れ、 来 り し

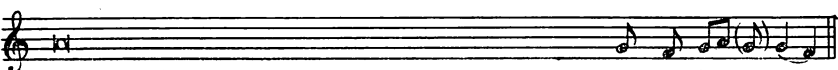


vé-nit in nó-mi-ne Dó-mi-ni.
 ヴァエ ニト イン ノ ミ ネ ド ミ ニ
 御者には、 主 の 御 名 に よ り て。



1. Om-nes pó-pu-li, plau-di-te ma-ni-bus.*
 オム ネス ポ プ リー プラウ ヲイ テ マ ニ ブス
 もろもろの 民 よ 打 て 手 を。

(2. Quóniam.....)



ex-sul-tá-te Dé-o vo-ce lae-ti-ti-æ.
 エクス スル タ テ デ オ ヲオ ヲエ レ ヲイ ヲイ エ
 よろこべ 天主に こえあげよ よろこびの (声)

2. Quó-ni-am Dó-mi-nus ex-cel-sus, ter-ri-bi-lis,* Rex
 クオ ニ アム ド ミ ヌス エクス エル スス テル リ ビ リ ス レクス
 そは 主は いと高く 畏るべき 大王
 má-gnus sú-per óm-nem ter-ram. Pú-e-ri.....
 マニクス スペル オム ネム テル ラム ▲ プエリ.....
 なればなり 全 地 の (大王) (4行全部うたう)

3. *Súb-ji-cit po-pu-los no-bis * et na-ti-ó-nes pé-di-bus no-stris.*
 ス¹イ¹チ¹、**ポ** ¹プ ¹ロ¹ス ¹ノ ¹ビ¹ス エ¹ト ¹ナ¹イ¹オ ¹ネ¹ス ¹ペ¹イ¹ ¹ア¹ス ¹ノ ¹ス¹ト¹リ¹ス
 従¹わ¹せ¹た¹り 民¹ら¹を わ¹れ¹ら¹に。ま¹た 国¹民¹ら¹を わ¹れ¹ら¹の¹足¹も¹と¹に。

4. *E-li-git nó-bis he-re-di-ta-tem no-stram, * gló-ri-am*
 エ¹リ¹ジ¹ト ¹ノ ¹ビ¹ス ヘ¹レ¹イ¹ **タ** ¹テ¹ム ¹ノ ¹ス¹ト¹ラム ¹グ¹ロ¹リ¹ア¹ム
 え¹ら¹び¹た¹り わ¹れ¹ら¹に わ¹れ¹ら¹の¹ゆ¹ず¹り¹を。 栄¹え¹を

Já-cob, quem di-li-git. Pú-e-ri……

ヤ ¹コ¹ッ ¹ク¹エ¹ム ¹イ¹リ¹ジ¹ト ▲ ¹プ¹エ¹リ¹……
 ヤ¹コ¹ブ¹の¹(¹栄¹え¹を¹) 愛¹し¹た¹も¹う

5. *A-scén-dit Dé-us cum ex-sul-ta-ti-o-ne, * Dó-mi-nus*
 ア ¹シ¹エン¹イ¹ト ¹デ¹ ¹ウ¹ス ¹ク¹ム ¹エ¹ク¹ス ¹ス¹ル ¹タ¹ ¹イ¹ ¹オ ¹ネ ¹ド ¹ミ ¹ヌ¹ス
 昇¹り¹た¹ま¹え¹り 天¹主¹は よ¹ろ¹こ¹び¹も¹て 主¹は

cum vó-ce tu-bæ.

ク¹ム ¹ウ¹オ¹チ¹エ ¹ト ¹ウ¹ ¹ベ
 ラ¹ツ¹パ¹の¹音¹と¹も¹に。

6. *Psál-li-te De-o, psal-li-te; * psál-li-te Ré-gi*
 プ¹サ¹ル¹リ¹ ¹テ ¹デ¹ ¹オ ¹プ¹サ¹ル¹リ¹ ¹テ ¹プ¹サ¹ル¹リ¹ ¹テ ¹レ¹ ¹ジ
 う¹た¹え 天¹主¹に う¹た¹え う¹た¹え わ¹れ¹ら

nó-stro, psal-li-te. Pú-e-ri……

ノ ¹ス¹ト ¹プ¹サ¹ル¹リ¹ ¹テ ▲ ¹プ¹エ¹リ¹……
 の¹王¹に う¹た¹え

7. *Quó-ni-am rex om-nis ter-ræ est De-us, * psál-li-te*
 ク¹オ ¹ニ¹ア¹ム ¹レ¹ク¹ス ¹オ¹ム ¹ニ¹ス ¹テ¹ル ¹レ ¹エ¹ス¹ト ¹デ¹ ¹ウ¹ス ¹プ¹サ¹ル¹リ¹ ¹テ
 そ¹は 全¹地¹の¹王¹な¹ら¹ば¹な¹り 天¹主¹は。 う¹た¹え

hym-num.

ヒ¹ム ¹ヌ¹ム
 ほ¹め¹う¹た¹を

8. *Dé-us ré-gnat sú-per na-ti-o-nes, * Dé-us sé-det*
 デ¹ ¹ウ¹ス ¹レ ¹ニ¹ヤ¹ト ¹ス ¹ペ¹ル ¹ナ¹ ¹イ¹ ¹オ ¹ネ¹ス ¹デ¹ ¹ウ¹ス ¹セ¹ ¹デ¹ト
 天¹主¹は お¹さ¹め¹た¹も¹う 国¹民¹を。 天¹主¹は 座¹し¹た¹も¹う

sú-per só-li-um sán-ctum su-um. Pú-e-ri……

ス ¹ペ¹ル ¹ソ ¹リ¹ ¹ウ¹ム ¹サン¹ ¹クト¹ ¹ウ¹ム ¹ス ¹ウ¹ム ▲ ¹プ¹エ¹リ¹……
 聖¹なる¹ 玉¹座¹の¹上¹に

9. Prín-ci-pes po-pu-ló-rum con-gre-ga-ti sunt * cum
 ッリシチベス ポプ ロルム コン グレ ガタイ スト クム
 民らのかしらたちは 集まれり
- pó-pu-lo Dé-i A-bra-ham.
 ポプ ロ デイ ア ッラ ハム
 アブラハムの神の民と共に
10. Nam Dé-i sunt pro-ce-res ter-ræ; * ex-cél-sus est val-de.
 ナム デイ スト ッロ チエ レス テル レ エクシエル スス エストグ ア デ
 そは神のものなればなり 地のやかからは。 かれはいと高くましませばなり
 Pú-e-ri……
 ▲ プ エリ……
11. Gló-ri-a Pa-tri, et Fi-li-o, * et Spi-rí-tu-i Sanc-to.
 ッポリア パトリ エト ッイ リオ エト スピリトゥイ サント
 栄えは 父 と 子 と 聖 靈 と に
12. Síc-ut é-rat in prin-cí-pi-o, et nunc, et sem-per, *
 スイクト エラト イン ッリシチピオ エト ヌシク エト セム ペル
 始めにありしごとく 今 も いつも
- et in saé-cu-la sæ-cu-ló-rum. A-men. Pú-e-ri……
 エト イン セク ラ セク ロルム ア メン ▲ プ エリ……
 世 世 に まで

十 マテオ聖福音の続唱 (マテオ 21, 1-9)

その時、イエズス、イエルサレムに近づき、カンラン山のふもとなるベトファゲに至りたまひし時、イエズス二人の弟子を遣わさんとして、のたまひけるは、なんじら向かいの村にゆけ、さらばただちにつなげる牝驢馬の、その子と共におるに会わん、そを解きてわれに引き来たれ。もし人ありてなんじらに物言わば、主これを要すといえ、さらばただちに許すべし、と。すべてこのことの成れるは、予言者によりていわれしことの成就せんためなり。いわく「娘シオンに言え、見よ、なんじの王柔和にして、牝驢馬とその子なる小驢馬とに乗りてなんじに来たる」と。弟子たちゆきて、イエズスの命じたまひしごとくなし、牝驢馬とその子とを引き来たり、おのが衣服をその上にしき、イエズスをこれに乗せたるに、群衆がおびただしくおのが衣服を道にしき、ある人々は木の枝を切りて道にしきたり。先に立ちあとに従える群衆よばわりて、ダヴィドの子にホザンナ。主のみ名によりて来たる者は祝せられさせたまえ、と言いおれり。 ▲ キリスト、なんじにたたえあれ。

聖 枝 行 列 De processione cum ramis benedictis

(はじめに香がたかれる)



V. Pro- ce- dá- mus in pa- ce.

◎ フロ ャエ ダ ムス イン パ ャエ われら行かん安らかに。



R. In nó- mi- ne Chri- sti. A- men.

▲ イン ノ ミ ネ クリ スタイ ア メン キリストのみ名によりて

王たるキリストへの賛歌 Hymnus Ad Christum Regem



Gló- ri- a, laus, et hó- nor, ti- bi sit, Rex Chrí- ste Red-

○ グロ リア ラッス エト ホ ノル テイ ビ スイト レク ス クリ ステ レ

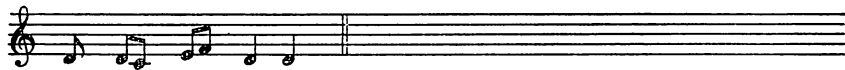
▲ さかえと たたえ と ほまれは なんじに あれ 王 キリストよ 救



ém- ptor: Cu- i pu- e- ri- le dé- cus próm- psit

デム ャトル クイ プエ リレ デ クス フロム ャスイト

主 よ なんじに おさな子の むれは うたうなり



Ho- sán- na pi- um. (最初は斉唱でもう一度くりかえす)

ホ サン ナ ピ ウム

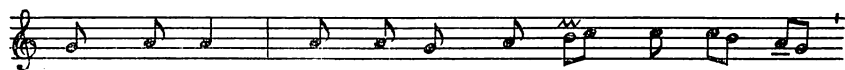
つつましきホザンナを



1. Is- ra- òl es tu Rex, Da- ví- dis et in- cli-

○ イス ラ エル エス トウ レク ス ダ ヴァイ ャイス エト イン クリ

イスラエルの なんじは 王 ダヴィドの とうとき



ta pró- les: Nó- mi- ne qui in Dó- mi- ni,

タ フロ プス ノ ミ ネ ャイ イン ド ミ ニ

す え。 主 の み 名 に よ り て



Rex be- ne- dic- te, vé- nis. Gló-ri-a, laus……

レクス ベ ネ ^テイ^ク テ ^シエ^ニ ス ▲ ^グロ^リア ^ラウス……
 祝せられたる王よ、 なんじは来たる。



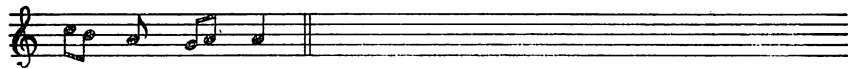
2. Coe- tus in ex- cël- sis te lau- dat cœ- li- cus

○ ^チエ^トウス ^{イン} ^エクス ^シエル^ス ^イス テ ^ラウ^ダト ^チエ^リ ^クス
 天の集まりが いと高きところにて なんじを ほむる なり



óm- nis, Et mór- ta- lis hó- mo, et cunc- ta cre-

オム ニス エト モル タ ^リス ホ モ エト クンク タ ヌレ
 こぞりて。 死すべき 人も すべての造られし



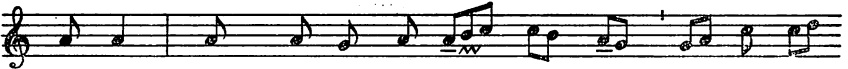
á- ta si- mul. Gló-ri-a, laus……

ア タ ^スイ ^ムル ▲ ^グロ^リア ^ラウス……
 ものも 共に。



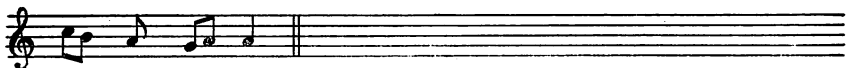
3. Plebs He- braé- a ti- bi cum pâl- mis ób- vi- a

○ ^ヘブレ^{ウス} ^ヘブレ^ア ^テイ^ビ ^{クム} ^パル^{ミス} ^オブ^{ヴィ} ^ア
 ヘブレオの民は なんじを 詩篇を歌いつつ いでむか



vé- nit: Cum pré- ce, vo- to, hym- nis, ád- su- mus

^ウエ^ニト ^{クム} ^{プレ} ^テエ^ウ ^オト ^{ヒム} ^{ニス} ^ア ^ス ^ムス
 えたり われらも いのり のぞみ 賛歌もて 至るなり



ec- ce ti- bi.

エツ ^チエ^テ ^イ ^ビ
 見よ みもとに

Gló-ri-a, laus……

▲ ^グロ^リア ^ラウス……



4. *Hi ti-bi pas-sú-ro sol-vé-bant mú-ni-a láu-dis :*
 ○ ヒ ヱイ ビ パ ス ス ロ ソ ヲ ヲ エ パ ント ム ニ ア ラ ッ ヲ イ ス
 かれらは苦難に向かうなんじに ささぐなり みつぎとして 賛美を



Nos tí-bi re-gnán-ti pán-gi-mus ec-ce me-los.
 ノ ス テイ ビ レ ニ ヤ ン テイ パ ン ジ ム ス エ ッ チ エ メ ロ ス
 われら 治めたもうなんじに ささぐなり みよ 歌を

Glo-ri-a laus……

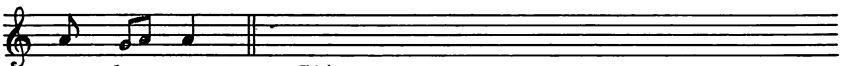
▲ グロ リ ア ラ ッ ス……



5. *Hi pla-cu-é-re tí-bi, pla-ce-at de-vó-ti-o*
 ○ ヒ ヱ プ ク エ レ テイ ビ ヱ ラ チ エ ア、 デ ヲ ヲ イ オ
 かれらは かなえり なんじに。 ねがわくは われらの信心をも



no-stra; Rex bó-ne, Rex clé-mens, cui bó-na cunc-
 ノ ス ト ラ レ ク ス ボ ネ レ ク ス ク レ メ ン ス テイ ボ ナ ク ン ク
 よき王 おだやかなる王よ すべての善をよみしたもう者よ



ta pla-cent. Gló-ri-a laus……

タ ヱ ラ チ エ ント ▲ グロ リ ア ラ ッ ス……
 かなわしめたまえ

(行列の結びとして司祭が祭壇に登ってから次の応答がある)

V. *Dó-mi-nus vo-bis-cum. R. Et cum spí-ri-tu tú-o.*
 ◎ ド ミ ヌ ス ヲ オ ビ ス ク ム ▲ エ ト ク ム ス ピ リ ト ウ ト ウ オ
 主 なんじらと共に また なんじの霊と共に

(つづく祈願にアーメンと答える。司祭は紫色の祭服に着かえてミサをはじめる)

聖 木 曜 日

FERIA V. IN CENA DOMINI

聖香油ミサ De Missa Chrismatis

入 祭 文 Introitus

Fa- ci- es * *unc- ti- ó- nis* *ó- le- um, et*
 ♪ ア チ エス ▲ ウンクツイ オ ニス オ レ ウム エト
 つくれ 注 ぎ の 油 を。

fi- li- is Is- ra- el dí- ces: Hoc ó- le- um unc-
 ♪ イ リ イス イス ラ エル ヲイ テエス ホクオ レ ウム ウンク
 イスラエルの子らに 言 え この 注 ぎ 油 を

ti- ó- nis sanc- tum é- rit mi- hi in ge-
 ♪ イ オ ニス サンクトウム エ リト ミ ヒ イン ジエ
 聖 と すべし わがために 世

ne- ra- ti- ó- nes vé- stras. Ps. Grá- ti- as Dó- mi- ni
 ♪ ネ ラ ヲイ オ ネスツエ ストラス ○ ヲラッイ アス ド ミ ニ
 世にわたりて 詩 主のめぐみを

*in ae- tér- num can- tá- bo: * Per om- nes ge- ne- ra- ti-*
 ♪ イ、 エ テル ヌム カン タ ボ ▲ ペル オム ネス ジエ ネ ラ ヲイ
 永 久 に われ歌うなり。 世 々 に

ó- nes an- nun- ti- á- bo fi- de- li- tá- tem tú- am.
 ♪ オ ネス アン ヌンツイ ア ボ ヲイ デリ タ テム トウ ア
 われ 告 げ ん なんじのまことを

Oratio

Oremus

Domine Deus, qui in regenerandis ple-
bibus tuis ministerio uteris sacerdotum;
tribue nobis perseverantem in tua voluntate
famulatum; ut dono gratiae tuae, in diebus
nostris, et meritis et numero sacratus tibi
populus augeatur. Per Dominum nostrum
Jesum Christum filium tuum, qui tecum
vivit et regnat in unitate Spiritus sancti
Deus, per omnia saecula saeculorum.

R. Amen.

Epistola

Lectio Epistolae beati Jacobi Apostoli.

(Jac. 5, 13-16)

Fratres: Tristatur aliquis vestrum?
Oret. Aequo animo est? Psallat. Infirmatur
quis in vobis? Inducat presbyteros ec-
clesiae, et orent super eum, ungentes eum
oleo in nomine Domini; et oratio fidei
salvabit infirmum, et alleviabit eum Do-
minus; et si in peccatis sit, remittentur ei.
Confitemini ergo alterutrum peccata ve-
stra, et orate pro invicem ut salvemini;
multum enim valet deprecatio justi as-
sidua. R. Deo grátias.

集 禱 文

祈願せん。

主なる天主、なんじはみ民の再生に、司
祭たちの奉仕を用いたもうにより、われら
の時代においてなんじに献げられたる民が
なんじの聖寵の賜物によりて、いきおしに
おいても数においてもいや増すよう、われ
らをしてなんじのみ旨をはたしつつ、絶え
ず仕うるを得しめたまえ。なんじと共に聖
霊と一体をなし、世々にわたりて生きかつ
しろしめしたもう天主たるおん子、われら
の主イエズス・キリストによりて。

▲ アメン

書 簡

使徒聖ヤコボの書簡の朗読

(ヤコボ 5, 13-16)

兄弟たちよ、なんじらのうちに憂うる者
あらんか、その人は祈るべきなり。喜ぶ者
あらんか、その人は聖詩を歌うべきなり。
なんじらのうちに病める者あらんか、その
人は教会の長老をよぶべく、かれらは主の
み名によりてこれに注油し、これが上に祈
るべし。かくて信仰の祈りは病者を救い、
主これを引き立てたまい、もし罪あらば赦
さるべきなり。されば互に罪を告白して、
互のために祈れ、これなんじらのいやされ
んためなり。そは義人のあつき祈りは大い
なる力あればなり。

▲ 天主に感謝し奉る。

昇 階 唱 Graduale

In Dé-o * con-fi-sum est cor mé-um, et
イン デ オ ▲ コンファイ スム エスト コム メ ウム エト

ad- jú- tus sum: íd- e- o ex- súl- tat
 アド ユ トウス スム イ デオ エクス スル タト

cor mé- um, et cán- ti- co mé- o
 コル メ ウム エト カン タイ コ メ オ

lau- do é- um.
 ラ ッ ド エ ウム

V. Dó- mi- nus
 オ ド ミ ヌス

ró- bur est pó- pu- lo sú- o,
 ロ ブル エスト ポ プロ ス オ

et prae- sí- di- um sa-
 エト プレ スイ タイ ウム サ

lú- tis únc- to * sú- o.
 ル タイス ウンク ト ▲ ス オ

昇 階 唱 訳 詞

わが心天主により頼みたれば、われ助けられたり、この故に、わが心よろこびおどる。われ、歌もてかれを、ほめまつる。

V. 主はその民には力なり。そのメシアには救いのとりでなり。

Evangelium

聖 福 音

Sequentia sancti Evangelii secundum Marcum.
(*Marc. 6, 7-13*)

In illo tempore : Vocavit Jesus duodecim, et coepit eos mittere binos, et dabat illis potestatem spirituum immundorum. Et praecepit eis, ne quid tollerent in via, nisi virgam tantum; non peram, non panem, neque in zona aes, sed calceatos sandaliis, et ne induerentur duabus tunicis. Et dicebat eis: "Quocumque introieritis in domum, illic manete, donec exeatis inde; et quicumque non receperint vos, nec audierint vos, exeuntes inde, excutite pulverem de pedibus vestris, in testimonium illis." Et exeuntes praedicabant ut poenitentiam agerent; et daemonia multa eiciebant et ungebant oleo multos aegros, et sanabant.

R. Laus tibi, Christe.

十 マルコ聖福音の続唱 (可6, 7-13)

その時イエズス十二人をよびて、これを二人ずつ遣わすにのぞみ、汚鬼らに対する権能を授け、かつ途中杖のほかは何物をも携えざること、旅ぶくろ、パン、または帯に銭を持つまじきこと、なみなみのはき物をはくも、二枚の下着を着まじきことを命じ、さてかれらにのたまひけるは、いずこにてもある家に入らば、その地を去るまでそこに留まれ。またすべてなんじらを受けず、なんじらに聞かざる者あらば、そこを立ち去りて、かれらへの証拠として足のちりを払えと。かくてかれら出でて改心すべきことを人々に説教し、あまたの悪魔を追い払い、注油して多くの病者をいやし居たり。

▲ キリスト、なんじにたたえあれ。

(クレドは無い)

奉 献 文 Offertorium

Di- li- gis * ju- sti- ti- am
 ♯イ リ° ジス ▲ ニ スタイ ッイ アム
 なんじはこのむなり 正 義 を。

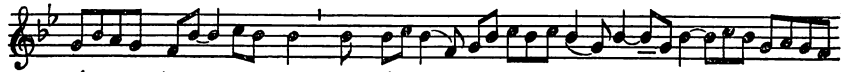
et o- dí- sti in- i- qui- tá-
 エト オ ♯イ スタイ イ ニ ッイ タ
 に く む な り 不 義 を。



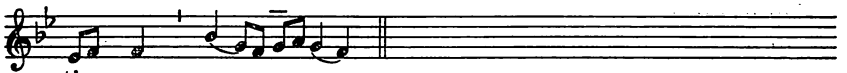
tem: prop- tér- e- a ún- xit te
 テム ッロッ テ レ ア ウン クスイト テ
 故 に 注ぐなり なんじに



Dé- us, Dé- us tú- us
 デ ウス デ ウス トウ ウス
 天 主 なんじの天主は



ó- le- o læ- tí-
 オ レ オ レ ヲイ
 よろこびの油を



ti- æ.
 ヲイ エ

Secreta

密唱

Huius sacrificii potentia, Domine, quaesumus, et vetustatem nostram clementer abstergat, et novitatem nobis augeat et salutem. Per Dominum nostrum Jesum Christum, filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus Sancti Deus...

主よ、願わくはこの犠牲の功德によりておん慈悲をもつてわれらの古きをぬがしめ新しきと救いとを増したまわんことを。なんじと共に聖霊と一体をなし、生きかつしろしめたもう天主たるおん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

Praefatio

序唱

Vere dignum et iustum est, aequum et salutare, clementiam tuam suppliciter obsecrare, ut spiritualis lavacri baptismo renovandis creaturam chrismatis in sacramentum perfectae salutis vitaeque confirmes; ut sanctificatione unctionis infusa, corruptione primae nativitatis absorpta, sanctum uniuscujusque templum accep-

げにふさわしくして正しく、当然にして益あることなるかな、なんじが洗礼の霊的沐浴によりて人々を新たならしめんためにこの造りたる聖香油を堅固にし、全き救いと生命との秘跡になしたもうよう、ひれふしてなんじのおんいつくしみに懇願し奉るは。これ、この油を聖とするによりて、最初の誕生の腐敗が除かれ、人おのおのの聖

tabilis vitae innocentiae odore redolescat, ut secundum constitutionis tuae sacramentum, regio et sacerdotali propheticoque honore perfusi, vestimento incorrupti muneris induantur: per Christum Dominum nostrum. Per quem majestatem tuam laudant Angeli, adorant Dominationes, tremunt Potestates. Coeli coelorumque Virtutes, ac beata Seraphim, socia exultatione concelebrant. Cum quibus et nostras voces ut admitti jubeas, deprecamur, supplicii confessione dicentes:

殿がみ心にかなう生涯の罪なき香りにかおらんため、またなんじに定められたる秘跡によりて、王と司祭と予言者との誉をもつて注油せられたる人々が、汚れなき職務の衣を着せられたためなり。われらの主キリストによりて。これによりてこそ諸天使はなんじのみいつをたたえ、主天使は礼拝し能天使はふるいおののき、天と天の勢力とは幸いなるセラフイムと共に、挙りて喜びの声あげつつことほぐなれ。願わくはわれらの声をもこれにまじえしめたまわんことを。さればわれらいとうやうやしく申しまつらん。

病者用聖油の祝別

(これは聖変化式のあと間もなく行われるが、普通の音符で次の応答がある。)

V. Per Christum Dó-mi-num nostrum. R. A-men.

◎ ペル クリストウ ム ド ミ ヌ ム ノ ス ト ル ム ▲ ア メ ン

V. Dó-mi-nus vo-bis-cum. R. Et cum spí-ri-tu tú-o.

◎ ド ミ ヌ ヌ ヲ ビ ス ク ム ▲ エ ト ク ム ス ピ リ ト ウ ト ウ オ

(祈願が終わつてから、またミサがつづけられ、司教が聖体拝領したのち、聖香油のおごそかな祝別がおこなわれる)。

聖香油および志願者聖油祝別

(行列して香油を持つて来るとき歌う)



O Red-émp-tor, sú-me cár-men Té-met con-ci-nén-ti-um.

○ オ レ デ ム プ ト ル ス メ カ ル メ ン テ メ ト コ ン チ ネ ン ツ イ ウ

▲ ああ 救い主よ よみしたまえ 歌を、なんじを たたえまつる (歌を)

(最初は斉唱でもう一度くりかえす)



1. Au-di jú-dex mor-tu-ó-rum u-na spes mor-tá-

○ ア ッ ツ イ ユ デ ク ス モ ル ト ウ オ ル ム ウ ナ ス ペ ス モ ル タ

き け 死者のさばきぬしよ 死にのぞめる者の唯一の



li- um, Au-di vó- ces pro- fe- rén- tum Dó- num
 リ ウム アウディ ヴォチエス プロ フェ レントウム ド ヌム
 のぞみよ きけ 感謝のさけびの声を あたえられ



pá- cis praé- vi- um. O Red-émp-tor
 パ チス プレイ ヌム ▲ オ レ デ ム ヲ トル
 し平安の おくりものに対して

2. *Ar-bor foé-ta ál-ma lú-ce Hoc sa-crán-dum pró-tu-lit,*
 ○ アルボル フエタ アルマ ルチエ * ホク サ クラントウム プロトゥリト *
 木 けだかき光りにかがやきて 祝せらるべきものを 出だせり

Fert hoc pró-na praé-sens túr-ba Sal-va-tó-ri saé-cu-li.
 フェルト ホク フロナ プレ センストウル バ * サルアトリ セクリ
 もたらしたてまつる、へり下りて集まれる者 世の教主に
 O Red-émp-tor
 ▲ オ レ デ ム ヲ トル

3. *Stans ad ú-ram í-mo súp-plex In-fu-lá-tus Pón-ti-fex,*
 ○ スタンス アドアラム イモ スアップレックス * インフラトウス ポンティフェックス *
 祭壇に立ち へりくだりて願ひ 司教帽をかぶれる 司教は

Dé-bi-tum per-sól-vit óm-ne Con-se-crá-to Chris-ma-te.
 デビトゥム ペルソルヴァイト オムネ * コンセクラト クリスマテ
 つとめを 果すなり 聖香油を祝別して
 O Red-émp-tor
 ▲ オ レ デ ム ヲ トル

4. *Con-se-crá-re tu di-gná-re, Rex per-én-nis pá-tri-æ,*
 ○ コンセクラレトゥディグナレ * レクス ペレンニス パトリエ *
 聖 別 (御身)したまえ、 王よ とこしえの み国の(王よ)

Hoc o-lí-vum, sí-gnum ví-vum Ju-ra con-tra daé-mo-num.
 ホクオリヴ ヴムスイニウム ヴム ヌラ コントラ デモヌム
 このオリーブを生けるしるしとなさんため、悪魔の力を防ぐ(しるし)
 O Red-émp-tor
 ▲ オ レ デ ム ヲ トル

V. *Dó-mi-nus vo-bis-cum.* R. *Et cum spí-ri-tu tú-o.*

◎ ド ミ ヌス ヲ ビス クム ▲ エト クム スピ リトウ トウオ

次に三つの祈願が歌われ、その終りごとに、ふつうの音符でアーメンと答える。
司教と司祭たちは、油に息をふきかける。



V. *Per óm-ni-a sæ-cu-la sæ-cu-ló-rum.* R. *A-men.*

◎ ペル オム ニア セ ク ラ セ ク ロ ルム ▲ ア メン
世 々 に い た る ま で



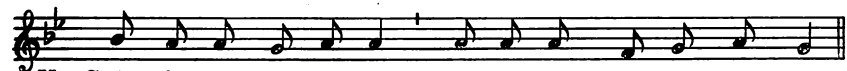
V. *Dó-mi-nus vo-bis-cum.* R. *Et cum spí-ri-tu tú-o.*

◎ ド ミ ヌス ヲ ビス クム ▲ エト クム スピ リトウ トウオ
主 なんじらと共に また なんじの霊と共に



V. *Súr-sum cor-da.* R. *Ha-bé-mus ad Dó-mi-num.*

◎ スル スム コル ダ ▲ ハ ベ ムス アド ド ミ ヌム
あげよ 心を われらあげたり 主に



V. *Grá-ti-as a-gá-mus Dó-mi-no Dé-o nó-stro.*

◎ ヱラ ヱイ アス ア ガ ムス ド ミ ノ デ オ ノ ストロ
感 謝 し ま つ ら ん 主 なる われらの天主に



R. *Di-gnum et jú-stum est.*

▲ テイ ニ ム エト ヌ ストウ ヌ スト ふさわしく、かつ正しきことなり

つづく祈りに答えのアーメンが2回ある。

司教、司祭は、おのおの「めでたし、聖なるキリスマ」と3回歌い、ひざまずき、接吻して、聖別された聖香油に敬意をあらわす。

次に洗礼志願者用聖油が祝別され、答えにアーメンと、*Et cum spíritu tuo* がありさらに、もう1回アーメンがある。

司教、司祭は、聖香油のときと同じ動作で、「めでたし、聖なる油」と3回歌う。

(行列して聖油を香部屋に持つてかえる時に次を歌う)



5. *Ut no-vé-tur sé-xus óm-nis Unc-ti-ó-ne Chris-ma-tis:*

○ ウト ノ ヲエトウル セ ッ ス ス オム ニ ス ウンクツイ オ ネ ッ リ ヲ マ ヲ イ ス
新なれ すべて の 男女 キリスマの注油によりて。



Ut sa-né-tur sau-ci-á-ta di-gni-tá-tis gló-ri-a.

ウト サ ネトウル サ ッ チ ア タ ヲ イ ニ タ ヲ イ ス ヲ ポ リ ア
いやされんことを 傷つけられし 高 き 位 が



O Red-émp-tor, sú-me cár-men Té-met con-ci-nén-ti-um.

▲ オ レ デ ム フ ト ル ス メ カ ル メ ン テ メ ト コ ン チ ネ ッ ツ イ ウ ム
ああ救い主よ よみしたまえ 歌を なんじを たたえまつる(歌を)

6. *Lo-ta mén-te sá-cro fón-te Au-fu-gán-tur cri-mi-na,*

ロ タ メ ン テ サ ッ ロ ヲ オン テ * ア ッ フ ガ ン ト ウ ル ク リ ミ ナ *
清められよ 心が 聖なる 泉にて、 除かれよ 罪 が、

Unc-ta frón-te sa-cro-sánc-ta In-flu-unt cha-rís-ma-ta.

ウンク タ ヲ オン テ サ ッ ロ サ ン ク タ * イン フ ル ウ ン ト カ リ ス マ タ *
ひたいがぬられて 聖 なる たまものの流れんことを

O Red-émp-tor ……

▲ オ レ デ ム フ ト ル ……

7. *Cór-de ná-tus ex Pa-rén-tis Al-vum im-plens Vírgi-nis,*

コ ル デ ナ ト ウ ス エ ク ス パ レ ン テ イ ス * ア ル ヴ ム イ ム プ レ ン ス ヴ ィ ル ジ ニ ス *
父のみたまより出で おとめの胎をみたしし者よ

Praé-sta lú-cem, cláu-de mór-tem Chris-ma-tis con-sór-ti-bus.

プ レ スタ ル ヲ エ ム ク ラ ッ デ モ ル テ ム * ク リ ス マ ヲ イ ス コ ン ソ ル テ イ ブ ス
与えよ 光を、 閉じよ 死を、 キリスマを うけし者に。

O Red-émp-tor ……

▲ オ レ デ ム フ ト ル ……

8. *Sit haec di-es fé-sta nó-bis, Sae-cu-ló-rum saé-cu-lis*
 スイト ヘッヂイェス フェスタ ノビス * セクロルム セクリス*
 この日 われらの祝いなり よろず代に。

Sit sa-crá-ta di-gna láu-de, Nec se-nés-cat tém-po-re.
 スイト サクラタ ギュヤ プッデ * ネクセネスカト テムポレ
 聖なれや 歌うにふさはしく 老ゆるなかれ 時と共に

O Red-émp-tor ……

▲ オレデムツトル ……

聖体拝領唱 Communion



*Prae-di-cá-bant A-pó-sto-li * ut pæ-ni-tén-ti-*
 プレヂイカバント アポスト リ° ▲ ウト ペニテンツイ
 説教せり、 弟子たちは 改心



am á-ge-rent, et un-gé-bant ó-le-o múl-
 アム ア ヂエレント エト ウン ヂエバント オレ オムル
 すべしと。 注 油して 多く



tos aé-gros, et sa-ná-bant.
 トス エ グロス エト サ ナ バント
 の病人を いやしたり

Postcommunio

聖体拝領後の文

Oremus. Praesta, quaesumus, Domine: ut, sicut de praeteritis ad nova transimus; ita, vetustate deposita, sanctificatis mentibus innovemur. Per Dominum nostrum, Jesum Christum, filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia saecula saeculorum.

R. Amen.

祈願せん。主よ、願わくはわれらをして過ぎ去りしより新しきに移ることく、古きをぬぎすてし後は、霊の聖化によりて新たならしめたまわんことを。なんじと共に聖霊と一体をなし、世々にわたりて生きかつしろしめしたもう天主たるおん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

▲ アメン。

(司教掩祝はふつうのとおりあるが、終わりのヨハネ福音の朗読は省略される。)

晩 餐 ミ サ

附 洗 足 式

De Missa Solemni Vespertina

in Cena Domini

入 祭 文 Introitus



Nos au- tem * glo- ri- á- ri o- pór- tet

ノ ス ア ッ テ ム ▲ グ ロ リ ア リ オ ポ ル テ ト
か え つ て ほ こ る こ と な か る べ し



in crú- ce Dó- mi- ni nó- stri Jé- su Chri- sti:

イ ン ク ル テ エ ド ミ ニ ノ ス ト リ イ エ ス ク リ ス テ イ
十 字 架 わ が 主 イ エ ズ ス キ リ ス ト の ほ か は。



in quo est sá- lus, vi- ta, et re- sur- réc- ti- o

イ ン ク オ エ ス ト サ ル ス ヱ イ タ エ ト レ ス ル レ ッ テ イ オ
か れ に よ り て た す か り い の ち ま た 復 活 を 得 た り



nó- stra: per quem sal- vá- ti et li- be- rá-

ノ ス ト ラ ペ ル ク エ ム サ ル ヱ ア テ イ エ ト リ ベ ラ
わ れ ら は。 か れ に よ り て わ れ ら 救 わ れ ま た た す け ら



ti sú- mus. Ps. Dé- us mi- se- re- á- tur nó- stri,

テ イ ス ム ス ○ デ ウ ス ミ セ レ ア ト ウ ル ノ ス ト リ
れ た り 詩。 天 主 よ あ わ れ み た ま え わ れ ら を



et be- ne- dí- cat nó- bis: * il- lú- mi- net vúl- tum sú-

エ ト ベ ネ テ イ カ ト ノ ビ ス ▲ イ ル ル ミ ネ ト ヴ ル ト ム ス
ま た 祝 し た ま え わ れ ら を か が や か せ た ま え み 顔 を



um sú- per nos, et mi- se- re- á- tur nó- stri.

ウ ム ス ペ ル ノ ス
われらの上に。

エ ト ミ セ レ ア ト ウ ル ノ ス ト リ
また あわれみたまえ われらを

(グロリア・パトリはない。最初のノス・アウテムにもどる)

Oratio

Oremus. Deus, a quo et Judas reatus sui poenam, et confessionis suae latro praemium sumpsit, concede nobis tuae propitiationis effectum: ut, sicut in passione sua Jesus Christus, Dominus noster, diversa utrisque intulit stipendia meritorum; ita nobis, ablato vetustatis errore, resurrectionis suae gratiam largiatur. Qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia saecula saeculorum.

R. Amen.

集 禱 文

祈願せん。天主よ、ユダはその罪の罰を、盗賊はその帰依の報いを主より得たりしにより、なんじのおんあわれみの効果をわれらに感知せしめ、われらの主イエズス・キリストがご苦難の時にあたりて、この両者にそれぞれその功罪に従いて報いたまいしごとく、かれをしてわれらよりもまた古き迷いを除かしめ、そのご復活の恵みを分ち与えしめたまえ。かれはなんじと共に聖霊と一体をなし、世々にわたりて生きかつしろしめたもう天主にてまします。

▲ アーメン。

Epistola

Lectio Epistolae beati Pauli Apostoli ad Corinthios (I. Cor. 11, 20-32)

Fratres: Convenientibus vobis in unum, jam non est dominicam cenam manducare. Unusquisque enim suam cenam praesumit ad manducandum. Et alius quidem esurit, alius autem ebrius est. Numquid domos non habetis ad manducandum et bibendum? Aut ecclesiam Dei contemnitis, et confunditis eos, qui non habent? Quid dicam vobis? Laudo vos? In hoc non laudo. Ego enim accepi a Domino, quod et tradidi vobis, quoniam Dominus Jesus, in qua nocte tradebatur, accepit panem, et gratias agens fregit, et dixit: "Accipite, et manducate; hoc est corpus meum, quod pro vobis tradetur: hoc facite in meam com-

書 簡

使徒聖パウロがコリント人に贈りし
書簡の朗読 (コリント前 11, 20-32)

兄弟たちよ、なんじらが一つに集まる時は、もはや主の晩餐を食せんとにはあらず。けだしおのおのさきにおのが晩餐を食するがゆえに、飢えたる人あれば酩酊したる人もあり。飲食するためには自宅あるにあらずや。あるいは天主の教会を軽んじて、乏しき人を恥ずかしめんとするか。なんじらは何をかいうべき。なんじらを賞せんか、われこれをば賞せざるなり。けだしわが主より承りてなんじらにも伝えし所にては、主イエズス渡されたまえる夜に当たりてパンを取り、謝してこれを裂き、さてのたまわく、こはなんじらのために渡さるべきわが体なり、なんじらわが記念として

memorationem." Similiter et calicem, postquam cenavit, dicens: "Hic calix novum testamentum est in meo sanguine: hoc facite, quotiescumque bibetis, in meam commemorationem." Quotiescumque enim manducabitis panem hunc, et calicem bibetis: mortem Domini annuntiabitis, donec veniat. Itaque quicumque manducaverit panem hunc vel biberit calicem Domini indigne, reus erit corporis et sanguinis Domini. Probet autem seipsum homo: et sic de pane illo edat et de calice bibat. Qui enim manducat et bibit indigne, iudicium sibi manducat et bibit, non dijudicans corpus Domini. Ideo inter vos multi infirmi et imbecilles, et dormiunt multi. Quod si nosmetipsos dijudicaremus, non utique iudicaremur. Dum iudicamur autem, a Domino corripimur, ut non cum hoc mundo damnemur.

R. Deo grátias.

これをなせ、と。晩餐の後同じく杯を取りてのたまわくこの杯はわが血における新約なり、飲む度毎になんじらわが記念としてこれをなせ、と。けだし主の来たりたもうまで、なんじらこのパンを食した杯を飲む度毎に主の死を示すなり。ゆえにたれにもあれ、応わしからずしてこのパンを食しあるいは主の杯を飲まん人は、主のおん体とおん血とを犯さん。されば人はおのれを試し、しかして後かのパンを食し杯を飲むべしそは応わしからずして飲食する人は、主のおん体をわきまえず、おのが宣告を飲食する者なればなり。このゆえになんじらのうちには、病める者、弱れる者多く、かつ死せる者多し。われらもし自ら裁かば、裁かるることなからん。裁かるるも、そはこの世と共に罪せられざらんために主よりこらさるるなり。

(侍) 天主に感謝し奉る。

昇 階 唱 Graduale

Chri- stus * fac- tus est pro nó- bis o- bé-
 ッリ ストウス ▲フアクトウス エストプロ ノ ビス オ ベ

di- ens us- que ad mó- tem, mor- tem
 ダイ エンス ウス クエ アド モル テム モル テム

áu- tem crú- cis.
 アッ テム ッル チス

Prop- ter quod et Dé- us ex- al- tá- vit il- lum
 オ フロフ テル クオド エト デ ウス エクサルタ ヴィト イルルム

et dé- dit il- li
 エト デ イト イリ

nó- men, quod est sú- per óm-
 ノ メン ッオド エスト スペ オム

ne * nó- men
 ネ ▲ ノ メン

昇階唱祝詞

キリストはわれらのために死、しかも十字架上の死にいたるまで、従順なる者となりたまひしなり

V. この故に天主も、これを高くあげて、一切の名にまされる名をこれに賜えり。

Evangelium

† *Sequentia sancti Evangelii secundum Joannem. (Jo 13, 1-15)*

Ante diem festum Paschæ, sciens Jesus quia venit hora ejus, ut transeat ex hoc mundo ad Patrem, cum dilexisset suos, qui erant in mundo, in finem dilexit eos. Et cena facta, cum diabolus jam misisset in cor, ut traderet eum Judas Simonis Iscariotæ, sciens quia omnia dedit ei Pater in manus, et quia a Deo exivit, et ad Deum vadit, surgit a cena, et ponit vestimenta sua, et cum accepisset linteam, præcinxit se. Deinde mittit aquam in pelvim, et coepit lavare pedes discipulorum, et extergere linteo, quo erat præcinctus. Venit ergo ad Simonem Petrum. Et dixit ei Petrus: " Domine, tu mihi lavas pedes?"

聖福音

十ヨハネ福音の続唱

(ヨハネ 13, 1-15)

過越しの祭日の前、イエズスおのが時、すなわちこの世より父に移るべき時来たれるを知りたまいて、かねても世にあるおのが弟子を愛したまいしが、極までこれを愛したまえり。さて晩餐のはつるに臨み、悪魔すでにイエズスを渡さんことを、シモンの子イスカリオテのユダの心に入れしかばイエズス父より一切をおのが手に賜わりたることと、おのが天主より出でて天主に至ることとを知りたまひ、晩餐より立ちあがりて上着をぬぎきれを取りて腰におび、やがて水をかんだらいにもり、弟子たちの足を洗いて、そのおびたるきれもてこれを拭い始めたまえり。かくてシモン・ペトロに至りたまうや、ペトロ、主よ、わが足を洗いたまうかと言ひしに、イエズス答えて、わがなす所、なんじ今は知らざれども、の

Respondit Jesus et dixit ei: "Quod ego facio, tu nescis modo, scies autem postea." Dicit ei Petrus: "Non lavabis mihi pedes in aeternum." Respondit ei Jesus: "Si non laverō te, non habebis partem mecum." Dicit ei Simon Petrus: "Domine, non tantum pedes meos, sed et manus et caput." Dicit ei Jesus: "Qui lotus est, non indiget nisi ut pedes lavet, sed est mundus totus. Et vos mundi estis, sed non omnes." Sciebat enim quisnam esset qui traderet eum; propterea dixit: Non estis mundi omnes. Postquam ergo lavit pedes eorum, et accepit vestimenta sua, cum recubisset iterum, dixit eis: "Scitis, quid fecerim vobis? Vos vocatis me Magister et Domine, et bene dicitis; sum etenim. Si ergo ego lavi pedes vestros, Dominus et Magister; et vos debetis alter alterius lavare pedes. Exemplum enim dedi vobis, ut quemadmodum ego feci vobis, ita et vos faciatis."

R. Laus tibi, Christe.

ちにはこれを知るべし、とのたまひければ、ペトロ言いけるは、わが足を洗いたもうこと決してあるべからずと。イエズス、われもしなんじを洗わずば、われと一致する所あらじと答えたまいしかば、シモン・ペトロ、主よ、わが足のみならず、手をも頭をも、と言ひしが、イエズスのたまひけるは、すでに身を洗いたる人は全身清くして足のほか洗うを要せず、なんじらも清けれとすべてにはあらず、と。けだしおのれを渡す者のたれなるを知りたまいて、なんじらことごとく清きにはあらずとのたまひしなり。さてかれらの足を洗い終りて上着を取り、また席につきてかれらにのたまひけるは、わがなんじらになししことのなんたるやを知るや。なんじらはわれを師または主と呼ぶ。その言うことやよし。われはそれなればなり。しかるに主たり師たるわれにして、なんじらの足を洗いたれば、なんじらもまた、互に足を洗わざるべからず。けだしわれなんじらに例を示したるは、わがなんじらになししごとくなんじらにもなさしめんためなり。

(侍) キリスト、なんじにたたえあれ。

このミサにはクレドがない。

奉献文は77ページにある。

洗足式を行なうならば、福音のあと、司祭はカズラをぬいでする。

洗 足 式 De lotionē pedum

(初めに歌う)

Man- dá- tum nó- vum do vó- bis: * ut di- li- gá- tis
 マン ダ トウ ム ノ ヴ ム ド ヴ オ ビ ス ▲ ウ ト ヲ イ リ ヲ ガ ヲ イ ス
 掟 の 新しきを われ汝らに与う。 相 愛 せ よ



in- vi- cem, sic- ut di- lé- xi vos, dí- cit Dó- mi- nus.

イン ヴィ チェム スイ クト テイ リクスイ ヴォス テイ チト ド ミ ヌス
わが、なんじらを愛せしごとくと 主のたもう



Ps. Be- á- ti im- ma- cu- lá- ti in vi- a: *

○ ベ ア テイ イム マ ク ラ テイ イン ヴィ ア ▲
詩. さいわいなるかな 道にありて汚れざる者



qui ám- bu- lant in lé- ge Dó- mi- ni. Mandátum ...

クィ アム プ ラント イン レ ジエ ド ミ ニ ▲ マンダトウム...
主のみのりをふみて歩む者

(以上のほかに、なおいくつかの歌もあるが、はぶいてもかまわない。
しかし次のウビ・カリタスだけは、全部を歌うか、となえるかせねばならない。)

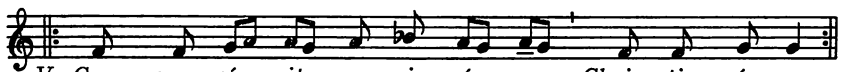
ウビ・カリタス Ubi caritas

(洗足式の終りかけたころ歌う)



U- bi cá- ri- tas et á- mor, Dé- us i- bi est.

▲ ウ ビ カ リ タス エト ア モン デ ウス イ ビ エスト
ところ いくしみ と 愛ある(所) 主 そこに 在す



V. Con- gre- gá- vit nos in ú- num Chri- sti á- mor.

○ コン グレ ガ ヴィト ノス イン ウ ヌム クリスティ ア モン
われらを一つにあつめたるは キリストの愛なり

V. Ex- sul- té- mus, et in ip- so ju- cun- dé- mur.

○ エクス スル テ ムス エト イン イッソ ユ クン デ ムン
われらよろこびおどらん かれにおいて たのしまん



V. Ti- me- á- mus, et a- mé- mus De- um vi- vum.

○ テイ メ ア ムス エト ア メ ムス デ ウム ヴィ ヴム
かしこみてわれら 愛せん 生ける天主を。



V. *Et ex cōr- de di- li- gá- mus nos sin- cé- ro.*

○ エト エクス コル デ ダイ リガ ムス ノス スイン チエ ロ
また なおき心もて た が い に 愛 せ せん



Ant. *U- bi cá- ri- tas et á- mor, Dé- us i- bi est.*

▲ ウ ビ カ リ タス エト ア モル デ ウス イ ビ エスト



V. *Si- mul ér- go cum in ú- num con- gre- gá- mur:*

○ スイ ムル エルゴ クム イン ウ ヌム コン グレ ガ ムル
すなわち 集まりて一つとならば (集まりて)

V. *Ne nos mén- te di- vi- dá- mur, ca- ve- á- mus.*

○ ネ ノス メン テ ダイ ヴイ ダ ムル カ ヴエ ア ムス
われらの 精神 はなれざるよう 注 意 せん



V. *Cés- sent jú- gi- a ma- lí- gna, ces- sent li- tes.*

○ チエス セント ユン ジ ア マリニ ヤ チエス セント リ テス
やめよ 悪意あるあらそいを、 やめよ 訴えごとを



V. *Et in mé- di- o nó- stri sit Chri- stus Dé- us.*

○ エ イン メ デイ オ ノストリ スイト クリ ストウス デ ウス
われらの なか に いましたまえ キリスト 天 主。



Ant. *U- bi cá- ri- tas et á- mor, Dé- us i- bi est.*

▲ ウ ビ カ リ タス エト ア モル デ ウス イ ビ エスト

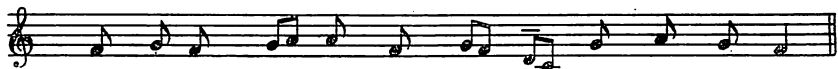


V. *Si- mul quó- que cum be- á- tis vi- de- á- mus*

○ スイ ムル クオ クエ クム ベ ア テイス ヴイ デ ア ムス
諸 聖 人 と 共 に 見 た て ま つ ら ん

V. *Glo- ri- án- ter vúl- tum tú- um, Chri- ste Dé- us.*

○ グロ リ アン テル ヴルトウ ム トウ ム クリ ステ デ ウス
栄 え の う ち に み 顔 を キリスト 天 主 よ



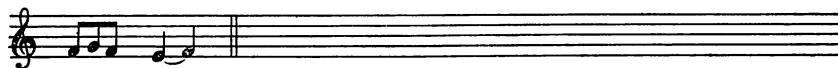
V. *Gáu-di-um quod est im-mén-sum, at-que pró-bum.*

○ ガ ッ ヱ イ ウ ム ク オ フ エ ス ト イ ム メ ン ス ム ア ト ク エ ヲ ロ ブ ム
よ ろ こ び は て し な く 正 し き (よ ろ こ び か な)



V. *Saé-cu-la per in-fi-ní-ta sae-cu-ló-rum.*

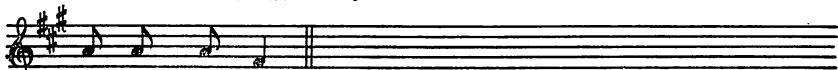
○ セ ク ラ ペ ン イ ン フ イ ニ タ セ ク ロ ル ム
終 り な く 世 世 に わ た り て



A- men.

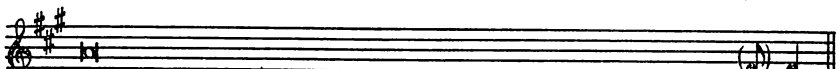
▲ ア メ ン

(洗足を終え、祭服を着てから)



Pa-ter nó-ster

◎ パ テ ン ノ ス テ ン (主 禱 文 を 黙 禱 す る)
父 よ わ れ ら の



V. *Et ne nos in-dú-cas in ten-ta-ti-ó- nem.*

◎ エ ト ネ ノ ス イ ン フ ウ カ ス イ ン テ ン タ ヲ イ オ ネ ム
ま た わ れ ら を 引 き た ま わ ざ れ こ こ ろ み に

R. *Sed lí-be-ra nos a má- lo.*

▲ セ フ リ ベ ラ ノ ス ア マ ロ
救 い た ま え わ れ ら を 悪 よ り

V. *Tu man-dá-sti man-dá-ta tú-a, Dó- mi-ne,*

◎ ト ウ マ ン ダ ス テ イ マ ン ダ タ ト ウ ア ド ミ ネ
なんじは命じたまえり、 み 掟 を 主 よ

R. *Cu-sto-dí-ri ni- mis.*

▲ ク ス ト ヱ イ リ ニ ミ ス
忠 実 に 守 る べ し と

V. *Tu la-vá-sti pé-des di-sci-pu-ló-rum tu- ó- rum.*

◎ ト ウ ラ ヲ ヱ ア ス テ イ ペ デ ス テ イ シ プ ロ ル ム ト ウ オ ル ム
なんじ洗えり 御 弟 子 の 足 を

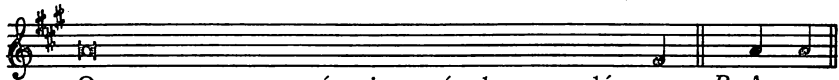
R. O-pe-ra má-nu-um tu-á-rum ne de-spí- ci-as.
 ▲ オペラ マヌウム トウアルム ネ デ スピ チアス
 なんじの御手のわざを 軽しめたまわざれ

V. Dó-mi-ne, ex-áu-di o-ra-ti-ó-nem me- am.
 ◎ ド ミ ネ エクサウダイ オラッイ オネム メ アム
 主よ ききたまえ わが祈りを

R. Et clá-mor mé-us ad te vé- ni-at.
 ▲ エト ッラ モル メ ウス アド テ ヴエ ニアト
 また わがさけびを みもとに至らしめたまえ

V. Dó-mi-nus vó-bis-cum.
 ◎ ド ミ ヌス ヴオビス クム
 主 なんじらと共に

R. Et cum spí-ri-tu tu-o.
 ▲ エト クム スピリ トウ トウ オ
 また なんじの靈と共に



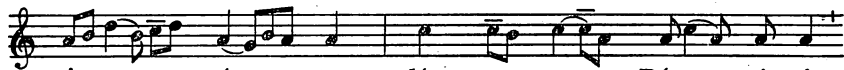
Oremus..... per ómnia saécula saéculó-rum. R. A-men.
 ◎ オレムス..... ペル オムニア セクラ セクロ ルム ▲ アメン

(以上で洗足式は終了、ミサ聖祭にもどる)

奉 献 文 Offertorium



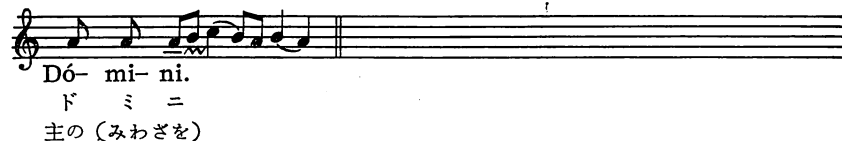
Déx- te- ra Dó- mi- ni * fé- cit
 デクス テ ラ ド ミ ニ ▲ ッエ チト
 右手は 主の(右手は) 示したり



vir- tú- tem, déx- te- ra Dó- mi- ni
 ヴィル トウ テム デクス テ ラ ド ミ ニ
 みちからを。 主の右手は



ex- al- tá- vit me: non mó- ri- ar,
 エクサ タ ヴィト メ ノン モリ ア
 あげたり われを。 死せずして



Secreta

Ipsē tibi, quaesumus, Domine, sancte Pater, omnipotens aeternae Deus, sacrificium nostrum reddat acceptum, qui discipulis suis in sui commemorationem hoc fieri hodierna traditione monstravit, Jesus Christus, filius tuus Dominus noster. Qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus.

密 唱

主、聖なる父、全能永遠の天主、願わくはおのが記念となすべくおん自らこの日いけにえを定め、み弟子たちにそを行なうことを教えたまえるおん子、われらの主イエズス・キリストが、われらのいけにえをなんじのみ心にかなわしめたまわんことを。かれはなんじと共に聖霊と一体をなし生きかつしろしめしたもう天主にてまします。

Praefatio de Sancta Cruce

Vere dignum et justum est, aequum et salutare, nos tibi semper et ubique gratias agere: Domine, sancte Pater, omnipotens aeternae Deus: Qui salutem humani generis in ligno Crucis constituisti: ut, unde mors oriebatur, inde vita resurgeret: et, qui in ligno vincebat, in ligno quoque vinceretur: per Christum Dominum nostrum. Per quem majestatem tuam laudant Angeli, adorant Dominationes, tremunt Potestates. Coeli, coelorumque Virtutes, ac beata Seraphim, socia exultatione concelebrant. Cum quibus et nostras voces ut admitti jubeas, deprecamur, supplicii confessione dicentes:

聖十字架の序唱

げにも応わしくして正しく、当然にして益あることなるかな、いずれの時にても、いずれの処にても、なんじに感謝し奉るは聖なる主、全能の父、永遠の天主。人類の救いが十字架の木より出ずるは、これなんじのみ旨なりき。そは死の起こりし処より生命もまた生じ、木にて勝てる者が、木にてやぶれんがためなり。われらの主キリストによりてかれによりてこそ諸天使はなんじのみいつをほめたたえ、主天使は礼拝し能天使はふるいおののき、天と天の勢力と幸いなるセラフィムとは、こぞりて喜びの声あげてことほぐなれ。願わくはわれらの声をも、これにまじえしめたまわんことを。さればわれらいつやうやしく申しまつらん。

聖 体 拝 領 唱 Communio

Dó-mi-nus Je-sus, * póst-quam cé-na-vit cum
 ド ミ ヌス イエ スス ▲ ポスト ヲアム チエナ ヲイト クム
 主 イエズス 食 事 の の ち

di-scí-pu-lis sú-is, lá-vit pé-des e-ó-rum, et á-
 ーイ シブ リス イス ラ ヲイト ペ デス エ オ ルム エ ト ア
 御弟子と共なる(食事) かれらの足を洗い のたまひ

it íl-lis: sci-tis quid fé-ce-rim vó-
 イト イル リス シ テイス ヲイド ヲエチエ リム ヲオ
 けるは かれらに。 なんじらは知るや なんじらになしたることの何たる

bis, é-go Dó-mi-nus et Ma-gí-ster? Ex-ém-
 ビス エゴ ド ミ ヌス エト マ ジ ステル エク セム
 かを 主にして 師たるわれが。 なんじらに

plum dé-di vó-bis, ut et vos i-ta fa-ci-á-tis.
 プルム デ テイ ヲオ ビス ウト エト ヲオスイ タ ヲアチ ア イス
 例を示したるは なんじらにもかくなさしめんためなり

Postcommunio

Oremus. Refecti vitalibus alimentis, quaesumus, Domine Deus noster; ut, quod tempore nostrae mortalitatis exsequimur, immortalitatis tuae munere consequamur. Per Dominum nostrum Jesum Christum, filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus Sancti Deus per omnia saecula saeculorum. R. Amen.

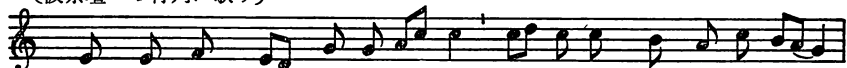
聖体拝領後の文

祈願せん。主われらの天主、命を与うる糧に力づけられたるわれら、願い奉る。われらをして、この朽つべき生においてわれらの行ないまつることの効果を、なんじの朽ちざる賜物によりて得しめたまわんことを。なんじと共に聖霊と一体をなし、世々にわたりて生きかつしめしたもう天主たるおん子、われらの主イエズス・キリストによりて。(答)アーメン。

(祝福と終りの福音は無く、すぐ聖体を仮祭壇へうつす)

聖 体 奉 遷 式

(仮祭壇への行列に歌う)



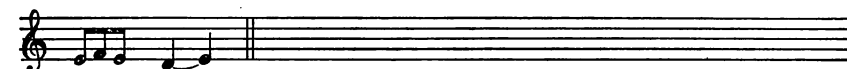
1. Pán-ge, lin-gua gló-ri-ó-si Cór-po-ris my-sté-ri-um
 パン ヱ リン グワ グロ リ オ ス イ * コル ポ リ ス ミ ス テ リ ウ ム *
 い さ 歌 え わ が 舌 よ 光 栄 あ る お ん 体 と



San-gui-nis-que pre-ti-ó-si, Quem in mun-di pré-ti-um
 サン ヱ イ ニ ス ヱ エ プ レ ヱ イ オ ス イ * ヱ ム イ ン ム ン テ イ プ レ ヱ イ ウ ム *
 尊 き お ん 母 の お 子 万 民 の 王 の



Frúc-tus vén-tris ge-ne-ró-si Rex ef-fú-dit gén-ti-um.
 フ ル ク ト ウ ス ヱ エ ン ト リ ス ヱ エ ネ ロ ス イ * レ ク ス エ フ フ テ イ ト ヱ エ ン ツ イ ウ ム *
 世 の 贖 い の た め に 流 し た ま え る 尊 き お ん 血 と の 奥 義 を ば



A- men. (ア-メンは最後に歌う)
 ア メ ン

2. Nó-bis dá-tus, nó-bis ná-tus Ex in-tác-ta vír-gi-ne,
 ノ ビ ス ダ ト ウ ス ノ ビ ス ナ ト ウ ス * エ ク ス イン タ ク タ ヱ イ ル ジ ネ *
 主 は 汚 れ な き 童 貞 よ り 生 れ 出 て だ れ ら に 与 え ら れ

Et in mún-do con-ver-sá-tus, Spár-so vér-bi sé-mi-ne,
 エ ト イン ム ン ド コ ン ヱ エ ル サ ト ウ ス * ス パ ル ソ ヱ エ ル ビ セ ミ ネ *
 み 教 の 種 子 を ま き つ つ こ の 世 を わ た り

Sú-i mó-ras in-co-lá-tus Mí-ro cláu-sit ór-di-ne.
 ス イ モ ラ ス イン コ ラ ト ウ ス * ミ ロ ク ラ ヱ ヱ イ ト オ ル テ イ ネ
 く す し き み 恵 み を 与 え て こ れ を 終 え た ま い ぬ

3. In su-pré-mæ noc-te cœ-næ Re-cúm-bens cum frá-tri-bus,
 イン ス プ レ メ ノ ヱ テ テ エ ネ * レ ク ム ペ ン ス ク ム フ ラ ト リ ブ ス *
 す な わ ち 最 後 の 晩 餐 の 夜 に 当 り て 主 は 兄 弟 ら と 共 に 食 卓 を か こ み

Ob-ser-vá-ta lé-ge plé-ne Ci-bus in le-gá-li-bus,
 オ ヱ セ ル ヱ ア タ ビ ヱ ヱ プ レ ネ * チ ブ ス イン ビ ガ リ ブ ス *
 旧 約 の 律 に し た が い て 過 越 を 食 し

Ci-bum túr-bæ du-o-dé-nae Se dat sú-is má-ni-bus.
 チ ブム トウ^ル ベ^フウ オ デ ネ * セ ダト スイス マ ニ ブス
 おん 手 ず から おん 身 を 十二弟子にわかちたまえり

4. Vér-bum cá-ro pá-nem vé-rum Ver-bo cár-nem éf-fi-cit,
 ヴエル ブム カロ パ ネム ヴエルム * ヴエル^ル ボ カル ネム エフ^フイ チト *
 肉となりたまえるみ言葉の一言により 真のパンはおん肉となり

Fít-que sán-guis Chri-sti mé-rum, Et si sen-sus dé-fi-cit,
 フイトクエ サン^グイス クリス^テイ メルム * エト スイ セン スス デフ^フイ チト *
 葡萄酒はおん血となれり 五官はこれを測り得ざれども

Ad fir-mán-dum cor sin-cé-rum Só-la fi-des súf-fi-cit.
 アド^フイル マンド^ウム コル スイン^テエルム * ソ ラ^フイ デス スフ^フイ チト
 まめやかなる心は 信仰のみによりて堅く信ずるなり

5. Tán-tum ér-go Sa-cra-mén-tum Ve-ne-ré-mur cér-nu-i:
 タントウム エルゴ サ^クラ メントウム * ヴエネレムル チエルヌイ *
 大いなる秘跡をば 伏し拝みまつらん

Et án-ti-quum do-cu-mén-tum Nó-vo cé-dat ri-tu-i.
 エト アン^テイ クム ドク^メントウム * ノ^ウオ チエ^ダト リトウイ *
 いにしえの影は過ぎ去りて 新しき祭式はなれり

Praé-stet fi-des sup-ple-mén-tum Sén-su-um de-féc-tu-i.
 プレ^ステト フイ^デス スフ^プレ^レメントウム * セン^スウム デ^フエ^クトウイ
 願わくは信仰のわが感覚の たらざる所を補えよかし

6. Ge-ni-tó-ri Ge-ni-tó-que Laus et ju-bi-lá-ti-o:
 ジエニトリ ジエニトクエ * ラ^ウス エト ユ^ビラ^フイオ *
 聖父と聖子とに 誉と喜びとあれ

Sá-lus, hó-nor, vír-tus quó-que Sit et be-ne-díc-ti-o:
 サルス ホ^ノル ヴ^イルトウス ク^オクエ * ス^イト エト ベ^ネデ^イク^フイオ
 礼拝と光栄と力と 祝福もあれや

Pro-ce-dén-ti ab u-tró-que Cóm-par sit lau-dá-ti-o.
 プロ^テエ デン^テイ ア^ウトロクエ * コム^パル ス^イト ラ^ウダ^フイオ
 二位より出でたもう聖霊も また共に贅えられたまえ

A-men.
 アメン

(こうして仮祭壇の聖体礼拝が始められ、本祭壇のかざりはとり除かれる)

聖 金 曜 日

Feria sexta in Passione et Morte Domini

はじめの祈りの間に2回アーメンの答えがある。

ヨハネ福音の苦難 (Passio) の全文が、歌うか、または朗読される。

次に「壮重な代祷」(Oratio Fidelium)があり、その時の9回の祈願にそれぞれアーメンと答える。

十字架崇敬式 In adoratione crucis

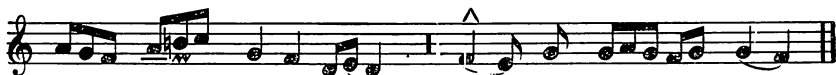
(十字架から紫色の布を除く時)



Ec- ce li- gnum Cru- cis, in quo
エ ッ チ エ リ° ニ ム ク ル チ ス イ ャ オ
み よ 十 字 架 の 木 を。



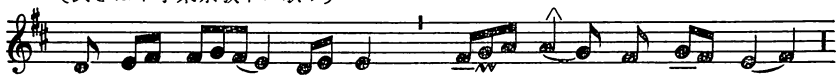
sa- lus mun- di pe- pen- dit.
サ ル ス ム ン テ イ ペ ペ ン テ イ ト
世 の す く い の か か り た ま い し (木を)。



Ve- ni- te ad- o- re- mus.
▲ ヲ エ ニ テ ア ド レ ム ス
来 た れ わ れ ら お が み ま つ ら ん

(以上は3回くり返し、その度毎に音階を上げて歌う)

(次ぎは十字架崇敬中に歌う)



▲ Po- pu- le me- us, quid fe- ci ti- bi
ポ プ レ メ ウ ス ク ャ イ ド ヲ エ チ テ イ ビ
わ が 民 よ、 何を わ れ は な し し か な ん じ に 。



aut in quo con- tri- stá- vi te? re-
 ア ッ ト イ ン ク オ コ ン ト リ ス タ ヱ イ テ レ
 ま た 何 も て 悲 し ま せ し か な ん じ を 。 答



spón- de mi- hi. V. Qui- a e- dú- xi te
 ス ポ ン デ ミ ヒ ○ ヱ イ ア エ ド ウ ク ス イ テ
 え よ わ れ に 。 そ は わ れ 導 け り 、 な ん じ を



de tér-ra Ae- gy- pti: pa- rá-
 デ テ ン ラ エ ジ プ テ イ パ ラ
 地 よ り エ ジ プ ト の (地 よ り) 。 な ん じ は 備 え た り



sti crú- cem Sal- va- tó- ri tú- o.
 ス テ イ ク ル チ エ ム サ ル ヱ ア ト リ ト ウ オ
 十 字 架 を な ん じ の 救 主 に 。



(第一歌隊) (第二歌隊)
 A- gi- os o The- ós. Sanc- tus Dé- us.
 ○ ア ギ オ ス オ テ オ ス ▲ サ ン ク ト ウ ス デ ウ ッ
 聖 なる おお 天主よ 聖 なる 天主よ



(第一歌隊) (第二歌隊)
 A- gi- os i- schy- rós. Sanc- tus fór- tis.
 ○ ア ギ オ ス イ ス キ ロ ス ▲ サ ン ク ト ウ ス フ オ ル テ イ ス
 聖 なる 強 者 よ、 聖 なる 強 者 よ



(第一歌隊)
 A- gi- os a- thá- na- tos, e- lé-
 ○ ア ギ オ ス ア タ ナ ト ス エ レ
 聖 に し て 不 滅 なる 天主よ あ わ れ み

(第二歌隊)



i-son i-mas. Sanc-tus im-mor-tá-
 イ ソン イ マス ▲ サンクトゥス イム モルタ
 たまえ、 われらを。 聖にして 不滅なる天



lis, mi-se-ré-re no-bis.
 リス ミセ レレ ノ ビス
 主よ あわれみたまえ、 われらを。



Qui a-e-dú-xi te per de-sér-tum
 ▲ クイ ア エ ドウ クスイ テ ペン デ セル トウム
 そ は われみちびきたり、 なんじを 沙 漠 を 通 し て



qua-dra-gin-ta án-nis, et man-na ci-bá-vi te,
 クア ドラ ジン タ アン ニス エト マン ナ チ バ ヲ イ テ
 四 十 年 間。 また マンナもて養えり、 なんじを。



et in-tro-dú-xi in ter-ram sa-tis ó-pti-mam:
 エト イントロ ドウ クスイ イン テル ラム サ テ イ ス オ プ テ イ マム
 しかして入れたり、 地 に いとも豊かなる(地)に。



pa-rá-sti cru-cem Sal-va-tó-ri tú-o.
 パ ラ スタイ クル ヲ エム サルヴァト リ トウ オ
 (さるをなんじは)備えたり、十字架を なんじの 救 主 に。

(前へもどり83ページ5行目アギオスから84ページ2行目の最後まで歌う)



V. E-go prop-ter te fla-gel-lá-vi Ae-gy-ptum cum
 ○ エゴ ヲロツ テル テ ヲラ ヲエラ ヲイ エ ジ ヲ ト ウ ム クム
 われ なんじのため 打 て り、 エジプトを



pri-mo-gé-ni-tis sú-is: et tu me fla-gel-lá-
 プリ モ ジ エ ニ テ イ ス イ ス エ ト ト ウ メ ッ ラ ッ エ ル ラ
 その世継ぎと共に。 さるをなんじわれをむち打たせんと



tum tra-di-dí-sti.
 ト ウ ム ト ラ テ イ テ イ ス テ イ
 て わ た し た り き。



とりかへし

Pó-pu-le me-us, quid fe-ci-ti-bi? aut in
 ▲ ポ プ レ メ ウ ス ク イ フ ッ エ チ テ イ ビ ア ッ ト イ ン
 わ が 民 よ、 何をわれはなししかなんじに。 また何



quo con-tri-stá-vi te? re-spón-de mi-hi.
 ク オ コ ン ト リ ス タ サ イ テ レ ス ポ ン デ ミ ヒ
 も て 悲しませしかなんじを。 答えよ われに。



V. E-go te e-dú-xi de Ae-gy-pto, de-mér-so Pha-ra-
 ○ エ ゴ テ エ フ ウ ク ス イ デ エ ジ ッ ト デ メ ル ソ ッ ア ラ
 われは なんじを導けり エジプトより。 沈ませたり、 ファラ



ó-ne in má-re rú-brum: et tu me tra-di-dí-sti
 オ ネ イ ン マ レ ル ッ ル ム エ ト ト ウ メ ト ラ テ イ テ イ ス テ イ
 オ を 紅 海 に。 しかるになんじわれをわたしたり、



prin-cí-pi-bus sa-cer-dó-tum. Pópule meus...
 プ リ ン チ ピ ブ ス サ チ エ ル ド ト ウ ム ▲ ポ プ レ メ ウ ス ...
 司 祭 長 ら に。



V. E- go an- te te a- pé- ru- i má- re: et tu
 ○ エゴ アンテテ アペルイ マレ エト トウ
 われ なんじのため 開きたり 海を。 しかるをなんじは



a- pe- ru- i- sti lán- ce- a lán- tus mé- um.
 アペルイ スタイ ランチエア ラトウス メウム
 開きたり、 槍もて わが脇腹を。

Pópule meus...

▲ ポプリメウス...



V. E- go an- te te prae- í- vi in co- lúm- na nú- bis: et
 ○ エゴ アンテテ プレイバイ インコルムナヌ ビスエト
 われ なんじの前を行けり 雲の柱の中に(ありて)。さるを

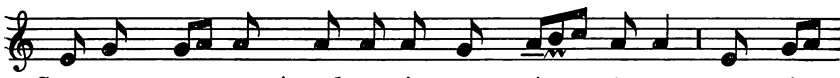


tu me du- xí- sti ad prae- tó- ri- um Pi- lá- ti.
 トウメ フウクスイスタイ アプレトリウム ピラタイ
 なんじわれを引きゆけり 官庁に ピラトの(官庁に)

Pópule meus...

▲ ポプリメウス...

クルチエム Crucem



Cru- cem tu- am * ad- o- rá- mus, Dó- mi- ne: et sanc-
 ○ クルチエム トウ アム ▲ アドラムス ド ミネ エト サンク
 おん身の十字架を われら拝みまつる。 主 よ。 また おん



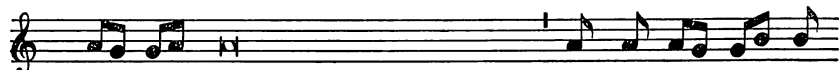
tam re- sur- rec- ti- ó- nem tú- am lau- dá- mus et
 タム レスル レクタイ オネム トウ アム ラッダ ムス エト
 身の尊き復活を ほめ かつ



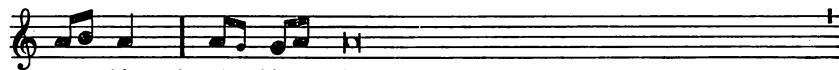
glo-ri-fi-cá-mus: ec-ce e-nim prop-ter lí-gnum
 ムリ ヲイ カ ムス エ ッ チ エ エ ニ ム フ ロ ヲ テ ル リ ー ニ ム
 た た え ま つ る。 み よ、 そ は 木 に よ り て



vé-nit gáu-di-um in u-ni-vér-so mún-do.
 ヲ エ ニ ト ガ ッ テ イ ウ ム イ ン ウ ニ ヲ エ ル ソ ム ン ド
 来 たり た れ ば な り。 よ ろ こ び が 全 世 界 に。



Ps. Dé-us mi-se-re-á-tur nó-stri, et be-ne-dí-cat
 ○ デ ウ ス ミ セ レ ア ト ウ ル ノ ス ト リ エ ト ベ ネ テ イ カ ト
 詩、天 主 あ わ れ み た ま え わ れ ら を、 ま た 祝 し た ま え



no-bis, * il-lú-mi-net vul-tum su-um su-per nos
 ノ ビ ス ▲ イ ル ル ミ ネ ト ヴ ル ト ウ ム ス ウ ム ス ペ ル ノ ス
 わ れ ら を、 輝 か し た ま え お ん 身 の お ん 顔 を わ が 上 に。



et mi-se-re-á-tur nó-stri.
 エ ト ミ セ レ ア ト ウ ル ノ ス ト リ
 あ わ れ み た ま え わ れ ら を。

(元へもどり「カルチエム」を4行目の最後まで歌う)

カルクス・フィデリス Crux fidelis



Crux fi-dé-lis, ín-ter óm-nes Ar-bor ú-na
 ▲ カ ル ク ス フ ィ デ リ ス イ ン テ ル オ ム ネ ス ア ル ボ ル ウ ナ
 十 字 架 聖 なる (十 字 架) す べ て の う ち に て ひ と り

nó- bi- lis: Nú- la síl- va tá- lem pró- fert
 ノ ビ リス ヌルラ スイルヴァ タ レム プロ フェルト
 すぐれし木よ。 かかるものを出す 森はなし

Frón- de, fló- re, gér- mi- ne: * Dúl- ce li- gnum,
 フロン デ フロ レ ジェル ミ ネ ドウル チエ リ ニウム
 その葉 その花 その果(を出す森) 甘美なる 木

dúl- ces clá- vos, Dúl- ce pón- dus sú- sti- net.
 ドウル チエス クラ ヲオス ドウル チエ ポン ドウス ス スタイ ネット
 甘美なる 釘 甘美なる 荷 を 持 て り。

V. Pán- ge lin- gua, glo- ri- ó- si Láu- re- am cer-
 ○ パン ジェ リン グワ ヲロリオ ヲイ ラウ レ アム チエン
 たたえよ 舌 よ、 栄 ある 勝 利 の た

tá- mi- nis, Et sú- per crú- cis tro- phaé- o
 タ ミ ニス エト ス ペン クル チストロ フェオ
 たかいを、 十字架のみ旗を

Dic tri- úm- phum nó- bi- lem: Quá- li- ter Red-
 ディク トリ ウム フム ノ ビ レム クアリ テル レ
 歌え、と う と き 勝 利 を。 世 の

émp- tor ór- bis Im- mo- lá- tus vi- ce- rit.
 デムフ トル オル ビス イム モ ラ トウス ヲイ チエ リト
 救主が いけにえとなりて 勝ちしを。

▲ Crux fidélis.....gérmine: *

(元へもどり齊唱でクルクスを3行目の後半*じるしのところまで歌う)

(2節から9節までは省略した)



V. *Sem- pi- tér- na sit be- á- tae Tri- ni- tá- ti gló-*
 ○ セム ピ テル ナ スイ、 ペ ア テ トリ ニ タ テイ ヲロ
 と こ し え に あ れ 幸 な る 三 位 に 栄



ri- a: Æ- qua Pá- tri, Fi- li- ó- que; Par dé-
 リ ア エ ヲア パ トリ ヲイ リ オ ヲエ パン デ
 え。 同 じ く 父、 子 に



cus Pá- ra- cli- to: U- ni- us Tri- ní- que nó- men
 クス パ ラ ヲリ ト ウ ニ ウス トリ ニ ヲエ ノ メン
 なぐさめ主にも。 一 体 に し て 三 位 な る おん 者 の み 名 を



Láu- det u- ni- vér- si- tas. A- men.
 ラ ヲ デ ト ウ ニ ヲ エ ル ス イ タ ス ア メ ン
 たたえよ、 世 の も の な べ て は。

▲ * Dulce.....sústinet.

ドウルチエ スステイネト

(88ページの2行目の後半 * じるしの所から同じページの3行目の終りまで歌う)

以上で聖十字架崇敬が終わり、聖十字架を本祭壇にもどす。

次に聖体を仮祭壇から本祭壇へ奉遷して聖体拝領式を行なう。

聖 体 拝 領 式 De s. Communione

聖体が奉遷されてから短い祈願の後、信徒一同は司祭と共に主祷文をラテン語でと
 える。

Pá-ter no-ster, qui es in cae-lis:

パ テル ノ ステル クイ エス イン チエ リス

Sanc-ti-fi-cé-tur nó-men tu-um:

サンク テイ フィ チエ トウル ノ メン トウ ウム

Ad-vé-ni-at ré-gnum tú-um:

アド ヴエ ニ アト レ ニウム トウ ウム

Fí-at vo-lún-tas tú-a, síc-ut in cae-lo,

フィ アト ヴォルン タス トウア スイクト イン チエ ロ

et in tér-ra:

エト イン テル ラ

Pá-nem no-strum quo-ti-di-á-num da

パ ネム ノ ストルム クォ テイ テイ ア ヌム ダ

nó-bis hó-di-e:

ノ ビス ホ テイ エ

Et di-mit-te nó-bis dé-bi-ta nó-stra,

エト デイ ミト テ ノ ビス デ ビ タ ノ ストラ

síc-ut et nos di-mít-ti-mus de-bi-tó-ri-bus

スイクト エト ノス デイ ミト テイ ムス デ ビ ト リ プス

nó-stris:

ノ ストリス

Et ne nos in-dú-cas in ten-ta-ti-ó-nem;

エト ネ ノス イン ドウ カス イン テン タ ヲ イ オ ネム

sed lí-be-ra nos a ma-lo.

セド リ ベ ラ ノス ア マ ロ

A-men.

ア メン

天にましますわれ
 らの父よ、

願わくはみ名の尊
 まれんことを、

み国の来たらんこ
 とを、

み旨の天に行なわ
 るごとく地にも
 行なわれんこと
 を。

われらの日用の糧
 を今日われらに与
 えたまえ、

われらが人に赦す
 ごとく、

われらの罪を赦し
 たまえ、

われらを試みに引
 きたまわされ、

われらを悪より救
 いたまえ。

アーメン。

つづく種々の祈りに対して信徒は3回アーメンと歌でなく朗読の調子で答える。
 聖体拝領後三つの祈願に対し、それぞれ普通音符で、アーメンと答えて式が終わる。

復活聖夜祭

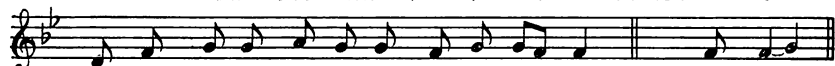
Vigilia Paschalis instaurata

行列中に

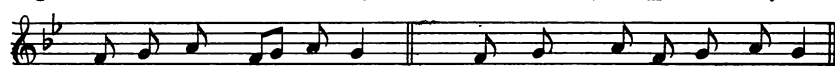


Lu- men Chri- sti. R. De- o grá- ti- as.
 ◎ ♪ メン ッリ スタイ ▲ デ オ ッラ ッイ アス
 キ リ ス ト の 光 天 主 に 感 謝 し 奉 る
 (3回歌いその度毎に音を高くする)

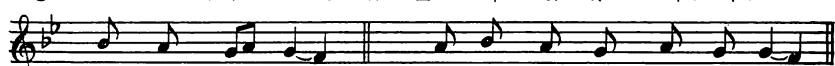
次にうるわしい復活の賛歌を助祭は歌うが、その中ほどで次の応答がある。



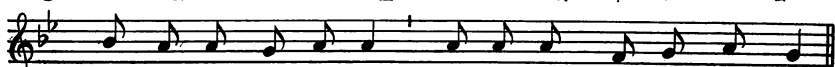
V. Per óm- ni- a saé- cu- la sae- cu- ló- rum. R. A- men.
 ◎ ♪ ペル オム ニア セ ク ラ セ ク ロ ルム ▲ ア メン



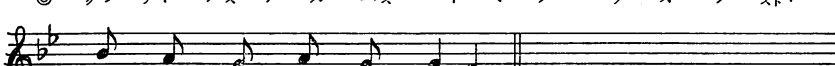
V. Dó- mi- nus vo- bís- cum. R. Et cum spí- ri- tu tu- o.
 ◎ ♪ ド ミ ヌス ヴ オ ビ ス クム ▲ エ ト クム スピ リ ト ウ ト ウ オ




V. Sur- sum cor- da. R. Ha- bé- mus ad Dó- mi- num.
 ◎ ♪ スル スム コル ダ ▲ ハ ベ ムス アド ミ ヌム



V. Grá- ti- as a- gá- mus Dó- mi- no De- o no- stro.
 ◎ ♪ ッラ ッイ アス ア ガ ムス ド ミ ノ デ オ ノ ス ト ロ



R. Dig- num et ju- stum est.
 ▲ ♪ タイ ニ ム エ ト ヌ ス ト ウム エ ス ト (つづく復活賛歌は次をもつて結ぶ)



Per óm- ni- a saé- cu- la sae- cu- ló- rum. R. A- men.
 ◎ ♪ ペル オム ニア セ ク ラ セ ク ロ ルム ▲ ア メン

次に四つの予言・祈願などが、読まれ、歌われるが、祈願の終りに答えのアーメンが普通音符で4回ある。つづいて諸聖人の連禱第一部にうつる。

諸聖人の連禱 (第一部)

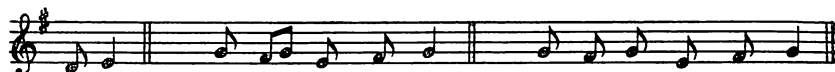
Litaniae Sanctorum

(ひざまずいて歌う)



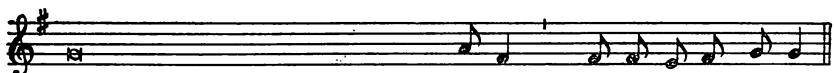
Ky-ri-e, e-lé-i-son. Chri-ste, e-lé-i-son. Ky-ri-e, e-lé-

○ キリエ エピイソソ ▲ クリステ エピイソソ ○ キリエ エピ



i-son. Chri-ste, au-di nos. Chri-ste, ex-áu-di nos.

イソソ ○ クリステ アウヂイ ノス ▲ クリステ エクサウヂイ ノス



Pa-ter de cœ-lis De-us, mi-se-ré-re no-bis.

○ パテル デ フェリス デウス ▲ ミセレレ ノビス

Fi-li Re-dém-ptor mun-di De-us, ”

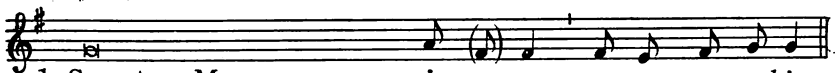
ファイロ レ デムプトル ムンヂイ デウス ”

Spi-ri-tus sanc-te De-us, ”

スピリトゥス サンクテ デウス ”

Sanc-ta Tri-ni-tas u-nus De-us, ”

サンクタ トリニタス ウヌス デウス ”



1. Sanc-ta Ma-ri-a, o-ra pro no-bis.

○ サンクタ マリア ▲ オラ プロ ノビス

2. Sanc-ta De-i Ge-ni-trix, ”

サンクタ デイ ジェニトリクス ”

3. Sanc-ta Vir-go vir-gi-num, ”

サンクタ ヴァイルゴ ヴァイルジヌム ”

4. Sanc-te Mi-chael, ”

サンクテ ミカエル ”

5. Sanc-te Ga-bri-el, ”

サンクテ ガブリエル ”

6. Sanc-te Ra-pha-el, ”

サンクテ ラファエル ”



7. Om-nes sanc-ti An-ge-li et Archan-ge-li, o-rá-te pro no-bis.

○ オム ネス サンクタイ アンジェリ[°] エトアル カンジェリ[°] ▲ オラ テ ヲロ ノビス
すべての 聖なる 天使 および 大天使

8. Om-nes sanc-ti be-a-tó-rum

オム ネス サンクタイ ベアトルム

Spi-rí-tu-um or-di-nes, o-rá-te...

スピリトウウム オルタイ ネス オラテ...

すべての 聖なる 永福の階級

9. Sanc-te Jo-án-nes Bap-ti-sta, ora ...

サンク テ ヨ アン ネス バプ タイ スタ オラ...

10. Sanc-te Jo-seph, ora ...

サンク テ ヨ セフ オラ...

11. Om-nes sanc-ti Pa-tri-ár-chæ et Pro-phe-tæ, o-rá-te...

オム ネス サンクタイ パトリアルケ エト ヲロ ヲエ テ
すべての 聖なる 太祖 および 預言者

12. Sanc-te Pe-tre, ora ...

サンク テ ペトレ オラ...

13. Sanc-te Pau-le, ora ...

サンク テ パウレ オラ...

14. Sanc-te An-dre-a, ora ...

サンク テ アンドレア オラ...

15. Sanc-te Jo-an-nes, ora ...

サンク テ ヨ アンネス オラ...

16. Om-nes sanc-ti A-pó-sto-li et E-van-ge-li-stæ, o-rá-te...

オム ネス サンクタイ アポストリ[°] エト エヴァンジェリ[°] ステ
すべての 聖なる 使徒 および 福音史家

17. Om-nes sanc-ti Di-scí-pu-li Do-mi-ni, o-rá-te...

オム ネス サンクタイ ディシプル[°] ドミニ
すべての 聖なる 主の弟子

18. Sanc-te Ste-pha-ne, ora ...

サンク テ ステファネ オラ...

19. Sanc-te Lau-ren-ti, ora ...

サンク テ ラウレンタイ オラ...

20. Sanc-te Vin-cen-ti, ora ...

サンク テ ヴィンチエンタイ オラ...

- | | | | |
|-------------|------------------------|----------------------------------|-----------|
| 21. Om-nes | sanc-ti | Mar-ty-res, | o-ráte... |
| オム ネス | サンクテイ | マルテイレス | オラテ... |
| すべての | 聖なる | 殉教者 | |
| 22. Sanc-te | Sil-ve-ster, | ora ... | |
| サンク テ | スイルヴ ^ウ エステル | オラ... | |
| 23. Sanc-te | Gre-go-ri, | ora ... | |
| サンク テ | グレゴリ | オラ... | |
| 24. Sanc-te | Au-gu-sti-ne, | ora ... | |
| サンク テ | アウグステイネ | オラ... | |
| 25. Om-nes | sanc-ti | Pon-tí-fi-ces et Con-fes-so-res, | o-ráte... |
| オム ネス | サンクテイ | ポンテイフィチエス エト コンフェスソレス | オラテ... |
| すべての | 聖なる | 司教 および 証聖者 | |
| 26. Om-nes | sanc-ti | Doc-to-res, | o-ráte... |
| オム ネス | サンクテイ | ドクトレス | オラテ... |
| すべての | 聖なる | 博士 | |
| 27. Sanc-te | An-to-ni, | ora ... | |
| サンク テ | アントニ | オラ... | |
| 28. Sanc-te | Be-ne-dic-te, | ora ... | |
| サンク テ | ベネディクテ | オラ... | |
| 29. Sanc-te | Do-mi-ni-ce, | ora ... | |
| サンク テ | ドミニチエ | オラ... | |
| 30. Sanc-te | Fran-ci-sce, | ora ... | |
| サンク テ | フランチシエ | オラ... | |
| 31. Om-nes | sanc-ti | Sa-cer-dó-tes et Le-vi-tæ, | o-ráte... |
| オム ネス | サンクテイ | サチエルドテス エト レヴィテ | オラテ... |
| すべての | 聖なる | 司祭 および 待祭 | |
| 32. Om-nes | sanc-ti | Mó-na-chi et E-re-mi-tæ, | o-ráte... |
| オム ネス | サンクテイ | モナヒエト エレミテ | オラテ... |
| すべての | 聖なる | 修士 および 隠修士 | |
| 33. Sanc-ta | Ma-rí-a | Mag-da-le-na, | ora ... |
| サンク タ | マリア | マグダレナ | オラ... |
| 34. Sanc-ta | Ag-nes, | ora ... | |
| サンク タ | アエス | オラ... | |
| 35. Sanc-ta | Cæ-ci-li-a, | ora ... | |
| サンク タ | チエチリア | オラ... | |
| 36. Sanc-ta | A-ga-tha, | ora ... | |
| サンク タ | アガタ | オラ... | |

37. Sanc-ta A-na-sta-si-a, ora ...
 サンク タ ア ナ ス^タ スイア オラ...

38. Om-nes sanc-tæ Vir-gi-nes et Vi-du-æ, o-rate...
 オム ネス サンク テ ヴィルジ ネス エト ヴィドゥ エ オラテ...
 すべての 聖なる 童 貞 および やもめ



39. Omnes sancti et sanctæ De-i, in-ter-cé-di-te pro no-bis.
 オム ネス サンクテイ エト サンク テ デイ ▲ イン テルチエテイ テ ヲロ ノ ビス
 すべてのの 天主の 聖人 および 聖女 とりつぎたまえ われらのため

ここで連禱を中止し、洗礼盤のある聖堂では司祭が洗礼用聖水の祝別式を行う。

V. *Dó-mi-nus vo-bis-cum.* R. *Et cum spí-ri-tu tú-o.*

◎ ド ミ スス ヴオ ビス クム ▲ エト クム スピ リトウ トウ オ

次の応答の音符は91ページにある。

Oremus..... Per om-ni-a sae-cu-la sae-cu-lo-rum. R. A-men.

◎ オレムス ペル オムニ ア セ ク ラ セ ク ロ ルム ▲ ア メン

V. *Dó-mi-nus vo-bis-cum.* R. *Et cum spí-ri-tu tú-o.*

◎ ド ミ スス ヴオ ビス クム ▲ エト クム スピ リトウ トウ オ

V. *Súr-sum cor-da.* R. *Ha-bé-mus ad Dó-mi-num.*

◎ スル スム コル ダ ▲ ハ ベ ムス アド ミ スム

V. *Grá-ti-as a-gá-mus Dó-mi-no Dé-o nó-stro.*

◎ ヴラ ヴィアス ア ガ ムス ド ミ ノ デオ ノ ストロ

R. *Dig-num et ju-stum est.*

▲ デイ ニ ム エト ユストウム エスト

次に歌でなく、朗読の調子で答えのアーメン4回あつたのち

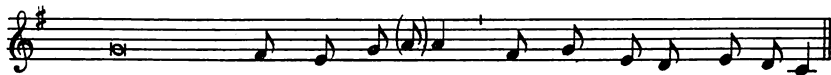
V. *Dó-mi-nus vo-bis-cum.* R. *Et cum spí-ri-tu tú-o.*

◎ ド ミ スス ヴオ ビス クム ▲ エト クム ヴピ リトウ トウ オ

つづく祈願の終りにアーメンと答え、洗礼盤に香がくゆらされて祝別が終わる。

次ぎにすべての聖堂で「洗礼約束の更新」が行なわれ、信徒一同へ聖水がふりかけられてから、諸聖人連禱の第二部を歌う。

諸聖人の連禱 (第二部)



40. Pro- pí- ti- us e- sto, par- ce no- bis, Dó- mi- ne.
 ッロ ピ ッイ ウス エ スト ▲ パルチエ ノビス ド ミネ
 あわれみを たれて 赦したまえ われらを 主よ
41. Pro- pí- ti- us e- sto, ex- áu- di nos, Dó- mi- ne.
 ッロ ピ ッイ ウス エ スト ▲ エクサウディノス ド ミネ
 あわれみを たれて ききたまえわれらの祈りを 主よ
42. Ab om- ni ma- lo, lí- be- ra nos, Dó- mi- ne.
 アッ オム ニ マ ヲ ▲ リ°ベラノス ド ミネ
 すべての 悪より すくいたまえわれらを 主よ
43. Ab om- ni pec- ca- to, líbera...
 アッ オム ニ ベッ カ ト リ°ベラ...
 すべての 罪より
44. A mor- te per- pe- tu- a, líbera...
 ア モル テ ペル ペトウア リ°ベラ...
 終わりなき死より
45. Per my- sté- ri- um sanc- tæ in- car- na- ti- ó- nis tu- æ, líbera...
 ペル ミステリウム サンクテインカルナタイオニストウエ リ°ベラ...
 聖なるご托身の玄義によりて
46. Per ad- vén- tum tu- um, líbera...
 ペル アドヴェントウム トウ ウム リ°ベラ...
 ご降生によりて
47. Per na- ti- vi- tá- tem tu- am, líbera...
 ペル ナイバイタテム トウアム リ°ベラ...
 ご誕生によりて
48. Per bap- tis- mum et sanc- tum je- jú- ni- um tu- um, líbera...
 ペル バプティスムム エトサンクトウム イエジュニウム トウ ウム リ°ベラ...
 主のご受洗と 聖なるご断食とによりて
49. Per cru- cem et pas- si- ó- nem tu- am, líbera...
 ペル クルチスムム エトパッシイオネム トウアム リ°ベラ...
 主の十字架とご受難とによりて

50. Per mor-tem et se-pul-tú-ram tu-am, líbera…
 ペル モル テム エト セ プル トウ ラム トウ アム リ°ペラ…
 ご死去と おん葬りとによりて
51. Per sanc-tam re-sur-rec-ti-ó-nem tu am, líbera…
 ペル サンク タム レ スル レクタイ オ ネム トウ アム リ°ペラ…
 聖なる ご復活によりて
52. Per ad-mi-rá-bi-lem a-scen-si-ó-nem tu-am, líbera…
 ペル アド ミ ラ ビレム アシエンスイ オ ネム トウ アム リ°ペラ…
 あがむべき ご昇天によりて
53. Per ad-vén-tum Spí-ri-tus sanc-ti Pa-ra-cli-ti, líbera…
 ペル アド ヴェントウム スピ リトウス サンクタイ パ ラ クリタイ リ°ペラ…
 慰めぬしなる 聖霊のご降臨によりて
54. In di-e ju-di-ci-i, líbera…
 インダイエ ユヂイチイ リ°ペラ…
 審判の日において



55. Pec-ca-to-res, te ro-gá-mus au-di nos.
 ペク カト レス ▲ テ ロ ガ ムス アウヂイ ノス
 ねがわくはわれら罪人なれども 主われらの祈を聞きたまえ。
56. Ut no-bis par-cas, te ro-gá-mus…
 ウト ノ ビス パル カス ▲ テ ロ ガ ムス…
 ねがわくはわれらを赦したまわんことを
57. Ut Ec-clé-si-am tu-am sanc-tam ré-ge-re et
 ウト エククレシイアム トウアム サンク タム レジエレ エト
 con-ser-vá-re dig-ne-ris, te ro-gá-mus…
 コンセルヴァレヂイ = エリス ▲ テ ロ ガ ムス…
 ねがわくは主の聖会を治め保ちたまわんことを
58. Ut Dom-num A-po-stó-li-cum et om-nes Ec-cle-si-
 ウト ドム ヌム アポストリクム エトオム ネス エククレシイ
 á-sti-cos ór-di-nes † in sanc-ta re-li-gi-ó-ne
 アステイコス オルヂイネス イン サンク タ レリジオネ
 con-ser-vá-re dig-ne-ris, te ro-gá-mus…
 コンセルヴァレヂイ = エリス ▲ テ ロ ガ ムス…
 ねがわくは教皇と聖会の各階級とを聖なる一致の中に永く保ちたまわんことを

59. Ut i-ni-mí-cos sanc-tæ Ec-clé-si-æ † hu-mi-li-á-re
 ウト イ ニ ミ コス サンクテ エクク^レスイエ ホウ ミ^レアレ
dig-ne- ris, te rogámus...
 デイ = **エ** リス ▲ テ ロ ガ ム ス...
 ねがわくは聖会の群敵を恥じ服せしめたまわんことを
60. Ut ré-gi-bus et prin-cí-pi-bus chri-sti-á-nis †
 ウト レ ジ プス エト プリンチピ^レプス クリスティアニス
 pa-cem et ve-ram con-cór-di-am do-ná-re
 パチエム エト ヴエラム コンコルデアム ドナレ
dig-ne-ris, te rogámus...
 デイ = **エ** リス ▲ テ ロ ガ ム ス...
 ねがわくは主を奉ずる帝王と諸侯とに太平を降し、皆同心一致ならしめたまわんことを
61. Ut nos-met-ip sos in tu-o sanc-to ser- ví- ti- o
 ウト ノス メトイフソスイントウオ サンクト セル ヴイ ヲ
 con-for-tá-re et con-ser-vá-re *dig-ne-ris,* te rogámus...
 コンフォルトレエトコンセルヴァレ デイ = **エ** リス ▲ テ ロ ガ ム ス...
 ねがわくはわれらを主の聖役の中に強め保ちたまわんことを
62. Ut óm-ni-bus be-ne-fac-tó-ri-bus no-stris † sem-
 ウト オム ニ プス ベネファクトリプス ノストリス セム
 pi-tér-na bo-na re-tri-bu-as, te rogámus...
 ピテルナ ボナ レトリブアス ▲ テ ロ ガ ム ス...
 ねがわくはわれらが一切の恩人に、無窮の幸をもつて報いたまわんことを
63. Ut frúc-tus ter-ræ † da-re et con-ser-vá-re
 ウト フルクトウス テルレ ダレ エト コンセルヴァレ
dig- ne-ris, te rogámus...
 デイ = **エ** リス ▲ テ ロ ガ ム ス...
 ねがわくは地の百穀を与え、かつこれを保ちたまわんことを
64. Ut óm-ni-bus fi-dé-li-bus de-fúnc-tis † ré-qui-em
 ウト オム ニ プス ファイデ^レプス デフンクタイス レクワイエム
 æ-tér-nam do-ná-re *dig-ne-ris,* te rogámus...
 エテルナム ドナレ デイ = **エ** リス ▲ テ ロ ガ ム ス...
 ねがわくは既に世を去りたる一切の信者に、終なき安息を与えたまわんことを
65. Ut nos ex-au-dí-re *dig-ne-ris,* te rogámus...
 ウト ノス エクサウダイレ デイ = **エ** リス ▲ テ ロ ガ ム ス...
 ねがわくはわれらの祈を聞き入れたまわんことを



1-3. *Ag-nus De-i, qui tol-lis pec-cá-ta mun-di,*

○ ア ユス デ イ ヲイ トルリス ペッカ タ ムツヂイ
 天主の小羊 世の罪をのそきたもう御者よ



1. *Par-ce no-bis, Dó-mi-ne.*

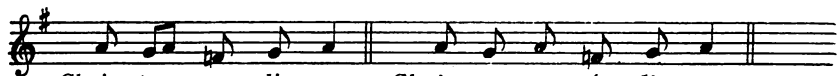
▲ パルチエ ノ ビス ド ミ ネ
 赦したまえわれらを 主 よ

2. *Ex-áu-di nos, Dó-mi-ne.*

▲ エク サツヂイ ノス ド ミ ネ
 ききたまえわれらの祈りを 主 よ

3. *Mi-se-ré-re no-bis.*

▲ ミ セ レ レ ノ ビス
 あわれみたまえ われらを



Chri-ste, au-di nos. Chri-ste, ex-áu-di nos.

○ クリステ アツヂイ ノス ▲ クリステ エク サツヂイ ノス
 キリストわれらの祈りをききたまえ

キリストわれらの祈りをきき入れたまえ

(連禱のあと、すぐ、おごそかな徹夜のミサが始められる)

復活聖夜ミサ

Missa solemnis vigiliae paschalis

入祭文がないので連禱のあと、すぐキリエを歌う、（これには本書にある復活ミサ通常文を用いる。）

栄光唱（グロリア）は鐘、鈴の音とともに、おごそかに歌われる。

Oratio

Oremus. Deus qui hanc sacratissimam noctem gloria dominicæ Resurrectionis illustras: conserva in nova familiæ tue progenie adoptionis spiritum, quem dedisti; ut corpore et mente renovati, puram tibi exhibeant servitutem. Per eundem Dominum nostrum Jesum Christum, Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

R. Amen.

集禱文

祈願せん。この至聖なる夜を、主のご復活の栄光もて照らしたまいたる天主よ、なんじの家族の新しき子らに、なんじの賜える孝愛の精神を保たしめたまえ。そはかれらが靈肉において新たとなり、なんじに清き奉仕を示さんがためなり。なんじとともに聖霊と一体をなし、世々にわたりて生きかつしろしめしたもう天主たるおん子、このわれらの主イエズス・キリストによりて。

▲ アーメン。

Lectio

Lectio Epistolæ beati Pauli Apóstoli ad Colossenses (3, 1-4)

Fratres; Si consurrexistis cum Christo, quæ sursum sunt quaerite, ubi Christus est in dextera Dei sedens; quæ sursum sunt sápite, non quæ super terram. Mórtui enim estis, et vita vestra est abscondita cum Christo in Deo. Cum Christus apparúerit, vita vestra: tunc et vos apparébitis cum ipso in glória.

R. (侍者のみ) Deo grátias.

書簡

使徒聖パウロがコロサイ人

に贈りし書簡 (コロサイ 3, 1-4)

兄弟たちよ、なんじらもしキリストとともに復活したるならば、上のこと、すなわち天主のおん右にキリストの坐しいたもう所のことを求めよ。地上のことならで、上のことをおもんばかれ。けだしなんじらは死したる者にして、その生命はキリストとともに天主において隠れたるなり。われらの生命にてましますキリストの現われたもう時には、なんじらもまたかれとともに光栄のうちに現わるべし。

(侍) 天主に感謝しまつる。

アレルヤ唱 Alleluja



Al- le- lú- ja.

▲ アレ ル ヤ

3 回復唱しその度
毎に音階をあげる

(訳詞は次のページにある)



V. Con- fi- té- mi- ni Dó- mi- no,

○ コン ヲイ テ ミ ニ ド ミ ノ



quó- ni- am bo- nus: quó- ni-

♪ オ ニ ア ム ボ ヌ ス ♪ オ ニ



am in saé- cu- lum mi- se- ri- cór- di- a

ア ム イン セ ク ル ム ミ セ リ コ ル テ イ ア



* e- jus.

▲ エ ヌ ス

詠 唱 Tractus



Lau- dá- te * Dó- mi- num, om- nes gen-

○ ラ ッ ダ テ ▲ ド ミ ヌ ム オ ム ネ ス ジ エ

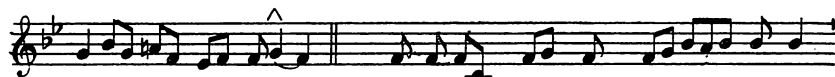


tes: et col- lau- dá- te e-

テ ス エ ト コ ル ラ ッ ダ テ エ



um, om- nes pó-
ウム オム ネス ポ



pu- li. V. Quó-ni-am con- fir- má- ta est
プリ° ○ ョオニアム コンファIRM マ タ エスト



su- per nos mi- se- ri- cór- di- a
ス ペル ノス ミセ リ コル ディ ア



e- jus: et vé- ri- tas Dó-
エ ユス エト ヴエ リ タス ド



mi- ni ma- net * in æ-tér-
ミニ マ ネット ▲イン エテル



num.

ヌム

アレルヤ唱訳詞

アレルヤ、アレルヤ、アレルヤ、主を賛美せよ、けだし主は善にてましまし、そのあわれみは永遠に絶ゆることなし。

詠唱訳詞

すべての異邦人、主を賛美せよ。すべての民よ、主を賛美せよ。けだし主のあわれみはわれらの上に固められ、主のまことは永遠にとどまればなり。

Evangelium

*Sequētia sancti Evangelii secundum
Matthaeum (28, 1-7)*

Vespere autem sabbati, quae lucēscit in prima sabbati, venit Maria Magdalēne, et altera Maria vidēre sepulcrum. Et ecce terrēmōtus factus est magnus. Angelus enim Dōmini descendit de coelo: et accēdens revōlvit lapidem, et sedēbat super eum: erat autem aspēctus ejus sicut fulgur; et vestimētum ejus sicut nix. Præ timōre autem ejus extērriti sunt custōdes, et facti sunt velut mōrtui. Respōdens autem Angelus dixit muliēribus: Nolite timēre vos: scio enim, quod Jesum, qui crucifixus est, quaēritis: non est hic: surrēxit enim, sicut dixit. Venite et vidēte locum, ubi pōsitus erat Dōminus. Et cito eūtes, dicite discipulis ejus, quia surrēxit; et ecce praecēdit vos in Galilaeam: ibi eum vidēbitis. Ecce praedixi vobis.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

Secreta

Sūscipe, quaesumus, Dōmine, preces populi tui, cum oblatiōnibus hostiārum: ut paschālibus initiāta mystēriis, ad aeternitātis nobis medēlam, te operānte, proficiant. Per Dōminum nostrum Jesum Christum Fīlium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus.

Praefatio

Vere dignum et justum est, aequum et salutāre: Te quidem, Dōmine, omni tempore, sed in hac potissimum nocte glo-

福音

十 マテオ聖福音の続唱

(マテオ 28, 1-7)

さて安息日の終り、すなわち一週の始めの夜明けに、マリア・マグダレナと他のマリアと、墓を見んとて至りしに、折しも大地震あり、すなわち主の使天よりくだり、近づきて石をまろばしのけ、さてその上に坐せしが、その形はいなずまのごとく、その衣服は雪のごとし。番兵ら恐れおののき死人のごとくなれり。天使婦人らに答えていいけるは、なんじら恐ることなかれ、けだしわれなんじらが十字架に付けられたまいしイエズスをたずぬるを知れり。かれはここにいまさず、すなわちのたまひしごとく復活したまえり。来たりて主のおかれたまいし所を見、かつとく行きて弟子たちにその復活したまいしことを告げよ。かれはなんじらに先だちて、すでにガリレアに行きたもう。なんじらかほこにてこれを見るべしと言え。われあらかじめこれをなんじらに告げたるぞ、と。

(侍) キリスト、なんじにたたえあれ。

(クレドと奉献文はない)

密唱

主よ、願わくはご復活の玄義によりて始まりたるものが、なんじのご協力によりてわれらに永遠の救いの力となるよう、このささげ物とともになんじの民の祈りを嘉納したまわんことを。なんじとともに聖霊と一体をなし、生きかつしろしめしたもう天主たるおん子、われらの主キリストによりて。

序唱

げにふさわしくして正しく、当然にして益ある事なるかな、われらの過越しの小羊たるキリストがいけにえとなりたまえるに

riósius prædicáre, cum Pascha nostrum immolátus est Christus. Ipse enim verus est Agnus, qui ábstulit peccáta mundi. Qui mortem nostram moriéndó destrúxit, et vitam resurgéndo reparávit. Et ideo cum Angelis et Archángelis, cum Thronis et Dominatió nibus, cumque omni miltia cœlestis exércitus, hymnum glóriæ tuæ cánimus, sine fine dicéntes:

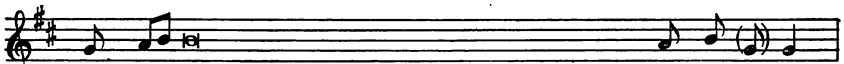
より、いずれのときにも、とりわけこの夜に、大いに喜び叫びてなんじを賛美し奉るは。すなわちかれは世の罪を除きたもうまことの小羊にてましまし、ご死去によりてわれらの死を滅ぼし、ご復活によりて再び生命をもたらしたまえるなり。さればわれら、天使と大天使、座天使と主天使、またすべての天軍とともに、なんじのみ栄えを歌いて、終りなく叫ばん。

神羊唱も、聖体拝領唱もないが、聖体拝領後に、次の二つの交唱を歌う。

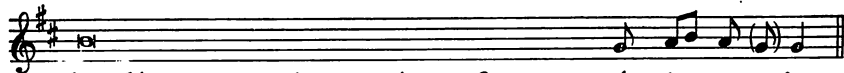
アレルヤ Alleluja 交唱



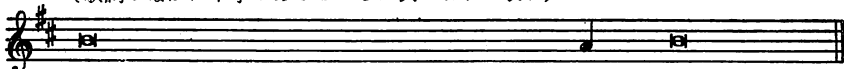
Al- le- lú- ja, * al- le- lú- ja, al- le- lú- ja.
 ○ アレ ル ヤ ▲ アレ ル ヤ アレ ル ヤ



1. Lau- dá- te Dó- mi- num in sanc- tu- á- ri- o e- jus *
 ○ ラッ ダ テ ド ミ ヌ ム イン サンクトウ ア リ オ エ ユス
 ほめよ 主 を その聖所にて。
 (2. laudáte eum.)



lau- dá- te e- um in au- gú- sto fir- ma- mén- to e- jus.
 ラッ ダ テ エ ウ ム イン アウグスト ツイル マ メン ト エ ユス
 ほめよ かれを そのおごそかなる 大空にて
 (歌詞のなかに十字のあるところは次のように歌う)



(5. Lau- dá- te e- um cym- ba- lis so- nó- ris, † laudáte.)

2. Lau- dá- te e- um prop- ter grán- di- a ó- pe- ra e- jus, * lau-
 ▲ ラッ ダ テ エ ウ ム プロッテル グランディア オペラ エ ユス ラッ
 ほめよ かれを そのみわざの 大いなるによりて ほめ

dá- te e- um prop- ter sum- mam ma- je- stá- tem e- jus.
 ダ テ エ ウ ム プロッテル ス マ マ マイエスタテム エ ユス
 よかれを その大いなる みいつによりて

3. Lau-dá-te e-um clan-gó-re tu-bae, * lau-dá-te e-um

○ ラッダテエウム クラン・ゴレ トウベ ラッダテエウム
ほめよ かれを ラツバの音もて。 ほめよ かれを

psal-té-ri-o et ci-tha-ra.

ッサレ テリオ エト チ タ ラ
琴 と 小琴もて

4. Lau-dá-te e-um tym-pa no et cho-ro, * lau-dá-te e-um

▲ ラッダテエウム タイムパノ エト コロ ラッダテエウム
ほめよ かれを つづみ と 舞もて ほめよ かれを

chor-dis et or-ga-no.

コルティス エト オルガノ
弦 と 管もて

5. Lau-dá-te e-um cym-ba-lis so-nó-ris, † lau-dá-te cym-ba-lis

○ ラッダテエウム チムバリスソノリス ラッダテチムバリス
ほめよ かれを 「にようはち」の音よきをもて ほめよ 「にようはち」の

cre-pi-tan-ti-bus, * om-ne quod spirat, lau-det Do-mi-num.

クレピタンテイブス オムネクオドスピラト ラッデトドミニヌム
なりひびきもて なべていきあるもの ほめよ 主を

6. Gló-ri-a Pa-tri et Fi-li-o * et Spi-rí-tu-i Sanc-to.

▲ グロリア パトリエト フィリオ エトスピリトゥイ サンクト

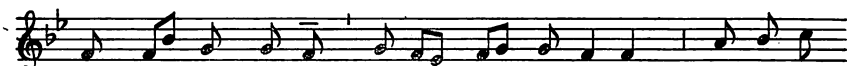
7. Si-cut e-rat in prin-cí-pi-o et nunc et sem-per * et in

○ スイクト エラトインプリンチピオエト ヌンク エト セムペル エトイン
saé-cu-la sae-cu-ló-rum. A-men.

セクテセクポルム アメン

(最初にもどりアレルヤを歌い、次に司祭がエト・マアルテ・マネの初めを歌う)

交唱 ザカリア賛歌 Benedictus



Et val-de ma-ne * u-na sab-ba-tó-rum, vé-ni-unt

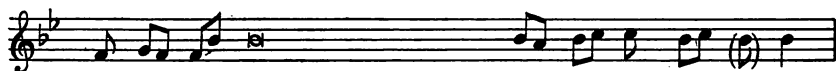
◎ エト ヴァルデ マネ ▲ ウナ サバトルム ヴェニウント
朝 は や く 一 週 の は じ め 至 れ り



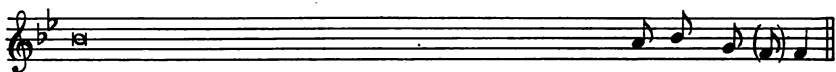
ad mo-nu-mén-tum, or-to jam so-le, al-le-lú-ja.

アドモヌメントウム オルトヤム ソレ アレリヤ
墓 に、 日すでに昇れるころ

賛歌



1. Be-ne-díc-tus Dó-mi-nus De-us Ie-ra-el *
 ○ ベネディクトゥス ド ミ ヌス テ ウス イス ラ エル
 2. Et e-ré-xit cor-nu sa-lú-tis no-bis: *
 ▲ エトエ レクスイト コルヌ サ ルテイス ノ ビス



- qui-a vi-si-tá-vit, et red-é-mit pó-pu-lum su-um.
 クイア ヴィスイタヴィト エト レデミト ポ プルム ス ウム
 in do-mo Da-vid ser-vi su-i.
 インド モ ダヴィド セルヴィ ス イ

(訳詞は葬式の埋葬式中のザカリヤ賛歌にある。)

3. Si-cut lo-cú-tus est per os sanc-to-rum: * qui o-lim
 ○ スイクト ロクトゥス エスト ペル オス サンクト ルム クイ オリム
 fu-é-runt, pro-phe-tá-rum su-o-rum.
 フェルント プロ ファタルム ス オ ルム
4. Ut li-be-rá-ret nos ab in-i-mí-cis no-stris: * et e ma-nu
 ▲ ウトリ° ベラレト ノスア° イニミチス ノストリス エトエ マヌ
 óm-ni-um qui o-de-runt nos.
 オムニ ウム クイ オデルント ノス
5. Ut fá-ce-ret mi-se-ri-cór-di-am cum pa-tri-bus no-stris: *
 ○ ウト° ファチエレト ミセリコルディアム クム パトリブス ノストリス
 et re-cor-da-ré-tur fœ-de-ris su-i sanc-ti.
 エト レコルダレトゥル ファデリス スイ サンクティ
6. Jus-ju-rán-di quod ju-rá-vit Ab-ra-hae, pa-tri no-stro: *
 ▲ ユスユランダイ° クオ° ユラヴィト アブラヘ パトリ ノストロ
 da-tú-rum se no-bis,
 ダトゥルム セ ノビス
7. Ut si-ne ti-mó-re, e ma-nu in-i-mí-có-rum no-stró-
 ○ ウト スイネ° タイモレ エ マヌ イニミコルム ノストロ
 rum li-be-ra-ti * ser-vi-á-mus il-li.
 ルム リベライ° セルヴィアムス イリ°

8. In sanc-ti-tá-te et ju-stí-ti-a co-ram i-pso: * óm-ni-bus

▲ イン サンクタイタテ エト ユステイッイア コラム イッソ オムニブス
di-é-bus no-stris.
ダイ エブス ノストリス

9. Et tu, pu-er, pro-phé-ta Al-tis-si-mi vo-ca-be-ri-s: * præ-i-

○ エト トウ プエル ヲロ ヲエタ アルタイスシイミッオカベリス ヲレイ
bis e-nim an-te fá-ci-em Dó-mi-ni ad pa-rán-das vi-as e-jus.
ビスエニム アンテッアチエム ドミニニアッパランダスウイアス エユス

10. Ad dan-dam pó-pu-lo e-jus sci-én-ti-am sa-lu-tis: *

▲ アッ ダン ダム ポプロ エユス シエンタイアム サルタイス
in re-mis-si-ó-ne pec-ca-tó-rum e-o-rum.
インレ ミスシイオネ ペッカトルム エオルム

11. Per ví-sce-ra mi-se-ri-cór-di-ae De-i nos-tri * qua vi-

○ ペル ヲイシエラ ミセリコルタイエ ダイ ノストリ クアウイ
si-tá-vit nos ó-ri-ens ex al-to.
スイタウイトノス オリエンス エクス アルト

12. Ut il-lú-mi-net eos, qui in té-ne-bris et in um-bra mor-tis

▲ ウトイルル ミネト エオスクイイン テネブルス エトインウム ヲラ モルタイス
se-dent: * ut dí-ri-gat pe-des no-stros in vi-am pa-cis.
セデント ウト ヲイリガト ペデス ノストロス インウイアム パチス

13. Gló-ri-a Pa-tri et Fi-li-o * et Spi-rí-tu-i Sanc-to.

○ ヲゴリア パトリ エト ヲイリオ エトスピリトゥイ サンクト

14. Si-cut e-rat in prin-cí-pi-o et nunc et sem-per * et

▲ スイクト エラト イン プリンチピオ エト ヌンク エト セム ペル エト
in saé-cu-la sæ-cu-lo-rum. A-men.
インセクラヲ セクロルム アメン

(最初にもどりエト・ウアルデ・マネを斉唱する)

Postcommunio

Oremus. Spiritum nobis, Domine, tuæ caritatis infunde: ut, quos sacramentis paschalibus satiasti, tua facias pietate concordēs. Per Dominum nostrum Jesum Christum, Filium tuum; Qui tecum vivit et regnat in unitate ejusdem Spritus sancti, Deus, per omnia sæcula sæculorum. R. Amen.

聖体拜領後の文

祈願せん。主よ、なんじの愛の霊をわれらに注ぎたまえ。しかしてなんじがご復活の秘蹟もてわれらを飽かしめたまえるごとく、おん慈しみによりてわれらを一ならしめたまえ。なんじとともにこの聖霊と一体をなし、世々にわたりて生きかつしめしたもう天主なるおん子、われらの主イエズス・キリストによりて。(侍)アーメン。

復活祭

DOMINICA RESURRECTIONIS

入 祭 文 Introitus



 Re- sur- ré- xi, * et ad- huc te- cum sum,

 レ スル レクスイ ▲ エト アド ホウク テクム スム

 われよみがえりて なおなんじと共にいるなり



 al- le- lú- ja: po- su- í- sti su-

 アル レ ル ヤ ポ ス イ スイ ス

 主を賛美せよ なんじはわが上に置き



 per me má- num tú- am, al- le- lú-

 ペル メ マ ヌム トウ アム アル レ ル

 たまえり み手 を 主を賛美せよ



 ja: mi- rá- bi- lis fác- ta est

 ヤ ミ ラ ビ リョウアク タ エスト

 いと奇しき かな



 sci- én- ti- a tú- a, al- le- lú- ja,

 シ エン イ アトウ ア アル レ ル ヤ

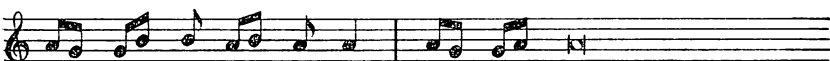
 なんじの知識は 主を賛美せよ



 al- le- lú- ja. Ps. Dó- mi- ne, pro- bá- sti me,

 アル レ ル ヤ ○ ド ミ ネ ヲバステイメ

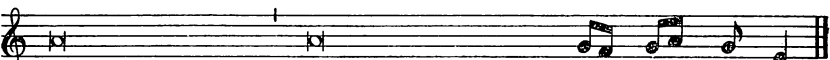
 主を賛美せよ 詩. 主よ主はわれを探り



et co-gno-vi-sti me: * tu co-gno-vi-sti ses-si-

エト コ ヌヨ ッイ ステイ メ ▲ トウ コ ヌヨ ッイ ステイ セス イ

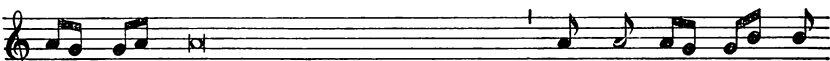
また 知りたまえり われを 主は 知りたまえり わが坐



o-nem me-am, et re-sur-rec-ti-o-nem me-am.

オ ネム メ アム エト レ スル レ ッイ オ ネム メ アム

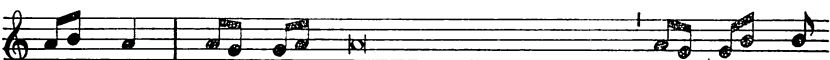
ること また わが 立つ ことも。



Gló-ri-a Pá-tri, et Fí-li-o, et Spi-ri-tu-i

○ ッロ リ ア パトリ エト ッイ リオ エト スピリ トウ イ

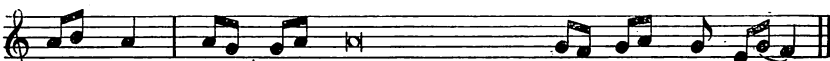
光 栄 は 父 と 子 また 聖 霊 と に あ れ



sanc-to: * Sic-ut ó-rat in prin-cí-pi-o, et nunc, et

サンツ ト ▲ スイ クト エラトイン プリンチピオ エト ヌンク エト

始めにありしごとく 今も



sem-per, et in saé-cu-la sæ-cu-ló-rum. A-men.

セム ペル エト イン セクワ セクポ ルム アメン

いつも 世々に至るまで しかあれかし

Oratio

集 禱 文

Deus, qui hodierna die per Unigenitum tuum æternitatis nobis aditum devicta morte reserasti: vota nostra, que præveniēdo aspiras, etiam adjuvando prosequere. Per eundem Dominum nostrum Jesum Christum filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

R. Amen.

天主よ、主はおん独子の死に対して獲たまいし勝利によりてわれらに今日永遠の門を開きたまえり、ねがわくは聖寵をもつて起さしめたもうわれらの祈をばまたおん冥助を垂れて成就せしめたまわん事を、主と聖霊と共に世々生きかつしろしめたもう天主、このおん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

▲ アーメン。

Epistola

書簡

Lectio Epistolae beati

使徒聖パウロ、コリント人に

Pauli Apostoli ad Corinthios

贈りし書簡の朗読

(1. Cor. 5, 7-8)

(コリント前 5, 7-8)

Fratres: Expurgate vetus fermentum, ut sitis nova conspersio, sicut estis azymi. Etenim Pascha nostrum immolatus est Christus. Itaque epulemur, non in fermento veteri, neque in fermento malitiæ et nequitiae: sed in azymis sinceritatis et veritatis.

兄弟たちよ、なんじらはすでにたねなきパンとなりしごとく、旧きたねを除きて新しきパンたるべし。そはわれらが過越の犠牲たるキリストは屠られたまいたればなり。ゆえにわれらは旧きパンだね、及び悪事と不義とのパンだねを用いずして、純粹と真実とのたねなきパンを用いて祝わさるべからず。▲ 天主に感謝し奉る。

R. (侍者のみ) Deo gratias.

昇階唱 Graduale

Haec di- es, * quam fé-
 ヘッ タイ エス ▲ ヅアム ヲエ

cit Dó- mi- nus:
 チト ド ミ ヌス

ex-sul- té- mus,
 エクスルテ ムス

et læ- té- mur in é- a.
 エト レテ ムル イン エ ア

V. Con- fi-
 ○ コンファイ

té- mē- ni Dó- mi- no,
 テ ミ ニ ド ミ ノ

quó- ni- am bó-
 ョオ ニ ア ム ボ

nus: quó- ni- am in saé-
 ヌヌ ョオ ニ ア ム イ ヌ セ

cu- lum mi- se- ri-
 ク ル ム ミ セ リ

cór- di- a * é- jus.
 コル タイ ア エ ヌス

アレルヤ唱 Alleluja

Al- le- lú- ja * ij.
 ア レ ル ヤ (二回)

(訳詞は 112 ページにある)

Pá-scha nó- strum im-mo-
 パ スカ ノ ストル ム イ ム モ

lá-
 テ



tus est
トウス エスト



* Chri- stus.

▲ ヅリ ストウス

(アレルヤを歌わないで、すぐ続唱に移る)

昇階唱訳詞

この日こそ主の造りたまえる日なれ。われらこの日において楽しみ、喜び踊らん。V. なんじら主を賛美せよ、けだし主は善にましまし、その哀れみは絶ゆることなし。

賛唱訳詞

アレルヤ、アレルヤ。われらの過越の犠牲たるキリストは屠られたり。

続唱 Sequentia



1. Vic-ti-mæ pa-schâ-li lau-des ïm-mo-lent Chri-sti-â-ni.

ヴィクタイ メ パスカリョ ラッデス イム モ レント ヅリ ステイ アニ
獣げものなる過ぎ越しの賛美を いざ 献げん 信徒たちよ



2. A-gnus red-ê-mit ó-ves: Chri-stus ïn-no-cens Pá-tri

ア ヌス レ デ ミト オ ヅエス ヅリ ストウス イン ノ ヂ エンス パトリ
小羊は救うなり 羊を。 無罪なるキリストは 父と



re-con-ci-li-â-vit pec-ca-tó-res. 3. Mors et vi-ta

レ コンチ リョ ア ヅイト ペカト レス モルス エト ヅイ タ
和解せしめたり 罪人を 死と生と



du-él-lo con-fli-xé-re mi-rán-do: dux vi-tæ mór-tu-

ドゥ エルロ コッリョ ヅセ レ ミ ランド ドウクス ヅイ テ モルトウ
は 奇しき戦いをたたかいて、 いのちの君 死して



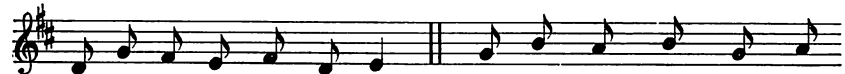
us, re-gnat vi-vus. 4. Dic nó-bis, Ma-rí-a, quid vi-dí-
 ウス レニヤト ヲイ ヴス デイク ノ ビス マリア クイド ヲイ デイ
 よみがえりてしろしめしたもう 語れわれらに マリアよ、 何を見しか



sti in ví-a? 5. Se-púl-crum Chrí-sti vi-vén-tis, et gló-
 ステイ イン ヲイ ア セ プル クルム クリ ステイ ヲイ ヲエン テイス エト クロ
 をみちにて われは生けるキリストの墓 またかれ



ri-am vi-di re-sur-gén-tis: 6. An-gé-li-cos té-stes,
 リ アム ヲイ デイ レ スル シエン テイス アン ジ エ リ コス テ ステス
 の栄光を見たり、よみがえりし(栄光を) 天の使たちと 証拠なる



su-dá-ri-um, et vé-stes. 7. Sur-ré-xit Chri-stus, spes
 ス ダ リ ウム エト ヲ エ ステス スル レ クス イト クリ スト ウス スペス
 骸衣 と布を よみがえれり わが希望なるキリスト



mé-a: præ-cé-det sú-os in Ga-li-laé-am. 8. Sci-mus
 メ ア プレ テ エ デト ス オス イン ガ リ ヲ レ アム シ ムス
 かれ先立ち行かん弟子たちに、 ガリレアに われら知る



Chri-stum sur-re-xís-se a mór-tu-is ve-re: tu nó-bis,
 クリ スト ウム スル レ クス イス セ ア モルト ウ イ ス ヲ エ レ ト ウ ノ ビス
 キリスト よみがえりしを 死者のうちより、 げに。 御身われらを



víc-tor Rex, mi-se-ré-re. A-men. Al-le-lú-ja.
 ヲイ ク ト ル レ クス ミ セ レ レ ア メン ア レ レ ヤ
 勝利者 王よ あわれみたまえ しかあれかし 主を賛美せよ

Evangelium

Sequentia sancti Evangelii

secundum Marcum (Marc. 16. 1-7)

In illo tempore: Maria Magdalene, et Maria Jacobi, et Salome emerunt aromata, ut venientes ungerent Jesum. Et valde mane una sabbatorum, veniunt ad monumentum, orto jam sole. Et dicebant ad invicem: Quis revolvat nobis lapidem ab ostio monumenti? Et respicientes, viderunt revolutum lapidem; erat quippe magnus valde. Et introeuntes in monumentum, viderunt juvenem sedentem in dextris, coopertum stola candida; et obstupuerunt. Qui dicit illis: Nolite expavescere: Jesum quaeritis Nazarenum, crucifixum: surrexit, non est hic: ecce locus, ubi posuerunt eum. Sed ite, dicite discipulis ejus et Petro, quia praecedit vos in Galilaeam: ibi eum videbitis, sicut dixit vobis.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

福音

マルコ聖福音の続唱

(マルコ 16, 1-7)

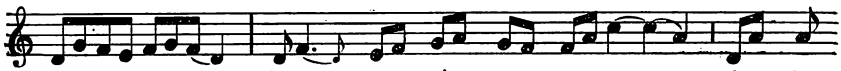
その時、マグダレナ・マリアとヤコボの母マリアとサロメと往きて、イエズスに塗らんとて香料を買い、一週の始めの日に、朝早く出でて、日すでに昇れる頃墓に至り、たれかわれらのために墓の入口より石を転ばしのくべき、と互に云い居りしが、目をあげて見れば、石はすでに取除きてあり、そははなはだ大なるものなりき。かくて、墓に入るに及びて右の方に白き衣服を着たる青年の坐せるを見て、驚き怖れしかば、かれ婦人たちに云いけるは、怖るる事勿れ。なんじらは十字架に付けられたまいしナザレトのイエズスを尋ぬれども、かれは復活したまいて、ここにはましまさず。その置かれし処を見よ。ただし往きて、その弟子たちとベトロとに至り、かれはなんじらに先だちてガレリアに行きたまい、かつてなんじらに曰いしごとく、なんじらかしこにてかれを見ん、と告げよ、と。

▲ キリストに賛美あらんことを。

奉 献 文 Offertorium



Ter- ra * tré- mu- it, et qui- é-
 テル ラ ▲ トレ ム イト エト ッイ エ
 地 は 震 いて 声 を ひ そ め り



vit, dum re- súr- ge- ret in ju-
 ッイト ドウム レ スル ッエ レト イン ユ
 そ は 審 判 に 立 ち

dí- ci- o Dé- us, al-
 イ チ オ デ ウ ス ア ル
 たまえるときなればなり 天 主 は 主を賛美せよ
 le- lú- ja.
 レ ル ヤ

Secreta

密唱

Suscipe, quæsumus Domine, preces populi tui cum oblationibus hostiarum: ut paschalibus initiata mysteriis, ad æternitatis nobis medelam, te operante, proficiant. Per Dominum nostrum Jesum Christum, filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus.

主よ、ねがわくは過越の玄義によりて祝せられたる供物が主の聖業によりて来世のためにわれらの霊薬となるよう、ここに捧ぐる供え物とともに主の民の祈禱を受け納めたまわんことを、主と聖霊とともに生きかつしろしめたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

Praefatio

序唱

Vere dignum et justum est, æquum et salutare: Te quidem, Domine, omni tempore: sed in hac potissimum die gloriosius prædicare, cum Pascha nostrum immolatus est Christus. Ipse enim verus est Agnus, qui abstulit peccata mundi. Qui mortem nostram moriendo destruxit, et vitam resurgendo reparavit. Et ideo cum Angelis et Archangelis, cum Thronis et Dominationibus, cumque omni militia cœlestis exercitus, hymnum gloriæ tue canimus, sine fine dicentes:

げに、善くかつ正しく、益ありてまた福なることなるかな、われらの過越なるキリストが屠られたまえるにより、主をいずれのときにも、わけてもこの日にいたく賛美すべきかな。かれは世の罪を贖える真の小羊なり。かれは死をもてわれらの死を減ぼし、よみがえりをもつてわれらの生命を回復せしめたまえり。されば天使と大天使玉座と主権、またすべての天軍とともに主のみ栄えの賛美をきわまりなく歌わん。

聖体拝領唱 Communio



*Pá-scha nó-strum * im-mo-lá-tus est*
 パスカ ノストルム ▲イム モラ トウス エスト
 われらが過ぎ越しのいけにえたる キリストは屠られたり




Chri-stus, al-le-lú- ja: í-ta- que
 クリストウス アレール ヤ イタ ヌエ
 主を賛美せよ ゆえに



e-pu- lé- mur in á- zy- mis sin- ce- ri-
 エプ レ ムル インア ズイ ミス シンチエリ
 われら祝わん たねなきパンを用い まごころ



tá-tis et ve- ri- tá- tis, al-le- lú- ja,
 タテイス エトツエ リ タ テイス アレール ヤ
 と 真 実 も て。 主を賛美せよ



al- le- lú- ja, al- le- lú- ja.
 アレール ヤ アレール ヤ

Postcommunio

聖体拝領後の文

Spiritum nobis, Domine, tuæ caritatis infunde: ut, quos sacramentis paschalibus satiasti, tua facias pietate concordēs. Per Dominum nostrum Jesum Christum, filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate ejusdem Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

R. Amen.

主よ、主の愛の霊をわれらに注ぎたまえねがわくはご慈悲を垂れて、主が過ぎ越しの玄義もて養いたまいし人々の心を同じうせしめたまわんことを、主とこの聖霊とともに世々生きかつしろしめしたもう天主おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。▲アーメン。

昇 天 祭

IN ASCENSIONE DOMINI

入 祭 文 Introitus

Vi-ri Ga-li-laé- i, *quid ad-mi-rá- mi- ni
 ヲイ リガ リレ イ ▲ ヲイ フ ア フ ミ ラ ミ ニ
 ガ リ レ ア 人 よ なんぞ なんじら 感嘆し

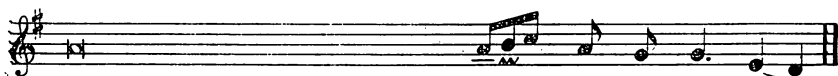
a-spi-ci-en-tes in cae-lum? al-le-lú-ja:
 アスピチ エンテスインテエ ルム アレレ ル ヤ
 仰ぐや 天を。 主を賛美せよ

quem-ád-mo-dum vi-dí-stis e-um a-scen-dén-tem
 クエ マド モドム ヲイ テイ ステイス エ ウム アシエン デンテム
 なんじらが見しごとく (すなわち) かれは天に

in cae-lum, i-ta vé-ni-et, al-le-lú-
 インテエ ルム イタ ヲエ ニ エト アレレ ル
 昇りたまひし(ごとく) また 来たりたまわん 主を賛美せよ

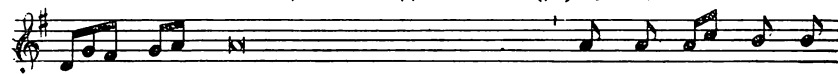
ja, al-le-lú-ja, al-le-lú-ja.
 ヤ アレレ ル ヤ アレレ ル ヤ
 主を賛美せよ 主を賛美せよ

Ps. Om-nes gén-tes, pláu-di-te má-ni-bus: * ju-bi-
 オム ネス シエンテス フラッ テイ テ マニ プス ▲ ユ ビ
 詩. すべての 民らよ 打て 手 を 呼ばわ



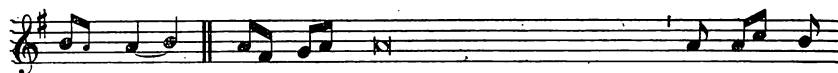
lá-te Dé-o in vo-ce ex-sul-ta-ti-ó-nis.

ラ テ デオ イン ヲオ チエ エクス スル タ ヲイ オ ニス
れ や 主 に 声 喜 び の (声) あ げ て



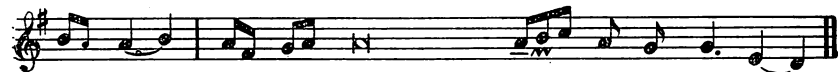
Gló-ri-a Pá-tri, et Fí-li-o, et Spi-ri-tu-i

○ ヲロ 光 栄 は ア パ トリ エ ト ヲイ リ オ エ ト スピ リ ト ウ イ
光 栄 は 父 と 子 また 聖 霊 と に あ れ



sanc-to. * Sic-ut é-rat in prin-cí-pi-o, et nunc, et

サンクト ▲ スイ クト エ ラ ト イン プ リ ン チ ピ オ エ ト スンク エ ト
始 め に あ り し こ と く 今 も



sem-per, et in saé-cu-la saé-cu-ló-rum. A-men.

セム ペル エト イン セ ク ラ セ ク ポ ルム ア メン
い つ も 世 々 に し か あ れ か し

Oratio

集 禱 文

Concede, quæsumus. omnipotens Deus: ut, qui hodierna die Unigenitum tuum Redemptorem nostrum ad caelos ascendisse credimus; ipsi quoque mente in caelestibus habitemus. Per eundem Dominum nostrum Jesum Christum, Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia saecula saeculorum.

R. Amen.

全能の天主、ねがわくはわれらの救主なるおんひとり子が今日天に昇りたまひしを信ずるわれらをして、心において主とともに天国に住むことを得しめたまわんことを主と聖霊とともに世々生きかつしろしめしたもう天主、このおん子、われらの主イエズス・キリストによりて、

▲ アーメン。

Epistola

書 簡

Lectio Actuum Apostolorum

使徒行録の朗讀 (徒 1, 1-11)

(Act. 1, 1-11)

Primum quidem sermonem feci de omnibus, o Theophile, quæ cœpit Jesus facere et docere, usque in diem quæ præcipiens Apostolis, per Spiritum sanctum quos elegit, assumptus est. Quibus et præbuit seipsum vivum post passionem

テオフィロよ、われ前に第一の書を作りてすべてイエズスの初めより行いかつ教えたまひしことを述べ、その選みたまいし使徒たちに聖霊によりて命じ置き、さて天に上げられたまいし昇天祭日まで及びたりし

suam in multis argumentis, per dies quadraginta apparens eis et loquens de regno Dei. Et convalescens, præcepit eis ab Jerusalemis ne discederent, sed expectarent promissionem Patris, quam audistis, inquit, per os meum: Quia Joannes quidem baptizavit aqua, vos autem baptizabimini Spiritu sancto non post multos hos dies. Igitur qui convenerant interrogabant eum dicentes: Domine, si in tempore hoc restitues regnum Israel? Dixit autem eis: Non est vestrum nosse tempora vel momenta, quæ Pater posuit in sua potestate: sed accipietis virtutem supervenientis Spiritus sancti in vos, et eritis mihi testes in Jerusalem, et in omni Judæa et Samaria, et usque ad ultimum terræ. Et cum hæc dixisset, videntibus illis, elevatus est, et nubes suscepit eum ab oculis eorum. Cumque intuerentur in cælum euntem illum, ecce duo viri astiterunt juxta illos in vestibus albis, qui et dixerunt: Viri Galilæi, quid statis aspicientes in cælum? Hic Jesus, qui assumptus est a vobis in cælum, sic veniet, quemadmodum vidistis eum euntem in cælum.

R. (侍者のみ) Deo grátias.

が、イエズスご受難の後多くの徴をもつて、かれらにおのれの活きたることを証明し、四十日の間かれらに現われ、天主の国に關して物談りたまえり。またともに食しつつかれらに、イエルザレムを離れずして父の約束を待つべしと命じ、さて曰いけるに、なんじらわが口ずからその約束を聞けり、けだしヨハネは水にて洗したれども、なんじらは日久しからずして聖靈にて洗せらるべきなりと。されば集りたる人々問いて、主よ、イスラエルの国を回復したもうはこのころなるか、といひければ、イエズス曰いけるは、父がその権能によりて定めたまひし時刻は、なんじらの知るべきに非ず、ただしなんじらに臨みたもう聖靈の能力を受けて、なんじらはイエルザレム、ユデア全国、サマリア、地の極に至るまでもわが証人とならん、と。かく曰い果てて、かれらの見るうちに上げられたまいしが、一叢の雲これを受けて見えざらしめたり。かれらがなお天に昇り往きたもうを眺めいたるほどに、白衣の上二人忽ちかれらの傍に立ちていけるはガリレア人よ、何ぞ天を仰ぎつつ立てるや、なんじらを離れて天に上げられたまいしイエズスは、なんじらがその天に行きたもうを見たるごとく、またかくのごとくにして来たりたもうべし、と。

▲ 天主に感謝しまつる。

アレルヤ唱 Alleluja



○ Al- le- lu- ja * ij
▲ ア ル レ ル ヤ (2回)

(訳詞は 121 ページにあり)



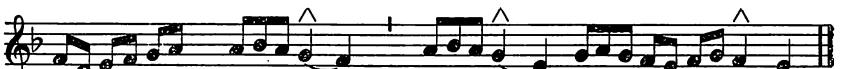
V. A- scén- dit De- us in ju- bi- la- ti-
 ○ ア シエン テイト デ ウス イン ユ ビ ラ ッイ



ó- ne, et Dó- mi- nus
 オ ネ エト ド ミ ヌス



in vó- ce
 イン ッオ チエ



* tú- bæ. (すぐ次のアレルヤ唱に移る)
 ▲ トウ ベ

アレルヤ唱 Alleluja



Al- le- lú- ja *
 ○ ア ッ レ ル ヤ ▲
 (訳詞は 121 ページにある)



V. Dó- mi- nus in Si- na in sanc- to
 ○ ド ミ ヌス イン ス イ ナ イン サン ト



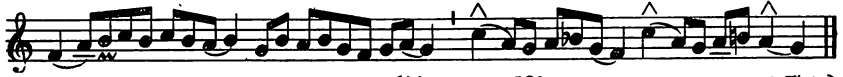
a- scén- dens in al- tur, cap-
 ア シエン デンス イン ア ヲ トウ ム カ ヲ



tí- vam dú-
 テイ ッ ア ム ヲ ウ



xit *cap- ti- vi- tá- tem.
 クスイト ▲ カフ テイ ッイ タ テム



(折り返して 120 ページにあるアレルヤを歌う)

アレルヤ唱訳詞

アレルヤ、アレルヤ、天主は喜びの叫び
 のうちに、主はラツパの音とともに昇りた
 まえり。

アレルヤ唱訳詞

アレルヤ、主はシナイ山に、聖なる所に
 いらして、たかき処までとりこを伴いて昇
 りたまえり、アレルヤ。

Evangelium

Sequentia sancti Evangelii

secundum Marcum (Marc. 16, 14-20)

In illo tempore : Recumbentibus undecim
 discipulis, apparuit Jesus, et exprobravit
 incredulitatem eorum, et duritiam cordis;
 quia iis qui viderant eum resurrexisse, non
 crediderunt. Et dixit eis: Euntes in mun-
 dum universum, prædicate Evangelium
 omni creaturæ. Qui crediderit et baptizatus
 fuerit, salvus erit; qui vero non crediderit,
 condemnabitur. Signa autem eos qui cre-
 diderint hæc sequentur: In nomine meo
 dæmonia ejicient, linguis loquentur novis,
 serpentes tollent, et si mortiferum quid
 biberint, non eis nocebit, super ægros
 manus imponent, et bene habebunt. Et
 Dominus quidem Jesus, postquam locutus
 est eis, assumptus est in cælum, et sedet
 a dextris Dei. Illi autem profecti prædi-
 caverunt ubique, Domino cooperante, et
 sermonem confirmante, sequentibus signis.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

聖 福 音

マルコ 聖福音の纏唱

(マルコ 16, 14 20)

その時、イエズス十一人の弟子たちの会
 食せるに現われたまい、おのが復活したま
 えるを見る人々の言を信ぜざりしをもつ
 て、かれらの不信仰と、心の頑固なることと
 を咎めたまえり。かくてこれに曰いけるは、
 なんじら、全世界に往きて、すべての被造
 物に福音を宣べよ。信じかつ洗せらるる人
 は救われ、信ぜざる人は罪に定められん。
 さて信ずる人々にはこれらの徴伴わん、す
 なわちかれらはわが名によりて悪魔を追い
 払い、新しき言語を話し、蛇を捕え、死毒
 を飲むも身に害なく、病人に接手せばその
 病癒えん、と。かれらに語りたまいて後、
 主イエズス天に上げられたまいて、天主の
 右に坐したもう。弟子たちは出立して遍く
 教を宣べしが、主力を加えたまいて、伴
 える徴によりて言葉を証したまいたりき。

▲ キリストに賛美あらんことを。

奉 献 文 Offertorium

A- scén- dit * Dé- us in
 ア シエン テイト ▲ デ ウス イン
 昇りたまえり 天 主 は

ju- bi- la- ti- ó- ne,
 ユ ビ ラ ヲ ッイ オ ネ
 よ ろ こ び の 叫 び の 中 に、

Dó- mi- nus in vó- ce
 ド ミ ヌス イン ヲオ チエ
 主 ラッパの音と共に。

tú- bæ, al- le-
 トウ ベ アル レ
 lú- ja.
 ル ヤ

Secreta

密 唱

Suscipe, Domine, munera, quæ pro Filii tui gloriosa ascensione deferimus: et concede propitius; ut a præsentibus periculis liberemur, et ad vitam perveniamus æternam. Per eundem Dominum nostrum Jesum Christum, Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus.

主よ、ねがわくはわれらがおん子の光榮あるご昇天のために献げまつる供物を嘉納し、かつおん哀れみによりてわれらを現世の危険より免れしめ、永遠の生命に至らしめたまわんことを、主と聖霊とともに生きかつしろしめたもう、このおん子われらの主イエズス・キリストによりて。

Praefatio

序 唱

Vere dignum et justum est, æquum et salutare, nos tibi semper et ubique grati-

げに、善くかつ正しく、益ありてまた福なることなるかな、われらの主キリストに

as agere, Domine sancte, Pater omnipotens, æterne Deus, per Christum Dominum nostrum. Qui post resurrectionem suam omnibus discipulis suis manifestus apparuit; et, ipsis cernentibus est elevatus in cœlum, ut nos divinitatis suæ tribueret esse participes. Et ideo cum Angelis et Archangelis, cum Thronis et Dominationibus, cumque omni militia cœlestis exercitus, hymnum gloriæ tuæ canimus, sine fine dicentes:

よりていづれの時にても、いづれの処にても主に感謝しまつるは。聖なる主、全能の父、永遠の天主よ。かれは復活したる後、すべての弟子に光榮もて現われ、われらをもその神性に与らしめんがため、かれらの眼前にて自ら天に昇りたまえり。されば天使と大天使、玉座と主權またすべての天軍とともに主のみ栄えの賛美をきわまりなく歌わん。

聖 体 拝 領 唱 Communion

Psál- li- te Dó- mi- no, * qui a- scén- dit
 ヲサ^ル リ^テ ド ミ ノ ▲ ヲイ ア シエン テイト
 ほめたたえよ 主を かれは 昇れり

su- per cae- los cae- ló- rum ad O-
 ス ペル^{チエ} ロス^{チエ} ロム ア^ド オ
 上なる 天の天 日

ri- én- tem, al- le- lú- ja.
 リ エン^{テム} ア^ル レ ル ヤ
 出ずる所に。主を賛美せよ

Postcommunio

聖体拝領後の文

Præsta nobis, quæsumus, omnipotens et misericors Deus: ut quæ visibilibus mysteriis sumenda percipimus; invisibili consequamur effectum. Per Dominum nostrum Jesum Christum, Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

R. Amen.

全能慈悲深き天主よ、われらがうけまつりし見ゆる秘跡の見えざる効果を感じしめたまわんことを、主と聖靈とともに世々生きかつしめしたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて、

▲ アーメン。

聖 靈 降 臨 祭

DOMINICA PENTECOSTES

入 祭 文 Introitus

*Spi- ri- tus Dó- mi- ni * re- plé- vit*
 スピ リ トウス ド ミ ニ ▲ レ ップレ ヴァイト
 主 の 靈 は 満 ち み て り

ór- bem ter- rá- rum, al- le- lú- ja: et
 オル ベム テル ラ ルム アッレ ル ヤ エト
 全 地 に、 主 を 賛 美 せ よ

hoc quod cón- ti- net óm- ni- a, sci- én-
 ホク ヲド コン タイ ネット オム ニア シエン
 す べ て を そ の 中 に 包 蔵 し た も う 者 は 知 れ り

ti- am há- bet vó- cis, al- le- lú- ja,
 タイ アム ハ ベト ヲチス アッレ ル ヤ
 こ と ば を 主 を 賛 美 せ よ

al- le- lú- ja, al- le- lú- ja.
 アッレ ル ヤ アッレ ル ヤ
 主 を 賛 美 せ よ 主 を 賛 美 せ よ

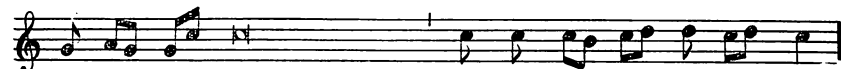
Ps. Ex- sú- gat Dé- us, et dis- si- pén- tur
 ○ エクス スル ガト デ ウス エト テイス スイ ペン トウル
 立 ち た ま え 主 よ し か し て 散 り 失 せ ん こ と を



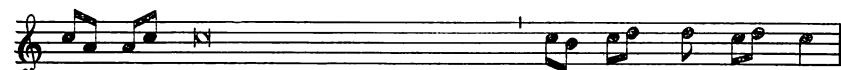
in- i- mí- ci é- jus: * et fú- gi- ant,
 イ ニ ミ チ エ ユス ▲ エト フ ジ アント
 そ の 仇 は。 また 逃げ去らん事を



qui o- dé- runt é- um, a fá- ci- e é- jus.
 ヶイ オ デ ルント エウム ア ヲア チ エ エ ユス
 かれを憎む者は そのみ前より



Gló- ri- a Pa- tri, et Fí- li- o, et Spi- rí- tu- i sanc- to.
 ○ ヲリ ア パトリ エトイリオ エトスピリトウ イサンクト



* Sic- ut é- rat in prin- cí- pi- o, et nunc, et sem- per,
 ▲ スイクト エラトインプリンチピオ エトヌンク エトセムペル



et in sáe- cu- la sæ- cu- ló- rum. A- men.
 エト イン セクラ セク ポルム アメン

Oratio

集 禱 文

Deus, qui hodierna die corda fidelium sancti Spiritus illustratione docuisti: da nobis in eodem Spiritu recta sapere: et de ejus semper consolatione gaudere. Per Dominum nostrum Jesum Christum, Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate ejusdem Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

聖靈の光りをもつて今日信者の心を教えたまはし天主、同じく聖靈をもつてわれらに正しきことを悟らしめ、そのおん慰めによりてつねに喜ぶことを得しめたまえ、主とこの聖靈とともに世々生きかつしろしめたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

R. Amen.

▲ アーメン。

Epistola

書 簡

Lectio Actuum Apostolorum

使徒行録の朗讀

(Act. 2, 1-11)

(徒 2, 1-11)

Cum completerentur dies Pentecostes, erant omnes discipuli pariter in eodem loco.

ペンテコステの日至りしかば、皆一所に集りいけるに、たちまちにして天より烈し

Et factus est repente de cœlo sonus, tamquam advenientis spiritus vehementis, et replevit totam domum ubi erant sedentes. Et apparuerunt illis dispersitæ linguæ tamquam ignis seditque supra singulos eorum; et repleti sunt omnes Spiritu sancto, et cœperunt loqui variis linguis, prout Spiritus sanctus dabat eloqui illis. Erant autem in Jerusalem habitantes Judæi, viri religiosi ex omni natione quæ sub cœlo est. Facta autem hac voce, convenit multitudo, et mente confusa est, quoniam audiebat unusquisque lingua sua illos loquentes. Stupebant autem omnes et mirabantur, dicentes: Nonne ecce omnes isti qui loquuntur, Galilæi sunt? Et quomodo nos audivimus unusquisque linguam nostram, in qua nati sumus? Parthi et Medi, et Aelamitæ, et qui habitant Mesopotamiam, Judæam et Cappadociam, Pontum et Asiam, Phrygiam et Pamphyliam, Aegyptum et partes Libyæ quæ est circa Cyrenen, et advænæ Romani, Judæi quoque et Proselyti, Cretes et Arabes, audivimus eos loquentes nostris linguis magnalia Dei.

R. (侍者のみ) Deo grátias.

き風のきたるがごとき響ありて、かれらが坐せる家に充ち渡り、また火のごとき舌かれらに顛れ、わかれておのおのの上に止まれり。かくて皆聖靈に満たされ、聖靈がかれらに言わしめたもうに従いて種々の言語にて語り出でたり。しかるに敬虔たるユデア人らの、天下の諸国よりきたりてイエルザレムに住める者ありしが、この音の響き渡るや、群衆集りきたりて、いずれも使徒たちが面々の国語にて語るを聞きければ、一同に心騒ぎあきれ果て、驚き嘆じてい言けるは、見よ、かの語る人は皆ガリレヤ人ならずや、いかにしてわれらおのおの、わが生国の語を聞きけるぞ、と。バルト人、メド人、エラミト人、またメソポタミア、ユデア、カバドキア、ポント、小アジア、フリジア、ペムフィリア、エジプト、クレネに近きリビア地方に住める者、及びローマ寄留人、すなわちユデア教に帰依せし人も、クレタ人も、アラビヤ人も、かれらがわが国語にて天主の大業を語るを聞きたるなり、と。

▲ 天主に感謝しまつる。

アレルヤ唱 Alleluja



○ Al- le- lú- ja * ij.
 ▲ .ア ル レ ヤ (2回)
 (訳詞は 130 ページにある)



V. E- mit- te Spí- ri- tum tú- um,
 ○ エ ミ ト テ スピ リ トウ ム トウ ム

et cre-a-bún-
エト ヌレ ア ブン

tur: et re-no-vá-bis fá-ci-em
トウル エト レ ノ ヅア ビス ヅア チ エム

* tér-ræ. (すぐ次ぎのアレルヤ唱に移る)
▲ テル レ

アレルヤ唱 Alleluja

Al-le-lú-ja *
○ アッ レ ル ヤ ▲
(訳詞は 130 ページにある)

V. Vé-ni,
○ ヅエ (ひざまずく)

san-cte Spí-ri-tus, re-ple
サンクテ スピ リ トウス レ ヲレ

tu-ó-rum cór-da fi-dé-li-um et tú-i a-
トウ オ ルム コルダ ヲイ デ リウ ム エトウイ ア

mó-
モ



(立つてすぐ続唱に移る)

続 唱 *Sequentia*



1. Vé- ni, sanc- te Spi- ri- tus, Et e- mít- te cae- li- tus
 ヂエ ニ サンツ テ スピ リ トウス エト エ ミト テ チエ リ トウス
 来たりたまえ 聖 霊よ はなちたまえ 天より

2. Vé- ni, pá- ter páu- pe- rum, Vé- ni dá- tor mú- ne- rum,
 ヂエ ニ パ テル パッ ペ ルム ヂエ ニ ダ トルム ネ ルム
 来りたまえ 貧しき者の父 来たりたまえ 恵みの与え主



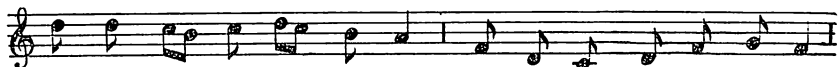
Lú- cis tú- æ rá- di- um. 3. Con- so- lá- tor óp- ti- me,
 ル チス トウ エ ラ デイ ウム コン ソ ラ° トル オッ テイ メ
 おん光りの輝きをば いとすぐれたる慰め主

Vé- ni, lú- men cór- di- um. 4. In la- bó- re ré- qui- es,
 ヂエ ニ ル メン コル デイ ウム イン ラ° ボ レ レ ッイ エス
 来たりたまえ心の光にます者 疲れたる時の いこい



Dúl- cis hó- spes á- ni- mæ, Dúl- ce re- fri- gé- ri- um.
 ドウツ チス ホ スペス ア ニ メ ドウツチエ レ ッリジエ リ ウム
 靈魂の甘美なる友 心のなごやかなる楽しみ

In aé- stu tem- pé- ri- es, In flé- tu so- lá- ti- um.
 イン エストウ テム ペ リ エム イン ッレトウ ソ ラ° ッイ ウム
 暑き時の 涼しさ 憂う時の 慰め



5. O lux be- a- tís- si- ma, Ré- ple cór- dis ín- ti- ma
 オ ル^ツス ベ ア^テイス スイ マ レ^ッレ コル^テイス イン^テイ マ
 おお光 至福なるものよ 来たり充ちたまえ

6. Si- ne tú- o nú- mi- ne, Ni- hil est in hó- mi- ne,
 スイ ネ トウ オヌ ミネ ニ ヒヨ エスト イン ホ ミ ネ
 主のおん助けあるにあらざれば 人にはなからん



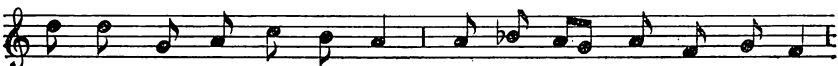
Tu- ó- rum fi- dé- li- um. 7. La- va quod est só- ri- dum,
 トウ オ ルム^フイデ リ^ウム ラ^ッア ヲ^オド エスト ソル^テイ^ドウム
 主を信ずる者の心に 清めたまえ 汚れたるをば

Ni- hil est in- nó- xi- um. 8. Flec- te quod est á- ri- dum,
 ニ ヒヨ エスト イン ノ ヲ^スイ ウム ッ^レッ テ^ッア^オド エスト ア リ^ドウム
 罪ならざる所は やわらげたまえ かたきをば



Rí- ga quod est á- ri- dum, Sá- na quod est sá- u- ci- um.
 リ ガ ヲ^オド エスト ア リ^ドウム サ ナ ヲ^オド エスト サ^ウチ^ウム
 うるおしたまえ 乾けるをば 癒したまえ 傷つけられたるをば

Fó- ve quod est frí- gi- dum, Ré- ge quod est dé- vi- um.
 フ^オツ^エ ヲ^オド エスト フ^リ ジ^ドウム レ^ジエ ヲ^オド エスト デ^ッイ^ウム
 たためたまえ 冷えたるをば 直くしたまえ 曲れるをば



9. Da tu- is fi- dé- li- bus, In te con- fi- dén- ti- bus,
 ダ トウ イス^フイデ リ^ブス イン テ コン^フイデン^テイ^ブス
 施したまえ 信者に 主を頼む(信者に)

10. Da vir- tú- tis mé- ri- tum, Da sa- lú- tis éx- i- tum,
 ダ ヲ^{イル} トウ^テイス^メ リ^トウム ダ サ ル^テイス^エク^スイ^トウム
 積ませたまえ 善徳の功をば 至らしめたまえ 救霊の域に



Sá- crum sep- te- ná- ri- um.
 サ^ッルム セ^ッテ ナ リ^ウム
 神聖なる 七つの恵みをば

Da per- én- ne gá- u- di- um. A- men. Al- le- lú- ja.
 ダ ペ レ^ン ネ ガ^ッテイ^ウム ア メ^ン ア^ッレ^ル ヤ
 永遠に 喜ばしめたまえ しかあれかし 主を賛美せよ

アレルヤ唱詠詞

アレルヤ、アレルヤ。聖靈をつかわ
したまえ。しかして万ずの物は造られ
ん、地の面を新たになしたまわん。

アレルヤ唱詠詞

アレルヤ、(ひざまずきながら) 聖靈きたり
たまえ、主の信者の心に充ちたまえ、主を愛す
る熱心の火をかれらの内に燃えしめたまえ。

Evangelium

Sequentia sancti Evangelii

secundum Joannem. (Jo. 14, 23-31)

In illo tempore: Dixit Jesus discipulis suis: Si quis diligit me, sermonem meum servabit; et pater meus diliget eum, et ad eum veniemus, et mansionem apud eum faciemus. Qui non diligit me, sermones meos non servat. Et sermonem quem audistis, non est meus; sed ejus qui misit me, Patris. Hæc locutus sum vobis, apud vos manens. Paraclitus autem Spiritus sanctus, quem mittet Pater in nomine meo, ille vos docebit omnia, et suggeret vobis omnia quæcumque dixero vobis. Pacem relinquo vobis, pacem meam do vobis: non quomodo mundus dat, ego do vobis. Non turbetur cor vestrum, neque formidet. Audistis quia ego dixi vobis: Vado, et venio ad vos. Si diligeretis me, gauderetis utique, quia vado ad Patrem; quia Pater major me est. Et nunc dixi vobis priusquam fiat, ut cum factum fuerit, credatis. Jam non multa loquar vobiscum. Venit enim princeps mundi hujus, et in me non habet quidquam. Sed ut cognoscat mundus quia diligo Patrem, et sicut mandatum dedit mihi Pater, sic facio.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

福 音

十 ヨハネ聖福音の續唱

(ヨハネ 14, 23-31)

その時、イエズス弟子たちに曰いけるは、人もしわれを愛せば、わが言葉を守らん。かくてわが父はかれを愛したまい、われらかれに至りてその内に住まん。われを愛せざる者は、わが言葉を守らず、しかしてなんじらの聞きしはわが言葉に非ずして、われをつかわしたまいし父のなり。われなおなんじらとともにおりてこれらのことをなんじらに語りしが、父のわが名によりてつかわしたもうべき弁護者たる聖靈は、わがなんじらに言いしすべてのことを教え、かつ思い出でしめたもうべし。われは平安をなんじに遺し、わが平安をなんじらに与う、わがこれを与うるは、世の与うることくには非ず、なんじらの心騒ぐべからず、また怖るべからず、かつてわれ行きてまたなんじらにきたらんといいしは、なんじらが聞ける所なり。なんじらわれを愛するならば、必ずわが父の許に帰るを喜ぶならん、父はわれよりさらに大いにましませばなり。今事の成るに先だちてわがなんじらに告げたるはその成りて後なんじらに信ぜしめんためなり。もはや多くなんじに語り、けだしこの世の長来たる。かれはわれになんの権をも有せず、されどわが父を愛して、父のわれに命じたまいしごとく行なうことを世の知らんためなり、と。

▲ キリストに賛美あらんことを。

奉 献 支 Offertorium



Con- fir- ma * hoc, Dé- us, quod o- pe-
 コン フイルマ ▲ ホッ デ ウス ヲ オ オ ペ
 堅固ならしめたまえ 天主よ われらに



rá- tus es in nó- bis: a tem- plo tú-
 ラ トウス エス イン ノ ビス ア テム プロ トウ
 なしたまいしことを、 なんじの聖殿より



o, quod est in Je- rú- sa-
 オ ヲ エスト イン イエル サ
 (すなわち) イエルザレムなる (聖殿より)。



lem; tí- bi óf- fe- rent ré-
 レム テイ ビ オ フ エ レント レ
 主 に 献げまつらん 王たちは



ges mú- ne- ra, al- le- lú- ja.
 ゴエス ム ネ ラ ア レ ル ヤ
 礼物をば。 主を賛美せよ

Secreta

密 唱

Munera, quæsumus, Domine, oblata
 sanctifica: et corda nostra sancti Spiritus
 illustratione emunda. Per Dominum no-
 strum Jesum Christum Filium tuum, qui
 tecum vivit et regnat in unitate ejusdem
 Spiritus sancti Deus.

主、ねがわくはわれらの献げまつる供え
 物を聖ならしめ、われらの心をば聖霊の光
 明をもつて清めたまわんことを、主とこの
 聖霊とともに生きかつしろしめたもう天
 主、おん子、われらの主イエズス・キリス
 トによりて。

Praefatio

序 唱

Vere dignum et justum est, æquum

げに、善くかつ正しく、益ありてまた福

et salutare, nos tibi semper et ubique gratias agere, Domine sancte, Pater omnipotens, æterne Deus: per Christum Dominum nostrum. Qui ascendens super omnes cœlos, sedensque ad dexteram tuam, promissum Spiritum sanctum hodierna die in filios adoptionis effudit. Quapropter profusis gaudiis, totus in orbe terrarum mundus exultat. Sed et supernæ Virtutes atque angelicæ Potestates, hymnum gloriæ tuæ concinunt, sine fine dicentes:

なることなるかな、われらの主キリストによりていずれの時にても、いずれの処にても主に感謝し奉るは。聖なる主、全能の父、永遠の天主よ、かれはいと高き天に昇り、主の右に坐したまいて、約束したまいしごとく「今日」聖霊をその家督の子らの上に灌ぎたまいたれば、地上のすべての世は歎に溢れ勇みて歌う。されば天上の勢力と天使の能力も主のみ栄えの賛美を歌い、かつきわまりなく唱うるなり。

聖 体 拝 領 唱 Communion

Fac-tus est *re-pén-te de caé-lo só-nus ad-ve-ni-
 っアットウス エスト▲ レペンテ デッエ ロソ スス アドゥエ ニ
 ありき たちまちにして天より はげしき

én-tis spí-ri-tus ve-he-mén-tis, u-bi é- rant
 エンテイ ススピ リトウ スッエ ヘ メンテイ ス ウ ビ エ ラント
 風の来たるがごとき響き かれらが坐せる

se-dén-tes, al-le-lú-ja: et re-plé-ti sunt.
 セ デン テス アッレ ル ヤ エト レッレ テイ スント
 所 に。 主を賛美せよ みたされたり

óm-nes Spí-ri-tu sanc-to, lo-quén-tes ma-gná-
 オム ネス スピ リトウ サンクト ロクエン テス マニヤ
 み な 聖 霊 に、 語り 天主の

li-a Dé-i, al-le-lú-ja, al-le-lú-ja.
 リア デイ アッレ ル ヤ アッレ ル ヤ
 大業を 主を賛美せよ 主を賛美せよ

Postcommunio

聖体拜領後の文

Sancti Spiritus, Domine, corda nostra mundet infusio: et sui roris intima aspersione fecundet. Per Dominum nostrum Jesum Christum, Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate ejusdem Spiritus sancti Deus, per omnia saecula saeculorum.

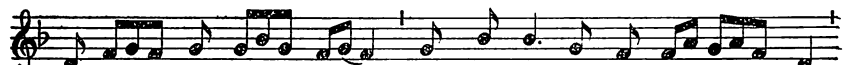
主ねがわくはわれらの心に聖霊を注ぎて清めたまわんことを、かつわれらの奥底までもその露に潤いて肥沃なるものとならしめたまわんことを、主とこの聖霊とともに、世々生きかつしろしめしたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。 ▲ アーメン。

R. Amen.

聖 体 祭

IN FESTO CORPORIS CHRISTI

入 祭 文 Introitus



Ci-bá- vit e- os * ex á-di-pe fru-mén- ti,

チ バ ヲイト エ オス ▲ エク、アテイ ペルメン テイ
主は養いたまえり かれらを すなわち麦の髓をもてなり



al- le- lú- ja: et de pé-tra, mé- le

アル レ ル ヤ エト デ ペトラ メルレ
主を賛美せよ 岩より出する蜜もて



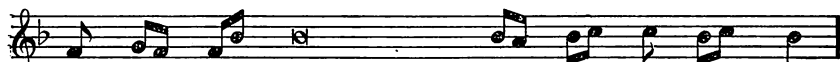
sa-tu- rá- vit é- os, al- le- lú- ja, al- le-

サトウ ラ ヲイト エ オス アル レ ヲ ヤ アル レ
飽かしめたまえり かれらを 主を賛美せよ 主を



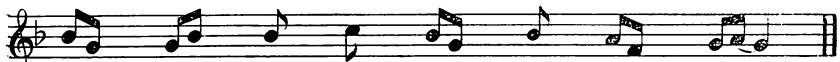
lú ja, al- le- lú- ja.

ル ヤ アル レ ル ヤ
賛美せよ 主を賛美せよ



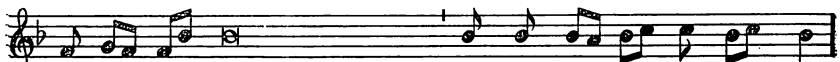
Ps. Ex- sul- tá- te Dé- o ad- ju- tó- ri nó- stro:

○ エクス スル タ テ デ オ ア ユ ト リ ノ ストロ
喜 び お ど れ わ れ ら の 助 け 手 な る 天 主 に



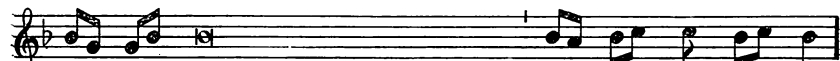
* ju- bi- lá- te Dé- o Já- cob.

▲ ユ ビ ラ テ デ オ ヤ コ ッ
喜 び の 声 を あ げ よ ヤ コ ボ の 天 主 に



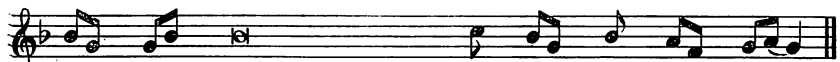
Gló- ri- a Pá- tri, et Fí- li- o, et Spi- ri- tu- i sanc- to.

○ グロ リ ア パ ト リ エ ヲ イ リ オ エ ヲ ス ピ リ ト ウ イ サン ク ト
光 栄 は 父 と 子 ま た 聖 霊 と に あ れ



* Sic- ut é- rat in prin- cí- pi- o, et nunc, et sem- per

○ ス イ ク ト エ ラ ト イン プ リ ン チ ピ オ エ ト ヌ ン ッ エ ト セ ム ペ ム
始 め に あ り し こ と く 今 も い つ も



et in saé- cu- la saé- cu- ló- rum. A- men.

エ ト イン セ ク ラ セ ク ロ ル ム ア メ ン
世 世 に し か あ れ か し

Oratio

集 禱 文

Deus, qui nobis sub sacramento mirabili passionis tuae memoriam reliquisti: tribue, quaesumus; ita nos Corporis et Sanguinis tui sacra mysteria venerari: ut redemptionis tuae fructum in nobis jugiter sentiamus: Qui vivis et regnas cum Deo Patre in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia saecula saeculorum.

R. Amen.

たえなる秘跡の下にわれらにご苦難の記念を残したまえる天主、こいねがわくはわれらをしておん体とおん血との神性なる奥義をふさわしく尊敬し、もつて絶えずわれらの身に主の贖いのおん恵みを感じるを得しめたまわんことを、天主なるおん父と聖霊とともに世々生きかつしろしめしたもう天主よ、 ▲ アーメン。

Epistola

書 簡

Lectio Epistolae beati Pauli

使徒聖パウロ、コリント人に

Apostoli ad Corinthios

贈りし書簡の朗読

(I Cor. 11, 23-29)

(コリント前 11, 23-29)

Fratres: Ego enim accepi a Domino quod et tradidi vobis: quoniam Dominus Jesus, in qua nocte tradebatur, accepit panem, et gratias agens, fregit et dixit: Accipite et manducate: Hoc est corpus meum, quod pro vobis tradetur: hoc facite in meam commemorationem. Similiter et calicem, postquam cœnavit, dicens: Hic calix novum testamentum est in meo Sanguine. Hoc facite, quotiescumque bibetis, in meam commemorationem. Quotiescumque enim manducabitis Panem hunc et Calicem bibetis, mortem Domini annuntiabitis, donec veniat. Itaque quicumque manducaverit Panem hunc vel biberit Calicem Domini indigne, reus erit Corporis et Sanguinis Domini. Probet autem seipsum homo, et sic de Pane illo edat et de Calice bibat. Qui enim manducat et bibit indigne, iudicium sibi manducat et bibit, non dijudicans Corpus Domini.

兄弟たちよ、わが主より承りてなんじらにも伝えし所にては、主イエズス付されたまえる夜に當りて、パンを取り、謝してこれをさき、さて曰く、なんじら取りて食せよ、これはなんじらのために付さるべきわが体なり、なんじらわが記念としてこれをなせ、と。晚餐の後、同じく杯を取りて曰く、この杯はわが血における新約なり、飲む度毎に、なんじらわが記念としてこれなせ、と。けだし主のきたりたもうまで、なんじらこのパンを食し、また杯を飲まん度毎に、主の死を示さん。ゆえにたれにもあれ、ふさわしからずしてこのパンを食し、あるいは主の杯を飲まん人は、主のおん体とおん血とを犯さん、されば人はおのを試し、しかして後かのパンを食し、杯を飲むべし。そはふさわしからずして飲食する人は、主のおん体をわきまえず、おのが宣告を飲食する者なればなり。

R. (侍者のみ) Deo grátias.

▲ 天主に感謝し奉る。

昇 階 唱 Graduale

O- cu- li * óm- ni- um in
 オ ク リ ▲ オム ニ ウム イン

te spé- rant, Dó- mi- ne:
 テ スペ ラット ド ミ ネ

et tu das il- lis és-
エト トウ ダス イ ヲ リス エス

cam in tém- po- re
カム イン テム ポ レ

op- por- tú- no.
オフ ポル トウ ノ

V. A- pe-
オ ア ペ

- ris tu má- num tú-
リス トウ マ ヌム トウ

am: et im- ples
アム エト イム プレス

óm- ne á- ni- mal * be- ne- díc-
オム ネ ア ニ マル * ベ ネ テイク

ti- ó- ne.
イ オ ネ

アレルヤ唱 Alleluja

Al-le- lu- ja * ij
 ▲ アレ ル ヤ (2回)

V. Cá- ro mé- a
 ○ カ ロ メ ア

ve-re est cí- bus, et sán- guis
 ヲエ レ エストチ ブス エト サン ヲイス

mé- us ve- re est pó- tus: qui man-
 メ ウス ヲエ レ エスト ポ トウス ヲイ マン

dū- cat mé- am cár- nem,
 フウ カト メ アム カル ネム

et bí- bit mé- um sán-
 エト ビ ビト メ ウム サン

gui- nem, in me má- net, et é- go *
 ヲイ ネム イン メ マ ネット エトエ ゴ▲

in é- o.
 イン エ オ

(すぐ続唱に移る)

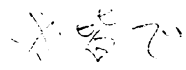
昇階唱訳詞

アレルヤ唱訳詞

よろずの者の目主を待ち望む、主よ、主、時に従いてかれらに糧を与えたもう。V.主おん手を開きて、すべての生くる者を祝福にて満たしたもう。

アレルヤ、アレルヤ。わが肉は実に食物なり、わが血は実に飲み物なり。わが肉を食しわが血を飲む人はわれにとどまり、われもまたこれにとどまる。

続 唱 *Sequentia*



1. Láu- da, Sí- on, Sal- va- tó- rem, Láu- da dú- cem
 ラッ ダ スイ オン サル ヲア ト レム ラッ ダ ヲウ ヲエム
 たたえよ シオン、 なが救い主を ほめ歌えや 指導者

2. Quan- tum pót- es, tan- tum áu- de: Qui- a má- jor
 ヲアントウム ポ テス タン トウム アッ デ ヲイ ア マ ヨル
 主をばたたえよなが力の限り そは主は万ずの賛美に



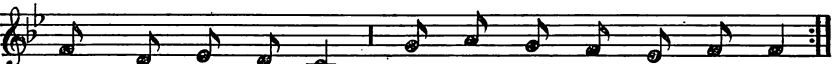
et pa- stó- rem In hym- nis et cán- ti- cis.
 エト パ スト レム イン ヒム ニス エト カン テイ チス
 と 牧者とを 賛美 と 歌とをもつて

om- ni láu- de, Nec lau- dá- re súf- fi- cis.
 オム ニ ラッ デ ネッ ラッ ダ レ スッ フイ チス
 まさりて偉大なればなり いかなる賛美も主に足ることなし



3. Láu- dis thé- ma spe- ci- á- lis, Pá- nis ví-
 ラッ デイス テ マ スペ チ ア リス パ ニス ヲイ
 歌いまつる趣意こそは 生けるパン

4. Quem in sa- cræ men- sa cœ- næ Túr- bæ frá-
 ヲエム イン サ ヲレ メン サ ヲエ ネ トウル ベ ヲラ
 これぞ とうとき晩餐のおりに 主が十二兄弟の



vus et vi- tá- lis Hó- di- e pro- pó- ni- tur.
 ヴス エト ヲイ タ リス ホ デイ エ ヲロ ポ ニ トウル
 人の生命のもとにして きようぞ 与えらるるなる

trum du- o- dé- næ Dá- tum non am- bí- gi- tur.
 トルム ヲウ オ デ ネ ダ トウム ノン アム ビ ジ トウル
 むれに 与えしそのパンなる

5. Sit laus plé-na, sit so- nó- ra, Sit ju- cún- da, sit de-

スイト フウス フレ ナ スイト ソ ノ ラ スイト ユクン ダ スイト デ
ほめ歌満ち溢れて朗かなれや 心よけくうるわ

có- ra Men- tis ju- bi- lá- ti- o. 6. Dí- es e- nim

コ ラ メン テイヌ ユ ビ フ ヲ イ オ デイ エヌ エ ニム
しかれ 心の喜びよそれよ そはきようこそ

so- lém- nis á- gi- tur, In qua mén- sæ prí- ma re- có-

ソ レム ニス ア ジ トウル イン ヲア メン セ ヲリ マ レ コ
壮敵なる日 すなわち主のうたげの

li- tur Hú- jus in- sti- tú- ti- o. 7. In hac mén- sa

リ トウル ホウ ヌス イン スタイ トウ ヲイ オ イン ハッ メン サ
制定を記念する(日)なれば この食卓をもつて

nó- vi Ré- gis, Nó- vum Pa- s- cha nó- væ lé- gis, Phá- se

ノ ヲイ レ ジス ノ ヴム パ スカ ノ ヲエ レ ジス ヲア セ
新しき 王 は 新約の法の新しき過越祭を定めて 旧約の

vé- tus tér- mi- nat. 8. Ve- tu- stá- tem nó- vi- tas, Um-

ヴェトウス テルミ ナト ヲエ トウス タ ムテ ノ ヲイ タス ウム
過越をば 収めたまえり 古き は 新たとなり か

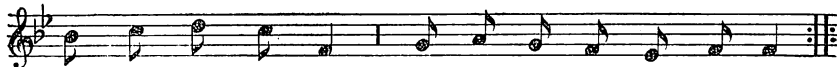
bram fú- gat vé- ri- tas, Noc- tem lux e- lí- mi- nat.

ブラム フ ガト ヲエ リ タス ノクテム ルクス エリ ミナト
げを追えり 真理は。 除けり 光りはくらやみを



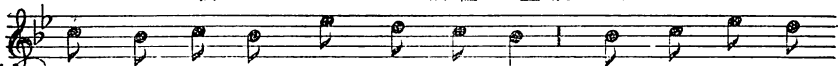
9. Quod in cœ-na Chri- stus gés- sit, Fa- ci- én-
 ッオド イン ♫エ ナ クリ ストウ ス ジエス イト ッア チ エン
 キリストその晩餐になししことを なせと宣いたり

10. Dóc- ti sa- cris in- sti- tú- tis, Pá- nem, vi-
 ドクタイ サ ッリス イン スタイ トウ タイ ス パ ネム ッイ
 教えられる とうとき 制 定 に、 パンと ぶどう



dum hoc ex- prés- sit In sú- i me- mó- ri- am.
 ドウム ホク エクス プレ ス イト イン スイ メ モ リ アム
 その記念にと

num in sa- lú- tis Con- se- crá- mus hó- sti- am.
 ヌム イン サ ル テイス コン セ ッラ ム ス ホ ッタイ アム
 酒とを 救いの 犠牲に 聖別しまつる



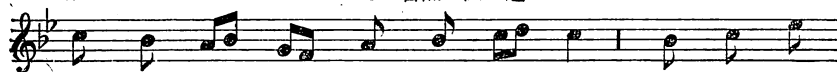
11. Dog- ma dá- tur chri- sti- á- nis, quod in cár- nem
 ドク マ ダ トウル クリ スタイ ア ニス ッオド イン カル ネム
 教義は 与えらる 信者に すなわちパンはおんに

12. Quod non cá- pis, quod non vi- des, A- ni- mó- sa
 ッオド ノン カ スピ ッオド ノン ッイ デス ア ニ モ サ
 悟り得ざるも 見えざるも 生ける信仰は



trans- it pá- nis, Et ví- num in sán- gui- nem.
 トランス イト パ ニス エト ッイ ヌム イン サン ッイ ネム
 しかしてぶどう酒は おん血に化するのそれを

fír- mat fí- des, Præ- ter ré- rum ór- di- nem.
 フイル マト フイ デス プレ テル レ ルム オル テイ ネム
 確かむるなり そは自然の法を越えてなり



13. Sub di- vér- sis spe- ci- é- bus, Sí- gnis tan-
 スッ デイ ッエル スイス スペ チ エ ブス スイ ニイス タン
 異なる形は 実体ならで仮象の

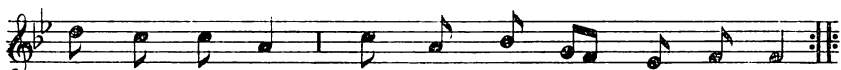
14. Cá- ro cí- bus, san- gnis pó- tus: Má- net ta-
 カ ロ チ ブス サン ッイス ポ トウス マ ネット タ
 おん肉は 糶にして おん血は 飲料なり ましませり さ



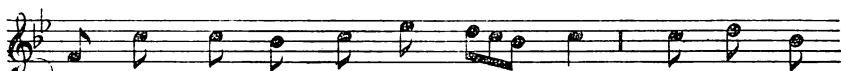
tum, et non ré-bus, Lá-tent res ex-í-mi-æ.
 トウム エト ノン レ ブス ラ テント レス エクス イ ミ エ
 みにして とうときおん物はそこにかくれ潜めり
 men Chrí-stus tó-tus Sub u-trá-que spé-ci-e.
 メン クリストウス ト トウス スウ トラ ッエ スベ チ エ
 れど 全きキリストは いずれの形色にも



15. A su-mén-te non con-cí-sus, non con-frác-tus,
 ア ス メン テ ノン コン チ ス ノン コン ッラ ットウス
 これをうくとも 切らるることなく さかるることなく
 16. Sú-mit ú-nus, su-munt míl-le: Quan-tum í-sti,
 ス ミト ウ ヌス ス ムント ミッ レ ッアントウム イ ステイ
 一人うくとも 千人うくとも ひとしくうけてぞ



non di-ví-sus: In-te-ger ac-cí-pi-tur.
 ノン ダイ サイ スス イン テ ジエル アッ チ ピ トウル
 分かたることなく 全体を うくるなり
 tan-tum il-le: Nec sump-tus con-sú-mi-tur.
 タン トウム イッ レ ネッ スムットウス コン ス ミ トウル
 尽くことなき



17. Sú-munt bó-ni, sú-munt má-li: Sór-te ta-
 ス ムント ボ ニ ス ムント マ リ ソル テ タ
 善き人々も受け 悪しき人々も受くれど 結果は
 18. Mors est má-lis, ví-ta bó-nis: Ví-de pá-
 モルス エスト マ リス ヱイ タ ボ ニス ヱイ デ パ
 死滅は 悪人に 生命は 善人に 見よ 同じ



men in-æ-quá-li, Ví-tæ vel in-tér-i-tus.
 メン イ ネ ッア リ ヱイ テ ッエッ イン テ リ トウス
 異なれり 生命にあるいは滅びに。
 ris sump-ti-ónis, Quam sit dis-par éx-i-tus.
 リス スムッツイ オ ニス ッアム スイトデイス パル エッ スイ トウス
 くうくとも いかにならうかを その結果の

19. Frac-to de-mum sa-cra-mén-to, Ne va-cíl-les,
 フラクト デムム サクラメント ネットルピス
 秘跡はさかるとも 夢な迷いそ

20. Núl-la ré-í fit scis-sú-ra: Si-gni tan-tum
 ヌルラレイ フイト シススラ ヌイニイ タントウム
 実体はさかれざるなり さかるるは仮象のみ

sed me-mén-to, Tan-tum és-se sub frag-mén-to,
 セメメント タントウム エッセ スフフラグメント
 かえつて思えよ 断片にこまれるは
 fit frac-tú-ra, Qua nec stá-tus, nec sta-tú-ra
 フイト フラクトウラ クア ネクスタトウス ネクスタトウラ
 さればその実体の作用と外形とは

Quan-tum to-to té-gi-tur. 21. Ec-ce pá-nis An-
 クアントウム トト テジトゥル エッチエパニスアン
 全体とおなじきを 見よ 天使のパンは
 Si-gná-ti mi-nú-i-tur. 22. In fi-gú-ris præ-
 スイニヤテイ ミヌイトウル インフイグリヌプレ
 変ることなし これぞ前表なる

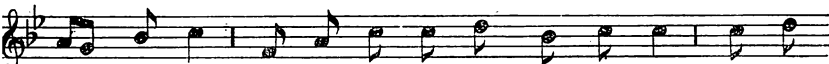
ge-ló-rum, Fá-ctus ci-bus vi-a-tó-rum: Ve-re
 ジエロルム ファクトウス チブスサイアトルム ヴェレ
 旅人の糧となるを げに
 si-gná-tur, Cum I-sá-ac im-mo-lá-tur, A-gnus
 スイニヤトウル クムイサアタイムモプトウル アニユス
 イザアクの犠牲 小羊

pá-nis fi-li-ó-rum, Non mit-tén-dus cá-ni-bus.
 パニスファイリオルム ノンミットエンドウス カニブス
 子らの糧なれば 犬には投るまじ
 pa-schæ de-pu-tá-tur, Dá-tur mán-na pá-tri-bus.
 パスケデプタトウル ダトウル マンナ パトリブス
 過越祭の(小羊) 先祖の受けたるマンナなり



23. Bó-ne pá-stor, pá-nis ve-re, Jé-su, nó-stri mi-
 ボ ネ パ ストル パ ニス ッエ レ イエ ス ノ ストリ ミ
 よき牧者にして 実の糧なる所の イエズス われらを 哀れ

24. Tu qui cun-cta scis et vá-les, Qui nos pa-scis hic
 トウ ヱイ クン ッタ シス エト ッア ビス ヱイ ノ ス パ シス ヒッ
 主よ 万ずを識り 万ずをなし得たまえば 世を経るわれらを養いたまいて



se-ré-re: Tu nos pá-sce, nos tu-é-re, Tu nos
 セ レ レ トウ ノ ス パ シエ ノ ス トウ エ レ トウ ノ ス
 みたまえ 主 われらを牧し われらを守りたまえ われらに

mor-tá-les: Tú-os i-bi com-men-sá-les, Co-hæ-
 モル タ ビス トウ オ ス イ ビ コ ム メン サ ビス コ ヘ
 かしこにても主の食卓につかせ 共に



bó-na fac vi-dé-re In ter-ra vi-vén-ti-um.
 ボ ナ ッア ヱ ヱイ デ レ イン テル ラ ヱイ ヱエン ヱイ ウム
 よきものを与えたまえ 生くる人々の国において

ré-des et so-dá-les Fac sanc-tó-rum cí-vi-um.
 レ デス エト ソ ダ ビス ッア ヱ サン ヱ ト ルム チ ヱイ ウム
 天つ嗣子とならしめ なしたまえ 諸聖人の 友 と



A-men. Al-le-lú-ja.
 ア メン ア ル ビ ヱ ヤ

Evangelium

福 音

Sequentia sancti Evangelii

十 ヨハネ聖福音の續唱

secundum Joannem (Jo. 6. 56-59.)

(ヨハネ 6, 56-59)

In illo tempore dixit Jesus turbis Judæorum: Caro mea vere est cibus, et Sanguis meus vere est potus. Qui manducat meam Carnem et bibit meum Sanguinem, in me manet et ego in illo. Sicut misit me vivens Pater, et ego vivo propter Patrem: et qui manducat me, et ipse

その時、イエズス、ユデア人の群衆に曰いけるは、わが肉はげに食物なり。わが血はげに飲料なり。わが肉を食し、わが血を飲む人はわれに止まり、われもまたこれに止まる。生ける父われをつかわしたまいて、われ父によりて生くるごとく、われを食す

vivet propter me. Hic est Panis qui de
cœlo descendit, non sicut manducaverunt
patres vestri manna, et mortui sunt. Qui
manducat hunc Panem, vivet in æternum.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

る人もまたわれによりて生きん。これぞ天
より降りしパンなる。なんじらの先祖がマ
ンナを食してしかも死せしがごとくならず
このパンを食する人は永遠に生くべしと。

▲ キリストに賛美あらんことを。

奉 献 文 Offertorium

Sa- cer- dó- tes * Dó- mi- ni
サ チエル ド テス ▲ ド ミ ニ
司祭たちは 主の(司祭たちは)

in- cén- sum et pá- nes óf- fe- runt
インテエン スム エト パ ネス オッフエ ルント
焚 物 と パン と を 献 げ 奉 る な り

Dé- o: et íd- e- o sanc- tí é-
デ オ エト イ デ オ サンク テイ エ
天主に。 これによりて 聖なる者とな

runt Dé- o sú- o,
ルント デ オ ス オ
らん その天主のために。

et non pól- lu- ent nó- men
エト ノン ポッ ル エント ノ メン
しかして 汚さざらん そのみ名

é- jus, al- le- lú- ja.
エ ユス アッ レ ヲ ヤ
を ば。 主を 賛 美 せ よ

Secreta

密 唱

Ecclesiae tuae, quaesumus, Domine, unitatis et pacis propitius dona concede: quae sub oblatis muneribus mystice designantur. Per Dominum nostrum Jesum Christum Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus.

主よ、ねがわくは献ぐる物の神秘に象らるる一致と平安との賜物を主の聖会に与えたまわんことを。主と聖霊とともに生きかつしろしめたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

Praefatio (communis)

序 唱

Vere dignum et justum est, æquum et salutare, nos tibi semper et ubique gratias agere, Domine sancte, Pater omnipotens, æterne Deus: per Christum Dominum nostrum. Per quam majestatem tuam laudant Angeli, adorant Dominationes, tremunt Potestates. Coeli coelorumque Virtutes, ac beata Seraphim, socia exultatione concelebrant. Cum quibus et nostras voces, ut admitti jubeas deprecamur, supplicii confessione dicentes:

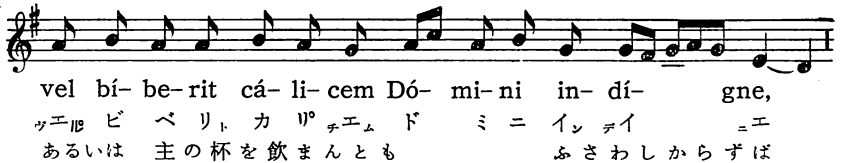
げに善くかつ正しく益ありてまた福なるかな。げに、ふさわしくかつ正しく直くしてまた善きことなるかな、われらの主キリストによりていつれの時にても、いつれの所にても主に感謝したてまつるは、聖なる主、全能の父、永遠の天主。かれによりて天使は主のおおいなるを賛美し、主権は拝礼し、能力は震えるなり。天と天の勢力と福なるセラフイムはこそりて主をたたえて喜ぶなり。ねがわくはかれらにわれらの声をも交えしめたまえ。さればわれらはつつましき賛美をもつて歌わん。

聖 体 拝 領 唱 Communion

Quo- ti- es-cum-que *man-du-ca- bi- tis pá- nem hunc,
 ヲオイ エスク ヲエ ▲ マンドウカ ビテイスパ ネム ホウシク
 度毎に なんじらこのパンを食し

et cá- li- cem bi- bé- tis, mor- tem Dó- mi- ni
 エトカ リチエム ビベ テイス モルテム ドミニ
 また杯を飲まん(度毎に) 主の死を

an-nun- ti- á- bi- tis, do- nec vé- ni- at:
 アンヌンツイア ビテイス ド ネク ヲエ ニ アト
 示さん 主 のきたりたもうまで。



Postcommunio

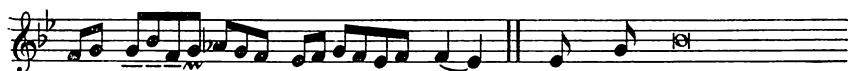
聖体拜領後の文

Fac nos, quæsumus, Domine, divinitatis tuæ sempiterna fruitione repleti: quam pretiosi Corporis et Sanguinis tui temporalis perceptio præfiguratur: Qui vivis et regnas cum Deo Patre in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

R. Amen.

主よ、ねがわくば主のとうときおん体とおん血との拜領によりて、この世にかたどられたる主の神性を永遠にうけ、われらに満たさしめたまわんことを、天主なるおん父と聖霊と共に世々生きかつしろしめしたもう天主よ。

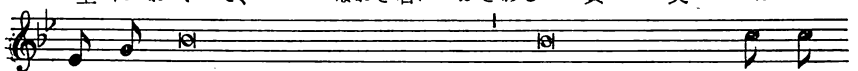
▲ アーメン。



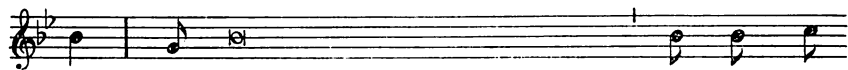
al- le- lú- ja. Ps. Ex- sul- tá- te, jú- sti,
 アレ ル ヤ ○ エクス スル タ テ ユステイ
 主を 賛美 せよ 詩. 喜びおどれ 正しき者よ



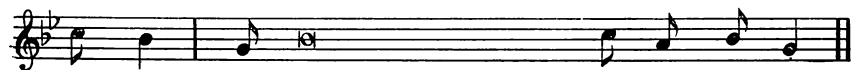
in Dó- mi- no, * rēc- tos dé- cet col- lau- dá- ti- o.
 イン ド ミ ノ ▲ レク トス デ ヂ エ ト コル ラ ッ ダ ヲ イ オ
 主において、 なおき者に ふさわし 賛美 は



Gló- ri- a Pá- tri, et Fí- li- o, et Spi- ri- tu- i sanc-
 ○ グロ リ ア パ トリ エ ト ヲ イ ヲ エ ト スピ リ ト ウ イ サンク
 光 栄 は 父 と 子 また 聖 霊 と に あ れ



to. * Sic- ut é- rat in prin- cí- pi- o, et nunc, et
 ト ▲ スイ クト エ ラ ト イン プリン チ ピ オ エ ト ヌンク エ ト
 始 め に あ り し ご と く 今 も



sem- per, et in saé- cu- la saé- cu- ló- rum. A- men.
 セム ペル エト イン セ ク ラ セ ク ロ ルム ア メン
 い つ も 世 々 に。 し か あ れ か し

Oratio

集 禱 文

Deus, qui nobis in Corde Filii tui, nostris vulnerato peccatis, infinitos dilectionis thesauros misericorditer largiri dignaris: concede quæsumus, ut illi devotum pietatis nostræ præstantes obsequium, dignæ quoque satisfactionis exhibeamus officium. Per eundem Dñm nostrum Jesum Christum Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

R. Amen.

天主よ、主はわれらの罪のゆえに傷けられたまいしおん子のみ心において、おん慈悲により主の無窮の愛の財宝もてわれらを富ましめたまいしにより、願わくはみ心に対して信心なる愛の勤行を尽し奉るわれらをして、み心の侮辱をふさわしく償わしめたまわんことを、主と聖霊とともに世々生きかつしるしめたもう天主、このおん子、われらの主イエズス・キリストによりて

▲ アーメン。

Epistola

書 簡

Lectio Epistolae beati Pauli Apostoli

使徒聖パウロ、エフェソ人に

ad Ephesios (Ephes. 3, 8-19)

贈りし書簡の朗讀 (エフェソ 3. 8-19)

Fratres : Mihi omnium sanctorum minimo data est gratia haec, in gentibus evangelizare investigabiles divitias Christi, et illuminare omnes, quæ sit dispensatio sacramenti absconditi a sæculis in Deo, qui omnia creavit, ut innotescat Principatibus et Potestatibus in cœlestibus per Ecclesiam multiformis sapientia Dei; secundum præfinitionem sæculorum quam fecit in Christo Jesu Domino nostro, in quo habemus fiduciam et accessum in confidentia per fidem ejus. Hujus rei gratia flecto genua mea ad Patrem Domini nostri Jesu Christi, ex quo omnis paternitas in cœlis et in terra nominatur: ut det vobis secundum divitias gloriæ suæ, virtute corroborari per Spiritum ejus in interiorem hominem, Christum habitare per fidem in cordibus vestris, in caritate radicati et fundati, ut possitis comprehendere cum omnibus sanctis quæ sit latitudo et longitudo, et sublimitas et profundum, scire etiam supereminentem scientiæ caritatem Christi, ut impleamini in omnem plenitudinem Dei.

R. (侍者のみ) Deo grátias.

兄弟たちよ、すべての聖徒のなかにもつとも小さきわれに、キリストの究め難き富の福音を、異邦人に告ぐる恩恵を賜われり。これ万物を創造したまいたる天主において、世の初めより隠れたりし奥義の度のかんを、衆人に説明する恩恵にして、天主の多方面なる知恵が、教会をもつて、天における権天使及び能天使とうに知られたため、わが主イエズス・キリストにおいて全うしたまえる、世々の預定に應ぜんためなり。われらはかれにおける信仰によりて憚らざることを得、希望をもつて天主に近づき奉ることを得。われこれがためにわが主イエズス・キリストの父、すなわち天にも地にも諸風の因つてもつて名づけらる所の父のみ前に跪き、なんじらはその光榮の富に従い、その靈により、能力をもつて内面の人として堅固にせられんこと、また信仰によりてキリストのなんじらに宿りたまわんことをこいねがい奉る。これなんじらは、愛に根ざしかつ基きて、すべての聖徒とともに、広さ長さ高さ深さのかんを識り、また一切の知識を超絶せるキリストの寵愛を識ることを得て、すべて天主にみち満てるものになんじらの満たされんためなり。 ▲ 天主に感謝しまつる。

昇 階 唱 Graduale

Dul- cis * et rec- tus
 フウル チス ▲ エト レク トウス
 (訳詞は 152 ページにある)

Dó- mi- nus, prop- ter hoc lé- gem dá-
 ド ミ スス ヲロツ テル ホク ヲ エム ダ

bit de- lin- quén- ti- bus in ví-
 ビト デ リン クエンタイ ブス イン ヲイ

a. *V. Dí- ri- get man- su- é-*
 ア ヲタイ リ ヲエト マンス エ

tos in ju-
 トス イン ユ

dí- ci- o, do- cé- bit
 タイ チ オ ド ケエ ビト

mi- tes ví- as * sú-
 ミ テス ヲイ アス ▲ ス

as.
 アス

アレルヤ唱 Alleluja



○ Al- le- lú- ja * ij.

▲ アッ レ ル ヤ (2回)

(訳詞は 152 ページにある)



V. Tól- li- te

○ ト ヲ リ テ



ju- gum mé- um su- per vos et

ユ グ ム ウ ス ペ ル ヴ オ ス エ ト



dí- sci- te a me, qui- a

ヂ イ シ テ ア メ ヲ イ ア



mí- tis sum et

ミ チ イ ス ス ム エ ト



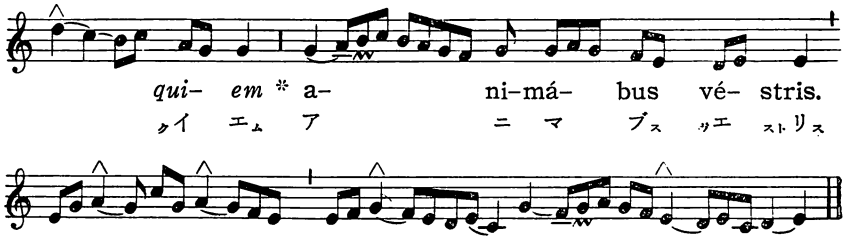
hú- mi- lis cór- de, et in- ve- ni-

ホ ウ ミ リ ス コ ル デ エ ト イン ヴ エ ニ



é- tis ré-

エ チ イ ス レ



昇階唱訳詞

主は心やさしく直くいましたもう。されば道をはずる者には法を与えたまわん。すなおなる者を正義に導き、柔和なる者にその道を教えたまわん。

アレルヤ唱訳詞

アレルヤ、アレルヤ。われは柔和にして心謙遜なるがゆえに、なんじら自らわがくびきを取りてわれに学べ。さらばなんじらの魂にやすみを得べし。アレルヤ。

Evangelium

Sequentia sancti Evangelii secundum Joannem. (Jo. 19, 31-37)

In illo tempore: Judæi, quoniam Parasceve erat, ut non remanerent in cruce corpora sabbato; erat enim magnus dies ille sabbati, rogaverunt Pilatum ut frangerentur eorum crura et tollerentur. Venerunt ergo milites, et primi quidem fregerunt crura et alterius qui crucifixus est cum eo. Ad Jesum autem cum venissent, ut viderunt eum jam mortuum, non fregerunt ejus crura; sed unus militum lancea latus ejus aperuit, et continuo exivit sanguis et aqua. Et qui vidit testimonium perhibuit, et verum est testimonium ejus. Et ille scit quia vera dicit, ut et vos credatis. Facta sunt enim hæc, ut Scriptura impleretur: Os non comminuetis ex eo. Et iterum alia Scriptura dicit: Videbunt in quem transfixerunt.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

福 音

ヨハネ聖福音の纏唱

(ヨハネ 19, 31-37)

その時、用意日にて大安息日の前なれば安息日に屍の十字架上に遺らざらんためにその脛を折りて取下さん事を、ユデア人ピラトにねがいしかば、兵卒ら来たりて、先なる者、及び共に十字架に付けられたる他の一人の脛を折りしが、イエズスに至り、そのすでに死したまえるを見て、脛を折らざりき。されど兵卒の一人槍もてその脇を披きしかば、直に血と水と流れ出でたり。目撃せし人これを証明せしが、その証明は眞実にして、かれはその云う所の眞実なるを知れり、これなんじらにも信ぜしめんためなり。これらのことの成りしは、聖書に「なんじらその骨を一つも折るべからず」とあることの成就せんためなり。さらにまた聖書に曰く「かれらはその貫けるものを仰ぎ見ん」と。

▲ キリストに賛美あらんことを。

奉 献 文 Offertorium

Im- pro- pé- ri- um * ex- spec- tá- vit
 イム プロ ペリ ウム ▲ エクス スペクタ ヴイト
 はずかしめを 待 てる

Cor mé- um et mi- sé-
 コル メ ウム エト ミ セ
 わが心は。 また窮乏をも。

ri- am, et su- stí- nu- i qui si- mul
 リ アム エト ステイヌ イ ヴァイスイ ム
 またわれは望めり 共に悲

mé- cum con- tri- sta- ré- tur, et non
 メ クム コントリスタレ トウル エト ノン
 しむ者を。 されどなし

fú- it: con- so- lán- tem me quæ- sí-
 フ イト コンソラテン メ ヴァエスイ
 ひとりも。 慰むるものを 求めたり

ví, et non in- vé- ni.
 ヴァイ エト ノン イン ヴァエ ニ
 されど 見出ださざりき

Secreta

Respice, quæsumus, Domine, ad ineffabilem Cordis dilecti Filii tui caritatem, ut quod offerimus, sit tibi munus acceptum, et nostrorum expiatio delictorum. Per eundem Dominum nostrum Jesum Christum Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus.

密 唱

主よ、ねがわくはわれらの献げ物がみこころにかない、わが罪の償いとならんため、最愛のおん子のみ心の愛をば願ひたまえ。主と聖霊とともに生きかつしろしめしたもう天主、このおん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

Praefatio

Vere dignum et justum est, æquum et salutare, nos tibi semper et ubique gratias agere, Domine sancte, Pater omnipotens, æterne Deus; Qui Unigenitum tuum, in cruce pendentem, lancea militis transfigi voluisti, ut apertum Cor divinæ largitatis sacrarium, torrentes nobis funderet miserationis et gratiæ; et quod amore nostri flagrare numquam destitit, piis esset requies et pœnitentibus pateret salutis refugium. Et ideo cum Angelis et Archan-gelis, cum Thronis et Dominationibus, cumque omni militia cœlestis exercitus, hymnum gloriæ tuæ canimus, sine fine dicentes:

序 唱

げに、善くかつ正しく、益ありてまた福なることなるかな、いずれのときにても、いずれの処にても主に感謝し奉るは、聖なる主、全能の父、永遠の天主。主は十字架に磔けられたまいしおん独子をば兵卒の槍にて貫かしめたまえり。そは、開かれたるみ心は神性の溢れたもう至聖所にして、主のおん哀れみとご恩恵との谷川となり、かつわれらに対する愛熱に絶えず燃え立つみ心が、信心なる者には憩いの処となり、悔悛する者には救霊の避難所とならんためなり。されば天使と大天使、玉座と主權、またすべての天軍とともに主のみ栄えの賛美をきわまりなく歌わん。

聖 体 拜 領 唱 Communion

U- nus mi- li- tum * lán- ce- a lá- tus e-
 ウ ヌス ミ リ^トウム ▲ ラ^ンチエ ア ラ^トウス エ
 兵 卒 の 一 人 槍 も て そ の 脇 を

jus a- pé- ru- it, et con- tí- nu- o ex-
 ヌス ア ペ ル イ^ト エ^ト コ^ンチエ ヌ オ エ^{クス}
 開きしかば た だ ち に 流れ

í- vit sán- guis et á- qua.
 イ ヱイト サン ヱイス エ^ト ア ヱア
 出でたり、 血 と 水。

Postcommunion

聖体拜領後の文

Præbeant nobis, Domine Jesu, divinum
 tua sancta fervorem: quo dulcissimi Cordis
 tui suavitate percepta, discamus terrena
 despiciere et amare cœlestia. Qui vivis et
 regnas cum Deo Patre in unitate Spiritus
 sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.
 R. Amen.

主イエズス、ねがわくは主の聖なる秘跡、
 をもつて、われらに神聖なる熱愛を燃えし
 めたまわんことを。そは主のみ心の甘味を
 授かりしわれらに地上の物を軽んじ、天上
 の物を重んずることを学ばしめんがためなり。
 おん父と聖霊とともに世々生きかつし
 ろしめしたもう天主よ。

▲ アーメン。

聖ペトロ 聖パウロ祭

SS. APOSTOLORUM PETRI ET PAULI

入 祭 文 Introitus



Nunc sci- o ve- re, * qui- a mi- sit Dó-
 ヌンク シ オ ヲエ レ ▲ ヲイ ア ミ スイト ド
 今ぞ 悟りたる げに。 つかわしたり、主



mi- nus An- ge- lum sú- um: et e-
 ミ ヌス アン ジエ ルム ス ウム エト エ
 その 天 使 を ば。 しかして



rí- pu- it me de má- nu He- ró- dis,
 リ プ イト メ デ マヌ ヘ ロ テイス
 救い出したまえり われをば、 ヘ ロ デ の 手



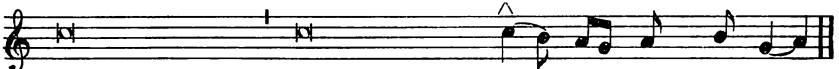
et de om- ni ex- spec- ta- ti- ó- ne plé-
 エトデ オム ニ エクスペクタ ヲイ オ ネ ヲレ
 および すべての 待 ち も う け し こ と (すなわち)



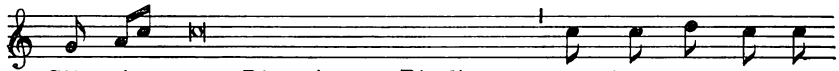
bis Ju- dæ- ó- rum. Ps. Dó- mi- ne, pro- bá- sti me,
 ビス ユ デ オ ルム ○ ド ミ ネ ヲロ バスティ メ
 ユデア人の(まちしこと) 詩. 主 よ さぐり われを



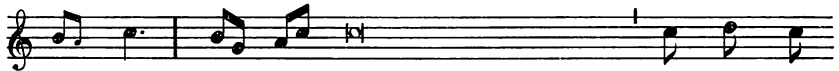
et co- gno- ví- sti me: * tu co- gno- ví- sti ses- si-
 エト コ = ヲイ スタイ メ ▲ トウ コ = ヲイ スタイ セス スイ
 また 知りたもう われを 主 知りたもう わ が



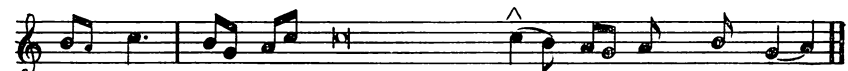
ó-nem mé-am, et re-sur-rec-ti- ó-nem mé-am.
 オネム メアム エト レスル レッツイ オネム メアム
 座すことをも わが立つことをも。



Gló-ri-a Pá-tri et Fí-li-o, et Spi-rí-tu-i
 ○ ヲリ ア パトリ エト ヲイ リオ エト スピリ トウ イ
 光榮は 父 と 子 また 聖靈とにあれ



sanc-to; * Sic-ut é-rat in prin-ci-pi-o, et nunc, et
 サンクト ▲ スイ クト エラトイン ヲリッチピオ エト ヌンク エト
 始めにありしごとく 今も



sem-per, et in sáe-cu-la sáe-cu-ló-rum. A-men.
 セム ペル エト イン セクラ セクロ ルム アメン
 いつも 世々 に しかあれかし

Oratio

集 禱 文

Deus, qui hodiernam diem Apostolorum tuorum Petri et Pauli martyrio consecrasti; da Ecclesiae tuae, eorum in omnibus sequi praecipuum, per quos religionis sumpsit exordium. Per Dominum nostrum Jesum Christum Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia saecula saeculorum. R. Amen.

天主よ、主は今日この日を主の使徒なるペトロとパウロの殉教によりて聖ならしめたまいしにより、ねがわくは主の聖会をすべてにおいて信仰の始めとなりし者の教訓に従わしめたまわんことを、主と聖靈とともに世々生きかつしろしめたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。▲ アーメン。

Epistola

書 簡

Lectio Actuum Apostolorum

使徒行録の朗読

(Act. 12, 1-11)

(徒 12, 1-11)

In diebus illis: Misit Herodes rex manus, ut affligeret quosdam de ecclesia. Occidit autem Jacobum, fratrem Joannis,

その時、ヘロデ王は(ヘロデ大王の孫なるヘロデアキリッパ)、教会のある人々を悩まさんとして手を下し、双をもつてヨハネの兄弟ヤコ

gladio. Videns autem quia placeret Judæis, apposuit, ut apprehenderet et Petrum. Erant autem dies azymorum. Quem cum apprehendisset, misit in carcerem, tradens quattuor quaternionibus militum custodiendum, volens post Pascha producere eum populo. Et Petrus quidem servabatur in carcere; oratio autem fiebat sine intermissione ab ecclesia ad Deum pro eo. Cum autem producturus eum esset Herodes, in ipsa nocte erat Petrus dormiens inter duos milites vinctus catenis duabus, et custodes ante ostium custodiebant carcerem. Et ecce Angelus Domini astitit, et lumen refulsit in habitaculo, percussoque latere Petri, excitavit eum, dicens: Surge velociter. Et ceciderunt catenæ de manibus ejus. Dixit autem Angelus ad eum: Præcingere, et calcea te caligas tuas. Et fecit sic. Et dixit illi: Circumda tibi vestimentum tuum, et sequere me. Et exiens sequebatur eum; et nesciebat quia verum est quod fiebat per Angelum; existimabat autem se visum videre. Transeuntes autem primam et secundam custodiam, venerunt ad portam ferream, quæ ducit ad civitatem; quæ ultro aperta est eis. Et exeuntes, processerunt vicum unum, et continuo discessit Angelus ab eo. Et Petrus ad se reversus, dixit: Nunc scio vere quia misit Dominus Angelum suum, et eripuit me de manu Herodis, et de omni expectatione plebis Judæorum.

R. (侍者のみ) Deo grátias.

ボを殺ししが、そがユデア人の心に適えるを見て、またペトロをも捕えたり。時は無酵麭の祭日なりしかば、これを捕えて監獄に入れ、過越の祭の後人民の前に出さん心構にて、四人組の兵卒四組にこれを守らせたり。かくてペトロは監獄に守られつつあるに、教会は頻にかれがために天主に祈りをなしいたり。さてヘロデがかれを出さんとするその前の夜、ペトロ二個の鎖に繋がれて二人の兵卒の間に眠り、看守ら門前にありて監獄を守りいたるに、折しも主の使傍に現れ、光明室内に輝きたり。天使ペトロの脇を叩きてこれを覚まし、急ぎ起きよと云いければ、鎖その手より落ちたり。天使また、なんじ帯を締めて履物を穿け、と云いしに、ペトロしかなししかば、また、上着を身に纏いてわれに随え、と云えり。ペトロ出でてこれに随いたりしが、天使よりせらるることの真なるを知らず、幻影を見る心地しいたり。さて第一第二の番所を過ぎて、市に通ずる鉄の門に至りしかば、その門自らかれらのために開け、ともに出でて一筋の街を往きしに、天使俄かにかれを去れり。その時ペトロわれに還りて主がその使を遣りてわれをヘロデの手、及びユデア人民の待ち設けしすべてのことより救出したまいたるを今ぞ真に覺りたる、と言えり。 ▲ 天主に感謝し奉る。

昇 階 唱 Graduale

Con- sti- tu- es é- os * prin- ci- pes
 コンスタイトウ エス エ オス ▲ プリンチ ペス
 (訳詞は 160 ページにある)

su- per óm- nem tér- ram:
 ス ペル オム ネム テル ラム

mé- mo- res é- runt
 メ モ レス エ ルント

nó- mi- nis tú- i, Dó- mi- ne.
 ノ ミ ニス トウ イ ド ミ ネ

V. Pro pá-
 O ヲロ パ

tri- bus tú- is ná- ti sunt
 トリ ブス トウ イス ナ タイ スント

ti- bi fi- li- i: prop- tér-
 タイ ビ タイ リョ イ ヲロフ テル

e- a pó- pu- li con- fi-
 エ ア ポ プ リョ コンファイ

te- bün- tur * tí- bi.
 テ ブン トウル ▲ テイ ビ

アレルヤ唱 Alleluja

○ Al- le- lú- ja * ij
 ▲ アレ ル ヤ (2回)

V. Tu es Pe- trus, et su- per hanc pé-
 ○ トウ エス ペ トルス エトス ペル ハンッ ペ

tram ae- di- fi- cá-
 トラム エファイカ

bo Ec- clé- si- am * me- am.
 ボ エク クレスイ アム ▲ メ アム

昇階唱訳詞

主はかれらを全地の上に長となしたまわん。かれらはみ名を思わん。主よ、祖たちに代わりて子らは主に生れたり。ゆえにもろもろの民は主に感謝しまつらん。

アレルヤ唱訳詞

アレルヤ、アレルヤ。なんじは磐なり。われこの磐の上にわが教会を建てん。アレルヤ。

Evangelium

Sequentia sancti Evangelii

secundum Matthaeum. (Mt. 16, 13-19)

In illo tempore: Venit Jesus in partes Cæsareæ Philippi, et interrogabat discipulos suos, dicens: Quem dicunt homines

福音

十 マテオ聖福音の續唱

(マテオ 16, 13-19)

その時、イエズス、フィリツポのカイザリア地方に至り、弟子たちに問いて、人々は人の子をたれなりと云うか、と曰いしか

esse filium hominis? At illi dixerunt: Alii Joannem Baptistam, alii autem Eliam, alii vero Jeremiam, aut unum ex Prophetis. Dicit illis Jesus: Vos autem quem me esse dicitis? Respondens Simon Petrus, dixit: Tu es Christus, Filius Dei vivi. Respondens autem Jesus, dixit ei: Beatus es, Simon Bar Jona! quia caro et sanguis non revelavit tibi, sed Pater meus, qui in caelis est. Et ego dico tibi: Quia tu es Petrus, et super hanc petram aedificabo ecclesiam meam, et portae inferi non praevalent adversus eam. Et tibi dabo claves regni caelorum; et quodcumque ligaveris super terram, erit ligatum et in caelis; et quodcumque solveris super terram, erit solutum et in caelis.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

ば、かれら云いけるは、ある人は洗者ヨハネなりといい、ある人はエリアなりといい、ある人はイエレミアもしくは預言者の一人なりという、と。イエズスかれらに曰いけるは、しかるになんじらはわれをたれなりというか、シモン・ペトロ答えて、なんじは生ける天主のおん子キリストなり、といいに、イエズス答えて曰いけるは、なんじは福なり、ヨナの子シモン、そはこれをなんじに示したるは血肉に非ずして、天にましますわが父なればなり。われもまたなんじに告ぐ、なんじは磐なり、われこの磐の上にわが教会を建てん。かくて地獄の門これに勝たざるべし。われなお天国の鍵をなんじに与えん、すべてなんじが地上にてつながん所は、天にてもつながるべし。またすべてなんじが地上にて解かん所は天にても解かるべし、と。

▲ キリストに光栄あらんことを。

奉 献 文 Offertorium

Con- stí- tu- es * é- os prin-
 コン スタイ トウ エス ▲ エ オス プリン
 な し た ま わ ん か れ ら を 長 と

ci- pes su- per óm- nem
 チ ペス ス ペル オム ネム
 上 に 全

tér- ram: mé- mó- res é- runt
 テル ラム メ モ レス エ ルント
 地 の (上) に か れ ら は 思 わ ん

nó- mi- nis tú- i, in
ノ ミ ニ ス ト ウ イ イ
み 名 を

óm- ni pro- gé- ni- e et ge- ne-
オム ニ ッロ ッエ ニ エ エト ッエ ネ
千 代 に 八千代に

ra- ti- ó- ne.
ラ ッイ オ ネ

Secreta

密 唱

Hostias, Domine, quas nomini tuo sacrandas offerimus, apostolica prosequatur oratio: per quam nos expiari tribuas et defendi. Per Dominum nostrum Jesum Christum, Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus.

主よ、ねがわくはわれらの主に捧げんとする犠牲を使徒たちの祈りに伴わせ、かつこれによりてわれらを贖い守りたまわんことを、主と聖霊とともに生きかつしろしめしたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

Praefatio

序 唱

Vere dignum et justum est, æquum et salutare: Te, Domine, suppliciter exorare, ut gregem tuum, Pastor æternæ, non deseras; sed per beatos Apostolos tuos, continua protectione custodias: Ut iisdem rectoribus gubernetur, quos operis tui vicarios eidem contulisti præesse pastores. Et ideo cum Angelis et Archangelis, cum Thronis et Dominationibus, cumque omni militia cœlestis exercitus, hymnum gloriæ tuæ canimus, sine fine dicentes:

げに、善かつ正しく、益ありてまた幸いなることなるかな、主につつましく願いまつるは。これ永遠の牧者なる主がその群を棄てたまわずして、かえつて聖なる使徒をもつて絶えず守りたまわんがためなり。主はみ業の代理者と牧者たるかれらに主の群を司どらしめたまえるにより、ねがわくは主の群がかれらに導かれて治められんことを。されば天使と大天使、玉座と主権、すべての天軍とともに、主のみ栄えの賛美をきわまりなく歌わん。

聖体拝領唱 Communio



Tu es Pé- trus, * et su- per hanc pé- tram æ-di-
 トウ エス ペ トルス ▲ エト ス ペル ハンク ペ トラム エディ
 なんじ ペトロ なり この 岩 の 上 に われ



fi- cá- bo Ec- clé- si- am mé- am.
 フィ カボ エククレシ アム メ アム
 建 て ん わ が 教 会 を ば。

Postcommunio

聖体拝領後の文

Quos cœlesti, Domine, alimento satiasti :
 apostolicis intercessionibus ab omni ad-
 versitate custodi. Per Dominum nostrum
 Jesum Christum, Filium tuum, qui tecum
 vivit et regnat in unitate Spiritus sancti
 Deus, per omnia sæcula sæculorum.

主よ、ねがわくは天上の糧をもつて飽か
 したまいしわれらを、使徒たちの伝達に
 よりてすべての災より守りたまわんことを
 主と聖霊とともに世々生きかつしろしめし
 たもう天主、おん子、われらの主イエズス・
 キリストによりて。

R. Amen.

▲ アーメン。

聖母被昇天祭

IN FESTO ASSUMPTIONIS B. MARIAE V.

入 祭 文 Introitus



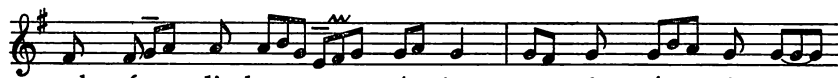
Si-gnum má-gnum * ap-pá-ru-it in caé-lo:

スイニユム マニユム▲ アッパ ルイト インチエロ
大いなるしるしあらわれたり 天に。



mú-li-er a-míc-ta só-le, et lú-na

ムリョエム アミッタ ソレ エトルナ
婦人あり、日を着たる ひとりの(婦人) また月あり



sub pé-di-bus é-jus, et in cá-pi-te

スッペチイブス エユス エトインカピテ
その足の下に。 またその頭には



é-jus co-ró-na stel-lá-rum du-ó-

エユス コロナ ステラ ルム ドウオ
十二の星の冠あり



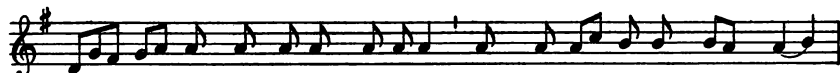
de-cim. Ps. Can-tá-te Dó-mi-no cán-ti-cum

デチュ ○ カンタテ ドミネ カンチクム
詩うたえ 主に歌を



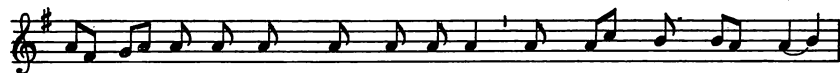
no-vum: * qui-a mi-ra-bí-li-a fé-cit.

ノヴム▲ ッイア ミラビリャア フェチ
新しき(歌) けだし 主は奇しき業をなしたればなり



Gló- ri- a Pá-tri, et Fí-li-o et Spi-ri- tu- i sanc- to.

○ ヲリ ア パ トリ エ ヲ イ リ オ エ ト ス ピ リ ト ウ イ サ ン ク ト
光 榮 は 父 と 子 ま た 聖 靈 と に あ れ



* Sic- ut é-rat in prin- cí- pi- o, et nunc, et sem- per,

▲ ス イ ク ト エ ラ ト イ ン プ リ ン チ ピ オ エ ト ヌ ン ク エ ト セ ム ペ ン
始 め に あ り し ご と く 今 も い つ も



et in saé-cu- la sæ- cu- ló- rum. A- men.

エ ト イ ン セ ク ラ セ ク ロ ル ム ア メ ン
世 々 に し か あ れ か し

Oratio

Omnipotens sempitérne Deus, qui Immaculátam Virgínam Mariam, Fílii tui Genitricem, corpore et ánima ad caeléstem glóriam assumpsísti; concéde, quaesumus: ut ad supérna semper inténti, * ipsfius glóriæ mereámur esse consórtes. Per eúmdem Dóminum nostrum Jesum Christum, Fílium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitáte Spíritus sancti Deus, per ómnia saécula sæculórum. R. Amen.

Epistola

Lectio libri Judith (13, 22-25; 15, 10.)

Benedíxit te Dóminus in virtúte sua, quia per te ad nfhilum redégit inimícos nostros. Benedícta es tu, fíliá, a Dómino Deo excélsó, præ ómnibus muliéribus super terram. Benedíctus Dóminus, qui creávit caelum et terram, qui te diréxit in vúlnera cápítis prncipis inimicórum nostrórum;

集 禱 文

おん子のおん母、原罪なき童貞マリアを肉身と靈魂共に天の榮えに昇らせたまいし全能永遠の天主、ねがわくはわれらをして常に上の事をおもんばからしめ、聖母のみ榮えに与らしめたまわんことを。主と聖靈と共に世々生きかつしめしたもう天主このおん子、われらの主イエズス・キリストによりて、▲アーメン。

書 簡

ユヂト書の朗読

(ユヂト書 13, 22-25 15, 10)

主はそのおん力もてなんじを祝したまえり、そはなんじによりてわれらの敵を滅ぼしたまいたればなり、と。またイスラエルの民なる僕なるオジア、かの女に言いけるは、娘よ、なんじは地上のすべての女に優りて、いと高き天主なる主に祝せられたり天地を造りたまひし主、なんじを導きてわ

quia hódie nomen tuum ita magnificávit,
ut non recédât laus tua de ore hóminum,
qui mémoires fúerint virtútis Dómini in
aetérnum, pro quibus non pepercísti ánimæ
tuæ propter angústias et tribulatiónem
géneris tui, sed subvenísti ruínæ ante
conspéctum Dei nostri. Tu glória Jerúsalem,
tu lætítia Israël, tu honorificéntia pópuli
nostri. R. (侍者のみ) Deo grátias.

これらの敵の將師の首級をあげしめたまいし
者はほむべきかな。そは、なんじが同族の
困苦と患難とのために、おのが生命を惜し
まずして、われらの天主のおん目の前に滅
亡を免れしめたるに對し、主今日なんじの
名をかくも大いならしめたまいしかば、な
んじの賛称人人の口に絶えずして、かれら
永久に主のおん力を記憶すべければなり。
なんじはイエルサレムの光榮、なんじはイ
スラエルの喜び、なんじはわれらの民の名
誉なり。 ▲天主に感謝しまつる。


昇階唱 Graduale



Au- di, fi- li- a, * et vi- de,
アウ テイ リ ア ▲ エト ヴァイ デ
(訳詞は 168 ページにある)




et in-clí- na
エト インクラ ナ



áu- rem (tú-) am:
アウ レム トウ アム



et con- cu- pí- scet rex pul-
エト コン クピ シエト レクス プル



chri- tú- di- nem (tú-) am.
クリ トウ テイ ネム トウ アム



V. *Tó* ta
 ○ ト タ



de-có-ra in-gré-di-tur fi-li-a
 デ コ ラ イン グレ イ トウ ア フイ リ ア



ré-gis, tex-tú-rae áu-re-ae
 ヲ ジ ス テ ク ス トウ レ ア ッ レ エ



sunt a-mic-tus
 ス ント ア ミ ッ トウ ス



* *é-jus.*
 ▲ エ ユ ス

アレルヤ唱 Alleluja



○ *Al-le-lú-ja* * *ij.*
 ▲ ア レ ル ヤ (2回)



V. *As-súmp-ta*
 ○ ア ス ス ム プ タ

est Ma- ri- a in cae- lum: gau-
エスト マ リ アイェ ル ユ ガッ

det ex- ér- ci- tus * An- ge-
デト エク セル チ トウス▲ アン ジエ

rum.
ル ユ

昇階唱訳詞

きけよ娘、見よなんじが耳を傾けよ、王なんじが美しさを慕わん。王の娘はいとうるわしく歩み入り、その衣は黄金もて織りなせり。

アレルヤ唱訳詞

アレルヤ、アレルヤ。マリアは天に昇らされたまえり。天使の群衆は喜びまつる。アレルヤ。

Evangelium

Sequentia sancti Evangelii
secundum Lucam (1, 41-50.)

In illo témpore: Repléta est Spíritu sancto Elísabeth et exclamávit voce magna, et dixit: Benedícta tu inter mulferes, et benedíctus fructus ventris tui. Et unde hoc mihi ut véniat mater Dómini mei ad me? Ecce enim ut facta est vox salutatiónis tuæ in áuribus meis, exsultávit in gáudio infans in útero meo. Et beáta, quæ credidisti, quóniam perficiéntur ea, quæ dícta sunt tibi a Dómino. Et ait María: Magníficat ánima mea Dóminum; et exsultávit spíritus meus in Deo salutári meo; quia respéxit humilitátem ancillæ suæ, ecce enim ex hoc beátam me dicent

福音

十 ルカ聖福音の続唱 (ルカ 1, 41-50)

その時、エリザベトは聖靈に満たされ、声高く呼ばわりて云いけるは、なんじは女の中にて祝せられたり、ご胎内のおん子も祝せられたもう。われなにによりてわが主の母の来臨を辱うしたるぞ。そもそもなんじが挨拶の声わが耳に響くや、子喜びてわが胎内におどれり。幸いなるかな信ぜし者。この主より云われしことかならず成就すべければなり、と。マリア云いけるは、わが魂主を崇めまつり、わが精神わが救い主にてまします天主によりて喜びにたえず、そはその御召使のいやしきをかえりみたまいたればなり。げだしみよ今より万ず代までも

omnes generatiōnes. Quia fecit mihi magna
qui potens est, et sanctum nomen ejus, et
misericōrdia ejus a progēnie in progēnies
timētibus eum.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

人われを幸いなる者となえん、全能にて
まします者、われに大事をなしたまいたれ
はなり。聖なるかなそのみ名。その哀れみ
は代々これをおそる人々の上にある、と。
▲キリストに賛美あらんことを。

奉 獻 文 Offertorium

I- ni- mi- ci- ti- as * pó- nam in- ter
イ ニ ミ チ ッ イ ア ス ▲ ポ ナ ム イ ャ テ ャ
仇 たらしめん 間に

te et mu- lí- e- rem,
テ エ ト ム リ° エ レ ャ
なんじ と 女 と の (間)

et sé- men tú- um et sé- men
エ ト セ メ ャ ト ウ ウ ャ エ ト セ メ ャ
および なんじのすえ と女のすえとの(間に)

il- lí- us.
イ リ° ウ ス

Secreta

密 唱

Ascēdat ad te, Dómine, nostræ de-
votiōnis oblátio, et, beatíssima Vírgine
María in cælum assúpta intercedēte,
corda nostra, caritátis igne succensa, ad te
júgiter adspírent. Per Dóminum nostrum
Jesum Christum, Fílium tuum, qui tecum
vivit et regnat in unitáte Spíritus sancti
Deus.

主よ、ねがわくはわれらの信心の犠牲が
主に昇らんことを、また天に上げられたま
いしいと栄福にして童貞なるマリアのおん
とりなしによりてわれらの心が愛の火に燃
やされて、常に主を慕わんことを。主と聖
霊と共にいきかつしろしめしたもう天主、
おん子、われらの主イエズス・キリストに
よりて。

Praefatio

序 唱

Vere dignum et justum est, æquum et salutare, nos tibi semper et ubique gratias agere, Domine sancte, Pater omnipotens, æterne Deus: Et te in Assumptione beatæ Mariæ semper Virginis collaudare, benedicere et prædicare. Quæ et Unigenitum tuum sancti Spiritus obumbratione concepit, et virginitatis gloria permanente, Lumen æternum mundo effudit, Jesum Christum Dominum nostrum. Per quem majestatem tuam laudant Angeli, adorant Dominationes, tremunt Potestates. Cœli cœlorumque Virtutes ac beata Seraphim, socia exultatione concelebrant. Cum quibus et nostras voces, ut admitti jubeas deprecamur, supplicii confessione dicentes:

げに、ふさわしくかつ正しく、なおくしてまたよきことなるかな。いつれの時にてもいつれの処にても主に感謝し、かつ終生童貞栄福なるマリアの被昇天において主を崇め、祝し、賛美し奉るは。聖なる主、全能の父永遠の天主よ、聖母は聖霊の能力におおわれて、主のおん独子を宿したまい、童貞の栄えをそこなうことなくして、永遠の光りなるわれらの主イエズス・キリストをこの世に生みたまえり。かれ(御子)によりて天使は主の偉大なるを賛美し、主権は拝礼し、能力は震い、天と天の勢力と、栄福なるセラフイムとはひとしく喜びて主を祝しまつる。願わくはかれらにわれらの声を交えしめたまえ。さればわれらはつつましき賛美をもつて歌わん。

聖 体 拝 領 唱 Communio



Be- á- tam me dí- cent * óm- nes ge- ne-
 ベ ア タム メ タイ チェント ▲ オム ネス ジエ ネ
 幸いなる者と われを 人となえん よ ろ ず 代



ra- ti- ó- nes, qui- a fé- cit mí- hi ma-
 ラ ッイ オ ネス ヲイ ア フエ チト ミ ヒ マ
 ま で。 そは なしたればなり われに 大



gna qui pó- tens est.
 =ヤ ヲイ ポ テンス エスト
 事を 全能にてまします者は。

Postcommunio

聖体拝領後の文

Sumptis, Domine, salutaribus sacramentis, da, quaesumus, ut, meritis et intercessionem Beatæ Virginis Mariæ in cælum assumptæ, ad resurrectionis gloriam perducamur. Per Dñm nostrum Jesum Christum, Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus per omnia saecula saeculorum. R. Amen.

主よ、救霊の秘跡を受けたるわれらは願いまつる、ねがわくは天に上げられたまいし童貞聖マリアのおん功德とおんとりなしによりてわれらを復活の光栄にあずからしめたまわんことを。主と聖霊とともに生きかつしろしめたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

▲アーメン。

聖母マリア汚れなきみ心祭

IN FESTO IMMACULATI CORDIS B. M. V.

入 祭 文 Introitus



Ad-e-á-mus * cum fi-dú-ci-a ad thro-

ア デ ア ムス ▲ クム ヲイ フウ チ ア ア フ トロ

われらは至りまつるべし はばかりなく 玉座に



num grá-ti-æ, ut mi-se-ri-cór-di-am con-se-

ヌ ヌ ヲラ ヲイ エ ウト ミ セ リ コル テイ ア ム コン セ

恵みの(玉座に) 慈悲を こうむ




quá-mur, et grá-tí-am in-ve-ni-á-mus in

クア ムン エト ヲラ ヲイ ア ム イン ヲエ ニア ムス イン

らんため また 恵みを見出さんため



au- xi- li- o op- por- tú- no.
 アッ クス イ リ オ オッ ポ ヌ トウ ノ
 適 切 な る 助 け と な る べ き (恵 み を)



T. P. Al- le- lú- ja, al- le- lí- ja.
 (復活節) ア レ ル ヤ ア レ ル ヤ



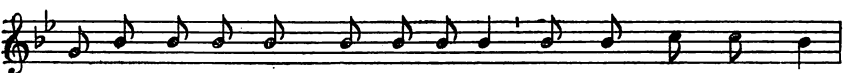
Ps. E- ruc- tá- vit cor mé- um vér- bum bó- num *
 ○ エ ル ッ タ ヴ イ ト コ ヌ メ ウ ム ヲ エ ヌ ブ ム ボ ヌ ム ▲
 詩 あ ふ れ 出 せ り わ が 心 は よ き 言 葉 を



dí- co é- go ó- pe- ra mé- a ré- gi.
 シ イ コ エ ゴ オ ペ ラ メ ア レ ジ
 告 げ 捧 げ ん わ れ は わ が わ ざ を 王 に



Gló- ri- a Pá- tri, et Fí- li- o, et Spi- rí- tu- i sanc- to.
 ○ グ ロ リ ア パ ト リ エ ト ヲ イ リ オ エ ト ス ピ リ ト ウ イ サ ン ク ト
 光 栄 は 父 と 子 ま た 聖 霊 と に あ れ



* Sic- ut é- rat in prin- cí- pi- o, et nunc, et sem- per.
 ▲ シ イ ク ト エ ラ ト イ ン プ リ ン チ ピ オ エ ト ヌ ッ ク エ ト セ ム ベ ン
 始 め に あ り し ご と く 今 も い つ も



et in saé- cu- la sae- cu- ló- rum. A- men.
 エ ト イ ン セ ク ラ セ ク ロ ル ム ア メ ン
 世 世 に し か あ れ か し

Oratio

集 禱 文

Omnípotens sempitérne Deus, qui in Corde beátæ Mariæ Virginis dignum Spíritus sancti habitáculum præparásti: concéde propítius; ut ejúsdem immaculáti Cordis festivitátem devóta mente recoléntes, * secúndum Cor tuum vívere valeámus. Per Dóminum nostrum Jesum Christum, Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitáte ejúsdem Spíritus sancti Deus per ómnia sæcula sæculórum.

R. Amen.

全能永遠の天主、童貞聖マリアのみ心においてふさわしき聖靈の住み家を備えたまひしにより、ねがわくはその無原罪の御心の祝日をうやうやしく行いまつるわれらをして、おんいつくしみをもつて主のみ心にあやかりて生活するを得しめたまわんことを。主とこの聖靈とともに世々生きかつしろしめたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。▲ アメン。

Epistola

書 簡

Lectio libri Sapientiae

(Eccli. 24, 23-31.)

智書の朗讀 (集會書 24, 23-31)

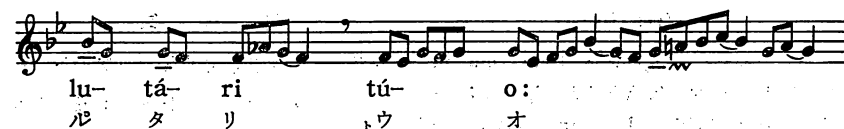
Ego quasi vitis fructificávi suavitátem odóris: et flores mei, fructus honóris et honestátis. Ego mater pulchræ dilectiónis, et timóris, et agnitiónis, et sanctæ spei. In me grátia omnis viæ et veritátis: in me omnis spes vitæ et virtútis. Transíte ad me omnes qui concupiscitis me, et a generatióibus meis implémini. Spíritus enim meus super mel dulcis, et heréditas mea super mel et favum. Memória mea in generatióes sæculórum. Qui edunt me, adhuc esúrient: et qui bibunt me, adhuc sítient. Qui audit me, non confundétur: et qui operántur in me, non peccábunt. Qui elúcidant me, vitam ætérnam habébunt. R. (侍者のみ) Deo grátias.

われはぶどうの木のごどく、こうばしきかおりを放ちて茂り、わが花は誉ある正義の果なり。われはうるわしき愛と敬畏と智識と聖なる希望との母なり。道と真実との総ての恩恵はわれにあり。生命と徳とのすべての希望はわれにあり。なんじらすべてわれを望む者われに來れ、わが果によりて飽かされよ。そはわが精神は蜜にもまさりて甘く、わが家督は蜜と蜂の巢の滴りともいやさまればなり。わが記念は世々に至るわれを喰う者はまた飢え、われを飲む者はまた渴かん。われにきく者は恥あらざらんわれにおいて働く者は罪を犯さじ、われを輝かしむる者は永遠の生命を有せん。

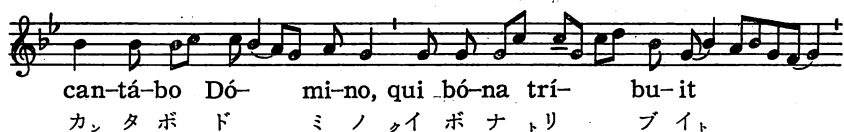
▲ 天主に感謝しまつる。

昇 階 唱 Graduale

Ex-sul-tá-bit * cor mé-um in sa-
 エクス スル タ ビト▲ コル メ ウム イッサ



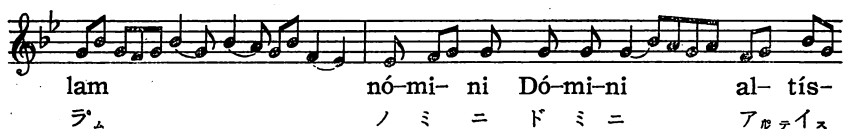
lu- tá- ri tú- o:
ル タ リ トウ オ



can-tá-bo Dó- mi-no, qui bó-na trí- bu-it
カン タ ボ ド ミ ノ ヱ イ ボ ナ ト リ ブ イ ト



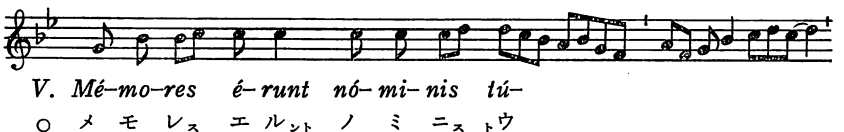
mí- hi: et psál-
ミ ヒ エ ト ヲ サ ル



lam nó-mi-ni Dó-mi-ni al-tis-
ラム ノ ミ ニ ド ミ ニ ア ル テ イ ス



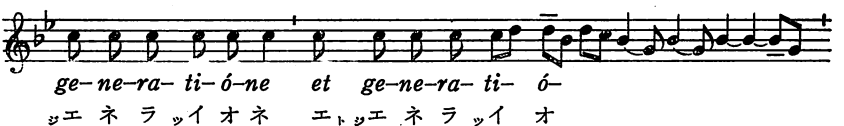
si- mi.
ス イ ミ



V. Mé-mo-res é-runt nó-mi-nis tú-
オ メ モ レ ス エ ル ヲ ト ノ ミ ニ ス ト ウ



i in óm- ni
イ イ ヲ ム ニ



ge-ne-ra-ti-ó-ne et ge-ne-ra-ti-ó-
ヱ エ ネ ラ ヱ イ オ ネ エ ト ヱ エ ネ ラ ヱ イ オ



nem: prop- tēr- e- a pó- pu- li con-
 ネム ヲロフ テレ ア ポ プリ コ



fi- te- bún- tur tt- bi
 フイ テ ブン トウナ ヲイ ビ

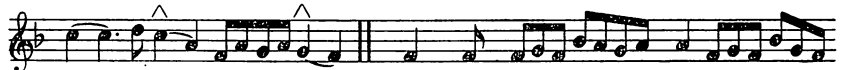


* in æ- tēr- num.
 ▲ イン エ テルヌ ヌム

アレルヤ唱 Alleluja



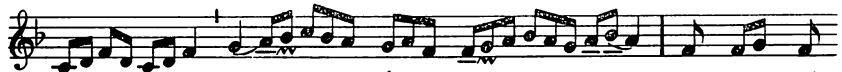
○ Al-le-lú- ja * ij.
 ▲ アレ ル ヤ (2回)
 (訳詞は176ページにある)



V. Ma- gni- fi- cat
 ○ マ イ フイ カト



á- ni- ma mé- a Dó-
 ア ニ マ メ ア ド



mi- num et ex- sul-
 ミ ヌム エト エクス ス



tá- vit
 タ ヴイト

spi- ri- tus me- us in De- o
 スピ リトウス メ ウス イン デ オ

* sa- lu- tá- ri mé- o.
 ▲ サ ル タ リ メ オ

昇階唱訳詞

アレルヤ唱訳詞

わが心は主の救世において喜び勇む、われ善をわれに与えたまいし主に歌わん。いと高き主のみ名に詩を歌わん。かれらはみ名を万ず代におもわん、このゆえにもろもろの民永遠に主に感謝しまつらん。

アレルヤ、アレルヤ。わが魂主を崇めまつり、わが精神わが救い主にてまします天主によりて喜びにたえず、アレルヤ。

Evangelium

福音

Sequentia sancti Evangelii secundum

十 ヨハネ聖福音の続唱

Joannem (Joan. 19, 25-27.)

(ヨハネ 19, 25-27)

In illo tempore: Stabant juxta crucem Jesu mater ejus, et soror matris ejus Maria Cléophæ, et Maria Magdaléne. Cum vidisset ergo Jesus matrem, et discipulum stantem, quem diligébat, dicit matri suæ: Múlier, ecce filius tuus. Deínde dicit discipulo: Ecce mater tua. Et ex illa hora accépit eam discipulus in sua.

その時、イエスの十字架のかたわらにその母と母の姉妹、すなわちクレオファの妻マリアと、マグダレナマリアと立ちてありしがイエスその母の愛せる弟子との立てるを見たまいて母に向かい、婦人よ、これなんじの子なりとのたまひ、次に弟子に向いて、これなんじの母なりとのたまひければ、この時よりその弟子イエスの母をわが家に引き取りたり。

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

▲ キリストに賛美あらんことを。

奉獻文 Offertorium

Ex-sul- tá- vit * spi- ri- tus mé- us
 エクス ス タ ヴ ァ イ ト ス ピ リ ト ウ ス メ ウ ス
 喜びにたえずわが精神



in Dé- o sa- lu- tá-ri mé- o,
 イン デ オ サ ル タ リ メ オ
 天 主 わ が 救 い 主 に よ り て。



quí- a fé- cit mí- hi má- gna qui pót- ens
 ッイ ア ッエ チト ミヒ マニヤ ッイ ポ テンス
 そは なしたればなり われに 大事を。 全能にてましま



est, et sanc- tum nó- men é- jus.
 エスト エト サンク トウム ノ メン エ ヌス
 す者 聖 なる かな その み 名



T. P. Al- le- lú- ja.
 ア ル レ ル ヤ
 (復活節) 主 を 賛 美 せ よ。

Secreta

密 唱

Majestáti tuæ, Dómine, Agnum im-
 maculátum offeréntes, quaésumus: ut corda
 nostra ignis ille divínus accéndat, qui Cor
 beátæ Mariæ Vírginis ineffábiliter inflam-
 mávit. Per eúndem Dóminum nostrum
 Jesum Christum Fílium tuum, qui tecum
 vivit et regnat in unitáte Spíritus sancti
 Deus.

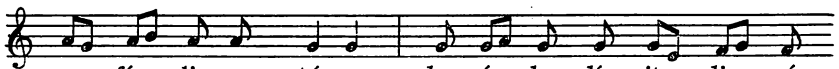
主よ、われらはみいつ汚れなき羊を捧げ
 て祈りまつる、願わくは聖マリアのみ心を
 奇しく燃やせし神聖なる火をば、わが心にも
 燃えしめたまわんことを。主と聖霊と共に
 世々生きかつしろしめしたもう天主、こ
 のおん子、われらの主イエズス・キリスト
 によりて。

序唱 (Praefatio) 聖母被昇天祭のと同じ 170 (ページ) ただしその中にある “被昇天
 (in Assumptione)” の代わりに “祝い (in Festivitate)” とする。

聖体拝領誦 Communion



Di- xit Jé- sus má- tri sú- ae: * Mú- li- er, ec-
 デイ クスイト イエ スス マトリ スエ ▲ ム ヴ エル エツ
 のたまえり イエズス その 母 に 婦 人 よ み



ce fí- li- us tú- us: de- ín- de dí- xit dí- scí-
 フェ ヲイ ヴィ ウス トウ ウス デ イン デ デイ クスイ デイ シ
 よ なんじの子なり。 次ぎに のたまえり でし



pu- lo: Ec- ce má- ter tú- a. Et ex íl- la
 プ ロ エッ フェ マ テルトウ ア エト エクス イル ラ
 に 見 よ なんじの母なり その 時



hó- ra ac- cé- pit é- am dí- scí- pu- lus in sú- a.
 ホ ラ アッチェ ピト エ アム デイ シ プ ルス イン ス ア
 より かの女を引き取りたり 弟子は わが家に



T. P. Al- le- lú- já.
 (復活節) アレルレ ヤ

Postcommunio

聖体拝領後の文

Divinis refécti munéribus te, Dómine, suppliciter exorámus; ut beáte Maríe Virgínis intercessióne, cujus immaculáti Cordis solénnia venerándo égimus, a præséntibus periculis liberáti, aetérnae vitæ gáudia consequámur. Per Dóminum nostrum Jesum Christum Fílium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitáte Spíritus sancti Deus, per ómnia saécula saeculórum.

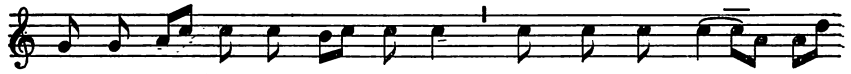
R. Amen.

主よ、神聖なるものに回復されしわれらは主にひたすら祈りまつる、願わくは童貞聖マリアのおんとりなしによりて、その無原罪のみ心の祝いをつつしみて行ないしわれらを現在の危険より救い、かつ永遠の生命の喜びに至らしめたまわんことを。主と聖霊と共に世々生きかつしろしめたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。 ▲アーメン。

大天使聖ミカエル祭

IN DEDICATIONE S. MICHAELIS ARCHANGELI

入 祭 文 Introitus



Be- ne- dí- ci- te Dó- mi- num * óm- nes An- ge- li
 ベ ネ ヱイ チ テ ド ミ ヌム ▲ オム ネス アンジェ リ
 祝いまつれ 主をば すべて の 主 の 天



é- jus: pot- én- tes vir- tú- te, qui fá-
 エ ヌス ポ テン テス ヴイル トウ テ ヱイ ッア
 使 よ。 ますらおなる 主の



ci- tis vér- bum é- jus, ad au- di- én- dam
 チ テイス ヴエル ブム エ ヌス アド アウディ エンダム
 み言葉をな行く者よ。 聞かんためなり、



vó- cem ser- mó- num é- jus. Ps. Bé- ne-
 ヴオ チェム セル モ ヌム エ ヌス ○ ペ ネ
 声 を 主 の み 言 葉 の (声 を)。 詩 祝いま



dic, á- ni- ma mé- a, Dó- mi- no: * et óm- ni- a
 ヱイッア ニマ メアド ミノ ▲ エト オム ニア
 つれわが魂 主をば またすべて



quæ in- tra me sunt, nó- mi- ni sanc- to é- jus.
 ヱエイントラ メ スト ノ ミ ニ サンクト エ ヌス
 わが中にあるものよ そのみ名を

Gló-ri- a Pa-tri, et Fí-li-o, et Spi-ri-tu- i
 ○ グロ リ ア パトリ エト、フィリオ エト、スピリトウイ
 光榮あれ 父 と 子 また 聖 靈 と

sanc-to. * Sic ut é-rat in prin-cí-pi-o et nunc, et
 サント ▲ スイク、エラ、インプリシピオ エト、ヌク エト
 に 始めにありしごとく 今も

sem-per et in sae-cu-la sae-cu-ló-rum. A-men.
 セム ペル エト イン セクラ セク ポ ルム ア メン
 いつも 世 世に しかあれかし

Oratio

集 禱 文

Deus, qui miro ordine, Angelorum ministeria hominumque dispensas; concede propitius, ut a quibus tibi ministrantibus in caelo semper assistitur, ab his in terra vita nostra muniatur. Per Dominum nostrum Jesum Christum Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia saecula saeculorum. R. Amen.

くすしき秩序によりて天使たちと人間との本分をわかち与えたもう天主。ねがわくはおん慈悲によりて、天において常に主に仕えみ前に立つ者をして、この世においてわれらの生涯を守らしめたまわんことを、主と聖靈と共に世々生きかつしろしめしたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。▲アーメン。

Epistola

書 簡

Lectio libri Apocalypsis beati Joannis Apostoli. (Ap. 1, 1-5)

使徒聖ヨハネ黙示録の朗読 (黙 1, 1-5)

In diebus illis: Significavit Deus, que oportet fieri cito, mittens per Angelum suum servo suo Joanni, qui testimonium perhibuit verbo Dei, et testimonium Jesu Christi, quaecumque vidit. Beatus qui legit

その時、天主はかならず速かなるべきことをその使を遣わしてそのしもべヨハネに示したまい、ヨハネは天主のおん言葉を証し、またイエズス・キリストの証明したまいしこと、すべておのが目撃せしことを証

et audit verba prophetiæ hujus et servat
 ea quæ in ea scripta sunt! Tempus enim
 prope est. Joannes septem ecclesiis que
 sunt in Asia. Gratia vobis et pax ab eo
 qui est et qui erat, et qui venturus est;
 et a septem spiritibus qui in conspectu
 throni ejus sunt, et a Jesu Christo, qui
 est testis fidelis, primogenitus mortuorum
 et princeps regum terræ, qui dilexit nos,
 et lavit nos a peccatis nostris in sanguine
 suo. R (侍者のみ) Deo grátias.

したるものなり。この預言の言葉を読みか
 つ聞いて、これにしるしたることを守る人
 は福なり、そは時近ければなり。ヨハネ小
 アジアにある七教会に書簡を贈る。ねがわ
 くは現にありし、かつてありし、かつ来た
 りたもうべきものより、またその玉座の前
 にある七霊より、またイエズス・キリスト
 より恩恵と平安とをなんじらに賜わらんこ
 とを。すなわちイエズス・キリストは忠実
 なる証者、死者の中より先だちて生まれた
 まいしもの、地上の王たちの君にましまし
 われらを愛したまい、おん血をもつてわれ
 らを罪より清めたまいしなり。

▲ 天主に感謝しまつる。

昇 階 唱 Graduale



Be-ne-dí-ci-te *Dó-mi-num
 ベネ デイ チ テ ▲ ド ミ ヌム

(訳詞は183ページある)



óm-nes An-ge-li é- jus:
 オム ネス アンジェリ エ ユス



pot-én-tes vir-tú-
 ポ テン テス ヴィル トゥ



te, qui fá-ci-tis ver-
 テ クイ ファ チ ヲイス ヴァエル



bum é- jus.

ブム エ ユス



V. Bé-ne-dic, á-ni-ma mé-a, Dó-mi-

○ ベネディク アニマメアドミ



num, et óm-ni-

ヌム エト オムニ



a in-te-ri-ó-ra mé-

アインテリオラメ



a, nó-men

ア ノメン



sánc-

サンク



tum * é- jus.

トウム ▲ エ ユス

アレルヤ唱 Alleluja



○ Al-le- lú- ja * ij

▲ アレ ル ヤ (2回)

(訳詞はこのページの下段にある)



V. Sánc- te Mí- cha-

○ サンク テ ミ カ



el Ar- chán- ge- le, de- fén- de nos in
エ ル ア カン ッ エ レ デ ヱ エ ン デ ノ ス イン



praé- li- o: ut non per- e- á-
プレ リ オ ウ ト ノ ン ペ レ ア



mus in tre- mén- do * ju- dí- ci- o.
ム ス イン トレ メ ン ド ▲ ユ デ イ チ オ



昇階唱訳詞

主の使たちよ、こぞりて主を祝したてまつれ、そのみ言葉を行なう勇者よ。わが魂よ、主をことほげ。わが中にあるすべてのものよ、その聖なるみ名をほぎまつれ。

アレルヤ唱訳詞

アレルヤ、アレルヤ。大天使聖ミカエルよ、戦いの中にわれを守りたまえ。おそるべき審判において滅びざらんためなり、アレルヤ。

Evangelium

*Sequentia sancti Evangelii**secundum Matthaeum (Mat. 18, 1-10)*

In illo tempore: Accesserunt discipuli ad Jesum, dicentes: Quis, putas, major est in regno cœlorum? Et advocans Jesus parvulum, statuit eum in medio eorum, et dixit: Amen dico vobis: Nisi conversi fueritis, et efficiamini sicut parvuli, non intrabitis in regnum cœlorum. Quicumque ergo humiliaverit se sicut parvulus iste, hic est major in regno cœlorum. Et qui susceperit unum parvulum talem in nomine meo, me suscipit. Qui autem scandalizaverit unum de pusillis istis qui in me credunt, expedit ei ut suspendatur mola asinaria in collo ejus, et demergatur in profundum maris. Væ mundo a scandalis! Necesse est enim ut veniant scandala; verumtamen vae homini illi per quem scandalum venit. Si autem manus tua vel pes tuus scandalizat te, abscide eum et projice abs te: bonum tibi est ad vitam ingredi debilem vel claudum, quam duas manus vel duos pedes habentem mitti in ignem æternum. Et si oculus tuus scandalizat te, erue eum, et projice abs te: bonum tibi est cum uno oculo in vitam intrare, quam duos oculos habentem, mitti in gehennam ignis. Videte ne contemnatis unum ex his pusillis: dico enim vobis, quia Angeli eorum in cœlis semper vident faciem Patris mei, qui in cœlis est.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

福音

十 マテオ聖福音続唱

(マテオ 18, 1-10)

その時、弟子たちイエズスに近づきて云いけるは、天国にて大なる者は誰なりと思いたもうか、と。イエズス一人の幼子を召寄せかれらの真中に立たせてのたまひけるは、われ誠になんじに告ぐ、なんじらもしひるがえりて幼子のごとくに成らずば天国に入らざるべし、さればすべてこの幼子のごとくみずから謙下る人は天国にて大なる者なり、またわが名のためにかくのごとき一人の幼子をうくる人は、われをうくる者なり。されどわれを信ずるこのいと小さき者の一人を躓かす人は、ろ馬のひきうすを首にかけられ、海の深みに沈めらるるこそかれに益あるなれ。つまづきあるがために世は禍いなるかな。つまづきは来たらざるを得ざれども、つまづきを来たす人は禍いなるかな。さればもしなんじの手あるいは足なんじをつまづかずならば、これを切りて棄てよ、片手あるいは片足にて生命に入るは両手あるいは、両足ありて永遠の火に投げ入れらるるより、なんじに取りてまされり。またもしなんじの目なんじをつまづかずならば、これをえぐりて棄てよ、片目にて生命に入るは、両眼ありて地獄の火に投入れらるるより、なんじにとりてまされり。なんじらつつしみて、このいと小さき者の一人をも軽んずることなかれ。われなんじらに告ぐ、かれらの天使らにありて、天にましますわが父のおん顔を常に見るなり、と。

▲ キリストに光榮あらんことを。

奉 献 文 Offertorium



Sté- tit * An- ge- lus
ステイト ▲ アンジェルス
立 て り 天 使 は

jux-ta á- ram tém- pli,
ユクタ ア ラム テム プリ
聖殿の祭壇のかたわらに。

há- bens thu- rí- bu- lum áu-
ハベンス トウリブ ルム アウ
持 て り 香 炉 黄

re- um in má- nu sú- a:
レウム イン マヌ スア
金 の (香 炉) を そ の 手 に。

et dá- ta sunt é- i in- cén- sa múl- ta:
エト ダタ スント エ イ インチエンサムルタ
与えられたり かれに 多量の香料は。

et á- scén-
エト アシエン
昇り行けり

dit fú- mus a-
フイト フムス ア
煙 り かんば

ró- ma- tum in con- spéc- tu Dé- i, al-
 ロ マ トウ ヲ イ ン コ ン スペ ク ト ウ デ イ ア
 香の(煙り) 主のみ前に。主

le- lú- ja.
 レ ル ヤ
 を 賛 美 せ よ

Secreta

密 唱

Hostias tibi, Domine, laudis offerimus, suppliciter deprecantes: ut easdem, angelico pro nobis interveniente suffragio, et placatus accipias, et ad salutem nostram provenire concedas. Per Dominum nostrum Jesum Christum, Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus.

主よ、われらは主に賛美のいけにえを献げてひたすら願いたてまつる。天使たちのとりなしによりなだめられてこれを受け入れたまわんことを、主と聖霊と共に生きかつしろしめしたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

Praefatio (communis)

序 唱

Vere dignum et justum est, æquum et salutare, nos tibi semper et ubique gratias agere: Domine sancte, Pater omnipotens, æterne Deus, per Christum Dominum nostrum. Per quem majestatem tuam laudant Angeli, adorant Dominationes, tremunt Potestates. Cœli cœlorumque Virtutes ac beata Seraphim, socia exultatione concelebrant. Cum quibus et nostras voces, ut admitti jubeas, deprecamur, supplicii confessione dicentes:

げに、善くかつ正しく、益ありてまた福なることなるかな、われらの主キリストによりていつれの時にても、いつれの所にて主に感謝したてまつるは。聖なる主、全能の父、永遠の天主よ。かれによりて天使は主の偉大なるを賛美し、主権は拝礼し、能力はふるえるなり。天と天の勢力と、福なるセラフイムはこぞりて主をたたえ喜ぶなり。ねがわくはかれらにわれらの声をも交えしめたまえ。さればわれらつつましき賛美をもつて歌わん。

聖体拝領唱 Communion



Be- ne- di- ci- te, * óm-nes An- ge- li Dó-
 ベ ネ イ チ テ ▲ オム ネス アン ジエ リ ド
 祝 した て ま つ れ なべての 主の 天使よ



mi- ni Dó- mi- num: hym-num dí- ci- te,
 ミ ニ ド ミ ヌム ヒュ ヌム イ チ テ
 主 を ば。 賛 歌 う た い



et su- per- ex- al- tá- te é- um
 エ ト ス ペ レ ヅ サ ル タ テ エ ウム
 また 高 ら か に ほ め よ、 主 を ば



in saé- cu- la.
 イン セ ク ラ
 世 々 に。

Postcommunio

聖体拝領後の文

Beati Archangeli tui Michaelis interces-
 sione suffulti, supplices te, Domine,
 deprecamur, ut quod ore prosequimur,
 confingamus et mente. Per Dominum no-
 strum Jesum Christum Filium tuum, qui
 tecum vivit et regnat in unitate Spiritus
 sancti Deus, per omnia saecula saeculorum.

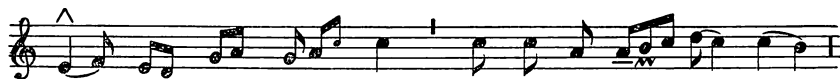
R. Amen.

主の大天使聖ミカエルのとりなしにより
 すがりてわれらひたすら主に願いまつる。
 願わくはわれらの口にて受けまつりしもの
 を心にも受けしめたまわんことを、主と聖
 霊と共に世々生きかつしろしめしたもう天
 主、おん子、われらの主イエズス・キリス
 トによりて。▲アーメン。

王たるキリスト祭

IN FESTO CHRISTI REGIS

入 祭 文 Introitus



Di- gnus est A- gnus, * qui oc- cí- sus est,

ダイ ニユス エスト ア ニユス ▲ ヲイ オツチ スス エスト
ふさわしけり 小 羊、 ほふられし(小羊)は



ac- cí- pe- re vir- tú- tem, et di- vi- ni-

アツチ ペ レ ヲイ ス トウ テム エト ダイ ヲイ ニ
受くるに。(すなわち)権 威 また 神 性



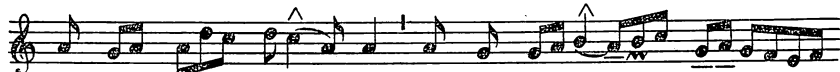
tá- tem, et sa- pi- én- ti- am, et for- ti-

タ テム エト サ ピ エン ヲイ アム エト フォル テイ
また 鋭 智 また 能 力



tú- di- nem, et ho- nó- rem.

トウ ダイ ネム エト ホ ノ レム
また 尊 貴 と を。



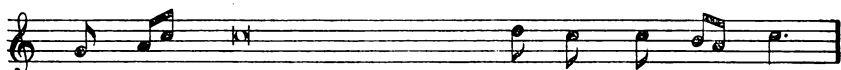
Ip- si gló- ri- a et im- pé- ri-

イプサイ グロ リ ア エト イム ペ リ
これに 光 栄 また 権 威 あ れ



um in saé- cu- la sæ- cu- ló- rum.

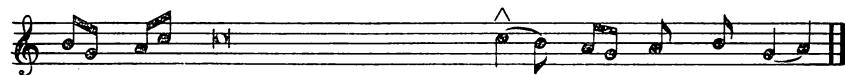
ウム イン セ ク ラ セ ク ロ ルム
世 世 に



Ps. Dé- us, ju- dí- ci- um tú- um Ré- gi da, *

○ デ ウス ユ ヲイ チ ウム トウ ウム レ ジ ダ ▲

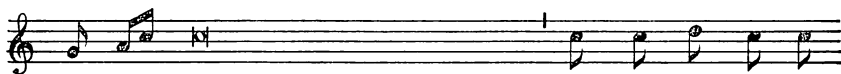
詩. 天主よ、 なんじの審判権を 王に与え



et ju- stí- ti- am tu- am Fí- lí- o Ré- gis.

エト ユ ステイ ヲイ アム トウ アム ヲイ リ オ レ ジス

しかして なんじの正義をも 王 子 に。



Gló- ri- a Pá- tri, et Fí- lí- o,

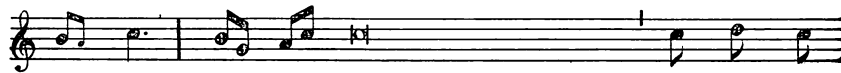
グロ リ ア パ トリ エト ヲイ リ オ

光 栄 あ れ 父 と 子

et Spi- rí- tu- i

エト スピ リ トウ イ

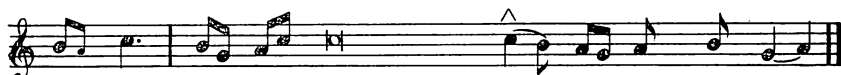
ま た 聖 霊 と に



sanc- to, * Sic- ut é- rat in prin- cí- pi- o, et nunc, et

サンクト ▲ スイ クト エラト イン プリン チ ピ オ エト ヌンク エト

始 め に あ り し ご と く 今 も



sem- per, et in saé- cu- la saé- cu- ló- rum. A- men.

セム ペ エト イン セ ク ラ セ ク ロ ルム ア メン

い つ も 世 々 に しかあれかし

Oratio

集 禱 文

Omnipotens sempitérne Deus, qui in dilecto Filio tuo, universorum Rege, omnia instaurare voluisti: concede propitius, ut cuncte familiæ gentium, vulnere peccati disgregatæ, ejus suavissimo subdantur imperio. Qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

R. Amen.

全能永遠の天主、主はその愛したもうよろずよに王たるおん子において一切を改めたもう思召しなるがゆえに、願わくはおん慈悲によりて罪の傷に悩まされる諸民をばおん子のもつとも甘味なる権威に従わしめたまわんことを。かれは主と聖霊と共に世々生きかつしろしめたもう天主にてまします。▲アーメン。

Epistola

Lectio Epistolae beati Pauli Apostoli
ad Colossenses (Col. 1, 12-20)

Frates: Gratias agimus Deo Patri, qui dignos nos fecit in partem sortis sanctorum in lumine, qui eripuit nos de potestate tenebrarum et transtulit in regnum Filii dilectionis suae, in quo habemus redemptionem per sanguinem ejus, remissionem peccatorum. Qui est imago Dei invisibilis, primogenitus omnis creaturae: quoniam in ipso condita sunt universa in caelis et in terra, visibilia et invisibilia: sive throni sive dominationes, sive principatus sive potestates: omnia per ipsum et in ipso creata sunt, et ipse est ante omnes et omnia in ipso constant. Et ipse est caput corporis ecclesiae, qui est principium, primogenitus ex mortuis, ut sit in omnibus ipse primatum tenens; quia in ipso complacuit omnem plenitudinem inhabitare, et per eum reconciliare omnia in ipsum, pacificans per sanguinem crucis ejus, sive quae in terris, sive quae in caelis sunt, in Christo Jesu, Domino nostro.

R. (侍者のみ) Deo grátias.

書 簡

使徒聖パウロ、コロサイ人に〇リシ
書簡の朗読 (コロサイ 1, 12-20)

兄弟たちよ、われらは天主にてまします父に感謝したてまつる。そはかたじけなくもわれらをもつて、聖徒たちと共に栄光を蒙るに足るべき者となしたまひ暗やみの權威より救い出して最愛なるおん子の国に移したまひ、われらそのおん子にありて、おん血をもつてあがなわれ、罪の赦しを得ればなり。おん子はすなわち見えたまわざる天主のみすがたにして、いつさいの被造物に先だちて生れたまひし者なり。げだし万物はかれにおいて造られ、天にも地にも見ゆるもの、見えざるものは玉座、あるいは主権、あるいは権勢、あるいは能力、みなかれをもつてかつかれのために造られおん自からは万物に先だちてましまし、万物はかれのためにそんす、かれはまたその体なる教会の頭にてまします、けだし原因にましまして、死者の中より先んじて生れたまひしは、万事において自から先んずる者となりたまわんためなり。そは充滿せる徳を全くかれに宿らしめ、かれをもつて万物をおのれと和睦せしめ、その十字架の血をもつて地にあるものをも天にあるものをも和合せしむることの、われらの主キリスト・イエズスにおいて、みこころにかないたればなり。▲天主に感謝したてまつる。

昇 階 唱 Graduale



Do-mi-ná-

ド ミ ナ

(訳詞は 192 ページにある)

bi-tur * a ma- ri us-

ビ ト ウ ル ▲ ア マ リ ウ ス



que ad má- re, et

ク エ ア マ レ

a flú- mi-

ア フ ル ミ



ne us-que ad tér-mi-nos ór-bis ter-
 ネ ウス ヲエ アフ テス ミ ノス オス ビス テス



rá-rum. V. Et ad-o-rá-bunt é-
 ラ ルム ○ エト アド ラ ブント エ



um
 ウム



óm-nes ré-ges ter-rae:
 オム ネス レ ジエス テス レ



om-nes gén-tes sér-vi-
 オム ネス ジエン テス セン イ



ent * e- i.
 エント ▲ エ イ

アレルヤ唱 Alleluja



○ Al-le-lú-ja * ij
 ▲ アレ ル ヤ (2回)

(訳詞は192ページにある)



V. Po-té-stas é-jus,

○ ポテ スタス エ ユス



po-té- stas æ-tér-

ポテ スタス エ テル



na, quæ non au-fe-ré-tur:

ナ ッエ ノン アウ ッエ レ トウル



et

エト



re-gnum é-jus, * quod non cor-rum-pé-

レ ニユム エ ユス ▲ ッオド ノン コル ルム ペ



tur.

トウル

昇階唱訳詞

主は海より海にいたるまで、河より地の果てにいたるまですべたまわん。地の諸王はかれを拜み、よろずの民草はかれに仕えん。

アレルヤ唱訳詞

アレルヤ、アレルヤ。その権能は永遠の権能にして、奪われることなく、またその国は滅びることなし。アレルヤ。

Evangelium

福音

Sequentia sancti Evangelii secundum

十 ヨハネ聖福音の続唱

Joannem (Jo. 18, 33-37)

(ヨハネ 18ノ33-37)

In illo tempore dixit Pilatus ad Jesum: Tu es Rex Judæorum? Respondit Jesus: A te nēt ipso hoc dicis, an alii dixerunt

その時、ピラト、イエズスに向かい、なんじはユデア人の王なるか、と言いしに、イエズス答えたまいけるは、なんじこれを

tibi de me? Respondit Pilatus: Numquid ego Judæus sum? Gens tua et pontifices tradiderunt te mihi: quid fecisti? Respondit Jesus: Regnum meum non est de hoc mundo. Si ex hoc mundo esset regnum meum, ministri mei utique decerent, ut non traderer Judæis. Nunc autem regnum meum non est hinc. Dixit itaque ei Pilatus: Ergo rex es tu? Respondit Jesus: Tu dicis, quia rex sum ego. Ego in hoc natus sum, et ad hoc veni in mundum, ut testimonium perhibeam veritati. Omnis qui est ex veritate, audit vocem meam.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

おのれより言えるかまた人われにつきてなんじに告げたるか。ピラト答えけるは、われあにユデア人ならんや、なんじの国民と大司祭らとなんじをわれに渡したるが、なんじ何をなしたるぞ。イエズス答えたまいけるは、わが国はこの世のものにあらずもしわが国この世のものならば、われをユデア人に渡されじとて、わが臣僕は必ず戦うならん。されど今わが国はこの世のものならず、と。かくてピラト、イエズスに向かい、しからばなんじは王なるか、と言いしにイエズス答えたまいけるは、なんじの言えるがごとし、われは王なり。われこれがために生まれ、これがために世に来たり、すなわち真理に証明を与えんためなり。すべて真理によれる人はわが声をきく、と。

▲キリストに賛美あらんことを。

奉 獻 文 Offertorium

Pó- stu- la * a me et dá- bo
 ポ ス ト ウ ラ ▲ ア メ エ ト ダ ボ
 求 め よ わ れ に、 さ ら ば 与 え ん

tí- bi gén- tes hæ- re- di- tá-
 テ イ ビ シ エ ン テ ス ヘ レ テ イ タ
 なんじに 異 邦 人 を なんじがゆずり

tem tú- am, et pos- ses-
 テ ム ト ウ ア ム エ ト ポ ス セ ス
 と し て。 し か し て 所 有

si- ó- nem tú- am tér-
 ス イ オ ネ ム ト ウ ア ム テ ル
 せ し め ん、 〇 なんじに



mi- nos tér- ræ.
 ミ ノス テラ レ
 地の果てまでも

Secreta

密唱

Hostiam tibi, Domine, humanæ reconciliationis offerimus; præsta, quæsumus, ut quem sacrificiis præsentibus immolamus, ipse cunctis gentibus unitatis et pacis dona concedat, Jesus Christus, Filius tuus, Dominus noster, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus.

主よ、われらは人類和睦のいけにえを主に捧げたてまつる。こいねがわくはこの献げ物において主のおん子にしてわれらの主たるイエズス・キリストがすべての民に一致と平和との賜物を与えたまわんことを主と聖霊と共に生きかつしろしめしたもう天主、このおん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

Praefatio

序唱

Vere dignum et justum est, æquum et salutare, nos tibi semper et ubique gratias agere, Domine sancte, Pater omnipotens, æterne Deus: Qui Unigenitum Filium tuum Dominum nostrum Jesum Christum, Sacerdotem æternum et universorum Regem, oleo exsultationis unxisti, ut seipsum in ara crucis hostiam immaculatam et pacificam offerens, redemptionis humanæ sacramenta perageret; et suo subjectis imperio omnibus creaturis æternum et universale regnum, immensæ tuæ traderet majestati: regnum veritatis et vitæ, regnum sanctitatis et gratiæ, regnum justitiæ, amoris et pacis. Et ideo cum Angelis et Archangelis, cum Thronis et Dominationibus, cumque omni militia cœlestis exercitus, hymnum gloriæ tuæ canimus, sine fine dicentes:

げに、善くかつ正しく、益ありてまた福いなることなるかな、いつれの時にても、いつれの所にても主に感謝したてまつるは。聖なる主、全能の父、永遠の天主、主はおんひとり子、われらの主イエズス・キリストに喜びの聖油をそそぎてかれを永遠の司祭と万代の王とならしめたまえり。そはおん子が十字架の祭壇にて、ご自身を汚れなき和睦のいけになとして献げつつ、人類のたすかりを成就したまい、すべての被造物をその権威に服せしめたる後、永遠普遍の王国を主のきわまりなきみいつに献げたまわんがためなり。げにその王国は真理と生命との国、成聖と恩恵との国、正義と愛と平和との国なり。されば天使と大天使玉座と主権、またすべての天軍と共に主のみ光栄の賛美をきわまりなく歌わん。

聖体拝領唱 Communion



Se- dé- bit * Dó- mi- nus Rex in æ- tér- num:
 セ デ ビト ▲ ド ミ ヌス レク ス イン エ テル ヌム
 着座したもう 王たる主は 永遠に。



Dó- mi- nus be- ne- dí- cet pó- pu- lo sú-
 ド ミ ヌス ベ ネ デイ チェト ポ プ ロ ス
 主は 祝福せん、その民



o in pá- ce.
 オ イン パ チェ
 を 平安のうち。

Postcommunion

聖体拝領後の文

Immortalitatis alimoniam consecuti, quæsumus, Domine: ut qui sub Christi Regis vexillis militare gloriamur, cum ipso in celesti sede jugiter regnare possimus, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.
 R. Amen.

主よ、不死の聖なる糧にあずかりしわれらをば王たるキリストのみ旗に従いて戦わしめたもうをわが誇りとするが故に、ねがわくはわれらをしてかれと共に天の玉座において永遠にいたるまで王たらしめたまわんことを。われは主と聖霊と共に世々生きかつしろしめたもう天主にてまします。

▲ アーメン。

諸 聖 人 祭

IN FESTO OMNIUM SANCTORUM

入 祭 文 Introitus



Gau-de-á-mus * óm-nes in Dó-mi-no,
 ガ ッ デ ア ムス ▲ オム ネス イン ド ミ ノ
 われら喜ばん もろともに、 主において。



dí-em fé-stum ce-le-brán-tes sub ho-nó-
 ダイ エム フェ スト ウム チエ プラン テス スッ ホ ノ
 祝 日 を、 祝 いて (喜 ばん) 、 栄 光 有 る
Ver + *EXANZI* *S:* *CUJUS*



re Sanc-tó-rum óm-ni-um: de quó-rum sol-lém-
 レ サンクト ルム オム ニ ウム デ ッ オ ルム ソル レム
 諸 聖 人 の た め に。 そ の 祝 い を



ni-tá-te gáu-dent An-ge-li,
 ニ タ テ ガ ッ デント アン ジエ リ
 喜 び て 天 使 は



et col-láu-dant Fí-li-um Dé-
 エト コル ラッ ダント ヲイ リ ウム デ
 共 に ほ め た て ま つ る な り、 天 主 の お ん 子 を ば。



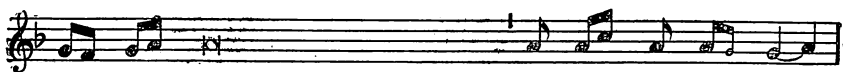
i. Ps. Ex-sul-tá-te, jú-sti, in Dó-mi-no *
 イ ○ エクス スル タ テ ユ スタイ イン ド ミ ノ ▲
 詩 喜 び お ど れ 義 人 よ 主 に お いて。



rec- tos dé- cet col- lau- dá- ti- o. Gló- ri-
 レク トス デ ヌエト コル ラ ッダ ッイ オ ○ ヨロ リ
 なおき者には ふさわしけれ、 賛 美 こ そ は。 光栄あれ



a Pá- tri, et Fí- li- o, et Spi- ri- tu- i sanc- to.
 ア パ トリ エト ヲイ リオ エト スピ リ トウ イ サンク ト
 父 と 子 また 聖 霊 と に、



* Sic- ut é- rat in prin- cí- pi- o, et nunc et sem- per,
 ▲ スイ クト エラト イン プリン チピオ エト ヌンク エト セム ペム
 始 め に あ り し こ と く 今 も い つ も



et in saé- cu- la saé- cu- ló- rum. A- men.
 エト イン セ ク ラ セ ク ロ ル ム ア メン
 世 世 に

Oratio

Omnipotens sempiternae Deus, qui nos omnium Sanctorum tuorum merita sub una tribuisti celebritate venerari: quaesumus, ut desideratam nobis tuae propitiationis abundantiam, multiplicatis intercessoribus, largiaris. Per Dominum nostrum Jesum Christum Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia saecula saeculorum.

R. Amen.

Epistola

*Lectio libri Apocalypsis beati
 Joannis Apostoli (Ap. 7, 2-12)*

In diebus illis: Ecce ego Joannes vidi alterum Angelum ascendentem ab ortu

集 禱 文

全能永遠の天主、主はわれらをして一つの祝いをもつて主の諸聖人の功德を尊敬せしめたまいしにより、願わくはおびたしき伝達者によりてわが望みし豊かなるおん哀れみをわれらに得しめたまわんことを、主と聖霊と共に世々生きかつしろしめたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

▲ アーメン。

書 簡

使徒聖ヨハネ黙示録の朗読

(黙 7, 2-12)

その時、見よ、われヨハネ、外にまた一の天使、生きてまえる天主の印を持ちて

solis, habentem signum Dei vivi : et clamavit voce magna quattuor angelis, quibus datum est nocere terræ et mari, dicens : Nolite nocere terræ et mari, neque arboribus, quoadusque signemus servos Dei nostri in frontibus eorum. Et audivi numerum signatorum, centum quadraginta quattuor millia signati, ex omni tribu filiorum Israel. Ex tribu Juda duodecim millia signati. Ex tribu Ruben duodecim millia signati. Ex tribu Gad duodecim millia signati. Ex tribu Aser duodecim millia signati. Ex tribu Nephtali duodecim millia signati. Ex tribu Manasse duodecim millia signati. Ex tribu Simeon duodecim millia signati. Ex tribu Levi duodecim millia signati. Ex tribu Issachar duodecim millia signati. Ex tribu Zabulon duodecim millia signati. Ex tribu Joseph duodecim millia signati. Ex tribu Benjamin duodecim millia signati. Post haec vidi turbam magnam, quam dinumerare nemo poterat, ex omnibus gentibus et tribubus et populis et linguis ; stantes ante thronum et in conspectu Agni, amicti stolis albis, et palmæ in manibus eorum. Et clamabant voce magna, dicentes : Salus Deo nostro, qui sedet super thronum, et Agno. Et omnes Angeli stabant in circuitu throni, et seniorum, et quattuor animalium, et ceciderunt in conspectu throni in facies suas, et adoraverunt Deum, dicentes : Amen. Benedictio et claritas et sapientia et gratiarum actio, honor et virtus, et fortitudo Deo nostro in sæcula sæculorum. Amen.

R. (侍者のみ) Deo grátias.

東より上るを見たり。この天使、海陸を害することを許されたる四の天使に声高く呼ばわりて言いけるは、われらわが天主のしもべらの額に印するまで、海にも陸にも樹木にも触ることなかれ、と。かくてわれ、イスラエルの子らの諸族中印せられたる者の数を聞きしに、印せられたる者十四万四千人、すなわちユダ族の中にて一万二千人印せられ、ルベン族の中にて一万二千人印せられ、ガド族の中にて一万二千人印せられ、アセル族の中にて一万二千人印せられ、ネフタリ族の中にて一万二千人印せられ、マナツセ族の中にて一万二千人印せられ、シメオン族の中にて一万二千人印せられ、レヴィ族の中にて一万二千人印せられ、イツサカアル族の中にて一万二千人印せられ、ザブロン族の中にて一万二千人印せられ、ヨゼフ族の中にて一万二千人印せられ、ベンヤミン族の中にて一万二千人印せられたるなり。その後われ、だれも数うるに能わざる大群衆を見しが、諸国、諸族、諸民、諸語の中よりして、白き衣を着し、手に棕櫚の葉を持ちて玉座の前、小羊の目前に立ち、声高く呼ばわりて、言いけるは、救霊は玉座に坐したもうわが天主および小羊に帰す、と。玉座と翁たちと四の動物との周圍に立ちいたりし天使一同、玉座の前に平伏し、天主を礼拝したてまつりて言いけるは、アメン、祝福と光榮と、英智と感謝と、尊貴と能力と、世々に限りなくわが天主に帰す、アーメン、と。

▲ 天主に感謝したてまつる。

昇 階 唱 Graduale

Ti- mé- te * Dó- mi- num, óm- nes
 テイ メ テ ▲ ド ミ ヌム オ ム ネス
 (訳詞は201ページにある)

Sán- ti é- jus: quo-
 サンク テイ エ ヌス クオ

ni- am ni- hil dé- est ti- mén- ti- bus é-
 ニ アム ニ ヒル デ エスト テイ メン テイ ブス エ

um. V. In- qui- rén-
 ウム ○ イン クイ レン

tes au-
 テス アッ

tem Dó- mi- num
 テム ド ミ ヌム

non de- fí- ci- ent om- ni * bó-
 ノン デ ヲイ チ エント オム ニ ▲ ボ



no.

ノ

アレルヤ唱 Alleluja



○ Al- le- lú- ja * ij
 ▲ ア ル レ ル ヤ (2回)
 (訳詞は201ページにある)



V. Ve- ní- te ad me, om- nes
 ○ ヴ エ ニ テ ア ド メ オ ム ネ ス



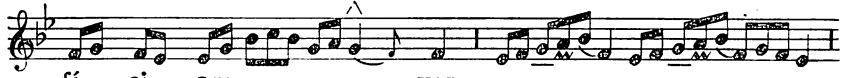
qui la- bo- rá-
 ヲ イ ラ ボ ラ



tis et
 タイ ス エ ト



o- ne- rá- ti é- stis et é- go * re-
 オ ネ ラ タイ エ ス タイ ス エ ト エ ゴ ▲ レ



fi- ci- am vos.
 ヲ イ チ ア ム ヴ オ ス



昇階唱訳詞

主の聖なる者、すべて主をおそれよ。そは主をお
 するものに乏しきことなればなり。されど主を
 尋ぬるものはいかなるものにもあれ、よき物に缺く
 ことなからん。

アレルヤ唱訳詞

アレルヤ、アレルヤ。われに来
 たれ、すべて労苦して重荷を負え
 るものよ。われはなんじらを恢復
 せしめん。アレルヤ。

Evangelium

Sequentia sancti Evangelii

secundum Matthaeum (Mt. 5, 1-12)

In illo tempore: Videns Jesus turbas,
 ascendit in montem; et cum sedisset, ac-
 cesserunt ad eum discipuli ejus. Et aper-
 iens os suum, docebat eos, dicens: Beati
 pauperes spiritu! quoniam ipsorum est
 regnum coelorum. Beati mites! quoniam
 ipsi possidebunt terram. Beati qui lugent!
 quoniam ipsi consolabuntur. Beati qui
 esuriunt et sitiunt justitiam! quoniam ipsi
 saturabuntur. Beati misericordes! quoniam
 ipsi misericordiam consequentur. Beati
 mundo corde! quoniam ipsi Deum vide-
 bunt. Beati pacifici! quoniam filii Dei
 vocabuntur. Beati qui persecutionem pa-
 tiuntur propter justitiam! quoniam ipso-
 rum est regnum coelorum. Beati estis,
 cum maledixerint vobis et persecuti vos
 fuerint, et dixerint omne malum adversum
 vos mentientes, propter me! Gaudete et
 exsultate, quoniam merces vestra copiosa
 est in caelis.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

福 音

十 マテオ聖福音の続唱

(マテオ 5, 1-12)

その時、イエズス群衆を見て、山に登り
 て坐したまいしかば、弟子たちこれに近づ
 きけるに、口を開きて、かれらに教えての
 たまいけるは、福なるかな心の貧しき人、
 天国はかれらのものなればなり。福なるか
 な柔和なる人、かれらは地を得べければ
 なり。福なるかな泣く人、かれらは慰めら
 るべければなり。福なるかな義にうえかわ
 く人、かれらは飽かざるべければなり。福
 なるかな慈悲ある人、かれらは慈悲を得べ
 ければなり。福なるかな心の清き人かれら
 は天主を見たてまつるべければなり。福な
 るかな和睦せしむる人、かれらは天主の子
 どもとなえらるべければなり。福なるか
 な義のために迫害を忍ぶ人、天国はかれら
 のものなればなり。わがために人々なんじ
 らをのろい、かつ迫害し、かつ偽りて、な
 んじらにつきてあらゆる悪声を放たん時、
 なんじら福なるかな、よろこびおどれ、そ
 は天におけるなんじらの報いはなはだ多か
 るべければなり、と。

▲ キリストに光榮あらんことを。

奉 献 文 Offertorium



Ju- stó- rum * á- ni- mæ
 ユ スト ルム ▲ ア ニ メ
 ただしき者の 魂 は



in má- nu Dé- i
 イン マ ス デ イ
 おん手に 天主の(おん手に)



sunt, et non tán- get il- los tor-
 スント エト ノン タン ッエト イル ロス トム
 あり。また ぶるることなし、 義 人 に



mén- tum ma- lí- ti- æ: vi- si
 メン トム マ リ ッイ エ ヴイ スイ
 悪より出ずる苦痛は。 かれらは



sunt ó- cu- lis in-si- pi- én- ti- um
 スント オ ク リス イシ ピ エン ッイ ウム
 見ゆるなり 愚 者 の 目 に は



mó- ri: il- li áu-
 モ リ イル リ アウ
 死すと。 義人は されど



tem sunt in pá- ce.
 テム スント イン パ チエ
 平安のうちにあるなり。



Al- le- lú- ja.
 ア ル レ ヤ
 主 を 賛 美 せ よ

Secreta

密 唱

Munera tibi, Domine, nostræ devotionis offerimus: quæ et pro cunctorum tibi grata sint honore justorum, et nobis salutaria, te miserante, reddantur. Per Dominum nostrum Jesum Christum Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus Sancti Deus.

主よ、われらはわが奉仕の贈り物を主に
 献げたまつる。願わくはこれらすべての
 正しき者の光荣のためにみ心にかない、か
 つおんあわれみによりてわれらのために救
 霊とならんことを、主と聖霊と共に生きか
 つしろしめたもう天主、おん子、われら
 の主イエズス・キリストによりて。

序 唱 Præfatio

聖ミカエル祭の序唱と同じ (186ページ)

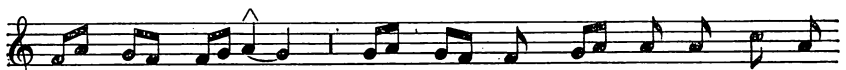
聖 体 拝 領 唱 Communio



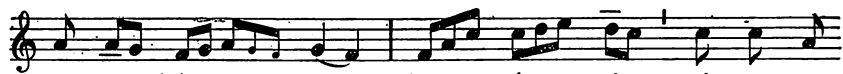
Be- á- ti mun- do cór- de, * quó- ni- am ip- si
 ベ ア ヲ イ ム ン ド コ ー デ ヲ ニ ア ム イ ヲ ス イ
 福 なる かな き よ き 心 の 人 そ は か れ ら



Dé- um vi- dé- bunt: be- á- ti pa-
 デ ウ ム ヲ イ デ ブ ン ト ベ ア ヲ イ パ
 天 主 を 見 た て ま つ る べ け れ ば な り。 福 なる かな 和 睦



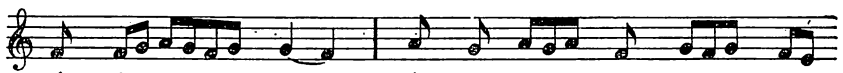
cí- fi- ci: quó- ni- am fi- li- i Dé- i
 チ ヲ イ チ ヲ ニ ア ム ヲ イ リ イ デ イ
 せ し む る 人 そ は 天 主 の 子 と



vo- ca- bún- tur: be- á- ti qui per- se-
 ヲカ ブン トウス ベ ア テイ ヲイ ペル セ
 となえられるべければなり。 福なるかな 迫害



cu- ti- ó- nem pa- ti- ún- tur prop- ter ju-
 ク ヲイ オ ネム パ ヲイ ウン トウス ッロフ テル ユ
 を 忍ぶ人 すなわち 義



stí- ti- am, quó- ni- am ip- só- rum
 ステイ ヲイ アム ヲオ ニ アム イッ ソ ルム
 の た め に、 そ は かれらのものなれば



est ré- gnum cæ- ló- rum.
 エスト レ ニュム チエ ロ ルム
 なり 天国こそは。

Postcommunio

Da, quæsumus, Domine, fidelibus populis omnium Sanctorum semper veneratione lætari: et eorum perpetua supplicatione muniri. Per Dominum nostrum Jesum Christum Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

R. Amen.

聖体拜領後の文

主よ、願わくは信徒たる民をば主の聖人らに対する尊敬によりて常に喜ばしめ、その絶えざるとりつぎによりて守りたまわんことを、主と聖霊と共に世々生きかつしめしめたもう天主おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。▲ アーメン。

ミサ 通常文 (一)

復活節 TEMPORE PASCHALI

キリエ Kyrie



○ Ky- ri- e, * e- lé- i- son. ▲ Chri- ste,
 ▲ キ リ エ エ レイ ソン ○ ッリ ヌテ
 ○ (3回) 主 よ あわれみたまえ ▲ (3回) キリストよ



e- lé- i- son. ○ Ky- ri- e, e- lé-
 エ レイ ソン ▲ キ リ エ エ レ
 あわれみたまえ (2回) 主 よ あわれみた



i- son. Ky- ri- e, * e- lé- i- son.
 イ ソン ○ キリ エ ▲ エ レイ ソン
 まえ (1回) 主 よ あわれみたまえ

榮光唱 Gloria



Gló- ri- a in ex- cël- sis Dé- o. Et in

◎ ッロ リ ア イン エッ シェル ス イ ス デ オ ○ エ、 イ ソ
 栄えあれ 天においては 天主に。 また



tér- ra pax ho- mí- ni- bus bó- nae vo- lun- tá- tis.

テ ル ラ パ ヌ ス ホ ミ ニ ブ ス ボ ネ ヅ オ ル ヌ タ テ イ ス
 地にては 平安あれ 人々に 善意ある(人々に)。



Lau-dá-mus te. Be-ne-dí-ci-mus te. Ad-o-

▲ ラ ヲ ダ ム ス テ ○ ベ ネ デ イ チ ム ス テ ▲ ア ド
われら賛え奉る、主を。 われらことはぎまつる、 主を。 われら礼拝



rá-mus te. Glo-ri-fi-cá-mus te. Grá-ti-

ラ ム ス テ ○ ヲ リ ヲ イ カ ム ス テ ▲ ヲ ラ ヲ イ
しまつる、主を、 われら賛美しまつる、 主を。 われら感



as á-gi-mus tí-bi prop-ter má-gnam gló-ri-

ア ス ア ジ ム ス タイ ビ ヲ ロ ヲ テ ル マ ヲ ヤ ム ヲ リ
謝まつしる、 主に。 そは 主の栄光大いな



am tú-am. Dó-mi-ne Dé-us, Rex cae-lé-stis,

ア ム ト ウ ア ム ○ ド ミ ネ デ ウ ス レ ヲ ス チ エ レ ス タイ ス
ればなり。 主なる 天主 天 の 王



Dé-us Pa-ter om-ní-po-tens. Dó-mi-ne Fí-

デ ウ ス パ テ ル オ ム ニ ポ テ ス ▲ ド ミ ネ ヲ イ
天主にます全能なる父。 主にまします



li u-ni-gé-ni-te, Jé-su Chri-ste. Dó-mi-

リ ヲ ウ ニ ヲ エ ニ テ イ エ ス ヲ リ ス テ ○ ド ミ
おんひとり子なる イエズス・キリストよ。 主なる



me Dé-us, A-gnus Dé-i, Fí-li-us Pá-tris.

ネ デ ウ ス ア ヲ ヌ ス デ イ ヲ イ リ ヲ ウ ス パ ト リ ス
天主 天主の 小羊 父の おん 子



Qui tol- lis pec- cá- ta mún- di, mi- se- ré- re nó- bis.

▲ クイ トゥ リス ペク カタ ムンディ ミセ レレ ノビス
世の罪を除きたもう主よ あわれみたまえ われらを。



Qui tól- lis pec- cá- ta mún- di, sús- ci- pe de- pre- ca-

○ クイ トゥ リス ペク カタ ムンディ スシペ デプレカ
世の罪を除きたもう主よ 聞き入れたまえ い の



ti- ó- nem nó- stram. Qui sé- des ad déx- te- ram

ツイ オ・ネム ノストラム ▲ クイ セ デス アデクス テラム
り を。 われらの。 父の右に座したもう



Pá- tris, mi- se- ré- re nó- bis. Quó- ni- am tu só- lus

パトリス ミセ レレ ノビス ○ クオ ニ アム トウ ソルス
主よ あわれみたまえ われらを。 けだし 主のみ



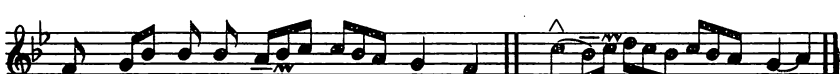
Sanc- tus. Tu só- lus Dó- mi- nus. Tu so- lus Al-

サンクトゥス ▲ トウ ソルス ド ミ スス ○ トウ ソルス ア
聖 御身 唯一の主 御身 唯一の至高者に



tís- si- mus, Jé- su Chri- ste. Cum sanc- to Spí- ri- tu,

フェイス イムス イエ ス クリステ ▲ クム サンクト スピ リ トウ
ませばなり イエズス・キリストよ、 聖 霊 と 共 に



in gló- ri- a Dé- i Pá- tris. A- men.

イン グロリア デ イ パトリス ▲ ア メン
天主なる父の光栄において。 し か あ れ か し

三 聖 唱 Sanctus

Sán-ctus, *Sán-ctus, Sánc-tus Dó-mi-nus Dé-us
 サンクトゥス ▲サンクトゥス サンクトゥス ド ミ ヌス デ ウス
 聖なるかな 聖なるかな 聖なるかな 主にまします

Sa-bá-oth. Plé-ni sunt caé-li et tér-ra
 サバオト ○ プレ ニ スト チエ リ° エト テルラ
 万軍の天主。 みち満てり 天 と 地は

gló-ri-a tú-a. Ho-sán-na in ex-cél-
 ヲロ リア トウ ア ▲ホサンナ イン エク シェル
 主の光栄に。 賛美あれいと高き所

sis. Be-ne-díc-tus qui vé-nit in nó-mi-ne
 スイス ○ ベネ チイクトゥス クイ ヱニト イン ノ ミネ
 に。 祝せられたまえ 来たれる者 主の名に

Dó-mi-ni. Ho-sán-na in ex-cél-sis.
 ドミニ ▲ホサンナ イン エク シェル スイス
 よりて。 賛美あれいと高き所に。

神 羊 唱 Agnus Dei

A-gnus Dé-i, *qui tól-lis pec-cá-ta
 アニウス デイ ▲クイ トル リス ペッカタ
 (2回) 天主の小羊 世の罪を除きたもう



mún- di: mi- se- ré- re nó- bis.
ムン デイ ミ セ レ レ ノ ビス
おん者よ、 あわれみたまえ われらをば。



○ *A-gnus Dé- i, * qui tól- lis pec- cá- ta*
(1回) ア ニュス デイ ▲ ヲイ トル リス ペッ カ タ



mún- di: dó- na nó- bis pá- cem.
ムン デイ ド ナ ノ ビス パ チエム
与えたまえ われらに 平安を。

終 祭 唱 *Ite missa est*

(復活祭週間に)



I- te, mis- sa est, al- le- lú- ja, al- le- lú- ja.
◎ イ テ ミス サ エスト アッレ ル ヤ アッレ ル ヤ
行 け ミ サ 終 れ り 主 を 賛 美 せ よ 主 を 賛 美 せ よ

Dé- o grá- ti- as, al- le- lú- ja, al- le- lú- ja.
▲ デ オ ヲラ ッ イ ア ス アッレ ル ヤ アッレ ル ヤ
主 に 感 謝 し ま つ る

(その他に)



I- te, mis- sa est.
◎ イ テ ミス サ エスト

Dé- o grá- ti- as.
▲ デ オ ヲラ ッ イ ア ス

ミサ 通常文 (二)

聖母の祝日 IN FESTIS B. M. V.

キリエ Kyrie



Ky- ri- e, * e- lé- i- son. Ky- ri- e,
 ○ キ リ エ エ ビ イ ソ ン ▲ キ リ エ



e- lé- i- son. Ky- ri- e, e- lé- i- son.
 エ ビ イ ソ ン ○ キ リ エ エ ビ イ ソ ン



Chri- ste, e- lé- i- son. Chri- ste, e-
 ▲ ッリ ステ エ . ビ イ ソ ン ○ ッリ ステ エ



lé- i- son. Chri- ste, e- lé- i- son. Ky- ri-
 ビ イ ソ ン ▲ ッリ ステ エ ビ イ ソ ン ○ キ リ



e, e- lé- i- son. Ky- ri- e,
 エ エ ビ イ ソ ン ▲ キ リ エ



e- lé- i- son. Ky- ri- e, *
 エ ビ イ ソ ン ○ キ リ エ ▲



** e- lé- i- son.
 ○▲ エ ビ イ ソ ン

榮光唱 Gloria

Gló- ri- a in ex- cél- sis Dé- o. Et in tér-
 ○ グロ リ アイ エクス シエロ スイ、 デ オ ○ エト イ、 テス

ra pax ho- mi- ni- bus bó- nae vo- lun- tá- tis.
 ラ パクス ホ ミ ニ ブス ボ ネ ヅオ ル、 タ テイス

Lau- dá- mus te. Be- ne- dí- ci- mus te. Ad- o-
 ▲ ラ ッ ダ ムス テ ○ ベ ネ テイ チ ムス テ ▲ ア ド

rá- mus te. Glo- ri- fi- cá- mus te. Grá- ti- as á- gi-
 ラ ムス テ ○ グロ リ フイ カ ムス テ ▲ グラ ッ イ アス ア ジ

mus tí- bi prop- ter má- gnam gló- ri- am tu- am.
 ムス テイ ビ プロッ テル マ = ヤム グロ リ アム トウ アム

Dó- mi- ne Dé- us, Rex cae- lé- stis, Dé- us Pa- ter
 ○ ド ミ ネ デ ウス レクス テエ ビ ステイ ス デ ウス パ テス

om- ní- pot- ens. Dó- mi- ne Fí- li u- ni- gé- ni- te,
 オム ニ ポ テス ▲ ド ミ ネ ッイ リ ウ ニ ヅエ ニ テ

Jé- su Chri- ste. Dó- mi- ne De- us, A- gnus Dé- i,
 イエ ス ッリ ステ ○ ド ミ ネ デ ウス ア = ヌス デイ



Fi-li-us Pa-tris. Qui tol-lis pec-cá-ta mún-di
 フイ リ[°] ウス パ トリス ▲クイ ト[♯] リ^ス ペ^ッ カ タ ムン^ヰ イ



mi-se-ré-re nó-bis. Qui tól-lis pec-cá-ta mún-
 ミ セ レ レ ノ ビス ○クイ ト[♯] リ^ス ペ^ッ カ タ ムン



di, sús-ci-pe de-pre-ca-ti-ó-nem nó-stram.
 フイ スス シペ デ^レ カ^ッ イ オ ネム ノ ストラム



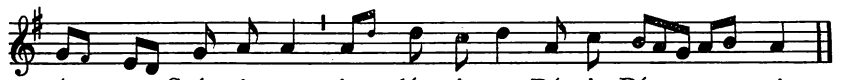
Qui sé-des ad déx-te-ram Pá-tris, mi-se-ré-re nó-bis.
 ▲クイ セ デス ア^ド デ^ク ス テ ラム パ トリス ミ セ レ レ ノ ビス



Quó-ni-am tu só-lus Sanc-tus. Tu só-lus Dó-mi-nus.
 ○クオ ニ アム トウ ソ ルス サンク トウス ▲トウ ソ ルス ド ミ スス



Tu só-lus Al-tís-si-mus, Jé-su Chri-ste. Cum
 ○トウ ソ ルス ア^ル テ^ィ ス スイ ムス イエ ス クリ ステ ▲クム



sán-c-to Spí-ri-tu, in gló-ri-a Dé-i Pá-tris.
 サンク ト スピ リ トウ イン グロ リ ア デイ パ トリス



A-men.
 ア メン

三 聖 唱 Sanctus

Sanc- tus, * Sanc- tus, Sanc- tus
 サンク トウス ▲ サンク トウス サンク トウス
 聖なるかな 聖なるかな 聖なるかな

Dó-mi- nus Dé- us Sá- ba- oth. Plé- ni
 ド ミ ヌス デ ウス サ バ オト ○ ッピ ニ
 主にます 万軍の天主 みち満て

sunt caé- li et tér- ra gló- ri- a tú- a.
 スント チエ リ^o エト テⁿ ラ ッポ リ ア トウ ア
 り 天 と 地 と は 主 の 光 榮 に。

Ho- sán- na in ex- cé- sis. Be- ne- díc- tus
 ▲ ホ サン ナ イン エクスシエル スイス ○ ベ ネ ヱイクトウス
 賛美あれいと高き所に 祝せられたまえ

qui vé- nit in nó- mi- ne Dó- mi- ni.
 クイ ヱエ ニト イン ノ ミ ネ ド ミ ニ
 来たれる者 主のみ名によりて。

Ho- sán- na in ex- cé- sis.
 ▲ ホ サン ナ イン エクスシエル スイス
 賛美あれいと高き所に

神 羊 唱 *Agnus Dei*



A-gnus Dé- i, * qui tól- lis pec-cá- ta
 アニユス デ イ ▲ ヶイ ト_♯ リ_ス ペ_カ タ
 天主の小羊 世の罪を除きたもう



mún- di: mi- se- ré- re no- bis. *A-gnus De-*
 ムン_ヅ ㇿイ ミ セ レ レ ノ ビス_〇 アニユス デ
 おん者よ、 あわれみたまえ われらをは。



i, * qui tól- lis pec-cá- ta mún- di: mi- se- ré-
 イ ▲ ヶイ ト_♯ リ_ス ペ_カ タ ムン_ヅ ㇿイ ミ セ レ



re no- bis. *A-gnus Dé-* i, * qui tól- lis
 レ ノ ビス_〇 アニユス デ イ ▲ ヶイ ト_♯ リ_ス



pec-cá- ta mún- di: dó- na nó- bis pá- cem.
 ペ_カ タ ムン_ヅ ㇿイ ド ナ ノ ビス パ_チ ャム
 除きたもうおん者よ 与えたまえ われらに 平安を。

終 祭 唱 *Ite missa est*



I- te, *mis-* sa est.

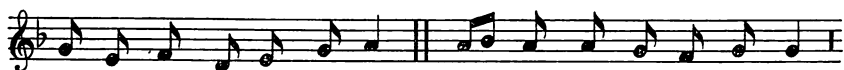
◎ イ テ ミ_ス サ エ_{スト} 行けミサ終れり。

Dé- o *grá-* ti- as.

▲ デ オ ヶ_ラ ッ_イ ア_ス 主に感謝しまつる。

(天使ミサ通常文は「公教聖歌集」583番にある。)

信 經 Credo



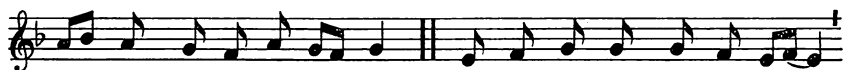
Cré-do in ú-num Dé-um, Pá-trem om-ni-pot-én-tem,

◎ ヲレ ド イン ウ ヌ ム デ ウ ム ○ パ ト レ ム オ ム ニ ポ テ ン テ ム
われ信ず、 唯一の 天主 全能 の 父



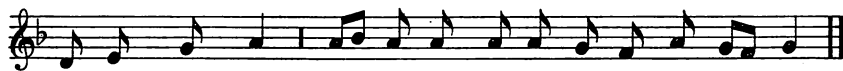
fac-tó-rem caé-li et tér-rae, vi-si-bí-li-um óm-ni-um,

フ ア ク ト レ ム チ エ リ ヲ エ ト テ ム レ ヱ イ ヌ イ ビ リ ウ ム オ ム ニ ウ ム
創造主、 天 と 地 見 ゆ る すべてのもの



et in-vi-si-bí-li-um. Et in ú-num Dó-mi-num

エ ト イン ヱ イ ヌ イ ビ リ ウ ム ▲ エ ト イン ウ ヌ ム ド ミ ヌ ム
また 見えざるものとの(創造主を。) また 唯一の 主



Jé-sum Chrí-stum, Fí-li-um Dé-i u-ni-gé-ni-tum.

イ エ ス ム ク リ ス ト ウ ム ヲ イ リ ウ ム デ イ ウ ニ ヱ エ ニ ト ウ ム
イエズス・キリスト 天主のひとり子を(信ず)



Et ex Pá-tre ná-tum an-te óm-ni-a saé-cu-la.

○ エ ト エ ク ス パ ト レ ナ ト ウ ム ア ン テ オ ム ニ ア セ ク ラ
また 父より生まれたり すべての世の前に。



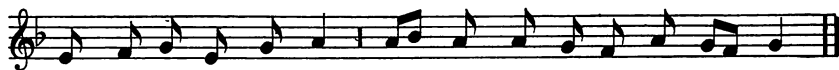
Dé-um de Dé-o, lú-men de lú-mi-ne, Dé-um vé-rum

▲ デ ウ ム デ デ オ ル メ ン デ ル ミ ネ デ ウ ム ヱ エ ル ム
天主よりの 天主 光 よ り の 光 真の天主よりの



de Dé-o vé-ro. Gé-ni-tum, non fác-tum, con-sub-

デ デ オ ヱ エ ロ ○ ヱ エ ニ ト ウ ム ノ ン フ ア ク ト ウ ム コ ン ス ヲ
真の天主にてまします。 創造せられずして生まれ 父と



stan-ti-á-lem Pá-tri: per quem óm-ni-a fác-ta sunt.

スタンツイ ア ビム パトリ ペル ヲム オム ニ ア ヲタ スト
 一 体 に し て こ れ に よ り て 万 物 創 造 せ ら れ た り 。



Qui prop-ter nos hó-mi-nes, et prop-ter nó-stram sa-lú-tem

▲ クイ ヲロツ テル ノス ホミ ネス エト ヲロツ テル ノ ストラム サル テム
 人 た る わ れ ら の た め ま た わ れ ら を 救 わ ん が た め に



de-scén-dit de caé-lis. Et in-car-ná-tus est de Spi-

デ シエン テイト デ ヲエ リス ○ エト イン カルナトゥス エスト デ スピ
 降 り た り 天 よ り (ひざまずく) 人 体 を



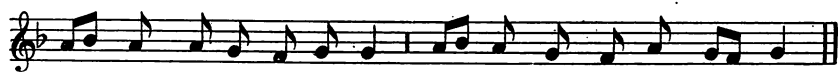
ri-tu sanc-to ex Ma-ri-a Vir-gi-ne: Et hó-mo

リトゥ サンクト エクス マリア ヲイネ エト ホモ
 聖靈によりて マリア 童貞より受け しかして人と



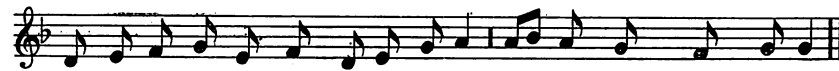
fác-tus est. Cru-ci-fí-xus ét-i-am pro nó-bis,

ヲファクトゥス エスト ▲ ヲル チ ヲイ ヲス エイ アム ヲロ ノ ビス
 な り た ま え り (起立する) 十 字 架 に つ け ら れ し は わ れ ら の た め に な り



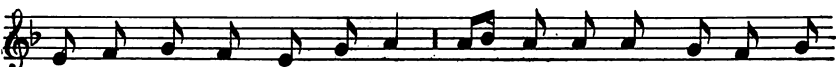
sub Pón-ti-o Pi-lá-to pás-sus, et se-púl-tus est.

ス ポンツイ オ ピラト パス ス エト セ プル トゥス エスト
 ポンシヨ・ピラトの時にして 苦しみを受け 葬られたまえり



Et re-sur-ré-xit tér-ti-a di-e, se-cún-dum Scrip-tú-ras.

○ エト レ スル レクスイト テルツイ ア ヲイ エ セ クンドウム スクリプトウ ラス
 さ れ ど よ み が え れ り 三 日 目 に 聖 書 に あ り し こ と く 。



Et a-scén-dit in caé-lum: se-det ad déx-te-ram Pá-

▲ エト ア シエンテイト インテエルム セ デト ア フ デクステラム パ
天 に 昇 り て 坐したもうなり おん父の右に。



tris. Et í-te-rum ven-tú-rus est cum gló-ri-a,

トリス ○ エト イ テルム ヴエン トウルス エスト クム ヴポ リア
しかして 再び来たりたもうなり 光栄をおびて



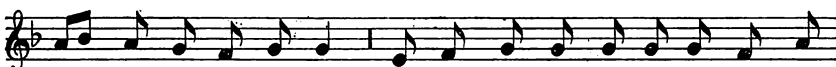
ju-di-cá-re vi-vos et mór-tu-os: cú-jus ré-gni non

ユヂイ カレ ヴイ ヴオス エト モルトウ オス ク ユスレニイ ノン
(そは) 審判せんためなり生ける人と死せる人とを。° その王国は 終



é-rit fí-nis. Et in Spí-ri-tum sanc-tum, Dó-mi-num,

エリト ヴイ ニス ▲ エトイン スピリトウム サンクトウム ドミヌム
りなるかべし。 また 聖霊を(信ず、) 主にして



et vi-vi-fi-cán-tem: qui ex Pá-tre Fi-li-ó-que pro-

エト ヴイ ヴイ ヴイ カンテム ヴイ エクス パトレ ヴイ リ° オ ヴエ ヴポ
かつ 生命の元にます、すなわち 父と子より出



cé-dit. Qui cum Pá-tre et Fí-li-o si-mul ad-o-

テエテイト ○ ヴイ クム パトレ エト ヴイ リ° オ スイ ヴム ヴア ド
で 父と子ととも に 拝ま



rá-tur, et con-glo-ri-fi-cá-tur: qui lo-cú-tus est

ラトゥル エト コン ヴポ リ ヴイ カトゥル ヴイ ロク トウス エスト
れ かつ 共に尊まれたもうなり そは 予言者をもつて



per pro-phé-tas. Et ú-nam, sanc-tam, ca-thó-li-cam

ペル プロ ヲエ タス ▲ エト ウ ナム サンク タム カト リ° カム
語りたもうなり。 また 一、 聖、 公、



et a-po-stó-li-cam Ec-clé-si-am. Con-fi-te-or

エト ア ポスト リ° カム エク クレシイ アム ○ コン フイ テ オム
かつ 使徒伝来なる 教会を(信ず)、 信 ず、



ú-num bap-tis-ma in re-mis-si-ó-nem pec-ca-tó-rum.

ウ ヌム バプ テイスマ イン レ ミスシイ オネム ペク カト ルム
一の 洗礼を、 そは 罪を 赦されんためなり。



Et ex-spéc-to re-sur-re-cti-ó-nem mor-tu-ó-rum.

▲ エト エク ス ペク ト レ スム レクシイ オネム モルトウ オルム
しかして待ちまつる 復活を 死者の(復活)



Et vi-tam ven-tú-ri saé-cu-li. A-men.

○ エト ヲイ タム ヲエントウ リセ クリ° ▲ ア メン
および 来世の 生命を。 しかあれかし

(クレドの第二メロディは「公教聖歌集」583番にある。)

ミサの順序

ORDO MISSAE

(本文中にある(祝)はおのおのその祝日の所にあり、(通)はミサ通常文中にあることを示す)

灌水式 Ad Asperionem Aquae Benedictae (1ページ)

(この灌水式は省略される場合もある)

Ante gradus altaris

階段祈禱

S. In nomine Patris, et Filii, et Spiritus sancti. Amen.

Introibo ad altare Dei.

R. Ad Deum qui lætíficat juventútem meam.

S. Judica me, Deus, et discerne causam meam de gente non sancta: ab homine iniquo et doloso erue me.

R. Quia tu es, Deus, fortitúdo mea: quare me repulísti? et quare tristis incédo, dum affligit me inimícus?

S. Emitte lucem tuam et veritatem tuam: ipsa me deduxerunt et adduxerunt in montem sanctum tuum, et in tabernacula tua.

R. Et introibo ad altáre Dei, ad Deum qui lætíficat juventútem meam.

S. Confitebor tibi in cithara, Deus, Deus meus: quare tristis es, anima mea? et quare conturbas me?

○ 父と子と聖霊とのみ名によりて、アーメン。

われ天主の祭壇におもむかん。

▲ わがわらべなるをよみしたもう天主にゆかん。

○ 天主よ、われをさばきて、なさけ知らぬ民よりわが訴えをあげつらい、たばかり多きよこしまの人よりわれを救い出したまえ。

▲ 天主よ主こそわが力なれ、なにとてわれを捨てたまいしや、なにとてわれは仇のしいたげによりて悲しみうれいて歩くにや。

○ 願わくは主のみ光りと真とを放ちたまわんことを、これはわれを主のとうとき山と主のいおりとに導き行かしめたり。

▲ われ天主の祭壇におもむき、またわがわらべなるをよみしたもう天主にゆかん。

○ ああ天主よ、わが主よ、われ豎琴もて主をほめたたえん。ああわが魂よ、なんじなにとてうなだるるや、なにとて内に思い乱るるや。

R. Spera in Deo, quóniam adhuc
confitébor illi: salutáre vultus
mei, et Deus meus.

S. Gloria Patri, et Filio, et Spiritui
sancto.

R. Sicut erat in princípío et nunc
et semper et in saécula sæ-
culórum. Amen.

S. Introibo ad altare Dei.

R. Ad Deum qui lætíficat juven-
tútem meam.

S. Adjutorium nostrum in nomine Domini.

R. Qui fecit cælum et terram.

S. Confiteor Deo omnipotenti, beatæ Ma-
riæ semper Virgini, beato Michaeli
Archangelo, beato Joanni Baptistæ,
sanctis Apostolis Petro et Paulo, om-
nibus sanctis, et vobis, fratres, quia
peccavi nimis cogitatione, verbo et
opere: mea culpa, mea culpa, mea
maxima culpa. Ideo precor beatam
Mariam semper Virginem, beatum
Michaelem Archangelum, beatum Jo-
annem Baptistam, sanctos Apostolos
Petrum et Paulum, omnes Sanctos, et
vos, fratres, orare pro me ad Domi-
num Deum nostrum.

R. Misereátur tui omnípotens
Deus, et dimíssis peccátis tuis,
perducat te ad vitam ætér-
nam.

S. Amen.

R. Confíteor Deo omnipoténti, be-
átæ Mariæ semper Virgini,
beato Michaéli Archángelo,
beato Joánni Baptistæ, sanctis
Apóstolis Petro et Paulo, óm-
nibus Sanctis, et tibi, Pater,

▲ なんじ天主に望みをつなげ、われな
おわがかおのたすかりにいましたもう
わが天主をほめたとうべければなり。

○ 願わくは父と子と聖霊とに栄えあらんこ
とを。

▲ 始めにありしごとく今もいつも世々
に至るまで、アメン。

○ われ天主の祭壇におもむかん。

▲ わがわらべなるをよみしたもう天主
にゆかん。

○ われらの助けは主のみ名にあり、

▲ かれは天地を造りたまいたればなり。

全能の天主、終生童貞なる聖マリア、大天
使聖ミカエル、洗者聖ヨハネ、使徒聖ペト
ロ・聖パウロ、諸聖人およびなんじら兄弟
たちにむかいてわれは思いと言葉と行いと
をもつて多くの罪を犯せしことを告白した
てまつる。これわがあやまちなり、わがあ
やまちなり、わがいと大いなるあやまちな
り。これによりて終生童貞なる聖マリア、
大天使聖ミカエル、洗者聖ヨハネ、使徒聖ペ
トロ・聖パウロ、諸聖人およびなんじら兄
弟に、わがために、われらの主なる天主に祈
弟たちられんことを願いたてまつる。

▲ 願わくは全能の天主なんじをあわれ
み、なんじの罪を赦して終りなき命へ
導きたまえ。

○ アメン。

▲ 全能の天主、終生童貞なる聖マリア、
大天使聖ミカエル、洗者聖ヨハネ、使
徒聖ペトロ・聖パウロ、諸聖人および
霊父にむかいて、われは思いと言葉と
行いとをもつて多くの罪を犯せしこと
を告白したてまつる。これわがあやま

quia peccávi nimis cogitatióne,
verbo et ópere: mea culpa,
mea culpa, mea máxima culpa.
Ideo precor beátam Mariám
semper Vírginem, beátum Mi-
chaélem Archángelum, beá-
tum Joánnem Baptístam, sanc-
tos Apóstolos Petrum et Pau-
lum, omnes Sanctos, et te,
Pater, oráre pro me ad Dómi-
num Deum nostrum.

S. Misereatur vestri omnipotens Deus, et
dimissis peccatis vestris, perducatur vos
ad vitam æternam.

R. Amen.

S. Indulgentiam, absolutionem et remis-
sionem peccatorum nostrorum tribuat
nobis omnipotens et misericors Domi-
nus.

R. Amen.

S. Deus, tu conversus vivificabis nos.

R. Et plebs tua lætábitur in te.

S. Ostende nobis, Domine, misericordiam
tuam.

R. Et salutáre tuum da nobis.

S. Domine, exaudi orationem meam.

R. Et clamor meus ad te véniat.

S. Dominus vobiscum.

R. Et cum spíritu tuo.

S. Oremus.

入 祭 文 Introitus (祝)

入祭文を全部歌つてから、例外なく初めにもどり、最初から詩篇まで、すなわち復線の所までを、もう一度斉唱する。

キ リ エ Kyrie (遍)

この歌い方は○と▲とで明らかと思うが、なおくわしく説明すれば、最初のキリエは第一歌隊の先唱者が始め、*印の所から第一歌隊全員の斉唱となり、第二回目のキリエは第二歌隊の斉唱、第三回目のは第一歌隊の斉唱となり、以下交互

ちなり、わがあやまちなり、わがいと大いなるあやまちなり。これによりて終生童貞なる聖マリア、大天使聖ミカエル、洗者聖ヨハネ、使徒聖ペトロ・聖パウロ、諸聖人および霊父に、わがためにわれらの主なる天主に祈られんことを願いたてまつる。

○ 願わくは全能の天主なんじを哀れみ、なんじの罪を赦して終りなき命へ導きたまえ。

▲ アメン。

○ 願わくは全能にして慈悲なる主、われらをあわれみ、罪の赦しを与えたまえ、

▲ アメン。

○ 天主よ、願みてわれらを生きながらえしめたまえ、

▲ また主の民は主において喜ばん。

○ 主よ、おん哀れみをわれらに示したまえ、

▲ 主の救いをわれらに与えたまえ。

○ 主よ、わが祈りをきき入れたまえ、

▲ わが叫びをみ前に至らしめたまえ。

○ 願わくは主なんじらと共にいまして

▲ またなんじの霊と共にいまして

○ 祈願せん。

に歌い、最後に九回目のキリエは中間の*と▲との所から第二歌隊が歌う。またさらにその次に二つの星がならべてある場合（聖母ミサ通常文）は、その所から第一歌隊も加わり、歌隊全員の斉唱となる。

S. Kyrie, eleison.

R. Kyrie, eléison.

S. Kyrie, eleison.

R. Christe, eléison.

S. Christe, eleison.

R. Christe, eléison.

S. Kyrie, eleison.

R. Kyrie, eléison.

S. Kyrie, eleison.

○ 主、あわれみたまえ。

▲ 主、あわれみたまえ。

○ 主、あわれみたまえ。

▲ キリスト、あわれみたまえ。

○ キリスト、あわれみたまえ。

▲ キリスト、あわれみたまえ。

○ 主、あわれみたまえ。

▲ 主、あわれみたまえ。

○ 主、あわれみたまえ。

栄 光 唱 Gloria (通)

黒、紫および桃色の時はこれを唱えない。

S. Gloria in excelsis Deo,

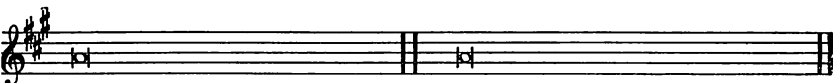
R. Et in terra pax hominibus bonæ voluntatis. Laudamus te: benedicimus te: adoramus te: glorificamus te: gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam. Dómine Deus, Rex cœlestis, Deus Pater omnipotens. Dómine Fili unigénite, Jesu Christe. Domine Deus, Agnus Dei, Fílius Patris. Qui tollis peccata mundi, miserere nobis. Qui tollis peccata mundi, súscipe deprecationem nostram. Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis. Quóniam tu solus Sanctus. Tu solus Dóminus. Tu solus Altísimus, Jesu Christe. Cum Sancto Spíritu, in glória Dei Patris. Amen.

○ 天においては天主に栄えあれ。

▲ 地においては善意の人に平安あれ。

われら主をたたえ、主をあがめ、主を礼拝し、主を賛美したてまつる。主の栄えの大いなるがためにつつしみて感謝したてまつる。主なる天主、天の王、全能の天主なる父。おんひとり子なる主イエズス・キリスト。主なる天主、天主の小羊、父のおん子。主は世の罪を除きたもうにより、われらをあわれみたまえ。主は世の罪を除きたもうにより、われらの願いを聴き入れたまえ。主は父の右に座したもうにより、われらをあわれみたまえ。そは主イエズス・キリスト、唯一の聖、唯一の主、唯一の至高者にてませばなり。主は聖霊とともに天主なる父の光榮にましましたもうなり、アメン。

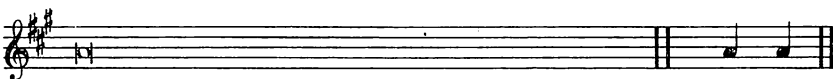
集 祷 文 Ad orationem (祝)



V. *Dó-mi-nus vo-bis-cum.* R. *Et cum spí-ri-tu tu-o.*

◎ ド ミ ス ヌ ヲ ビ ス ク ム ▲ エ ト ク ム ス ピ リ ト ウ ト ウ オ
主 なんじと共に またなんじの霊と共にあれ

{ V. *Pax vó-bis.* } 左は「なんじらに平安あれ」の意で司教ミサの際「ドミヌス・
{ ◎ パ ク ス ヲ ビ ス } サ オ ビ ス ク ム」に代わつて唱えられるが、答詞には変りない。



V. *Oremus.....Per óm-ni-a saé-cu-la sae-cu-ló-rum.* R. *A-men.*

◎ オ レ ム ス ペ ル オ ム ニ ア セ ク ラ セ ク ロ ル ム ▲ ア メ ン
祈願せん.....世々に至るまでしかあれかし

(場合によつては答詞のアーメンが二回以上ある時もある。)

書 簡 Ad Epistolam (祝)

(終りに) R. *Deo grátias.* ▲ 天主に感謝したてまつる。

昇 階 唱 Graduale (祝)

アレルヤ唱 Alleluja (祝)

始め*印の所まで独唱し、ふたたび最初から斉唱する。そしてアレルヤ唱を全部歌いおえてから、また元へもどりアレルヤを普通に一回斉唱する。これは最初に○と▲とがならべてあり、*の下に(2回)としてある普通のアレルヤ唱の歌いかたであるが、アレルヤ唱が二つ、あるいは続唱がある場合などは違う。

詠 唱 Tractus (祝)

七旬節から復活節までの期間アレルヤ唱の代わりに歌う。

続 唱 Sequentia (祝)

福 音 前 Ante Evangelium



V. *Dó-mi-nus vo-bis-cum.* R. *Et cum spí-ri-tu tu-o.*

◎ ド ミ ス ヌ ヲ ビ ス ク ム ▲ エ ト ク ム ス ピ リ ト ウ ト ウ オ
主 なんじらと共に またなんじの霊と共にあれ



V. *Se- quén- ti- a sanc- ti E- van- gé- li- i se- cún- dum*
 ◎ セ ヱエン ヱイ ア サンクタイ エ ヱアン ヱエ リイ セ クン フウム
 次 に ある 聖 福 音 は



N... R. *Gló- ri- a tí- bi, Dó- mi- ne.*
 ▲ ヱレ リア タイ ビ ド ミ ネ
 × × × による 栄 光 なんじに 主 よ。

(福音の終りに) R. *Laus tibi, Christe.* ▲ キリストにたたえあらんことを。

Credo

信 經 (通)

S. *Credo in unum Deum,*

R. *Patrem omnipoténtem, factó- rem coeli et terræ, visibílium ómnium, et invisibílium. Et in unum Dóminum Jesum Christum, Fílium Dei unigénitum: et ex Patre natum ante ómnia saécula; Deum de Deo, lumen de lúmine, Deum verum de Deo vero: génitum, non factum, consubstantiálem Patri: per quem ómnia facta sunt. Qui propter nos hómines, et propter nostram salútem, descéndit de coelis. Et incarnátus est de Spíritu sancto ex María Vírgine; ET HOMO FACTUS EST. Crucifíxus étiam pro nobis: sub Póntio Piláto passus, et sepúltus est. Et resurréxit tértia die, secúndum Scriptúras. Et ascéndit in coelum, sedet ad délixteram Patris. Et*

○ われは唯一の天主を信ず、

▲ すなわち全能の父、天地とすべて見ゆる物と見えざる物との造り主、また唯一の主イエズス・キリストを信ず、天主のひとり子にてすべての世の前に父より生れ、天主よりの天主、光よりの光、まことの天主よりのまことの天主にてましまし、造られずして生まれ、父と一体にして、万物これによりて造られ、人たるわれらのため、またわれらの救いのために天より降り、(ひざまずきながら) 聖霊によりて童貞マリヤより人体を受けて人となりたまひ、またわれらのためにポンシオ・ピラトの管下にて苦しみを受け、十字架に付けられてほうむられたまひ、三日目に聖書にありしごとくよみがえりたまひ天にのぼりておん父の右に座し、しかして生ける人と死せる人とをさばかん

iterum venturus est cum gloria iudicare vivos et mortuos: cujus regni non erit finis. Et in Spiritum sanctum Dominum et vivificantem, qui ex Patre Filioque procedit. Qui cum Patre et Filio simul adoratur et conglorificatur; qui locutus est per Prophetas. Et unam, sanctam, catholicam et apostolicam Ecclesiam. Confiteor unum baptisma in remissionem peccatorum. Et exspecto resurrectionem mortuorum, et vitam venturi saeculi. Amen.

S. Dominus vobiscum.

R. Et cum spiritu tuo.

S. Oremus.

Offertorium

奉献文のあと、パンとぶどう酒が献げられ、聖三位をたたえる。

S. Orate, fratres: ut meum ac vestrum sacrificium acceptabile fiat apud Deum Patrem omnipotentem.

R. Suscipiat Dominus sacrificium de manibus tuis, ad laudem et gloriam Nominis sui, ad utilitatem quoque nostram, totiusque Ecclesiae suae sanctae.

S. Amen.

ために、栄えをおびて再び来たりたまひ、かつその国は終りなかるべし。また主にして命の主なる聖霊を信ず、すなわち父および子より出で、父と子と共に拝み尊まれたまいて予言者をもつて語りたまえり、また一にして聖、公、使徒伝来なる教会を信ず。罪の赦されんために一の洗礼を信ず。死したる者のよみがえりと未来の命とを待ちたてまつる。アメン。

○ 願わくは主汝等とともにいざんことを、
▲ またなんじの霊と共にいざんことを。

○ 祈願せん。

奉 献 文 (祝)

○ 祈れ、兄弟たちよ、われとなんじらとの献げ物が全能の父なる天主にかなわんために。

▲ 願わくは主が献げ物をなんじの手より受けいれたまいて、み名の賛美と光栄とに帰せしめ、われらにも全聖会にも益あるものとならしめたまわんことを。

○ アーメン。(小声で)

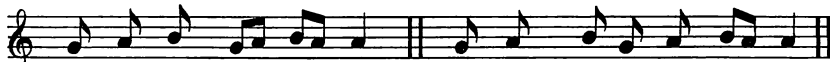
序 唱 前

Ad praefationem



V. Per óm-ni-a sae-cu-la sae-cu-ló-rum. R. A-men.

◎ ペル オム ニア セク ラ セク ロ ルム ▲ ア メン
世 々 に 至 る ま で し か あ れ か し



V. *Dó-mi-nus vo-bis-cum. R. Et cum spí-ri-tu tú-o.*

◎ ド ミ ヌス ッオ ビス クム ▲ エト クム スピリ トウ トウ オ
主 なんじらと共に またなんじの靈と共にあれ



V. *Súr-sum cór-da. R. Ha-bé-mus ad Dó-mi-num.*

◎ スル スム コル ダ ▲ ハベ ムス アド ミ ヌム
心を上げよ われら心を取たり 主に



V. *Grá-ti-as a-gá-mus Dó-mi-no Dé-o nó-stro.*

◎ ッライ アス アガ ムス ドミノ デオ ノストロ
感謝しまつらん 主なるわれらの天主に



R. *Dí-gnum et ju-stum est.* (つづいて司祭は序唱を唱える)

▲ テイ ニユム エト ユストウム エスト
善く かつ 正しき事なるかな。

Sanctus

三 聖 唱 (通)

Sanctus, Sanctus, Sanctus, Dóminus Deus Sábaoth!

Pleni sunt cœli et terra glória tua.

Hosánna in excélsis!

Benedíctus qui venit in nómine Dómini.

Hosánna in excélsis!

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の天主なる主、主の栄えは天地に
みちみてり。いと高き所までホザンナ。
主のみ名によりて来たりたもう者は祝
せられさせたまえ、いと高き所までホ
ザンナ。

三聖唱のあとは典文にはいり聖変化、死者への祈りなどを経て主祷文にうつる。

主 祷 文 の 時 Ad Pater noster



V. *Per óm-ni-a saé-cu-la sae-cu-ló-rum. R. A-men.*

◎ ペル オム ニア セク ラ セク ロ ルム ▲ ア メン
世々に至るまで しかあれかし

S. Oremus : Præceptis salutaribus moniti, et divina institutione formati, audemus dicere :

S. Pater noster, qui es in caelis, sanctificétur nomen tuum : advéniat regnum tuum : fiat volúntas tua, sicut in cælo et in terra : panem nostrum quodiánium da nobis hódie ; et dimitte nobis débita nostra, sicut et nos dimíttimus debitoribus nostris :

○ 祈願せん。われら益ある命令にすすめられ、かつ天主の制定に教えられてあえて主に祈りたてまつる。

天にましますわれらの父よ、ねがわくはみ名の尊まれんことを、み国の来たらんことを、み旨の天に行なわるごとく地にも行なわれんことを。われらの日用のかてを今日われらに与えたまえ、われらが人に赦すごとくわれらの罪を赦したまえ、



..... Et ne nos in- dú- cas in ten- ta- ti- ó- nem.

..... エト ネ ノス イン ドウ カス イン テン タ ヲイ オ ネム
また われらを 引きたまわされ 試 み に。



R. Sed lí- be- ra nos a má- lo.

▲ セド リ° ベ ラ ノス ア マ ロ
救いたまえ われらを 悪 よ り。

神 羊 唱 前 Ante Agnus Dei



V. Per óm- ni- a saé- cu- la sae- cu- ló- rum. R. A- men.

◎ ペル オム ニア セク ラ° セク ロ ルム ▲ ア メン



V. Pax † Dó- mi- ni sit † sem- per vo- bís- † cum.

◎ パクス ド ミ ニ サイト セム ペン ヲオ ビス クム
主 の 平 安 あれ 常 に なんじらと 共に。



R. Et cum spí- ri- tu tu- o.

▲ エト クム スピ リ トウ トウ オ
また なんじの 霊 と 共に。

Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccáta mundi, miserére nobis.

Agnus Dei, qui tollis peccáta mundi, miserére nobis.

Agnus Dei, qui tollis peccáta mundi, dona nobis pacem.

In missis pro Defunctis

Agnus Dei, qui tollis peccáta mundi, dona eis réquiem.

Agnus Dei, qui tollis peccáta mundi, dona eis réquiem.

Agnus Dei, qui tollis peccáta mundi, dona eis réquiem sempiternam.

神 羊 唱 (平時) (遍)

世の罪を除きたもう天主の小羊
われらをあわれみたまえ。

世の罪を除きたもう天主の小羊
われらをあわれみたまえ。

世の罪を除きたもう天主の小羊
われらに平安を与えたまえ。

死者ミサ神羊唱

世の罪を除きたもう天主の小羊
かれらに安息を与えたまえ。

世の罪を除きたもう天主の小羊
かれらに安息を与えたまえ。

世の罪を除きたもう天主の小羊
かれらに永遠の安息を与えたまえ。

このあと三つの祈願があり、聖体拝領前に次ぎの告白の祈りを唱える。

Communio

R. Confíteor Deo omnipoténti, beatæ Mariæ semper Virgini, béato Michaéli Archángelo, beáto Joánni Baptístæ, sanctis Apóstolis Petro et Paulo, ómnibus Sanctis, et tibi, pater, quia peccávi nimis cogitatio-ne, verbo et ópere: mea culpa, mea culpa, mea máxima culpa. Ideo precor beátam Mariám semper Virginem, beátum Michaélem Archángelum, beátum Joánnem Baptístam, sanctos Apóstolos Petrum et Paulum, omnes Sanctos, et te, Pater, oráre pro me ad Dóminum Deum nostrum.

告 白 の 祈

▲ 全能の天主、終生童貞なる聖マリア、大天使聖ミカエル、洗者聖ヨハネ、使徒聖ペトロ・聖パウロ、諸聖人および靈父にむかいて、われは思いと言葉と行いともつて多くの罪を犯せしことを告白したてまつる。これわがあやまちなり、わがあやまちなり、わがいと大いなるあやまちなり。これによりて、終生童貞なる聖マリア、大天使聖ミカエル、洗者聖ヨハネ、使徒聖ペトロ・聖パウロ、諸聖人および靈父に、わがためにわれらの主なる天主に、祈られんことを願いたてまつる。

S. Misereatur vestri omnipotens Deus, et dimissis peccatis vestris, perducat vos ad vitam æternam.

○ 願わくは全能の天主、なんじらをあわれみ、なんじらの罪を赦して終りなき命へ導きたまえ。

R. Amen.

▲ アメン。

S. Indulgentiam, absolutionem et remissionem peccatorum vestrorum tribuat vobis omnipotens et misericors Dominus.

○ 願わくは全能にして慈悲なる主、なんじらをあわれみ、罪の赦しを与えたまえ。

R. Amen.

▲ アメン。

信徒の聖体拝領後、司祭は小声で聖体拝領唱をとなえる。

Postcommunio

S. Dominus vobiscum.

R. Et cum spírítu tuo.

S. Oremus.

R. Amen.

S. Dominus vobiscum.

R. Et cum spírítu tuo.

聖体拝領後の文（祝）

○ 願わくは主なんじらと共にいまして、
▲ またなんじの霊と共にいましてを。

○ 祈願せん。（聖体拝領後の文を唱える）

▲ アメン

○ 願わくは主なんじらと共にいまして、
▲ またなんじの霊と共にいましてを

Ite missa est

S. Ite, missa est.

R. Deo grátias.

ミサに栄光唱を唱えない場合には上の代りに次を唱える

S. Benedicamus Domino.

R. Deo grátias.

（復活聖夜ミサから一週間）

S. Ite, missa est, alleluia, alleluia.

R. Deo grátias, allelúia, allelúia.

死者ミサの場合には次のように唱えて、掩祝はない。

S. Requiescant in pace.

R. Amen.

○ 行けよ、ミサおわれり。

▲ 天主に感謝したてまつる。

○ 主を賛美したてまつらん。

▲ 天主に感謝したてまつる。

○ 行けよ、ミサ終れり、アレルヤ、アレルヤ。

▲ 天主に感謝したてまつる。アレルヤ、アレルヤ。

○ かれらの安らかにいこわんことを、

▲ アメン。

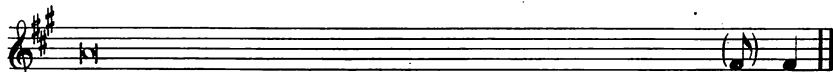
Ad Benedictionem

R. Amen.

掩 祝 の 時

▲ アメン。

司 教 掩 祝 Ad Benedictionem pontificalem



V. *Sit nó-men Dó-mi-ni be-ne-díc-tum.*

◎ スイト ノ メン ド ミ ニ ベ ネ デイカ トウム
主 の み 名 は 祝 せ ら れ よ か し

R. *Ex hoc nunc et us-que in saé-cu-lum.*

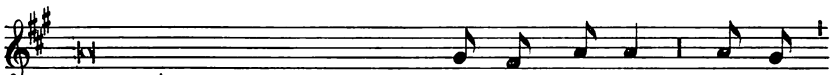
▲ エクス ホク ヌンク エト ウス クエ イン セ ク ルム
今 よ り 世 々 に 至 る ま で

V. *Ad-ju-tó-ri-um no-strum in nó-mi-ne Dó-mi-ni.*

◎ アド ユトリウム ノ ストルム イン ノ ミネ ド ミ ニ
われらの 助けは 主のみ名にあり

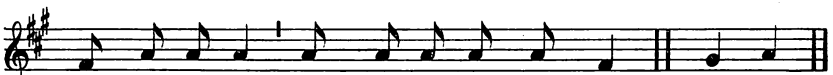
R. *Qui fé-cit caé-lum et ter-ram.*

▲ ヲイ フェ チト テ エ ルム エト テル ラム
かれは 造りたり 天 と 地 を



V. *Be-ne-dí-cat vos om-ní-po-tens Dé-us: Pá-ter +*

◎ ベ ネ デイ カト ヲオス オム ニ ポ テンス デ ウス パ テル
祝福したまえ なんじらを 全能なる 天主 父



et Fí-li-us + et Spí-ri-tus + sanc-tus. R. A-men.

エト ヲイ リ ウス エト スピ リ トウス サンクトウス ▲ ア メン
と 子 と 聖 霊 と は。 しかあれかし

Ad Ultimum Evangelium

終 り の 福 音

S. Dominus vobiscum.

R. Et cum spíritu tuo.

S. + Initium Sancti Evangelii secundum Joannem.

R. Glória tibi, Dómine.

R. Deo grátias.

○ 願わくは主なんじらと共にいまして、

▲ またなんじの霊と共にいましてを。

十ヨハネ聖福音の序文。

▲ 主に栄えあらんことを。

(福音後、侍者は次ぎを答える)

▲ 天主に感謝したてまつる。

死 者 ミ サ

MISSA PRO DEFUNCTIS

入 祭 文 Introitus



Ré- qui- em * æ- tér- nam do- na e-
 レ ッイ エム ▲ エ テル ナム ド ナ エ
 安 息 を 永 遠 の (安 息 を) 与 えた ま え か



is, Dó-mi- ne: et lux per-
 イヌ ド ミ ネ エト ル^{クス} ペル
 れらに 主 よ また 絶 え ざる



pé- tu- a lú- ce- at e- is.
 ペ トウ ア ル^{クス} エ アト エ イヌ
 光 を 照らしたまえ かれらの上に。



Ps. Te de- cet hym-nus, De- us, in Si- on, et ti- bi red-dé-
 ○ テ デ^チエト ヒム ヌス デ ウス イヌイ オン エト^チイ ビ レ^ドデ
 詩. 主は 賛美せらるべきかな 天主よ シオンにて。 また人は主に果たさん



tur vo- tum in Je- rú- sa- lem: * ex- áu- di o- ra- ti- ó- nem
 トウル^ツオトウ ヌ イニエ ル サ^レム ▲ エ^クサ^ツチイ オ ラ^ッイ オ ネム
 誓いを イエルザレムにて。 きき入れたまえ わが祈りを



me- am, ad te om- nis ca- ro vé- ni- et. Ré- qui- em
 メ アム ア^ドテ オム ニス カ ロ ッエ ニ エト (最初に戻り 3行目)
 主にすべての肉身は 来たらん (の終りまで歌う)

求 憐 唱 Kyrie



○ Ky- ri- e, * e- lé- i- son. ▲ Chri- ste,
 ▲ キ リ エ エ レ イ ソ ン ○ リ ステ
 ○ (3回) 主 よ あ わ れ み た ま え ▲ (3回) キ リ ス ト よ



e- lé- i- son. ○ Ky- ri- e, e- lé-
 エ レ イ ソ ン ▲ キ リ エ エ
 あ わ れ み た ま え (2回) 主 よ あ わ れ み た ま え

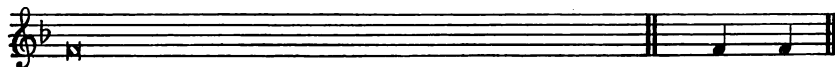


i- son. Ky- ri- e, * e- lé- i- son.
 イ ソ ン ○ キ リ エ ▲ エ レ イ ソ ン
 (1回) 主 よ あ わ れ み た ま え

集 禱 文 の 時 Tonus orationum



V. Do- mi- nus vo- bis- cum. R. Et cum spi- ri- tu tu- o.
 ◎ ド ミ ヌ ス ッ オ ビ ス ク ム ▲ エ ト ク ム ス ビ リ ト ウ ト ウ オ
 主 なんじらと共に また なんじの霊と共にあれ



Oremus..... Per óm-ni-a sae-cu-la sae-cu-ló-rum. R. A- men.
 ◎ オ レ ム ス ペ ル オ ム ニ ア セ ク ラ セ ク ロ ル ム ▲ ア メ ン
 祈願せん..... 世々に至るまで しかあれかし

Oratio

集 禱 文

1. 奉教諸死者の記念日 *In Commemoratione Omnium Fidelium Defunctorum.*

Fidelium, Deus, omnium conditor et redemptor: animabus famulorum famula- rumque tuarum remissionem cuuctorum	すべての信徒の造り主、かつ贖い主にて ますます天主、ねがわくは、主のしもべし もめらの靈魂が信心深き取次ぎによりてこ
--	--

tribue peccatorum; ut indulgentiam, quam semper optaverunt, piis supplicationibus consequantur: Qui vivis et regnas cum Deo Patre in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum. R. Amen.

いねがいしごとく赦しを受けんがため、かれらの罪をことごとく赦したまわんことを、父と聖霊と共に世々生きかつしめしたもう天主よ。

▲ アーメン。

2. 死去または葬儀の日 *In die obitus seu depositionis Defuncti.*

Deus, cui proprium est misereri semper et parcere, te supplices exoramus pro anima famuli tui N. (famulæ tuæ N.), quam hodie de hoc sæculo migrare iussisti: ut non tradas eam in manus inimici, neque obliviscaris in finem, sed jubeas eam a sanctis Angelis suscipi et ad patriam paradisi perducere; ut, quia in te speravit et credidit, non pœnas inferni sustineat, sed gaudia aeterna possideat. Per Dominum nostrum Jesum Christum Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum. R. Amen.

天主、常にあわれみを垂れて罪を赦したもうは主の本性なれば、われら平伏して主のしもべ(しもめ)なる(霊名)の靈魂のために祈り奉る。主は今日命じてこれを現世より移らしめたまいしかば、敵の手に渡して永遠に忘れたもうがごときことをなしたまわされ、かえつて聖なる天使をしてこれを迎えて天の本国に導かしめたまえ。かれはかねて主に希望し、かつ主を信仰せし者なれば、地獄の苦罰を免かれて、終りなき喜びを得しめたまわんことを、主と聖霊と共に世々生きかつしめしたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて、

▲ アーメン。

Epistola

書簡

1. 奉教諸死者の記念日 *In Commemoratione Omnium*

Fidelium Defunctorum.

*Lectio Epistolæ beati Pauli Apostoli
ad Corinthios (1. Cor. 15, 51-57)*

使徒聖パウロ、コリント人に贈りし

書簡の朗読 (コリント前 15, 51-57)

Fratres: Ecce mysterium vobis dico: Omnes quidem resurgemus, sed non omnes immutabimur. In momento, in ictu oculi, in novissima tuba; canet enim tuba, et mortui resurgent incorrupti, et nos immutabimur. Oportet enim corruptibile hoc induere incorruptionem, et mortale hoc induere immortalitatem. Cum autem mor-

兄弟たちよ、見よ、われなんじらに奥義を語らん。われら皆復活すべけれど、皆変化すべきには非ず。すなわち、たちまちの間、またたく間、終りのラツパの鳴らん時、けだしラツパは鳴るべく、死者は不朽の者に復活すべく、われらも変化すべきなり。そはこの腐敗すべきもの不朽を帯び、この死すべきもの不死を帯ぶべければなり、こ

tale hoc induerit immortalitem, tunc fiet sermo qui scriptus est: Absorpta est mors in victoria. Ubi est, mors, victoria tua? ubi est, mors, stimulus tuus? Stimulus autem mortis peccatum est, virtus vero peccati lex. Deo autem gratias, qui dedit nobis victoriam per Dominum nostrum Jesum Christum. . . .

R. (侍者のみ) Deo grátias.

の死すべきもの不死を帯びたらん時、しるされたる言葉は成就せん、曰く、死は勝利に呑まれたり。死よ、なんじの勝利はいずこにかある、死よ、なんじの針はいずこにかあると。しかして死の針は罪なり、罪の力は律法なり、わが主イエズス・キリストをもつてわれらに勝利を賜いたる天主に感謝し奉る。▲ 天主に感謝したてまつる。

2. 死去または葬儀の日 *In die obitus seu depositionis Defuncti.*

*Lectio Epistolae beati Pauli
Apostoli ad Thessalonicenses
(Thes. 4, 13-17)*

Fratres: Nolumus vos ignorare de dormientibus, ut non contristemini, sicut et ceteri, qui spem non habent. Si enim credimus quod Jesus mortuus est et resurrexit, ita et Deus eos qui dormierunt per Jesum, adducet cum eo. Hoc enim vobis dicimus in verbo Domini, quia nos qui vivimus, qui residui sumus in adventum Domini. non praeveniemus eos qui dormierunt. Quoniam ipse Dominus in jussu, et in voce Archangeli, et in tuba Dei descendet de caelo; et mortui qui in Christo sunt, resurgent primi, deinde nos qui vivimus, qui relinquimur, simul rapiemur cum illis in nubibus obviam Christo in aera, et sic semper cum Domino erimus. Itaque consolamini invicem in verbis istis.

R. (侍者のみ) Deo grátias.

使徒聖パウロ、テサロニケに贈り

し書簡の朗読 (テサロニケ前 4, 13-17)

兄弟たちよ、永眠せる人々につきては、なんじらが希望なき他の人々のごとく嘆かざらんために、なんじらの知らざるを好まず、けだしわれらもしイエズスの死したまいかつ復活したまいしことを信ぜば、また天主が永眠せし人々を、イエズスにおいてこれと共に携えたまわんことを信ずべきなり。すなわちわれら、主のおん言葉によりてなんじらに告ぐ、主の再臨の時に生き残るわれらは永眠せし人々に先だつ事なかるべし。けだし号令、大天使の声、天主のラツバを合図に、主みずから天より下りたまひ、キリストにある死者まず復活すべし。次に生き残るわれらは、かれらと共に雲に取りあげられて空中にキリストを迎え、かくて主と共にあるべし。さればなんじらこれらの言葉をもつて相慰めよ。

▲ 天主に感謝したてまつる。

昇 階 唱 Graduale



Ré- qui- em * æ-tér-

レ ッイ エム ▲ エ テル

(訳詞は 237 ページにある)

nam do- na

ナム ド ナ



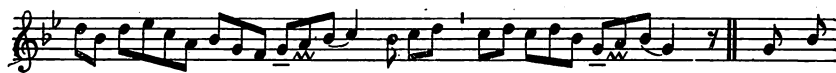
e- is, Dó- mi- ne:
 エ イ ス ド ミ ネ



et lux per-pé- tu-a
 エ ト ルクス ペル ペ トウ ア



lú- ce- at e- is.
 ルクス エ アト エ イス



V. In me-
 ○ イ ヂ メ



mó- ri- a ae- tér-
 モ リ ア エ テル



na e- rit ju-
 ナ エ リ ユ



stus: ab au-di-ti-ó-
 ストウス アッアッアイッイオ



ne ma- la
 ネ マ ラ

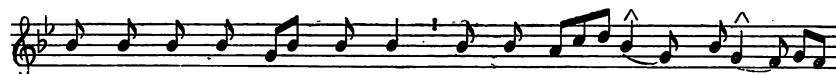


* non ti-mé-bit.
▲ ノン テイ メ ビト

詠 唱 Tractus



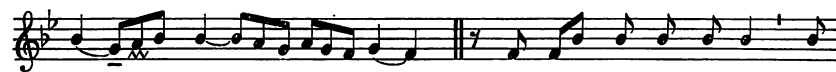
Ab-sól-ve, * Dó-mi-ne, á-ni-mas
アッソ ヴェ ッエ ▲ ド ミ ネ ア ニ マス



om-ni-um fi-dé-li-um de-func-tó-rum
オム ニ ウム ヲイ デ リ ヲ ウム デ フンクト ルム



ab om-ni vín-cu-lo de-lic-
アッオム ニ ヲイン クロ デ リョ



tó-rum. V. Et grá-ti-a tu-a il-
ト ルム ○ エトグラ ヲイ アトウア イ



lis suc-cur-rén-te, me-re-án-tur
リス スククルレン テ メレ アントル



e-vá-de-re ju-dí-ci-um ul-ti-ó-nis.
エ ヲア デレ ヌテイ チ ウム ウ ヲイ オ ニス



V. Et lu- cis ae-tér- nae

○ エト ル^ル チス エ テル^ル ネ



be- a- ti- tú- di- ne * pér- fru- i.

ベ ア^ツイ トウ^ウ ヲイ^イ ネ ▲ ペル^ル ッル^ル イ



昇階唱訳詞

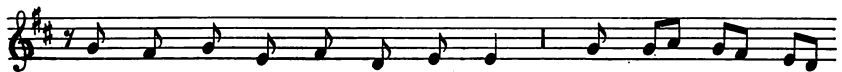
詠唱訳詞

主よ、永遠の安息をかれらに与え、
絶えざる光をかれらに照らしたまえ。

V. 正しき者は永遠に記念せられん。
悪しき音ずれに恐るることなからん。

主よ、すべての死せる信者の靈魂を、ことごとく
罪のほだしより解きたまえ。V・かれらが主の
恵みの助けによりて刑罰の宣告を免かれ、V・永
遠の光りの幸福を楽しむに至らんことを。

続 唱 Sequentia



1. Di- es i- ræ, di- es il- la, Sol- vet sæ- clum

デイ エス イ レ デイ エス イ^ル ヲ ソル ヲ ヲ エト セ ヲ^ル ヲ
怒りの日なり かの日こそは 掃せしめん 世界を

2. Quan- tus tre- mor est fu- tú- rus, Quan- do ju- dex

クワン トウ スト レ モル エスト フトウ ルス クワン ド ユ デクス
いかならん 怖れ 戦きや、 やがて 審判者



in fa- vil- la: Te- ste Da- vid cum Si- byl- la.

イン ヲ^ツ ヲ イ^ル ヲ^ラ テ ス テ ダ ヲ イ ド ク ス イ ビル^ラ ヲ^ラ
灰 に。 証言せり ダヴィドと シビラとは。

est ven- tú- rus, Cunc- ta stric- te dis- cus- sú- rus.

エスト ヲ^ツ エントウ ルス クンク タ ストリク テ デイス クス ス ルス
来たりまして 万ずの事 おごそかに ただしたまわば。



3. Tu- ba mi- rum spar- gens so- num, per se- púl- cra
 トウ バ ミ ル ム スパル ズエンヌ ソ ヌム ベル セ プルクラ
 ラツバの 妙なる 音 ひびくなり 全土の墓に、
 4. Mors stu- pé- bit et na- tú- ra, Cum re- súr- get
 モルス トウ ペ ビト エト ナ トウ ラ クム レ スルジエト
 死はおどろかん また 自然も、 そはよみがえればなり



- re- gi- ó- num, Co- get om- nes an- te thro- num.
 レ ジ オ ヌム コ ジエト オム ネス アン テ トロ ヌム
 集められん人 皆 玉座の下に。
 cre- a- tú- ra. Ju- di- cán- ti re- spon- sù- ra.
 ヌレ ア トウ ラ ユ デイ カン タイ レ スポンスラ
 造られたる者 審 判 者 に 答 えん と て。



5. Li- ber scrip- tus pro- fe- ré- tur, In quo to- tum
 リ ベル スクリプトゥス フロ ヲエ レ トウル イン ヲオ ト 界ウム
 書き記されし書物は さし出だされん すべての事からを
 6. Ju- dex er- go cum se- dé- bit, quid- quid la- tet,
 ユ デクス エルゴ クム セ デ ビト クイ ド クイ ド ラ テト
 審判者 かくて 出でて座したもうや ことごとく隠れたること



- con- ti- né- tur, Un- de mun- dus ju- di- cé- tur.
 コンタイ ネットウル ウン デ ムン ドウ ス ユ デイ チエ トウル
 ふくみし。 それによりて世界は 審判せらるるなり。
 ap- pa- ré- bit: Nil in- úl- tum re- ma- né- bit.
 アッパ レ ビト ニル イン ウル トウ ム レ マ ネ ビト
 あらわれ 一つとして報いられざる事なからん



7. Quid sum mi- ser tunc dic- tú- rus? Quem pa- tró- num
 クイ ド スム ミ セル トウ ン ク タイ ク トウ ルス ク エム パ トロ ヌム
 そのとき哀れなるわれはたして何を言い たれをか弁 護 者 と
 8. Rex tre- mén- dæ ma- je- stá- tis, Qui sal- ván- dos
 レクス トレ メン デ マ イエ スタ タイ ス クイ サル ヲ アン ドス
 仰ぐも畏きみいつの大王 救 わる べき 者 を



ro- ga- tú- rus, Cum vix ju- stus sit se- cú- rus.
 ロ ガ トウ ルス クム ヲイ クス ユ スト ウス ヌ イト セ ク ルス
 仰 ぐ べ き そ は 正 し き 者 す ら 心 や す か ら ざ れ ば な り
 sal- vas gra- tis, Sal- va me, fons pi- e- tá- tis.
 サ ル ヲ ア ス グ ラ テ イ ス サ ル ヲ ア メ ヲ オ ンス ピ エ タ テ イ ス
 恵 み も て 救 い た ま え ば 救 い た ま え わ れ を も、 慈 悲 の 泉 よ



9. Re- cor- dá- re, Je- su pi- e, Quod sum cau- sa
 レ コ ル ダ レ イ エ ス ピ エ ヲ オ ド ス ム カ ヲ サ
 思 い た ま え 慈 悲 ふ か き イ エ ス よ 天 降 り た ま い し は そ も
 10. Quæ-rens me, se- dí- sti las- sus: Re- de- mí- sti,
 ヲ エ レ ンス メ セ テ イ ス テ イ ラ ス ス レ デ ミ ス テ イ
 わ れ を 尋 ね ん と て 疲 れ て 座 し た ま い わ れ を あ が な わ ん と て 十 字 架 の



tu- æ vi- æ: Ne me per- das il- la di- e.
 ト ウ エ ヲ イ エ ネ メ ペ ル ダ ス イ ノ ヲ テ イ エ
 わ が た め な り し を。 わ れ を 滅 ぼ し た ま わ ざ れ か の 日 に。
 cru- cem pas- sus: Tan- tus la- bor non sit cas- sus.
 ク ル テ エ ム パ ス ス タ ント ウ ス ラ ボ ル ノ ンス イ ト カ ス ス
 極 刑 を 忍 び し か ば か か る ご 労 苦 を 空 し か ら ざ ら し め た ま え



11. Ju- ste ju- dex ul- ti- ó- nis, Do- num fac re-
 ユ ステ ユ デ クス ウ ル ヲ イ オ ニ ス ド ヌ ム ヲ ア ク レ
 き び し く 罰 し た も う 正 義 な る 裁 き 主 よ 恵 み を 施 し た ま え
 12. In- ge- mí- sco tam- quam re- us: Cul- pa ru- bet
 イ ン ジ エ ミ ス コ タ ム ク ア ム レ ウ ス ク ル パ ル ベ ト
 な げ ぐ な り わ れ 罪 人 の ご と く。 罪 を 恥 じ て あ か ら む



mis- si- ó- nis, An- te di- em ra- ti- ó- nis.
 ミ ス イ オ ニ ス アン テ テ イ エ ム ラ ヲ イ オ ニ ス
 赦 し の (恵 み) 会 計 の 日 の 至 ら ざ ら ん 間 に。
 vul- tus me- us: Sup- pli- cán- ti par- ce, De- us.
 ヴ ル ト ウ ス メ ウ ス ス プ リ カ ン テ イ パ ル テ エ デ ウ ス
 わ が 顔 は。 平 伏 し ね が う わ れ を 惜 し み た ま え 天 主 よ。



13. Qui Ma-ri-am ab-sol-vi-sti Et la-tro-nem
 ヲイ マリ ア ム アソソルサイ スタイ エト ラ トロ ネム
 主はマリア(マグダレナ)を赦し また 盜賊の願いを

14. Pre-ces me-æ non sunt di-gnæ: Sed tu bo-nus
 プレ チェス メ エ ノン スントダイ ニエ セプトウ ボ スス
 わが願いは ふさわしからず されど 主よ



ex-au-di-sti, Mi-hi quo-que spem de-di-sti.
 エク サウタイ スタイ ミ ヒ ヲオ ヲエ スペム デタイ スタイ
 聞き入れたまいしかば われにも 希望を抱かしたり

fac be-ni-gne, Ne per-én-ni cre-mer i-gne.
 ファク ベ ニ ニエ ネ ペ レン ニ グレ メル イ ニエ
 おん慈悲もて われを永遠の火に焼かざらしめたまえ



15. In-ter o-ves lo-cum præ-sta Et ab hœ-dis
 イン テル オウエス プ クム プレ スタ エト アホヘダイス
 羊のうちにも われを置きたまえ しかして牡山羊より

16. Con-fu-tá-tis ma-le-díc-tis, Flam-mis á-cri-
 コン フ タ テイス マ レイ クタイ ス フラム ミス アクリ
 判決うけの ろわれし者は はげしき炎に



me se-qué-stra Stá-tu-ens in par-te dex-tra.
 メ セ ヲエストラ スタ トウ エンス イン パル テ デクストラ
 われを離し 立たしめたまえ 右方に。

bus ad-díc-tis, Vo-ca me cum be-ne-díc-tis.
 ブス アドダイクタイ ス ヲオ カ メ クム ベ ネ イクタイ ス
 渡されてより、 招きたまえ われを 祝せられし者と共に。




17. O-ro sup-plex et ac-clí-nis, Cor con-trí-tum
 オロ スフプレックス エト アククリニス コル コントリトウム
 われ願いまつる平伏して ひとえに、 心は灰のごと



qua- si ci- nis: Ge- re cu- ram me- i fi- nis
 ヲ^ク ヌ^ク イ^ク チ^ク ニ^ク ヌ^ク ヲ^ク レ^ク ク^ク ラ^ク ム^ク メ^ク イ^ク ヲ^ク イ^ク ニ^ク ヌ^ク
 く 砕 け て。 計 ら い た ま え わ が 終 り を ば。



18. La- cri- mó- sa di- es il- la, Qua re- súr- get
 ヲ^ク ヲ^ク リ^ク モ^ク サ^ク ヲ^ク イ^ク エ^ク イ^ク ヲ^ク ヲ^ク ヲ^ク レ^ク ス^ク ル^ク ヲ^ク エ^ク ト^ク
 涙 の 日 なる かな か の 日、 灰 よ



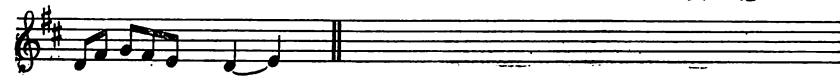
ex fa- ví- la. 19. Ju- di- cán- dus ho-
 エ^ク ク^ク ヲ^ク サ^ク イ^ク ヲ^ク ヲ^ク ヌ^ク ヲ^ク イ^ク カ^ク ヲ^ク ヲ^ク ウ^ク ホ^ク
 り よ み が え ら ん (か の 日 は) 審 判 を 受 け る な り 人



mo re- us: Hu- ic er- go par- ce, De- us.
 モ^ク レ^ク ウ^ク ホ^ク ウ^ク イ^ク エ^ク ル^ク ゴ^ク パ^ク ル^ク ヲ^ク エ^ク デ^ク ウ^ク
 は 罪 ゆ え に。 か れ を さ れ ば 惜 し み た ま え 天 主 よ

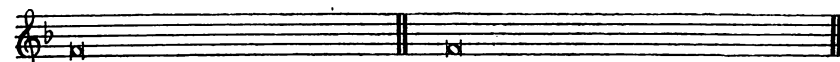


20. Pi- e Je- su Dó- mi- ne, Do- na e- is ré- qui- em.
 ピ^ク エ^ク イ^ク エ^ク ス^ク ド^ク ミ^ク ネ^ク ド^ク ナ^ク エ^ク イ^ク レ^ク ク^ク イ^ク エ^ク ヌ^ク
 慈 悲 深 き イ エ ス 主 よ 与 え た ま え か れ ら に 安 息 を



A- men.
 ア メ ン

福 音 前 Tonus Evangelii



V. Do- mi- nus vo- bis- cum. R. Et cum spí- ri- tu tu- o.

◎ ド ミ ヌ ヌ ヲ ビ ス ク ▲ エ ト ク ヌ ピ リ ト ウ ト ウ オ
 主 なんじらと共に また なんじの霊と共にあれ

V. *Se- quen- ti- a sanc- ti E- van- ge- li- i se- cun- dum*
 ◎ セ ャエンツイア サンクテイ エ ャアン ャエ リ イ セ クンドウム
 次 にかある 聖 福 音 は

Jo- an- nem. R. Gló- ri- a ti- bi, Dó- mi- ne.
 ≡ アン ネム ▲ ャロ リア ャイ ビ ド ミ ネ
 ≡ ハネによる。 栄光あれ おん身に、 主 よ

Evangelium

福 音

1. 奉教諸死者の記念日 *In commemoratione Omnium*

Fidelium Defunctorum.

*Sequentia sancti Evangelii
 secundum Joannem (Jo. 5, 25-29)*

十 ヨハネ聖福音の続唱

(ヨハネ 5, 25-29)

In illo tempore dixit Jesus turbis Judæorum : Amen, amen, dico vobis : Quia venit hora, et nunc est, quando mortui audient vocem Filii Dei ; et qui audierint, vivent. Sicut enim Pater habet vitam in semetipso, sic dedit et Filio habere vitam in semetipso, et potestatem dedit ei judicium facere ; quia Filius hominis est. Nolite mirari hoc, quia venit hora, in qua omnes qui in monumentis sunt audient vocem Filii Dei : et procedent qui bona fecerunt, in resurrectionem vitæ ; qui vero mala egerunt, in resurrectionem judicii.

R. (侍者のみ) *Laus tibi, Christe.*

その時、イエズス、ユデア人の群衆に曰いけるは、誠に誠になんじらに告ぐ、時は来たる、今こそそれよ、すなわち死人は天主の子の声を聞くべく、これを聞きたる人は生くべし、けだし父は生命をおのれのうちに有したもうごとく、子にもまた生命をおのれのうちに有する事を得させたまえり、かつ人の子たるにより審判する権能をこれに賜いしなり。なんじらこれを怪しむなかれ、墓の中なる人ことごとく天主の子の声を聞く時来たらんとす。かくて善をなしし人は、出でて生命に至らんがために復活し、悪を行ないし人は、審判を受けんがために復活せん、と。 ▲ キリストに光榮あれ。

2. 死去または葬儀の日 *In die obitus seu depositionis Defuncti.*

*Sequentia sancti Evangelii secundum
Joannem (Jo. 11, 21-27)*

In illo tempore : Dixit Martha ad Jesum :
Domine, si fuisses hic, frater meus non
fuisset mortuus ; sed et nunc scio quia
quæcumque poposceris a Deo, dabit tibi
Deus. Dicit illi Jesus : Resurget frater
tuus. Dicit ei Martha : Scio quia resurget
in resurrectione in novissimo die. Dixit
ei Jesus ; Ego sum resurrectio et vita ;
qui credit in me, etiam si mortuus fuerit,
vivit, et omnis qui vivit et credit in me,
non morietur in æternum. Credis hoc ?
Ait illi : Utique, Domine, ego credidi,
quia tu es Christus, Filius Dei vivi, qui
in hunc mundum venisti.

R. (侍者のみ) Laus tibi, Christe.

十 ヨハネ聖福音の続唱

(ヨハネ 11, 21-27)

その時、マルタ、イエズスに言いけるは
主よ、もしここにいまししならば、わが兄
弟は死なざりしものを。されど天主に何事
を求めたもうとも、天主これをなんじに賜
うべしとは今もわが知れる所なり、と。イ
エズス、なんじの兄弟は復活すべし、と曰い
しかばマルタ言いけるは、われはかれが終
りの日、復活の時に復活すべき事を知れり、
と。イエズス、われは復活なり、生命なり、
われを信ずる人は死すとも生くべし、また
生きてわれを信ずる人はすべて永遠に死す
る事なし。なんじこれを信ずるかと曰いし
にマルタ言いけるは、主よ、しかりわれは
なんじが生ける天主のおん子キリストのこ
の世に来たりたまいたる者なるを信ず、と。

▲ キリストに光榮あれ。

奉 献 文

Offertorium



Dó-mi- ne Je-su Chri-ste,

ド ミ ネ イエ ス ムリ ス テ
主 イエズス・キリストよ

* Rex gló-

▲ レ ッ ス グロ
王 よ さか



ri- æ, lí- be- ra á- ni- mas óm- ni- um fi-

リ エ ヲ ベ ラ ア ニ マ ス オ ム ニ ウ ム ツ イ
えの(王) 救いたまえ 靈魂をすべての



dé- li- um de- func- tó- rum de pœ- nis in-

デ リ ヲ ウ ム デ フ ャ ャ ト ル ム デ ペ ニ ャ イ
死にたる信者の(靈魂を) 陰府の刑罰



fér- ni, et de pro-fún-do la- cu; lí-be-ra e-
 フェル ニ エトデッロ フンドラ ク リベラエ
 および 深き淵より。 救いたまえ、かれ



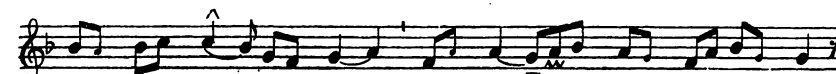
as de o-re le- ó- nis, ne ab-sór-be- at
 アス デ オレ ロ オ ニス ネ アソルベアト
 らを 獅子の口より、 呑みこまれず



e- as tár- ta- rus, ne ca-dant in ob-scú- rum:
 エアス タル タルス ネカダント イン オスク ルム
 かれら 地 獄 に、 落ち入らず かれらがくらやみに。



sed sí- gni- fer sanc-tus Mí- cha- el re-præ-
 セド シイニイ フェル サンクトウス ミ カ エル レプレ
 かえつて 旗手なる 聖 ミカエルが 導かん



sén- tet e- as in lu- cem sanc- tam.
 セン テト エ アス イン ル ヌム サンク タム
 ことを、 かれらを 聖なる光に。



* Quam o- lim A- bra- hæ pro- mi- sí- sti et
 ユアム オ リム アブラヘ ヲロ ミ シイ スタイ エト
 これそかつて アブラハムに 主は約したまい また

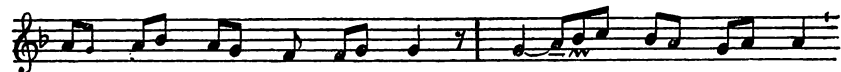


sé- mi- ni e- jus.
 セ ミ ニ エ ヌス
 その裔にも (約したまいしものなり。)



V. *Hó-sti-as et pre-ces ti-bi, Dó-mi-ne,*

○ ホステイ アス エト プレ チエス タイ ビ ド ミ ネ
いけにえ と 祈りとを おん身に 主 よ



lau-dis of-fé-ri-mus: tu sú-s-ci-pe

ラッフェイス オフ フェリ ムス トウ ス シ ペ
賛美として われら献げまつる。 主よ、 これを受けたまえ



pro a-ni-má-bus il-lis, qua-rum hó-di-e

プロ ア ニ マ ブス イルリス ユア ルム ホデイ エ
かれの靈魂のために すなわち きょう



me-mó-ri-am fá-ci-mus: fac-e-as, Dó-mi-

メモリア ユアチ ムス ユアチ エアス ド ミ
われら記念する所の(靈魂のために)。 得させたまえかれらに、主よ



ne, de mor-te trans-í-re ad vi-tam.

ネ デ モルテ トランス イレ アド ヴァイ タム
死より 移るをば、 生命に。



Quam o-lim A-bra-hæ pro-mi-sí-sti et

▲ ユアム オリム アブラハムヘ プロ ミ スイ スチ エト
これぞ かつて アブラハムに 主は約したまい また



sé-mi-ni e-jus.

セミニエ ユス
その裔にも(約したまいしものなり。)

Secreta

密 唱

1. 奉教諸死者の記念日 *In Commemoratione Omnium*

Fidelium Defunctorum.

Hostias, quæsumus, Domine, quas tibi pro animabus famulorum famularumque tuarum offerimus, propitiatus intende: ut, quibus fidei christianæ meritum contulisti, dones et præmium. Per Dominum nostrum Jesum Christum, Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus.

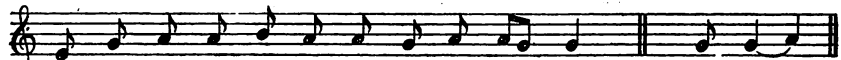
主、ねがわくはわれらが主のしもべしもめたちの靈魂のために献げまつる犠牲をおん慈悲をもつてかえりみたまわんことを、これ主がわれらにキリストを奉ずる恵みを与えたまいしにより、その報いをも施したまわがためなり、主と聖靈と共に生きかつしろしめしたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

2. 死去または葬儀の日 *In die obitus seu depositionis Defuncti.*

Propitiare, quæsumus, Domine, animæ famuli tui N. (famulæ tuæ N.), pro qua hostiam laudis tibi immolamus, majestatem tuam suppliciter deprecantes: ut per hæc piæ placationis officia pervenire mereatur ad requiem sempiternam. Per Dominum nostrum Jesum Christum, Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus.

主よ、われらが主のしもべ(しもめ)なる(靈名)の靈魂のために、主に賛美の犠牲を献げてひたすらご靈威にねがいまつる、かれがこのきよきなだめの犠牲によりて永遠の安息に至るを得しめたまわんことを、主と聖靈と共に生きかつしろしめしたもう天主、おん子、われらの主イエズス・キリストによりて。

序 唱 前 Toni præfationum



V. *Per óm-ni- a saé- cu- la sae- cu- ló- rum.* R. A-men.

◎ ペ オ ニ ア セ ク テ セ ク ロ ル ム ▲ ア メ ン
世 々 に 至 る ま で し か あ れ か し



V. *Dó-mi- nus vo- bis- cum.* R. Et cum spí- ri- tu tu- o.

◎ ド ミ ヌ ス ッ オ ビ ス ク ム ▲ エ ト ク ム ス ピ リ ト ウ ト ウ オ
主 なんじらと共に また なんじの靈と共にあれ



V. *Sur-sum cor- da.* R. *Ha- bé- mus ad Dó- mi- num.*

◎ スル ス コル ダ ▲ ハ ベ ムス アド ミ スム
あ げ よ 心 を わ れ ら あ げ た り 主 に



V. *Grá- ti- as a- gá- mus Dó- mi- no De- o no- stro.*

◎ グラ ッ イ アス ア ガ ムス ド ミ ノ デ オ ノ ストロ
感 謝 し た て ま つ ら ん 主 な る わ れ ら の 天 主 に



R. *Di- gnum et ju- stum est.*

▲ デイ ニ ユム エト ユ ストウ ム エスト
よ く か つ 正 し き 事 な る か な

Praefatio

序 唱

Vere dignum et justum est, æquum et salutare, nos tibi semper et ubique gratias agere, Domine sancte, Pater omnipotens, æterne Deus, per Christum Dominum nostrum. In quo nobis spes beatæ resurrectionis effulsit, ut quos contristat certa moriendi conditio, eosdem consoletur futuræ immortalitatis promissio. Tuis enim fidelibus, Domine, vita mutatur, non tollitur; et dissoluta terrestris hujus incolatus domo, æterna in coelis habitatio comparatur. Et ideo cum Angelis et Archangelis, cum Thronis et Dominationibus, cumque omni militia cœlestis exercitus, hymnum gloriæ tuæ canimus, sine fine dicentes:

げに、善くかつ正しく、益ありてまた幸なることなるかな、われらの主キリストによりていずれの時、いずれの処にても主に感謝し奉るは。聖なる主、全能の父、永遠の天主よ。かれによりて幸いなる復活の希望はわれらに輝けり、そはわれらが死すべき定めによりて憂い悲しむとも、未来の不死の約束によりて慰められんためなり。けだし主を信ずる者は、生命は変わるとも取り去られず、この地上の肉身の住み家は滅ぶとも天において永遠の住み家は備えられたればなり。されば天使と大天使、玉座と主権、またすべての天軍と共に主のみ栄えの賛美をきわまりなく歌わん。

三 聖 唱 Sanctus



*Sanc-tus, * Sanc-tus, Sanc-tus Dó-mi-nus De-us Sá-*
 サンクトウス ▲ サンクトウス サンクトウス ド ミ ヌス デ ウス サ
 聖なるかな 聖なるかな 聖なるかな 主にまします 万軍の天主



ba- oth. Ple- ni sunt cœ- li et ter- ra gló- ri- a tu- a.
 バ オト ○ ッレ ニ スントチエリ エト テルラ ッロ リ アトウア
 みち満てり 天 と 地は 主の 栄光に。



Ho- sán- na in ex- cél- sis. Be- ne- dic- tus qui ve- nit
 ▲ ホ サン ナ イン エクシエルスイス ○ ベ ネ デイクトウス クイ ッエ ニト
 賛美あれいと高き所に。 祝せられさせたまえ 主の名によりて



in nó- mi- ne Dó- mi- ni. Ho- sán- na in ex- cél- sis.
 イン ノ ミ ネ ド ミ ニ ▲ ホ サン ナ イン エクシエルスイス
 来たりたもう者は 賛美あれいと高き所に

主 禱 文 の 時 Ad Pater noster



V. Per óm- ni- a saé- cu- la sae- cu- ló- rum. R. A- men.
 ◎ ペル オム ニ ア セク ラ セク ロ ルム ▲ ア メン
 世々に至るまで しかあれかし

Oremus: Præceptis salutaribus moniti
 et divina institutione formati, audemus
 dicere:

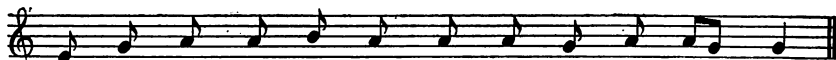
Pater noster, qui es in cœlis; sancti-

祈願せん。われら益ある命令にすすめら
 れ、かつ、天主の制定に教えられてあえて
 主に祈りたてまつる。

天にましますわれらの父よ、ねがわくは

ficetur nomen tuum; adveniat regnum
tuum; fiat voluntas tua sicut in caelo et
in terra. Panem nostrum quotidianum da
nobis hodie, et dimitte nobis debita nostra,
sicut et nos dimittimus debitoribus nostris.

み名の尊まれんことを、み国の来たらんこ
とを、み旨の天に行わることく地にも行
われんことを、われらの日用の糧を今日わ
れらに与えたまえ、われらが人に赦すこと
くわれらの罪を赦したまえ、



V. Et ne nos in-dú- cas in ten- ta- ti- o- nem.

◎ エト ネ ノス インドウ カス イン テン タ ヲイ オ ネム
われらを引きたまわされ 試 み に。



R. Sed lí- be- ra nos a ma- lo.

▲ セド リ° ベ ラ ノス ア マ ロ
救いたまえ、 われらを 悪より

神 羊 唱 前 Ante Agnus Dei



V. Per óm-ni- a saé-cu- la sae-cu- ló- rum. R.A-men.

◎ ペル オムニ ア セク ラ° セク ロ ルム ▲ ア メン
世々に至るまで しかあれかし



V. Pax + Dó- mi- ni sit + sem-per vo- bis- + cum.

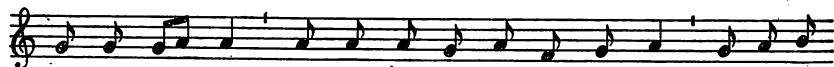
○ パス ド ミ ニ スイト セム ペム ヲオ ビス クム
主の平安 あれ なんじらと共に



R. Et cum spí- ri- tu tu- o.

▲ エト クム スピ リ トウ トウ オ
また なんじの霊と共にあれ

神 羊 唱 Agnus Dei



A-gnus De- i, * qui tol- lis pec- cá- ta mun- di, do- na e-
 ア ヌス デ イ ▲ ヲイ トル リス ペ カ タ ムンテイ ドナエ
 (2回) 天主の小羊 世の罪を除きたもうおん者よ 与えたまえかれ



is ré- qui- em. A-gnus De- i, * qui tol- lis pec- cá-
 イス レ ヲイ エム ○ ア ヌス デ イ ▲ ヲイ トル リス ペ カ
 らに安 息 を。(1回) 天主の小羊 世の罪を除きたもう



ta mun- di, do- na e- is ré- qui- em ** sem- pi- tér- nam.
 タ ムンテイ ドナエ イス レ ヲイ エム セム ピ テル ナム
 おん者よ 与えたまえ かれらに安 息 を 永遠の(安息を。)

聖 体 拝 領 唱 Communion



Lux ae- tér- na * lú- ce- at é- is, Dó- mi- ne:
 ルクス エ テル ナ ▲ ルクス エ アト エ イス ド ミ ネ
 永 遠 の 光 を 照らしたまえ かれらに主 よ



Cum Sanc- tis tú- is in æ- tér- num, qui- a pi- us es.
 クム サンクタ イストウ イス イン エ テル ナム ヲイ ア ビ ウス エス
 主 の 聖 者 と 共 に 永 遠 に、 主 は 慈 悲 深 け ば



V. Ré- qui- em ae- tér- nam do- na e- is, Dó- mi- ne,
 ○ レ ヲイ エム エ テル ナム ドナエ イス ド ミ ネ
 永 遠 の 安 息 を 与えたまえ かれらに 主 よ



et lux per- pé- tu- a lú- ce- at e- is.

エド ルクス ペル ペ トウ ア ル チエ アト エ イス
また 絶えざる光を 照らしたまえ かれらに



* Cum Sanctis tu- is in æ- tér- num, qui- a pi- us es.

▲ クム サンクタイストウ イス イン エ テルヌ ヌム ヲイ ア ピ ウス エス

Postcommunio

聖体拜領後の文

1. 奉教諸死者の記念日 *In commemoratione Omnium Fidelium Defunctorum.*

Animabus, quæsumus, Domine, famularum famularumque tuarum oratio proficiat supplicantium: ut eas et a peccatis omnibus exuas, et tuæ redemptionis facias esse participes: Qui vivis et regnas cum Deo Patri in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum. R. Amen.

主よ、ねがわくは主が主のしもべしもめらの靈魂を罪よりことごとく救い出し、おんあがないに与らしめたもうようひたすらねがいまつるわれらの祈願を強めたまわんことを、父と聖靈と共に世々生きかつしろしめしたもう天主よ、

▲ アーメン。

2. 死または葬儀の日 *In die obitus seu depositionis Defuncti.*

Præsta, quæsumus, omnipotens Deus: ut anima famuli tui N. (famulæ tuæ N.), quæ hodie de hoc sæculo migravit, his sacrificiis purgata et a peccatis expedita, indulgentiam pariter et requiem capiat sempiternam. Per Dominum nostrum Jesum Christum Filium tuum, qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia sæcula sæculorum.

全能の天主、ねがわくはきよう現世より移されし主のしもべ(しもめ)なる(霊名)の靈魂がこの犠牲によりて清められ、その罪より救われて赦しと永遠の安息とを受け得んことを、主と聖靈と共に世々生きかつしらしめしたもう天主おん子、われらの主イエズス・キリストによりて、

▲ アーメン。

R. Amen.

終 祭 唱



Re-qui- é- scant in pá- ce.

A-men.

◎ レクワイエスカント イン パチエ
かれらのいこわんことを 安らかに

アメン
しかあれかし

赦 禱 式

ABSOLUTIO AD TUMBAM

Non intres in iudicium cum servo tuo, Dómine, quia nullus apud te justificábitur homo, nisi per te ómnium peccatórum ei tribuátur remíssio. Non ergo eum, quaesumus, tua judiciális senténtia pre-mat, quem tibi vera supplicátio fidei christiánae comméndat: sed grátia tua illi succurrénte, mereátur evádere iudicium ultiónis, qui dum viveret, insignitus est signáculo sanctae Trinitatis: Qui vivis et regnas in saécula saeculórum.

R. Amen.

主よ、ねがわくは主のしもべを裁きたもうことなかれ。そは何びとも主よりすべての罪の赦しを得しにあらざば、み前に義とせられざるがゆえなり。さればわれらねがいまつる。われらはキリスト教的信仰により心より主に伝達をなしまつれば、審判の処罰をもつてかれを苦しめたまわされ、かえつて生ける間、聖三位の印しにて記されしかれが主の恵みによりて、審判の処罰を免かれんことを。世々生きかつしろしめしたもう主よ。

▲ アーメン。

(以上の祈願は遺骸の安置されている時に唱え、追悼式には略してすぐリベラを歌う)

赦 禱 文 Libera



Lí- be- ra me, Dó- mi- ne, * de mor- te æ-
 リ° ベ ラ メ ド ミ ネ ▲ デ モル テ エ
 救いたまえ、われを 主 よ 終 り な き 死



tér- na, in di- e il- la tre- mén- da,
 テル ナ イン デイ エ イ°ラ° トレ メン ダ
 より ナ の 日 に 恐 ろ し き (日)。



Quan- do cæ- li . mo- vén- di sunt et ter- ra :
 ッアン ドチエ リ° モ ッエンデイ スト エト テル ラ
 すなわち 天 ふ る い かつ 地動かん (日に)



† Dum vé- ne- ris ju- di- cá-

ドゥム ヴェネリス ユディカ
時 主 きたりたまわん (時) 裁 かんた



re saé- cu- lum per i- gnem.

レセク ルム ペル イニエム
め 世 を (裁かんため) 火 を も つ て。



V. Tre- mens fác- tus sum e- go, et tí- me- o, dum

○ トレメンスファクトゥススムエゴ エトタイメオドゥム
ふるい おののきて われ また 恐 れ ん、



dis- cús- si- o vé- ne- rit at- que ven- tú- ra i- ra.

ディスクスイオ ヴェネリト アト ヲエウエンツウ ライラ
審 判 および 怒 り を 思 わ ば。



Quan- do cæ- li mo- vén- di sunt et ter- ra.

▲ ヲアンドチエリ° モウエンタイ スント エト テム ラ
すなわち 天 ふ る い また 地動かん(日)。



V. Di- es il- la, di- es i- rae, ca- la- mi- tá- tis et mi-

○ タイエスイルラ° タイエスイレカラムイタタイス エトミ
かの日こそ 怒 り の 日 わ ざ わ い と 艱



sé- ri- ae, di- es ma- gna et a- má- ra vál- de.

セリエ° タイエスマニヤ エト アマラツァラ° デ
難 の 日 げに大いなる日 かつ なげきの日なるかな



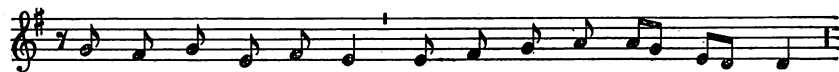
† Dum vé- ne- ris ju- di- cá-

▲ フウ ム ツ エ ネ リ ス ユ フェイ カ
時 主 来 たり たり た ま わ ん (時) 裁 か ん た



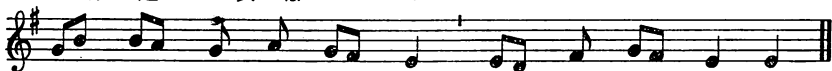
re saé- cu- lum per i- gnem.

レ セ ク ル ム ペル イ ニ ム
め 世 を (裁かのため) 火 を も つ て。



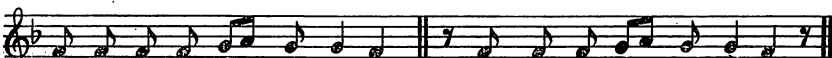
V. Ré-qui- em ae- tér- nam do- na é- is, Dó- mi- ne:

○ レ ッ イ エ ム エ テル ナ ム ド ナ エ イ ス ド ミ ネ
永 遠 の 安 息 を 与 え た ま え か れ ら に 主 よ



et lux per- pé- tu- a lú- ce- at é- is.

エ ト ル ク ス ペル ペ ト ウ ア ル チ エ ア ト エ イ ス
また 絶 え ざ る 光 を 照 ら し た ま え か れ ら に
(最初にもどり「リベラ」を5行目の終りまで歌つてから次の「キリエ」に移る)



Ky-ri- e, e- lé- i- son. Chri- ste, e- lé- i- son.

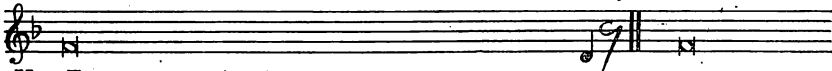
○ キ リ エ エ プ イ ソ ン ▲ ク リ ス テ エ プ イ ソ ン
主 よ あ わ れ み た ま え キ リ ス ト よ あ わ れ み た ま え



Ky-ri- e, e- lé- i- son. Pa- ter no- ster.

▲ キ リ エ エ プ イ ソ ン ◎ パ テル ノ ス テル
主 よ あ わ れ み た ま え 父 よ わ れ ら の (主 禱 文 の 黙 禱)

(棺に聖水をかけ香をくゆらした後、主禱文の終わりを唱える)



V. Et ne nos in- dú- cas in ten- ta- ti- ó- nem. R. Sed lí- be- ra

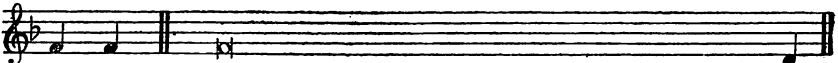
◎ エ ト ネ ノ ス イン フ ウ カ ス イン テン タ ッ イ オ ネ ム ▲ セ ヲ リ ベ ラ
また わ れ ら を 引 き た ま わ さ れ 試 み に 救 い た ま え



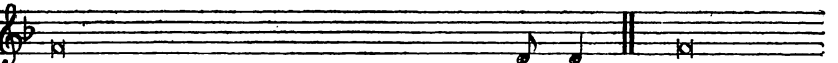
nos a ma- lo. V. A por- ta in- fe- ri. R. E- ru- e, Dó- mi- ne,
 ノス ア マ ロ ◎ ア ポル タ イン フ エ リ ▲ エ ル エ ド ミ ネ
 われらを悪より 地 獄 の 門 より 救いたまえ 主 よ



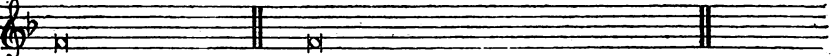
á- ni- mam e- jus. V. Re- qui- é- sca (n) t in pa- ce.
 ア ニ マ ム エ ユス ◎ レ ク イ エ ス カ (ン) ト イン パ チ エ
 かれの靈魂をば 懇わんことをかれ (ら) 安らかに
 (á- ni- mas e- ó- rum) (死者が複数の時は後半の句を左のように
 (ア ニ マ ス エ オ ル ム) 歌う。また他のカッコ内の句も、死者が
 かれらの靈魂をば 複数の時に加え歌う。



R. A- men. V. Dó- mi- ne, ex- áu- di o- ra- ti- ó- nem me- am.
 ▲ ア メン ◎ ド ミ ネ エ ク サ ウ テ イ オ ラ ヲ イ オ ネ ム メ ア ム
 しかあれかし 主 よ ききたまえ わ が 祈 り を



R. Et cla- mor me- us ad te vé- ni- at. V. Dó- mi- nus
 ▲ エ ト ク ラ モ ル メ ウ ス ア ド テ ヲ エ ニ ア ト ◎ ド ミ ス
 またわが叫びをして み前に至らしめたまえ 主



vo- bis- cum. R. Et cum spí- ri- tu tu- o.
 ヲ オ ビ ス ク ム ▲ エ ト ク ム ス ピ リ ト ウ ト ウ オ

祈願の一、(追悼式の祈願であるがこの代わりに他の祈祷を唱え得る)

*Orémus. Absólve, quaesumus, Dómine, áni-
 mam fámuli tui N. (fámulae tuae N.) ab omni
 vinculo delictórum: † ut in resurrectionis gló-
 ria inter Sanctos et Eléctos tuos resuscitátus
 (resuscitáta) respiret.*

祈願の二、(遺骸の安置されている時に唱える)

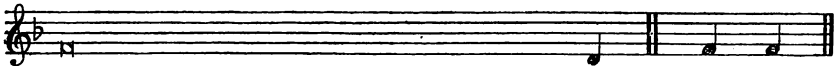
*Orémus. Deus, cui próprium est miseréri sem-
 per et párcere: te súpplīces exorámus pro
 ánima fámuli tui N. (fámulae tuae N.), quam*

祈願せん。主よねがわくは主の
 しもべ(しもめ)なる(霊名)の靈
 魂を罪惡のすべてのおとりより救
 い、復活の光榮もて主の聖なる選
 まれし者の中によみがえらせ、か
 つ回復せしめたまわんことを。

祈願せん。常にあわれみを垂れ
 て罪を赦したもうは主の本性なれ
 ば、われら伏して主のしもべ(し

*hodie de hoc saeculo migrare jussisti, †
ut non tradas eam in manus inimici,
neque obliviscaris in finem, sed jubas
eam a sanctis Angelis suscipi, et ad
patriam paradisi perduci; * ut quia
in te speravit et credidit, non poenas
infernī sustineat, sed gaudia aeterna
possideat.*

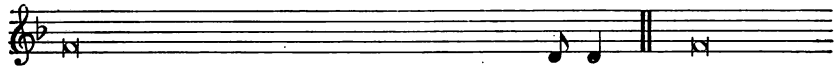
もめ)なる(霊名)の靈魂のために祈りまつる。主は今日命じてこれを現世より移らしめたまいしかば、敵の手に渡して永遠に忘れたもうことをなしたまわず、かえつて聖なる天使をしてこれを迎え、天国に導かしめたまえ。かれらはかつて主に希望しかつ主を信仰せし者なれば地獄の苦罰を免かれて終りなき喜びを得んことを。



V. *Per Christum Dominum nostrum.* R. *Amen.*

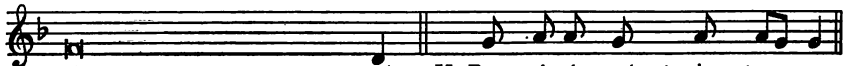
◎ ペル クリストウム ド ミ ヌム ノ ストルム ▲ ア メン

(葬式の際すぐ出棺する時は 265 ページの「楽園歌イン・バラティスム」を歌う)
(追悼式には、また葬式の時でも出棺を延ばす場合には次を歌つて結ぶ)



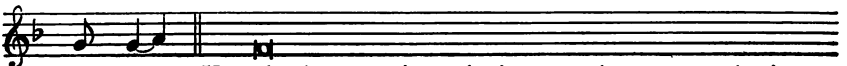
V. *Requiem aeternam dona ei(s), Domine.* R. *Et lux per-*

◎ レイエム エテルナム ドナエイ(ス) ド ミ ネ ▲ エトルクス ペム
永遠の安息を与えたまえかれ(ら)に主よ また絶えざる



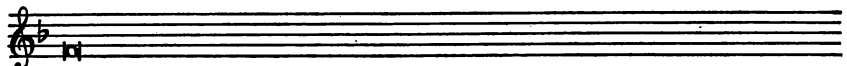
petua luce at ei(s) V. Requiescant in pace.

ペトウアルチエアトエイ(ス) ◎ レイエスカントインパチエ
光を照らしたまえかれ(ら)に 憐れんことをかれ(ら) 安らかに



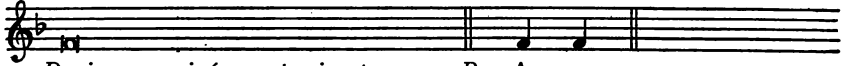
R. *Amen.* V. *Anima eius (Animae eorum) et animae*

▲ アメン ◎ アニマエウス(アニメエオルム) エトアニマ
かれの靈魂(かれらの靈魂)と靈魂



omnium fidelium defunctorum per misericordiam

オムニウムフィデルイウムデフンクトルム ペン ミセリコルチエム
すべての死せる信徒の(靈魂) 天主のあわれみに



Dei requiescant in pace. R. *Amen.*

デイレイエスカントインパチエ ▲ アメン
よりていこわんことを 安らかに

(もし赦禱式を「諸死者のため」に行なつた時は、このページの4行目の音符の初めにある「アーメン」をもつて終りとし、「かれの靈魂……」以下は唱えない)

大人 の 葬 式

EXSEQUIARUM ORDO

詩篇 129 Psalmus 129

(喪家出棺の時、柩に灌水してから唱える)

*Ant. Si iniquitátes. 1. De profúndis clamo ad te, Dómine: **
交唱 罪 と が を *Dómine, audi vocem meam.*

深みよりわれ主を呼びたてまつる * 主よ、わが声を聞きたまえ

2. *Fi-ant au-res tu-æ in-tén-tæ * ad vo-cem ob-se-cra-*
▲ フイ アント ア ッ レ ス ト ウ エ イン テン テ ア ド ッ オ ャ エ ム オ ッ セ ャ ラ
ti-ó-nis me-æ.

ッイオ ニ ス メ エ

おん耳を傾けたまえ * わがせつなる願いに

3. *Si delictórum memóriam serváveris, Dómine: * Dómine, quis*
○ *sustinébit?*

主よ、罪を思いいでたまわば * 主よ、たれか立つを得ん

4. *Sed pe-nes te est pec-ca-tó-rum vé-ni-a: * ut cum re-ve-*
▲ セド ペ ネ ス テ エ ス ト ペ ャ カ ト ル ム ッ エ ニ ア ウ ト ク ム レ ッ エ
rén-ti-a ser-vi-á-tur, ti-bi. されど主のみもとにゆるしあり *

レン ッ イ ア セ ル ャ イ ア ト ウ ル テ イ ビ されば敬いもて主に仕うるを得ん

5. *Spero in Dóminum, * sperat ánima mea in vérbum ejus.*

○ われ主に寄りたのみ * わが魂、み言葉に寄りたのみまつる

6. *Ex-spéc-tat á-ni-ma me-a Dó-mi-num, ma-gis quam cu-*
▲ エ ク ス ペ ャ タ ト ア ニ マ メ ア ド ミ ヌ ム マ ジ ス ャ ア ム ク
*stó-des au-ró-ram * Ma-gis quam cu-stódes au-ró-ram,*

ス ト デ ス ア ッ ロ ラ ム マ ジ ス ャ ア ム ク ス ト デ ス ア ッ ロ ラ ム

ex-spéc-tet Is-ra-el Dó-mi-num.

エ ク ス ペ ャ タ ト イ ス ラ エ ル ド ミ ヌ ム

わが魂、主を待ち望みたてまつる、守り人の夜明けを待つよりも *
守り人の夜明けを待つよりもイスラエルは主は待ち望まん

7. *Quia penes Dóminum misericórdia * et copiosa penes eum redemptio.*

▲ そは主のみもとにおんあわれみあり * 豊かなるあがないあればなり

8. Et ip-se ré-di-met Is-ra-el * ex óm-ni-bus i-ni-qui-tá-ti-bus e-jus.

▲ エトイッ セ レ^レイ メト イスラエ^ル エ^クスオムニ ブス イニ ッイ タ^テイ ブス エ^ユス
主こそイスラエルをあがないたまわん * そのすべての不義より

9. Ré-qui-em ae-tér-nam * do-na e-i(s), Do-mi-ne.

○ 主よ永遠の安息を * かれ(ら)に与えたまえ

10. Et lux per-pé-tu-a * lú-ce-at e-i(s).

▲ エト ル^クス ペ^ル ペトウア ッ^ツテエア^ト エイ(ス)
絶えざる光を * かれ(ら)の上に照らしたまえ

Ant. Si iniquitátes observáveris, Dómine; Dómine, quis sustinébit ?

交唱 ▲ 罪とがをとがめたまわば 主よ 主よ たれか立つを得ん

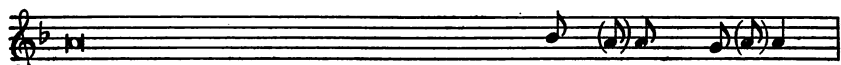
詩 篇 5 0 Psalmus 50

(喪家より聖堂へ向かう途中で歌う)



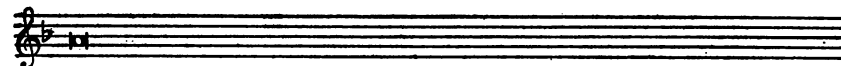
Ant. Ex- sul- tá-bunt Dó-mi-no. 1. Mi-se- ré-re me-i,

○ ニ^クス ス^ル タ ブ^シト ド ミ ノ ○ ミ セ レ レ メ イ
交唱 喜 ば ん 主において あわれみたまえ われを



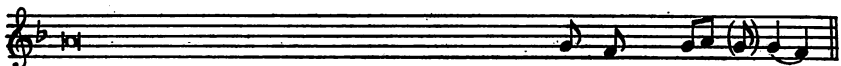
Dé-us, se-cún-dum mi-se-ri- cor-di-am tu-am; *

デ^ウス セ ク^ン ド^ウム ミ セ リ コ^ルテ^イ ア^ム ト^ウ ア^ム
神よ おんいつくしみもて



se-cún-dum mul-ti-tú-di-nem mi-se-ra-ti-ó-num

セ ク^ン ド^ウム ム^ルテ^イト^ウテ^イネ^ム ミ セ ラ ッ^イオ^ヌム
大いなる おんあわれみもて



tu-a-rum, dé-le i-ni-qui- ta-tem me-am.

ト^ウア^ルム デ^レ イニ^クイ タ^テム × ア^ム
消したまえわが不義を

2. Pé-ni-tus la-va me a cul-pa me-a: * et a pec-cá-to

▲ ペニト^ウス ラ^ッア^メ ア ク^ルパ × ア エト^ア ペ^クカト
me-o mun-da me. わがあやまちを洗い流し * わ
メオ ム^ンダ メ が罪よりわれを清めたまえ

3. Nam i-ni-qui-tá-tem me-am e-go a-gno-sco: * et pec-

○ ナム イ ニ ヲイ タ テム メアム エゴ アニヨ スコ エト ペク

cá-tum me-um co-ram me est sem-per.

カトウム メウム コラム メエスト セム ペル

そはわれ、わが不義を認め * わが罪つねにわが前にあればなり

4. Ti-bi so-li pec-ca-vi, * et, quod ma-lum est co-ram te, fe-ci:

▲ タイビ ソリ ペクカタイ エトクオド マルムエストコラム テッエチ

おん身に対してのみ、われ罪を犯し * み前にあしきことをわれ行ないたり

5. Ut ma-ni-fe-sté-ris ju-stus in sen-ten-ti-a tu-a * rec-tus

○ ウト マニフェステリス ユストウス インセン テンテイア トウア レクトウス

in ju-dí-ci-o tu-o.

されば主はみ言葉において正しく * さばき

イン ユテイツイオ トウオ

において直きにましますを現わしたまわん

6. Ec-ce, in cul-pa na-tus sum: * et in pec-cá-to con-cé-pit

▲ エッチエ イン クルパ ナトウス スム エト イン ペクカト コンチエピト

me ma-ter me-a.

げにわれあやまちのうちに生まれ *

メ マテル メア

罪のうちにわが母われを宿したり

7. Ec-ce, sin-ce-ri-tá-te cor-dis de-lec-ta-ris, * et in præ-cór-

○ エッチエ スインチエリタテ コルデイス デレクタリス エトイン プレコル

di-is sa-pi-én-ti-am me do-ces.

げにおん身は心のまことなるを喜

デイイス サピエンティアム メ ドチエス

び * わが内心に知恵を授けたもう

8. A-spér-ge me hys-só-po et mun-da-bor: * la-va me,

▲ アスペル ジエ メ ヒスソポ エト ムンダボル デウア メ

et su-per ni-vem de-al-ba-bor.

エト スペル ニヴェム デアルバボル

ヒソボもて、われに注ぎかけたまえ。しかしてわれ清くなら

ん * われを洗いたまえ。しかしてわれ雪よりも白くならん

9. Fac me au-dí-re gaú-di-um et læ-ti-ti-am: * ex-súl-tént

○ ファク メ アウデイレ ガウディウム エト レタイティアム エクススルテント

os-sa quæ con-tri-vi-sti.

うれしさと喜びをわれに聞かせたまえ *

オスサ クエ コントリヴィスティ

おん身の砕きたまえる骨は喜び踊らん

10. A-vér-te fá-ci-em tu-am a pec-ca-tis me-is: * et om-nes
 ▲ ア ヱエル テ ヲアチ エム トウ アム ア ペク カ テイス メ イス エト オム ネス
 cul-pas me-as de-le. わが罪よりおん顔をそむけたまえ *
 クル パス メ アス デ レ わがすべてのあやまちを消したまえ
11. Cor mun-dum cre-a mi-hi De-us: * et spí-ri-tum
 ○ コル ムン ドウム クレ ア ミ ヒ デ ウス エト スピ リ トウム
 fir-mum re-no-va in me. 神よ、われに清き心を造りたまえ *
 フイル ムム レ ノ ヲア イ シ メ わがうちに強きを新たならしめたまえ
12. Ne pro-jé-ce-ris me a fa-ci-e tu-a: * et spí-ri-tum
 ▲ ネ プロ イ エ チ エ リス メ ア ヲアチ エ トウ ア エト スピ リ トウム
 sanc-tum tu-um ne ábs-tú-le-ris a me.
 サンクトウム トウ ウム ネ ア フス トウ レ リス ア メ
 み前よりわれを退けたもうことなく * おん身の
 聖なる霊をわれより取り去りたもうことなかれ
13. Red-de mi-hi læ-tí-ti-am sa-lu-tis tu-æ: * et spí-ri-
 ○ レ フ デ ミ ヒ レ テ イ ツ イ ア ム サ ル テ イ ス トウ エ エト スピ リ
 tu ge-ne-ró-so fir-ma me. み救いの喜びをわれに返し * 寛
 トウ ヅ エ ネ ロ ソ フイル マ メ 大なる霊もてわれを強めたまえ
14. Do-cé-bo i-ní-quos vi-as tu-as: * et pec-ca-tó-res ad te
 ▲ ド チ エ ボ イ ニ ヅ オ ス ヲイ ア ス トウ ア ス エト ペク カ ト レ ス ア フ テ
 con-ver-ten-tur. われ主の道を罪人らに教えん *
 コン ヱエル テ シ トウル しかして罪人らはおん身にもどらん
15. Lí-be-ra me a pœ-na sán-gui-nis De-us, De-us sal-va-tor
 ○ リ° ベ ラ メ ア ペ ナ サン ヅ イ ニ ス デ ウ ス デ ウ ス サ ル ヲア トル
 me-us: * ex-súl-tet lin-gua me-a de ju-stí-ti-a tu-a.
 メ ウ ス エ ク ス ル テ ト リ° ヲア メ ア デ ユ ス テ イ ツ イ ア トウ ア
 神よ、わが救い主なる神よ、流血の罪よりわれを救いた
 まえ * さらばおん身の正義につき、わが舌は喜び歌わん
16. Dó-mi-ne, lá-bi-a me-a a-pe-ri-es: * et os me-um an-
 ▲ ド ミ ネ ラ° ビ ア メ ア ア ペ リ エ ス エト オ ス メ ウム アン
 nun-ti-á-bit lau-dem tu-am. 主よ、わが口びるを開きたまえ * さら
 スン ツ イ ア ビ ト ラ° デ ム トウ ア ム ばわが口おん身をほめたたまえつらん

17. Ne-que e-nim sa-cri-fi-ci-o de-lec-ta-ris, * et ho-lo-cau-
 ○ ネ ッエ エ ニ ム サ ッリ ッイ チ オ デ レ ッタ リ ス エ ト ホ ロ カ ッ
 stum, si da-rem, non ac-cep-ta-res.

ス ト ウ ム ス イ ダ レ ム ノ ン ア ッエ ッタ レ ス

そはおん身いけにえを喜びたまわず * いけにえをささぐとも受けたまわざれば

18. Sa-cri-fi-ci-um me-um, De-us, spi-ri-tus con-tri-tus: *
 ▲ サ ッリ ッイ チ ウ ム メ ウ ム デ ウ ス ス ピ リ ト ウ ス コ ン ト リ ト ウ ス
 cor con-tri-tum et hu-mi-li-á-tum, De-us, non de-spi-ci-es.

コ ル コ ン ト リ ト ウ ム エ ト ホ ウ ミ リ ア ト ウ ム デ ウ ス ノ ン デ ス ビ チ エ ス

神よ、わがいけにえは痛み悔ゆる心なり * 砕けへり
 くだる心を、神よ、おん身は見捨てたまわさるべし

19. Be-ní-gne fac, Dó-mi-ne, pro bo-ni-tá-te tu-a, er-ga
 ○ ベ ニ ャ エ ッア ッ ド ミ ネ ッロ ボ ニ タ テ ト ウ ア エ ル ガ
 Si-on: * ut re-æ-dí-fi-ces mu-ros Je-ru-sa-lem.

ス イ オ ン ウ ト レ エ ャ イ ッイ ャ エ ス ム ロ ス イ エ ル サ ジ ム

主よ、おんいつくしみもてシオンを優しく取計かいた
 まえ * しかしてエルザレムの城壁を建て直したまえ

20. Tunc ac-cep-tá-bis sa-cri-fi-ci-a le-gí-ti-ma, † o-bla-ti-ó-nes
 ▲ ト ウ ン ク ア ッエ ッタ ビ ス サ ッリ ッイ チ ア レ ジ ャ イ マ オ ッラ ッイ オ ネ ス

et ho-lo-cau-sta: * tunc óf-fe-rent su-per al-tá-re tu-um

エ ト ホ ロ カ ウ ス タ ト ウ ン ク オ ッエ レ ン ト ス ペ ル ア タ レ ト ウ ウ ム

vi-tu-los.

そのときおん身は正しきいけにえ、ささげもの供え物を受けた
 まわん * そのとき人々主の祭壇に雄牛をささげたてまつらん

ウ イ ト ウ ロ ス

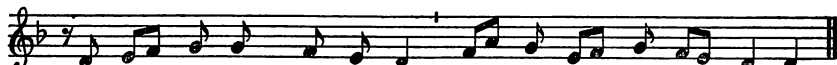
21. Ré-qui-em æ-ter-nam * do-na e-i(s), Do-mi-ne.

○ レ ッイ エ ム エ テ ル ナ ム ド ナ エ イ (ス) ド ミ ネ

主よ永遠の安息を * かれ(ら)の上に照らしたまえ

22. Et lux per-pe-tu-a * lú-ce-at e-i(s). 絶えざる光りを * かれ

▲ エ ト ル ク ス ペ ル ペ ト ウ ア ル ャ エ ア ト エ イ (ス) (ら)の上に照らしたまえ



Ant. Ex-sul-tá-bunt Dó-mi-no os-sa hu-mi-li-á-ta.

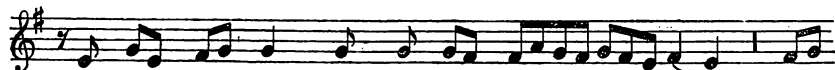
▲ エ ク ス ス ル タ ブ ン ト ド ミ ノ オ ス サ ホ ウ ミ リ ア タ

交唱 喜 ば ん 主において 低 め ら れ し 骨 は

(もし司祭が喪家に迎えに行かなかつた時は、以上の二つの詩篇を聖堂の玄関で唱える)

体 迎 歌 Subvenite

(聖堂内を進み行く時に歌う)



Sub-ve- ni- te, * Sanc-ti De- i, oc-
 スッヱ ニ テ▲ サンクタイ デ イ オッ
 助 け た ま え 天 主 の 聖 人 よ。 迎



cúr- ri- te, Ange- li Dó- mi- ni,
 クル リ テ アンジェ リ ド ミ ニ
 え た ま え 主 の 天 使 よ。



* Sus- ci- pi- én- tes á- ni- mam e- jus, :
 ス シ ピ エン テス ア ニ マム エ ユス
 受 け 取 り た ま え か れ の 霊 魂 を



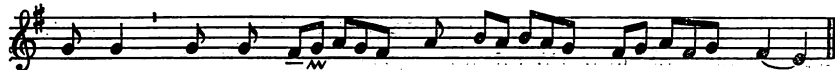
† Of- fe- rén- tes e- am in con- spéc- tu Al-
 オッヱ レンテス エ アム イン コンスペク トウ アム
 献 げ た ま え、 か れ を み 前 に 至



tis- si- mi. V. Sus- cí- pi- at te
 タイスイ ミ ○ ス シ ピ アト テ
 高者の(前に) 受け取りたまえ なんじを



Chri- stus, qui vo- cá- vit te: et in si- num A-
 クリストウスクイ ヴォ カ ヲ イ ト テ エト インスイ ヌムア
 キリスト なんじを招きたまえる者よ。 また アブラハムのふと



bra- hae Ange- li de- dú- cant te,
 ブラヘ アンジェリ デドウ カント テ
 ころに 天 使 よ 導 き た ま え なんじを。



* Sus- ci- pi- én- tes á- ni- mam e- jus:

▲ ス シ ピ エ ン テ ス ア ニ マ ム エ ニ ム
受 け 取 り て か れ の 霊 魂 を



† Of- fe- rén- tes e- am in con- spéc- tu Al-

オ ッ フ エ レ ン テ ッ エ ア ム イ ン コ ン ス ペ ク ト ウ ア ル
献 げ た ま え か れ を み 前 に 至



tís- si- mi. V. Ré- qui- em ae- tér- nam

テ イ ス ス イ ミ ○ レ ッ イ エ ム エ テ ル ナ ム
高 者 の (前 に) 永 遠 の 安 息 を



do- na e- i, Dó- mi- ne: et lux per- pé- tu- a

ド ナ エ イ ド ミ ネ エ ト ル ク ス ペ ル ペ ト ウ ア
与 え て か れ に 主 よ ま た 絶 え ざ る 光 を



lú- ce- at e- i. † Of- fe- rén- tes e-

ル ッ エ ア ト エ イ ▲ オ ッ フ エ レ ン テ ッ エ
照 ら し た ま え か れ の 上 に 。 献 げ た ま え 、 か

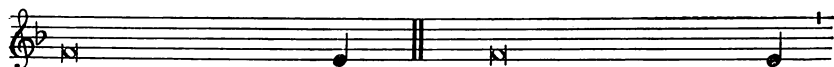


am in con- spéc- tu Al- tís- si- mi.

ア ム イ ン コ ン ス ペ ク ト ウ ア ル テ イ ス ス イ ミ
れ を み 前 に 至 高 者 の (前 に)

(ここで聖務日課が唱えられミサ聖祭が執行されるが、その二つを省略して葬式を続ける場合には、すぐ 252ページの赦祷式に移る)

(もし遺骸を安置したままで聖務日課、ミサ聖祭をあとに延ばす場合には、次のページの「キリエ」とそれ以下の祈りとを歌って式典を一時中止とする)



V. *Ky-ri-e, e-lé-i-son.* R. *Chri-ste, e-lé-i-son.*
 ○ キリエ エピイソソ ▲ ヅリステ エピイソソ



Ky-ri-e, e-lé-i-son. V. *Pa-ter no-ster* (主禱文の黙禱)
 ▲ キリエ エピイソソ ◎ パテナ ノステナ

(以下応答の音符を訳詞は254ページの7行目以下にある)。

V. *Et ne nos inducas in tentationem.*

◎ R. *Sed lí-be-ra nos a má-lo.*
 ▲ セ_F ヴ^レ ベラ ノ_s ア マロ

V. *A pórtia inferi.*

◎ R. *E-ru-e, Dó-mi-ne, á-ni-mam é-jus.*
 ▲ エルエ ド ミネ アニマ_s エユ_s
 (á-ni-mas e-ó-rum)
 アニ マ_s エオ_ル_s

V. *Requiesca(n)t in páce.* R. *A-men.*

◎ ▲ ア メ_s

V. *Dómine, exaúdi orationem meam.*

◎ R. *Et clá-mor mé-us ad te vé-ni-at.*
 ▲ エト ヅ^ラ モ_s メウ_s ア_F テ ヅ^ニア_T

V. *Dóminus vobiscum.*

◎ R. *Et cum spí-ri-tu tú-o.*
 ▲ エト ク_s スピ^リトウ_Tトウ_O

V. *Oremus* (祈願は1を唱える) *Per Christum Dóminum nóstrum.*

R. *A-men.*

▲ ア メ_s

V. *Réquiem aetérnam dona ei(s), Dómine.*

◎ R. *Et lux per-pé-tu-a lú-ce-at é-i(s).*
 ▲ エト ル_s ペ_s ペ^トウ_A ル_s エ^アト_T エイ_(s)

V. *Requiesca(n)t in páce.* R. *A-men.*

◎ ▲ ア メ_s

楽園歌 In paradisum

(赦祷式が終わつて出棺する時に歌う)



*In pa-ra-dí-sum*de-dú-cant te An-ge-li, in tu-o ad-vén-*
 インパ ラテイ スム▲デドウ カント テ アンヂェリ イン トウ オ アフウエン
 楽 園 に 伴いたまえなんじを 天使は。 なんじの 来たるを



tu sus-cí-pi-ant te már-ty-res et per-dú-cant te
 トウ ス シピ アント テ マルタイ レス エト ペルドウ カント テ
 迎 え て 殉教者らは 導きたまえ



in ci-vi-tá-tem sanc-tam Je-rú-sa-lem. Chō-rus An-
 インチ ヱイ タ テム サンク タム イエル サ レム コ ルス アン
 聖 都 イエルザレムに。 歌隊の天



ge-ló-rum te sus-cí-pi-at et cum Lá-za-ro quon-dam
 ッエロ ルム テ ス シピ アト エト クム ラザロ ッオンダム
 使 は なんじを 受けとりたまえ。 しかしてなんじは貧しかりシラザロと



paú-pe-re æ-tér-nam há-be-as ré-qui-em.
 パッペレ エテス ナム ハペアス レクワイエム
 共 に 永 久 の 安 息 を 得 ん こ と を

埋 葬 式

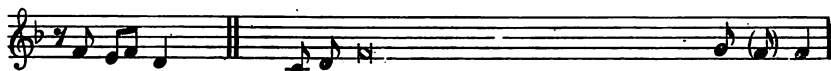
(聖墓地でないならば司祭はまず次の祈願を唱え、棺と墓とに撒水と燻香とをする)

*Deus, cujus miseratōne animae
fideliūm requiescunt, hunc tūmulum
benedicere dignare, eique Angelum
tuum sanctum deputa custodem:
et quorum quarūmque corpora hic
sepeliūntur, animas eorum ab om-
nibus absolve vinculis delictorum,
ut in te semper cum Sanctis tuis
sine fine laetentur. Per Christum
Dōminum nostrum. R. Amen.*

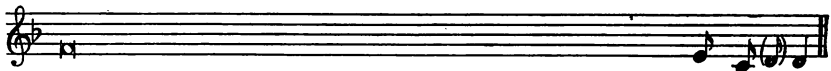
主よ、おん身のおん慈悲によりてこそすべて
の死者の靈魂は永遠の眠りにつきたりしなれ。
ねがわくはみまかりし者の今葬らるるこの墓を
祝し、その守り人としておん身の聖なる天使を
つかわしたまわんことをまたいつかはここに埋
葬せらるべき人々の靈魂が、常におん身におい
ておん身の死者と共にきわみなく喜ぶを得んが
ため、そのすべての罪のおとりより救いたまえ、
われらの主キリストによりて。

▲ アーメン。

ザ カ リ ア 賛 歌



*E-go sum. 1. Be-ne-díc-tus Dó-mi-nus, De-us Is-ra-el: **
○ エゴ スム ○ ベネディクトゥス ドミニヌス デウス イスラエル
われは 祝すべきかな イスラエルの神
(2. *Et e-ré-xit cor-nu sa-lú-tis no-bis*)



qui-a vi-si-tá-vit et re-dé-mit pó-pu-lum su-um.
クイア ヴィスイタヴィト エト レデミット ポプルルム スウム
そはその民をおとずれて あがないたまひ

2. *Et e-ré-xit cor-nu sa-lú-tis no-bis: * in do-mo Da-vid,*
▲ エト エレグシット コルヌ サルティス ノビス インドモダヴィド
ser-vi su-i. そのしもべダビドの家に*救いの角を
セルヴィスイ われらのために起こしたまひたれば

3. *Sic-ut ló-cú-tus est per os sanc-to-rum: * qui o-lim fu-*
○ スイクト ポクトゥス エスト ペル オス サンクトルム クイオリム フ
e-runt pro-phe-tá-rum su-o-rum. これ聖なる予言者たちの口によりて*
エルント プロフェタルム スオウム いにしえより語りたまひしごとく

4. Ut li-be-rá-ret nos ab i-ni-mí-cis no-stris: * et e ma-nu
 ▲ ウト リ^o ベ ラ レト ノス ア^フイ ニ ミ チス ノ ストリス エト エ マ ス
 óm-ni-um qui o-de-runt nos. すべてわれらを憎む者の手より *
 オム ニ ウム ャイ オ デ ルント ノス またわれらの敵よりわれらを救い
5. Ut fá-ce-ret mi-se-ri-cór-di-am cum pá-tri-bus no-stris: *
 ○ ウト^フア^チエ レト ミセリ コル^チイアム クム パトリブス ノ ストリス
 et re-cor-da-re-tur foé-de-ris su-i sanc-ti.
 エト レ コル^ダ レムウル^フエ デ リス スイ サ^クタイ
 われらの先祖にあわれみたれ * その誓約を記憶したまわんためなり
6. Jus-ju-rán-di quod ju-rá-vit Ab-ra-hæ, pa-tri no-stro,: *
 ▲ ユス ユ ラ^ンタイ ャ^フユ ラ^ウイト ア^フラ ヘ パトリ ノ ストロ
 da-tú-rum se no-bis. われらの父アブラハムに誓い * われ
 ダ^トウルム セ ノ ビス らに賜わらんと約したまいたれば
7. Ut si-ne ti-mo-re, e ma-nu in-i-mi-có-rum no-stró-rum
 ○ ウト スイネ テイモレ エ マヌ イニミコルム ノ ストロ ルム
 li-be-ra-ti,: * ser-vi-á-mus il-li. われら敵の手より救われて
 リ^o ベ ラ^ンタイ セル^ウイアムス イ^ルリ^o て * 恐れなく主に仕え
8. In sanc-ti-tá-te et ju-stí-ti-a co-ram i-pso,: * óm-ni-
 ▲ イン サ^クタイ タテ エト ユス^テイ^ッイア コ ラム イ^ッソ オムニ
 bus di-é-bus no-stris. 聖と義とにおいて * 生涯
 ブス^テイ^エアス ノ ストリス 主のみ前にはべりまつらん
9. Et tu, pu-er, pro-phé-ta Al-tís-si-mi vo-ca-be-ris: *
 ○ エト トウ プエス フロ^フエタ ア^ルタイ^ススイ ミ ャオ カベリス
 præ-í-bis e-nim an-te fá-ci-em Dó-mi-ni ad pa-rán-das
 プ^レイ^ビス エニム アン^テ ャ^チエム ド ミニ^アフ パ^ラン^ダス
 vi-as e-jus. 幼子よなんじいと高き者の予言者と呼ばれん *
 ャ^イアス エ ユス そは道を備えんために主のみ前に立ち
10. Ad dan-dam po-pu-lo e-jus sci-én-ti-am sa-lu-tis: *
 ▲ ア^フ ダ^ンダム ポ^プロ エ^ユス シ^{エン}ツ^イアム サ^ルタイ^ス
 in re-mis-si-ó-ne pec-ca-tó-rum e-o-rum.
 イン レ^ミス^スイ^オネ ベ^クカトルム エ^オルム
 罪のゆるしによりてたすかりの知識を * 主の民に与うればなり

11. Per ví-sce-ra mi-se-ri-cór-di-æ De-i no-stri: * qua vi-si-
 ○ ペル ヴィシエラ ミセリコルタイエ デイ ノ ストリ ヌイ ヴィスイ
 tá-bit nos ó-ri-ens ex al-to.

タ ビト ノス オリエン ス エクス アルト

神の深きおんあわれみにより * 上より朝日われらを訪れ

12. Ut il-lú-mi-net e-os, qui in té-ne-bris et in um-bra
 ▲ ウト イルルミネト エオス ヌイ イン テ ネブリ ス エト イン ウムブラ
 mor-tis se-dent: * ut dí-ri-gat pe-des no-stros in
 モルタイ ス セ デント ウト タイリガト ペデス ノ ストロ ス イン
 vi-am pa-cis.

ヴィアム パチス

やみと死の陰に座する者を照らし

* わが足を平和の道に導かかん

13. Ré-qui-em æ-ter-nam * do-na e-i(s), Do-mi-ne.

○ レ ヌイ エム エテルナム ド ナ エイ(ス) ド ミネ

主よ永遠の安息を * かれ(ら)に与えたまえ

14. Et lux per-pe-tu-a * lú-ce-at e-i(s).

▲ エト ルクス ペル ペトウア ルチエ アト エイ(ス)

絶えざる光を * かれ(ら)の上に照らしたまえ



E-go sum re-sur-réc-ti-o et vi-ta: qui cre-dit

エゴ スム レスルレクタイ オ エト ヴィ タ ヌイ クレ ヲイト

われは 復活 なり 生命なり われを信ずる



in me, é-ti-am si mór-tu-us fú-e-rit, vi-vet:

イン メ エ ヲイ アム スイ モルトウ ウス フ エ リト ヴィ ヴェト

者は よ し や 死 す と も 生くべし



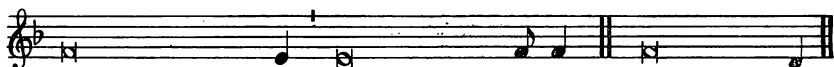
et om-nis qui vi-vit et cre-dit in me, non mo-ri-

エトオム ニス ヌイ ヴィ ヴィト エト クレ ヲイト イン メ ノン モリ

しかしてすべて 生 き かつわれを信ずる者は 死 す こ



é- tur in æ- tér-num. V. Ky-ri- e, e- lé- i- son.
 エ ト ウル イン エ テルヌ ム ○ キリ エ エ ピ イ ソン
 と な し 永 遠 に。 主 よ あわれみたまえ



R. Chri- ste, e- lé- i- son. Ky-ri- e, e- lé- i- son. V. Pa- ter no- ster.

▲ ッリ ステ エピイソン キリエ エピイソン ◎ パテルノステル
 キリストよあわれみたまえ 主よあわれみたまえ われらの父よ
 (主祷文を黙禱し棺に撒水する)

(つぎの応答の音符と訳詞は254ページの7行目以下にある)。

V. *Et ne nos indúcas in tentatiónem.*

◎ R. Sed lí- be- ra nos a má- lo.
 ▲ セフ リ ベラ ノス ア マ ロ

V. *A pórtā inferi.*

◎ R. E- ru- e, Dó- mi- ne, á- ni- mam é- jus.
 ▲ エルエドミネ アニマ ヌ エニ ヌ
 (á- ni- mas e- ó- rum)
 アニマ ヌ エオ ル ヌ

V. *Requiesca(n)t in páce.* R. A- men.

◎ ▲ ア メン

V. *Dómine, exaúdi oratióne[m] meam.*

◎ R. Et cla- mor mé- us ad te vé- ni- at.
 ▲ エト ッラ モ ヌ メ ウス アド テ ヴニ アト

V. *Dóminus vobiscum.*

◎ R. Et cum spí- ri- tu tú- o.
 ▲ エト ク ヌ ピリトウトウオ

V. *Oremus. Fac, quaesumus, Dómine, hanc cum servo tuo defúncto (fámula tua defúncta) misericórdiam, ut factórum suórum in poenis non recípiat vicem, qui (quae) tuam in votis tenuit voluntátem: † ut sicut hic eum (eam) vera fides junxit fidélium turmis: * ita illic eum (eam) tua miserátio sóciat angélicis choris.*

祈願せん、主よおん身のしもべ(しもめ)なるこの死者におんあわれみを与えたまえ。ねがわくは、かれはみ旨を果たさんことを望みしがゆえに、刑罰をその行ないの報いとはなしたまわされ、現世においてかれの信仰が、かれを信徒の群に結ばしめしごとく、かの世においても主のおんあわれみによりて、かれらを天使らの群に加えたまわんことを。

Per Christum Dóminum nóstrum.

◎ R. A- men.
▲ ア メン

V. *Réquiem aetérnam dóna ei(s), Dómine.*

◎ R. Et lux per-pé-tu-a lú-ce-at é-i(s).
▲ エト ル^クス ペ^ス ベ^ス ト^ウア ル^テエ^ア ト^エイ(ス)

V. *Requiesca(n)t in páce.*

◎ R. A- men.
▲ ア メン

V. *Anima éjus (Animae eórum) et ánimae ómnium fidelium defunctorum per misericórdiam Dei requiescant in páce.* R. A-men.

▲ ア メン

諸死者のためにする祈

(この祈は正しくは埋葬を終え聖堂にもどつてから、そこで唱えられるのであるが、帰路につく前、墓地でこれを唱えてもよい)

Ant. Si iniquitátes.

Psalmus 129.

De profúndis clamo ad te, Dómine: Dómine, áudi vocem méam.

*Fiant áures túæ inténtae: * ad vócem obsecratiónis méæ.*

*Si delictórum memoriám serváveris, Dómine: * Dómine, quis sustinébit?*

*Sed penes te est peccatórum vénia: * ut cum reveréntia serviátur tibi.*

*Spero in Dóminum, * sperat ánima méa in verbum ejus.*

*Exspéctat ánima mea Dóminum magis quam custódes auróram, * magis quam custódes auróram, exspéctet Israel Dóminum.*

Quia penes Dóminum misericórdia: et copiósa penes eum redémptio.

*Et ipse rédimet Israel: * ex ómnibus*

交唱 もし不義に

詩篇 129

○ 深みよりわれ主を呼びたてまつる、主よ
わが声を聞きたまえ

▲ おん耳を傾けたまえ、わが切なる願いに

○ 主よ、罪を思いいでたまわば、主よ、た
れか立つを得ん

▲ されど主のみもとに許しあり、されば敬
いもて主に仕うるを得ん

○ われ主に寄りののみ、わが魂、み言葉に
寄りののみたてまつる

▲ わが魂、主を待ち望みたてまつる、もり
人の夜明けを待つよりも、もり人の夜明
けを待つよりもイスラエルは主は待ち望
まん

○ そは主のみもとにおんあわれみあり、豊
かなるあがないあればなり

▲ 主こそイスラエルをあがないたまわん、

iniquitatibus ejus.

*Réquiem aeternam * dona eis, Domine.*

*Et lux perpetua * luceat eis.*

*Ant. Si iniquitates observáveris, Domine: * Domine, quis sustinébit?*

Kyrie, eléison.

Christe, eléison.

Kyrie, eléison.

Pater noster (secreto)

V. Et ne nos inducas in tentationem.

R. Sed libera non a malo.

V. A porta inferi.

R. Erue, Domine. animas eorum.

V. Requiescant in pace.

R. Amen.

V. Domine, exáudi orationem meam.

R. Et clamor meus ad te veniat.

V. Dominus vobiscum.

R. Et cum spiritu tuo

Orémus. Fidélíum, Deus, omnium conditor et redemptor, animábus famulorum famularumque tuarum remissionem cunctorum tribue peccatorum; ut indulgentiam, quam semper optaverunt, piis supplicationibus consequantur. Qui vivis et regnas in saecula saeculorum.

R. Amen.

V. Réquiem aeternam dona eis, Domine.

R. Et lux perpetua luceat eis.

V. Requiescant in pace.

R. Amen.

そのすべての不義より

○ 主よ、永遠の安息をかれらに与えたまえ

▲ 絶えざる光をかれらの上に照らしたまえ

▲ 主よ、もし不義におん目をとめたまわば、

主よ、たれかよく立つことを得ん

○ 主、あわれみたまえ

▲ キリストあわれみたまえ

○ 主、あわれみたまえ

○ 天にまします (以下黙禱)

○ われらを試みに引きたまわされ

▲ われらを悪より救いたまえ

○ 主よ、地獄の門より

▲ かれらの靈魂を救いたまえ

○ かれらの安らかにいこわんことを

▲ アーメン

○ 主よ、わが祈りを聞き入れたまえ

▲ わがさげびをみ前に至らしめたまえ

○ 主、なんじらと共にいましたまえ

▲ また、なんじの靈と共に

○ 祈願せん、すべての信者の創造主かつあがない主にてまします天主、主のしもべ (しもめ) の靈魂にすべての罪の許しを与えたまえ。ねがわくはかれらが絶えず望みたてまつりし許しをばわれらの切なる祈りによりて蒙らしめたまえ、世々生きかつしろしめたもう主によりて願いたてまつる。

▲ アーメン

○ 主よ、永遠の安息をかれらに与え

▲ 絶えざる光をかれらの上に照らしたまえ

○ かれらの安らかにいこわんことを

▲ アーメン

第 二 部

贊 歌

聖 体 賛 歌

IN HONOREM SANCTISSIMI SACRAMENTI

アヴェ・ヴェルム Ave verum



A- ve vé- rum * Cór- pus ná- tum de Ma- ri- a Vir-
 ○ ア ヲエ ヲエ ルム コル プス ナトウム デ マ リ ア ヲイナ
 めでたし まことの 生れたまいしおん体、 マ リ ア 童

Ve- re pas- sum im- mo- lá- tum in crú- ce pro hó-
 ▲ ヲエ レ パス スム イム モ ラトウム イン クルチエ ヲロ ホ
 まことに 苦しみをし受け 犠牲となりたまえり、 十字架上に 人の



gi- ne: Cú- jus lá- tus per- fo- rá- tum flú- xit
 ジ ネ ○ ク ヌス ラトウス ペル ヲオ ラ トウム フルクスイト
 貞より。 おん 脇 腹 を 刺 し 貫 か れ 流 し ませり

mi- ne: E- sto nó- bis præ- gu- stá- tum mór- tis
 ミ ネ ▲ エ スト ノ ビス プレ グ スタ トウム モルティス
 た め な り た ま え わ れ ら の 糧 と、 臨 終



á- qua et sán- gui- ne: O Je- su dúl- cis!
 ア ヲア エト サン ヲイ ネ ○ オ イエ ス ドウル チス
 水 と 血 と を。 おお イエズスよ甘美にまします。

in e- xá- mi- ne. O Jé- su pi- e!
 イン エ ヲサ ミ ネ ▲ オ イエ ス ピ エ
 の も だ え に 先 だ ち て。 おお イエズスよ柔和にまします。



O Jé- su, fi- li Ma- ri- æ.
 ▲ オ イエ ス ヲイ リ マ リ エ
 おお イエズスよ マ リ ア の お ん 子 よ。

サクリス・ソレムニイス Sacris solemniss

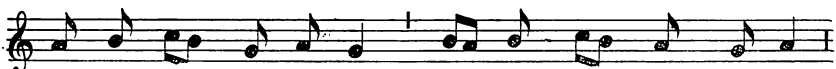
(この歌は 276 ページにあるパニス・アンジェリクスの音符でも歌われる)



1. Sá- cris so- lém- ni- is júnc-ta sint gáu-di- a,
 サ クリス ソ レム ニ イス * ユンク タ ス イント ガウダイ ア *
 聖 典 に は 満たされてあれ、喜 び は。



Et ex præ- cór-di- is só- nent præ- có- ni- a:
 エト エクス プレ コルダイ イス * ソ ネット プレ コ ニ ア *
 また 心 底 より 出 て ひびけ 賛 美 は。



Re- cé- dant vé- te- ra, nó- va sint óm- ni- a,
 レ チエ ダント ヴエ テ ラ * ノ ヴァ ス イント オム ニ ア *
 去 れ 古 き は。 新 た なれ、す べ て



Cór- da, vo- ces et ó- pe- ra. A- men.
 コル ダ ヴォ チエス エト オ ペ ラ (最後に) ア メン
 心、 声 また 業 も。 しかあれかし

2. Nóc-tis re-có-li-tur coé-na no-vís-si-ma,
 ノクタイス レ コリトウル * チエ ナ ノ ヴィス イ マ *
 Qua Chrí-stus cré-di-tur á-gnum et á-zy-ma
 クア クリストウス クレディトウル * ア ユム エト アズイ マ *
 De- dís- se frá-tri-bus, júx- ta le- gí- ti- ma
 デ ディス セ フラ トリ ブス * ユクス タ レジ タイ マ *
 Prí- scis in- dúl- ta pá- tri- bus.
 プリ シス インデュル タ パ トリ ブス

こは最終晩餐の記念なり。われらは信ず、キリストは羔及び種なきパンを兄弟らに与え、古の太祖に授けられし律法を全うしたまえるを。

3. Post á-gnum ty-pi- cum, ex- plé- tis é- pu- lis
 ポスト ア ユム タイピ クム * エクスプレタイス エプリス *
 Cor- pus Do- mí- ni- cum da- tum di- scí- pu- lis,
 コルプス ド ミニクム * ダトゥム ディシプリス *

前表なる羔及び例なる食事の取めにして、主はおん体を弟子に与えられ、すべ

- Sic tó-tum óm-ni-bus, quod tó-tum sín-gu-lis,
 スイクトトウム オム ニ ブス * ヲオド トトウム スイン グ リス *
 E-jus fa-té-mur má-ni-bus.
 エ ヌス ヲア テ ムル マ ニ ブス
4. Dé-dit fra-gí-li-bus cór-po-ris fér-cu-lum,
 デ デイト ヲラジリ² ブス * コル ポ リス ヲエルク ルム *
 Dé-dit et trí-sti-bus sán-gui-nis pó-cu-lum,
 デ デイト エトリステイ ブス * サンガイ ニス ポ ク ルム *
 Dí-cens: Ac-cí-pi-te, quod trá-do vás-cu-lum,
 デイチエンス アッチ ピ テ * ヲオドトラ ド ヲアスク ルム *
 Om-nes ex é-o bí-bi-te.
 オム ネス エクス エオ ビ ビ テ
5. Sic sa-crí-fí-ci-um í-stud in-stí-tu-it,
 スイク サクリフィチウム * イストウフ インステイトウイト *
 Cú-jus of-fí-ci-um com-mít-ti vó-lu-it
 ク ヌス オフフィチウム * コム ミトテイ ヲオ ルイ ト *
 Só-lis pres-by-te-ris, qui-bus sic cón-gru-it,
 ソリス プレス ビ テリス * ケイ ブス スイク コングル イト *
 Ut sú-mant et dent cé-te-ris.
 ウト ス マント エト デント チエ テ リス
6. Pá-nis an-gé-li-cus fit pá-nis hó-mi-num:
 パ ニス アンジェリク² クス * フイト パ ニス ホ ミ ヌム *
 Dat pá-nis caé-li-cus fi-gú-ris tér-mi-num:
 ダト パ ニス チエリク² クス * フイグリス テル ミ ヌム *
 O res mi-rá-bi-lis! man-dú-cat Dó-mi-num
 オレス ミラ ビ リス * マンドウカト ド ミ ヌム *
 Pau-per, sér-vus et hú-mi-lis.
 パッペル セルヴス エト ホウミリス
7. Te, trí-na Dé-i-tas ú-na-que, pó-sci-mus,
 テ トリナ デイタス * ウナ ヲエ ポ シ ムス *
 Sic nos tu ví-si-ta, sic-ut te có-li-mus:
 スイク ノス トウ ヲイスイタ * スイクト テ コリ ムス *
 Per tú-as sé-mi-tas duc nos quo tén-di-mus,
 ペルトウアス セ ミ タス * ドウク ノス ヲオ テンテイ ムス *
 Ad lú-cem quam in-há-bi-tas. A-men.
 アド ルチエム クラム イン ハ ビ タス * ア メン

ての人にも全く、個々の人にも全く、てずから賜わりしをわれら公言す。

主は弱き者におん体を食せしめ、悲しむ者にお血を飲ましめ、のたまひけるは、なんじら受けよ、わが与うる杯を皆これを飲めと。

かく聖祭を定め、その務めを司祭のみにゆだねたまひしかば、司祭はみずからこれを授かり、また人にも授くなり。

天使のパンは人々のパンとなれり。天のパンにして前じるしを全うせり。おお感嘆すべきかな、貧しき者、しもべ、および卑しき者、主を食しまつるは。

三位一体の天主、願ひ奉る、われら主を奉ずる者なれば、われらに臨みたまえ。主の道によりてわれらの仰ぎまつる所すなわち主の住まいたもう光榮に導きたまえ。アーメン。

パニス・アンジェリクス Panis angelicus

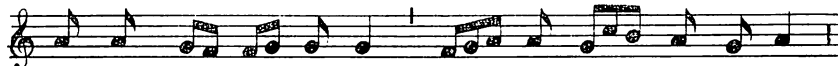
(この歌は前のサクリス・ソレムニスの音符ででも歌われる)



1. Pá-nis an-gé-li-cus fit pá-nis hó-mi-num:
 パニス アンジェリクス* ヲイト パニス ホミヌム*
 天使のパンはなれり人々のパンと



Dat pá-nis caé-li-cus fi-gú-ris tér-mi-num:
 ダトパニスチエリクス ヲイ グリス テルミヌム*
 天のパンにして前じるしを全うせり



O res mi-rá-bi-lis! man-dú-cat Dó-mi-num
 オレスミラビリクス* マンドウカト ドミヌム*
 おお感嘆すべきかな。食しまつるなり主を、



Pau-per, sér-vus, et hú-mi-lis. A-men.
 パウペル セルヴス エトホウミリス(最後に)アメン
 貧しき者、しもべ、および卑しき者は。しかあれかし

2. Te trí-na Dé-i-tas ú-na-que, pó-sci-mus,
 テトリナ デイタス* ウナケ ポシムス*
 おん身三位の天主 唯一の(天主) 願いまつる

Sic nos tu ví-si-ta, si-cut te có-li-mus:
 スイク ノストウ ヴィスイタ* スイクト テ コリムス*
 われらにおん身臨みたまえ われら主を奉ずるなれば。

Per tú-as sé-mi-tas duc nos quo tén-di-mus,
 ペルトウアス セミタス* ドウク ノスコオ テンテイムス*
 主の道によりて 導きたまえ、われらの仰ぎまつる所

Ad lú-cem quam in-há-bi-tas. A-men.
 アドルチェム クアム インハビタス* アメン
 すなわち主の住まいたもう光榮に。しかあれかし

オ・クアム O quam



O quam su-á-vis est, * Dó-mi-
 オ クアム スア ヴイス エスト ▲ ド ミ
 おお 甘美なるかな 主 よ



ne, spí-ri-tus tú-us! qui ut dul-cé-
 ネ スピ リ トウス トウ ウス クイ ウト ドウルチエ
 おん 身 の み 心 は。 そは おん身の



di-nem tú-am in fí-li-os de-mon-strá-
 テイ ネム トウ アム イン ヲイ リ オス デ モン ストラ
 甘美なるを 子に示さんため



res, pá-ne su-a-vís-si-mo de
 レス パネ スア ヴイス スイ モ デ
 いとも美味なるパンを



caé-lo praé-sti-to, e-su-ri-én-tes ré-ples
 チエ ロ プレ ヲタイ ト エスリ エン テス レ ヲレス
 天より与えたまいて 飢えし人を満たし



bó-nis, fa-sti-di-ó-sos dí-vi-tes
 ボニス ヲア スタイ テイ オ ソス テイ ヴイ テス
 よき物もて、 傲慢なる 富者を



di-mít-tens in-á-nes.
 テイ ミト テンス イ ナ ネス
 帰したまえばなり む な し く。

エ ッ チ エ ・ パ ニ ス Ecce panis

(聖体祭の続誦中より)



1. Ec- ce pá- nis An- ge- ló- rum, Fac- tus cí- bus
 エ ッ チ エ パ ニ ス アン ジ エ ロ ル ム * ヲ ア ク ト ウ ス チ ブ ス
 見 よ 天 使 の バ ン は 旅 人 の 糧



vi- a- tó- rum: Ve- re pá- nis fi- li- ó- rum,
 ヲ イ ア ト ル ム * ヲ エ レ パ ニ ス ヲ イ リ オ ル ム *
 と なる を。 げ に 子 ら の 糧 な れ ば



Non mit- tén- dus cá- ni- bus. A- men.
 ノ ン ミ ト テ ン ト ウ ス カ ニ ブ ス (最 後 に) ア メ ン
 や る ま じ 犬 に は。

2. In fi- gú- ris præ- si- gná- tur, Cum I- sa- ac im-
 イン ヲ イ グ リ ス プ レ ス イ = ヤ ト ウ ス * ク ム イ サ ア ク イ ム
 こ れ ぞ 前 表 な る。 イ ザ ア ク の い

mo- lá- tur, A- gnus Pá- schæ de- pu- tá- tur,
 モ ラ ト ウ ス * ア ニ ユ ス パ ス ケ デ プ タ ト ウ ス *
 け に え 過 ぎ 越 し の 小 羊

Dá- tur mán- na pá- tri- bus. A- men.
 ダ ト ウ ス マ ン ナ パ ト リ ブ ス * ア メ ン
 先 祖 に 与 え ら れ し マ ン ナ し か あ れ か し

ボ ネ ・ パ ス ト ル Bone pastor

(聖体祭の続唱中より)



1. Bó- ne pá- stor, pá- nis ve- re, Jé- su, nó- stri mi- se-
 ボ ネ パ ス ト ル パ ニ ス ヲ エ レ * イ エ ス ノ ス ト リ ミ セ
 よ き 牧 者、 真 の 糧 な る イ エ ス よ わ れ ら を あ わ れ み



ré-re: Tu nos pá-sce, nos tu-é-re, Tu nos bó-na fac
 レレ* トウ ノス パ シエ ノストウ エレ* トウ ノス ボ ナ ヲア
 たまえ 主 われらを牧し われらを 守りたまえ 主 われらに 幸福を



vi-dé-re In ter-ra vi-vén-ti-um. A- men.
 ヴァイ デレ* イン テラ ヴァイ ヴァエン ツィ ウム ア メン
 与えたまえ 生くる人々の国において (最後に)

2. Tu qui cúncta scis et vá-les, Qui nos pá-scis hic mor-
 トウ ヲイ クンクタ シス エト ヴァ レス * ヲイ ノス パ シス ヒク モル
 主 よろずを知りかつなし得たもう、 死すべきわれらをこの世に養いたもう

tá-les: Tú-os i-bi com-men-sá-les, Co-he-ré-des et
 タ レス * トウ オス イビ コム メン サ レス * コ ヘ レ デス エト
 (主よ) かしこにても主の食卓につかせ 共に天つ世つぎ かつ

so-dá-les Fac sanc-tó-rum cí-vi-um. A- men.
 ソ ダ レス * ヲア ヲ サント ルム チ ヴィ ウム * ア メン
 友 と なしたまえ、諸 聖 人の (友 と)。 しかあれかし

オ・サ クルム ○ sacrum



O sá- crum con- ví- vi- um, * in quo Chrí-
 オ サ クルム コン ヴィ ヴィ ウム ▲ イン クオ クリ
 おお 神 聖 なる う た げ か な ここにて キリ



stus sú- mi- tur: re- có- li- tur me-
 ストウス ス ミ トウレ レ コ リ トウメ
 ストは 糧 となるなり。 記 念 せ ら る る



mó- ri- a pas-si- ó- nis é- jus: mens
 モ リ ア パススイ オ ニス エ ユス メンス
 な り そ の ご 苦 難 は。 精神は



im- plé- tur grá- ti- a: et fu- tú-
 イム プレ トウ^ル グラ ッイ ア エト フ トウ
 満たさるるなり めぐみに。 また 来 世



ræ gló-ri- æ nó- bis pi- gnus dá- tur, al-
 レ グロリ エ ノ ビス ピ ニュス ダ トウ^ル ア^ル
 の 栄光の 保証をわれらに 与えらるるなり。主



le- lú- ja.
 レ ル ヤ
 を 賛 美 せ よ。

ピエ・ペリカネ Pie pelicane

Andantino *pp* Don Staeklin

Pi- e pe- li- ca- ne, Je- su Do- mi- ne.
 ピエペリカネ イエスドミニネ

me im-
 / イム

f

me im- mun- dum mun- da tu- o mun- da
メ イム ムンドウム ムンダ トウ オ ムンダ

mun- dum mun- da tu- o mun- da
ムン ドウム ムンダ トウ オ ムンダ

p

tu- o san- gui- ne cu- jus u- na stil- la
トウ オ サン ゴイ ネ ク ユスウ ナ スタイル ラ

u- na
ウ ナ

mf *f*

cu- jus u- na stil- la sal- vum fa- ce- re sal- vum
ク ユスウ ナ スタイル ラ サル ヴム ファチエ レ サル ヴム

stil- la u- na stil- la sal- vum
スタイル ラ ウ ナ スタイル ラ サル ヴム

ff *p*

fa- ce- re, to- tum mun- dum quit ab o- mni sce- le- re.
ファチエ レ トウム ムンドウム ヌイ、 アッ オ ムニ スレ エ レ

(ピエ・ベリカネ 訳詞)

おん体もてわれらを養いたもう主なるイエズスよ、汚れたるわれをおん血もて清めたまえ。おん血の一滴をもつてしても、世のすべての罪をあがなうを得たまえ。

オ・サルタリス O salutaris

p *f* S.M.

O sa-lu-ta-ris ho-sti-a Quae cae-li
 オ サ ル タ リ ス ホ スタイ ア ヌエ ヌエ リ°

U-ni tri-nó- que Dó-mi-no Sit sem-pi-
 ウ ニ トリ ノ ヌエ ド ミ ノ スイト セム ピ°

pan-dis o-sti-um: Bel-la pre-munt ho-
 パン タイ ス オ スタイ ウム ベル デ ヌレ ムント ホ

tér-na gló-ri-a, Qui vi-tam si-ne
 テル ナ ヌロ° リ ア ヌイ ヌイ タム スイ ネ

sti-li-a: Da-ro-bur fer-au-xi-li-um.
 スタイ リ° ア ダ ロブル フエル アウ ヌシ リ° ウム

tér-mi-no No-bis do-net in pá-tri-a.
 テル ミ ノ ノ ビスド ネット イン パトリ ア

1. ああ救霊のいけにえ、 天つみ国の門を開きたもうおん者よ
 われらの敵は戦いをいどむがゆえに、 われらに力と助けを与えたまえ
2. 三位一の主に 限りなく栄光あれ
 ねがわくは終りなき生命を、 われらにあまつふるさとにおいて賜わんことを

聖 心 賛 歌

IN HONOREM SS. CORDIS JESU

コル・ドウルチエ Cor dulce



1. Cor dul-ce, cor a-má-bi-le, A-mó-re no-stri
 コル ドウルチエ コル ア マ ビ レ * ア モ レ ノ ストリ
 甘美なるみ心 愛すべきみ心よ、 われらの愛のために



sáu-ci-um, A-mó-re no-stri lán-gui-dum
 サ ッ チ ウム * ア モ レ ノ ストリ ラ ン ヱ イ ド ウム *
 傷つけられ われらの愛のため 悩みたまひし(み心)



Fac sis mi-hi pla-cá-bi-le.
 ファク ス イ ス ミ ヒ ッ プ カ ビ レ
 ありたまえ われに 寛大にて

2. Tu por-tus or-bi náu-fra-go, Se-cú-ra pars fi-dé-li-bus,
 トウ ポルトウス オルビ ナウフラゴ * セクラ パルス フィデリブス*
 おん身は 沈む世界には港 安らげき所なり、信徒には。

Re-is a-sy-lum mén-ti-bus, Pi-is re-cés-sus cór-di-bus.
 レイス アスイ ルム メンテイブス * ピイス レチエスス コルテイブス
 罪人の がれ場 敬虔なる心の憩い場

3. Je-su, Pa-tris cor ú-ni-cum, Pu-ris a-mí-cum mén-ti-bus,
 イエス パトリョ コルウニクム * プリス アミクム メンテイブス*
 父の唯一の愛なるイエズス きよき心の友

Pu-ris a-mán-dum cór-di-bus, In cor-de re-gnes óm-ni-um.
 プリス ア マンドウム コルテイブス * イン コルデ レニエス オムニウム
 きよき心に愛せらるる者よ もろびとの心に王たりたまえ。

聖 心 賛 歌 コル・イエス Cor Jesu



Cor Je- su sa- cra- tis- si- mum, mi- se- ré- re nó- bis.

○ コル イエス サクラテイススイ ムム ▲ ミセレレノ ビス
至聖なるイエズスのみ心 あわれみたまえ われらを

聖 名 賛 歌

IN HONOREM Ss. NOMINIS JESU

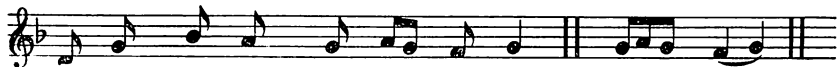
イエス・ドウルチス Jesu dulcis



1. Je- su dul- cis me- mó- ri- a, Dans ve- ra cor-
イエス ドウルチス メモリア * ダンヌ ヴェラ コル
イエズスよ 甘美なり おん身を思うは まことに心



dis gaú- di- a: Sed su- per mel et óm- ni- a,
フェイス ガウデア * セド スペルメル エト オムニア *
の喜びなり。 さらにまさるなり 蜜にも すべてにも



E- jus dul- cis præ- sèn- ti- a. A- men.
エヌ・ドウルチス プレセンツイア (最後に) ア メ
おん身がわれらの身近にましますうましさは。

2. Nil cá-ni-tur su-á-vi-us, Nil au-dí-tur ju-cún-di-us,
ニル カニトウルス アヴィウス * ニル アウヂイトウル ユクンヂイウス *
歌い得ず うるわしくは、 きこえず たのしくは、

Nil co-gi-tá-tur dúl-ci-us, Quam Je-sus De-i Fí-li-us.
ニル コジタトウルス ドウルチウス * クアム イエス デイライウス
思い得ざるなり、うましくは 天主の子イエズスをさしおきては、

3. Je-su, spes poe-ni-tén-ti-bus, Quam pi-us es pe-tén-ti-bus!
 イエス スペス ペ ニ テンテイブス * クラム ピウス エス ペテンテイブス *
 イエズスよ悔い改むる者の希望にして、 願う者にはいかに慈悲深く
 Quam bo-nus te quæ-rén-ti-bus! Sed quid in-ve-ni-én-ti-bus.
 クラム ボヌス テ クエレンテイブス * セド クイドインヴェニエンテイブス
 求むる者にはいかに善良にましますことよ ましてこれを得し者にはいかならん
4. Nec lin-gua va-let dí-ce-re, Nec lít-te-ra ex-prí-me-re:
 ネク リンギア ヴァレトディチェレ * ネク リトテラ エクスプリメレ
 舌 に て は 語 ら れ ず 文 に も 書 か れ 得 ず
 Ex-pér-tus pot-est cré-de-re, Quid sit Je-sum di-lí-ge-re.
 エクスペルトウス ポテストクレデレ * クイドスイトイエスムデイリヂェレ *
 経験せし者のみ信ずるを得、 イエズスを愛することの何たるかは。
5. Sis, Je-su, no-strum gáu-di-um, Qui es fu-tú-rus praé-mi-um:
 スイス イエス ノストルム ガウディウム * クイエスフトウルス プレミウム *
 イエズスよ われらの喜びとなりたまえ 主は将来むくいとなるものなれば。
 Sit no-stra in te gló-ria, per cunc-ta sem-per saé-cu-la. A-men.
 サイトノストラ インテグロリア * ペルクンクタセム ペルセクプラ * アメン
 われらの光栄 主にあれ 世々に至るまで しかあれかし

イ エ ス ・ デ ウ ス 訳 詞

1. わが愛する天主なるイエズスよ、み心の愛熱をわれに刻みたまえ。
 ねがわくは火が燃え、愛が燃えんため、「わが心に炎をおきたまえ」
2. イエズスよわれおん身の現わしたまいし所を信ず。ああ永遠の真理よ、
 表白するわが精神を助けたまえ。「主おん助け賜わばその精神は確固たり」
3. イエズスよわれ希望しまつる、おん身の与えたもうゆるしをば。
 われ希望しまつる、主のほどこしたもう「永遠の生命の栄光をば」
4. ああイエズスよわれは愛す、万事に越えて主のおん仁慈をば。
 すべてのものはむなし。「われ主を仰ぎてすべてを捨てん」
5. わが心の天主なるイエズスよ。わが熱心のみそなわしたまえ
 われは信、望、愛の心をもつて、「万事に越えて主を愛す」

イエズス賛歌

オ・イエス O Jesu



1. O Je-su, e-go a-mo te, Nam pri-or tu a-
 オ イエス エゴ ア モ テ * ナム プリ オル トウ ア
 2. O Je-su, in te con-fí-do, Qui-a tu red-e-
 オ イエス イン テ コンフイ ド * ヱイ ア トウ レ デ



- má-sti me; En li-ber-tá-te pri-vo me, Ut
 マ スタイ メ * エン リ ベル タ テ プリ ヴオ メ * ウト
 mí-sti me; En to-tum ti-bi tra-do me, Ut
 ミ スタイ メ エン ト トウム タイ ビ トラ ド メ * ウト



- vinc-tus spon-te se- guar te.
 ヴインク トウス スポン テ セ ガル テ
 so-lus re-gnes su- per me.
 ソ ルス レ エス ス ペル メ

3. O Je-su, ad te vé-ni-o, Qui-a tu ad-vo-cá-sti me;
 オ イエス アド テ ヴエニオ * ヱイア トウ アド ヴオ カ スタイ メ *
 En va-ni-tá-te mun-do me Ut fi-de vi-vam prop-ter te.
 エン ヴァ ニ タ テ ムン ド メ * ウト ヴイ デ ヴイ ヴァム プロ プ テル テ

1. おおイエズスわれはおん身を愛しまつる、そはおん身こそ先に愛したまえばなれ。
 見よわれはわが自由を棄つ、おん身の捕虜となりて自由におん身に従わんがために。
2. おおイエズスおん身により頼み奉る、そはおん身こそわれを救いたまいたればなれ。
 見よわれはわれを全くおん身に委ぬ、おん身一人のみわれを支配したまわんがため。
3. おおイエズスおん身のもとに至りまつる、そはおん身われを召したまえばなり。
 見よわれは虚栄を清め去りまつる、信仰によりておん身のために生きんがためなり。

イエス・デウス Jesu Deus



1. Je- su De- us, a- mor me- us, Cor- dis æ- stum
 イエ ス デ ウス ア モル メ ウス * コル デイス エ ストウム

2. Cre- do, Je- su, quod re- vé- las, O æ- tér- na
 クレ ド イエ ス クオド レ ヴエ ラス * オ エ テル ナ



ím- pri- me; U- rat i- gnis, u- rat a- mor, Cor- di
 イム プリ メ * ウ ラト イニス ウ ラト ア モル * コル ディ

vé- ri- tas; Ju- va men- tem con- fi- tén- tem, Tu- ta
 ヴエ リ タス * ユ ヴア メン テム コンファイ テン テム * トウ タ



flam- mam súb- ji- ce, Cor- di flam- mam súb- ji- ce.
 フラム マム スブイ チエ * コル ディ フラム マム スブイ チエ

est, si ád- ju- vas. Tu- ta est, si ád- ju- vas.
 エスト スイ アドユヴァス * トウ タ エスト スイ アドユヴァス

3. Spe- ro, Je- su, quam lar- gí- ris, Pec- ca- tó- rum vé- ni- am;
 スペ ロ イエ ス クアム ラルジリス * ペッカトルム ヴエニウム *

Spe- ro vi- tæ, quam par- tí- ris, 「Sem- pi- tér- næ gló- ri- am.
 スペロ ヴァイテ クアム パルタイリス * セム ピテルネ グロリアム」

4. A- mo, Je- su, bo- ni- tá- tem Tu- am su- per óm- ni- a;
 アモ イエス ボニタテム * トウアム スペル オムニウム *

Cunc- ta ha- bent va- ni- tá- tem, 「Præ Te sper- no ré- li- qua.
 クンクタ ハベント ヴァニタテム * プレ テスベル ノレリクア」

5. Je- su, De- us cor- dis me- i, me- a vo- ta ré- spi- ce;
 イエス デウス コルディス メイ * メア ヴオタ レスピチエ *

Cre- do, spe- ro, a- mo Je- sum, 「A- mo su- per óm- ni- a.
 クレド スペロ アモイエス * アモスベル オムニウム」

聖母賛歌

IN HONOREM B. MARIAE V.

オ・サンクテイススイマ O sanctissima



1. O sanc- tis- si- ma, o pi- is- si- ma,
 オ サンク テイススイ マ * オ ピ イス スイ マ *
- おほいと聖なり おほいと清し
2. Tu so- lá- ti- um et re- fú- gi- um,
 トウ ソ ラ ッイ ウム * エト レ フ ジ ウム *
- おん身は慰めなり またより頼みの所なり



dul- cis vir- go Ma- rí- a. Ma- ter a-
 ドウロ チス ヴァイル ゴ マ リ ア * マ テル ア

甘美なる 童貞 マリア 愛せられ

vir- go Ma- ter Ma- rí- a. Quid- quid op-
 ヴァイル ゴ マ テル マ リ ア * クワイド クワイド オフ

童貞 母 マリア ア すべてのわ



má- ta, in- te- me- rá- ta, o- ra,
 マ タ * イン テ メ ラ タ * オ ラ

しおん母 きずなき (おん母) 祈りたまえ

tá- mus, * per te spe- rá- mus, *
 タ ムス * ペル テ スペ ラ ムス (以下第1節と同じ)

れらの望みを おん身によりて 望む なり



o- ra pro no- bis.
 オ ラ ッロ ノ ビス

祈りたまえ われらのために。

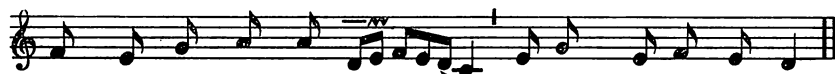
3. Ec-ce dé-bi-les, per quam flé-bi-les, sal-va nos, o Ma-rí-a!
 エッチエ デビ レス * ペル クアム フレ ビ レス サマリア ノス オ マリア *
 見よか弱くいと悩むわれらを助けたまえおおマリア
 Tol-le lan-guó-res, sa-na do-ló-res, o-ra
 トルレ ランクオ レス * サナ ドロ レス * オラ
 除きたまえ 疲れを。 いやしたまえ 苦しみを。
4. Vir-go, ré-spi-ce, Ma-ter, á-spi-ce, au-di nos, o Ma-rí-a!
 ヴイルゴ レスピチエ * マテル アスピチエ * アウディ ノス オ マリア *
 童貞よ 顧みたまえ。 母よ 見そなわせ。 ききたまえわれらをおおマリア
 Tu me-di-cí-nam por-tas di-ví-nam, o-ra
 トウ メディチ ナム * ポル タスピ ヴイ ナム * オラ
 おん身は 妙薬を 持てり、天主の(妙薬を)。
5. Tu-a gaú-di-a et su-spi-ri-a ju-vent nos, o Ma-rí-a!
 トウア ガウディア * エト ススピリア * ユウエント ノス オ マリア *
 おん身の 喜びと 願いとは われらの助けとならんおおマリア
 In te spe-rá-mus, ad te cla-má-mus, o-ra
 インテ スペラ ムス * アド テクラ マ ムス * オラ
 おん身に われらより頼み おん身に われら叫ぶなり

アヴェ・マリヌ・ステラ

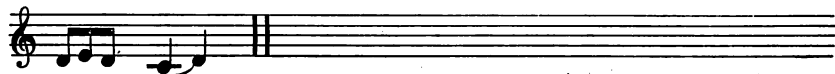
Ave maris stella



1. A-ve, má-ris stél-la, Dé-i Má-ter ál-ma
 アヴェ マリス ステラ * デイ マテル アマ
 めでたし 海の星 天主のとうとき母



- At-que sem-per vir-go, Fe-lix caé-li pór-ta.
 アトクエ セム ペル ヴイルゴ * フェリクス チエリ ポルタ
 かつ 終生童貞 幸いなる天の門よ



A-men.
 アメン

(左のアーメンは最後に)

2. Su- mens il- lud A- ve Ga- bri- é- lis o- re,
 ス メンス イル ルド ア ヴエ * ガ ブリエ リス オレ *
 受れたり、かの祝福を ガブリエルの口より。
 Fun- da nos in pa- ce, Mu- tans He- væ no- men.
 フン ダ ノス イン パ チエ * ム タンス ヘ ヴエ ノ メン
 われらを固めたまえ 平安のうちに、 エワの名を改むるによりて。
3. Sol- ve vinc- la re- is, Pro- fer lu- men cæ- cis :
 ソル ヴエ ヴインク ラ レ イス * ヲロ ヲニス ル メン チエ チス
 解きたまえ 罪人のかせを。 与えたまえ 光を 盲者に。
 Ma- la no- stra pel- le, Bo- na cunc- ta po- sce.
 マ ラ ノストラ ペル レ * ボ ナ クンク タ ポ シエ
 われらの悪を 防ぎ すべての恵みを 求めたまえ
4. Mon- stra te es- se ma- trem, Su- mat per te pre- ces,
 モン ストラ テス セ マトレム * ス マト ペル テ ヲレ チエス
 示したまえ おん身が 母たるを。 聖母によりてわれらの祈をききたまえ、
 Qui pro no- bis na- tus, Tu- lit es- se tu- us.
 ヲイ プロ ノ ビス ナ トウス * トウ リト エスセ トウ ウス
 われらのために生れて 聖母の子たるを厭わざりしおん者よ。
5. Vir- go sin- gu- lá- ris, In- ter om- nes mi- tis,
 ヴイル ゴ スイン グ ラ リス * イン テル オム ネス ミ テイス
 ならびなき童貞女よ、 諸聖人にすぐれて柔和なるおん者よ。
 Nos cul- pis so- lú- tos, Mi- tes fac et ca- stos.
 ノス クルピス ソル トス * ミ テス ヲアク エト カ ストス
 われらをして罪ゆるされて 柔和ならしめかつ操正しからしめよ
6. Vi- tam præ- sta pu- ram, I- ter pa- ra tu- tum,
 ヴイ タム プレ スタ プラム * イ テル パ ラ トウ トウム *
 われらの生涯を清らかにし 道を安らかならしめたまえ
 Ut vi- dén- tes Je- sum Sem- per col- læ- té- mur.
 ウト ヴイ デン テス イエ スム * セム ペル コル レ テ ムル
 しかしてイエズスにまみえて 永遠に おん身と共に喜ばせたまえ
7. Sit laus De- o Pa- tri, Sum- mo Chri- sto de- cus,
 サイト ラウス デオ パトリ * スム モ クリ スト デクス *
 誉あれ 父なる天主、 最上なる キリストに 栄光あれ。
 Spi- rí- tu- i sanc- to Tri- bus ho- nor u- nus. A- men.
 スピリトウイ サンクト * トリブス ホノル ウヌス * アメン
 聖 靈 三 位 崇められよひとしく。

オムニ・テイ エ Omni die



1. Om-ni di-e dic Ma-rí-æ me-a lau-des á-ni-ma:

オムニテイエテイクマリエ*メアラッデスアニマ
日毎に歌えマリアを、わが霊よ。



E-jus fe-sta, e-jus ge-sta co-le de-vo-tis-si-ma.

エヌッフェスタエヌッジェスタ*コレデヴォテイスイマ
その祝、そのわざをあがめよ、ま心こめて。



Con-tem-plá-re et mi-rá-re e-jus cel-si-

コップラレ エミラレ エヌチエグスイ
思 い かつ感激せよ、かれのけだか



tú-di-nem: Dic fe-lí-cem Ge-ni-trí-cem, dic be-

トゥテイネムテイクッフェリヂェムジエニトリチエムテイクベ
さを。賛えよ、幸福なりと聖母を。祝い



á-tam vír-gi-nem, dic be-á-tam vír-gi-nem.

アタムヴァイルジネムテイクベアタムヴァイルジネム
まつれ、おとめを。祝いまつれ、おとめを。

2. Ip-sam co-le, ut de mo-le crí-mi-num te lí-be-ret:

イプサムコレウトデモレ*クリミヌムテリベレト*
かれをあがめよ、多くの罪よりなんじの救われんため。

Hanc ap-pél-la, ne pro-cél-la vi-ti-ó-rum sú-pe-ret.

ハンクアッペラネプロチエラ*ヴァイッイオルムスベレト
かれを呼びまつれ 嵐に 罪の(嵐に)倒れざれんため。

3. Hæc per-só-na nó-bis dó-na cón-tu-lit cæ-lé-sti-a:
 ヘッ ペル ソ ナ ノ ビス ド ナ * コントウ リト チエ リ ステイ ア *
 か れ は われらに たまものを 与うなり、天の(たまもの)を。

Hæc re-gí-na nos di-ví-na il-lu-strá-vit grá-ti-a.
 ヘッ レ ジ ナ ノス デイ ヱイ ナ * イル ル ストラ ヱイト ヱラ ヱイ ア
 この 元 后 は われらを天主の おん恵みもて照らしたもうなり。

4. O-ra Dé-um, ut cor mé-um sú-a ser-vet grá-ti-a:
 オラ デ ウム ウト コル メ ウム * スア セル ヱエト ヱラ ヱイ ア *
 祈りたまえ、天主に われらの 心を その恵みもて守りたもうよう。

Nec an-tí-quus i-ni-mí-cus sé-mi-net zi-zá-ni-a:
 ネッ アン テイ クス イ ニ ミ クス * セ ミ ネット ズイザ ニア
 い に し え の 仇 が 毒草をまかざらんがため。

5. Si-ne fi-ne dic re-gí-næ mun-di lau-dum cán-ti-ca:
 スイ ネ ヱイ ネ デイ ク レ ジ ネ * ムン デイ ラ ヱド ウム カン テイ カ *
 ひまなく 歌え、 きさきに 世界の(后に)賛美の歌を。

E-jus bo-na sem-per só-na, sem-per il-lam praé-di-ca.
 エ ヱス ボ ナ セム ペル ソ ナ * セム ペル イル ラム プレ デイ カ
 かれの 善徳を 常に 歌い 絶え間なく かの女をほめよ

サルヴェ・レジナ・チエリトウム Salve regina coelitum



1. Sal-ve, Re-gí-na caé-li-tum, o Ma-rí-a;
 サル ヱエ レ ジ ナ チエ リ トウム * オ マ リ ア *
 めでたし 天 の 元 后 おお マ リ ア

2. Ma-ter mi-se-ri-cór-di-æ, o Ma-rí-a;
 マ テル ミ セ リ コル デイ エ * オ マ リ ア *
 おん母 哀れみ 深き(母) おお マ リ ア



Sors ú-ni-ca ter-rí-ge-num, o Ma-rí-a,
 ソルス ウニカテルリ ジエヌム * オ マリア
 人類の唯一の希望 おお マリア

Dul-cis pa-rens cle-mén-ti-æ, o Ma-rí-a.
 ドウル チス パレンス クレメンツィエ * オ マリア
 うましく、柔和にましますおん母 おお マリア



Ju-bi-lá-te, Ché-ru-bim; Ex-sul-tá-te, Sé-ra-phim;
 ユビラテ ケルビム エクスルタテ セラフィム
 よろこべ ケルビム。 おどれ セラフィム。



Con-so-ná-te pér-pe-tim: Sal-ve, sal-
 コソナテ ペルペティム サル ヴエ サル
 共に歌え とこしえに。めでたし めで



ve, sal-ve, Re-gí-na.
 ヴエ サル ヴエ レジナ
 たし めで たし 元 后 よ

3. Tu vi-tæ lux, fons grá-ti-æ, o Ma-rí-a;
 トウ ヴィテ ルクス フォンクス グラツィエ * オ マリア
 おん身は生命の 光、恵みの泉 おお マリア

Cau-sa no-stræ læ-ti-ti-æ, o Ma-rí-a.
 カッサ ノストレ レツィツィエ * オ マリア
 われらの喜びの源 おお マリア

サル ヴエ・マテル *Salve Mater*

おりかえし



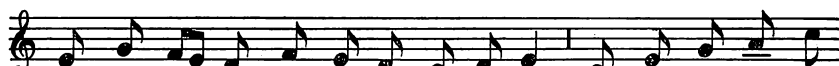
Sal- ve, Má-ter mi- se-ri- cór- di- ae, Má-ter Dé- i et
 ○ サル ヴエ マテル ミセリ コルデイエ マテル デイ エト
 ▲ めでたし 慈悲 深き 聖母よ 天主の聖母 かつ



ma-ter vé- ni- ae, Ma-ter spé- i et má-ter grá- ti- ae,
 マテル ヴエ ニエ マテル スペイ エト マテル グラ ヲイ エ
 許しの聖母 望みの聖母 かつ 恵みの聖母



Má-ter plé- na sánc- tae lae- tí- ti- ae O Ma- rí- a!
 マテル プレ ナ サンク テ レ ヲイ ヲイ エ オ マ リ ア
 聖なる喜びにあふるる聖母 おおマリア
 (最初は「おりかえし」を斉唱でもう一度くりかえす)



1. *Sál- ve, de- cus hu- má- ni gé- ne- ris: Sal- ve, vir- go dí-*
 ○ サル ヴエ デ クスホウ マニ ヲエ ネリス* サル ヴエ ヴァイルゴ デイ
 めでたし 人類の栄誉 めでたし 童貞のうち



gni- or cé- te- ris, Quæ vír- gi- nes óm- nes trans- gré- de-
 ニ オル チエ テ リス* ヲエ ヴァイルジネス オム ネス トランス プレ デ
 すぐれてとうとき童貞。すべての童貞に ま さ



ris, Et ál- ti- us sé- des in sú- pe- ris, O Ma- rí- a!
 リス* エト アル ヲイ ウスセ 'デス インス ペリス* オ マ リ ア
 り、 より高きに 座すなり、天において。 おおマリア

2. *Sal- ve, fe- lix Vir- go pu- ér- pe- ra; Nam qui se- det in pa- tris*
 サル ヴエ ヲエ リク ス ヴァイルゴ プエルペラ* ナム ヲイ セ デ ト イレ パ トリス
 めでたし幸いなる 童貞母よ、 そは 天父の右に

déx-te-ra, Cæ-lum re-gens, ter-ram et æe-the-ra, In-tra
 デクス テラ * ヌエブルム レジエンヌ テルラム エト エ テラ * イントラ
 座 して 天と地と大空とを司どりたもうおん方は おん身

tu-a se clau-sit vi-sce-ra, O Ma-rí-a. R. Sal-ve Mater...
 トウア セツラ ヲス イト ヲイ シ エラ * オ マ リア ▲ サルツエ マテル..
 のご胎内にこもりたまいたればなり。 おお マリア

3. Te cre-á-vit pa-ter in-gé-ni-tus, Ob-um-brá-vit te U-ni-
 ○ テクレ ア ヲイト パ テル イン ヲエ ニ トウス * オブム ヲラ ヲイト テ ウ ニ
 おん身を造れり 永遠の天父は。 やどりたまえり、おん身におん

gé-ni-tus, Fe-cun-dá-vit te sanc-tus Spí-ri-tus,
 ヲエ ニ トウス * フエ クン ダ ヲイト テ サンクトウス スピリトウス *
 ひとり子は。 はらましましたまえり おん身を 聖 霊 は。

Tu es fac-ta to-ta di-ví-ni-tus, O Ma-rí-a. R. Sal-ve Mater...
 トウ エス ヲア ヲタ ト タ ヲイ ヲイ ニ トウス * オ マ リア ▲ サルツエ マテル..
 おん身は成れり全き聖なるおん者と。 おお マリア

4. Te be-á-tam lau-dá-re cú-pi-unt Om-nes ju-sti, sed non suf-
 ○ テ ベア タム ラ ヲ ダ レ ク ピ ウント * オム ネス ヲステイ セド ノン スフ
 おん身を幸いなりとたたえんと 望めり すべての義人は。されどそをなし

fí-ci-unt; mul-tas lau-des de te con-cí-pi-unt,
 フイ チ ウント * ムル タス ラ ヲ デス デ テ コン チ ピ ウント *
 得ざるなり。 数々の 賛美をおん身につけて考 う る なり

Sed in il-is pror-sus de-fí-ci-unt, O Ma-rí-a. R. Sal-ve Mater...
 セド イン イル ス プロル スス デ フイ チ ウント * オ マ リア ▲ サルツエ マテル..
 されどそは決して尽きざるなり おお マリア

5. E-sto, Ma-ter, no-strum so-lá-ti-um: No-strum e-sto, tu vir-go,
 ○ エスト マテル ノストルム ソラツイウム * ノストルム エスト トウ ヲイルゴ
 しかり 聖母よわれらの 慰めたりたまえ 童貞なるおん身よ、われらの

gáu-di-um; Et nos tan-dem post hoc ex-sí-li-um,
 ガ ヲ ヲイ ウム * エト ノス タンデム ポスト ホク エクス スイリウム
 喜びたりたまえ また このちくたくの後

Læ-tos jun-ge cho-ris cæ-lé-sti-um, O Ma-rí-a. R. Sal-ve Mater...
 レトス ヲンツエ コリス チエリステイウム * オ マ リア ▲ サルツエ マテル..
 喜べるわれらを加えたまえ、天にある諸聖者の隊に。 おお マリア

聖母哀歌 スタバト・マテル Stabat Mater

(四句節または聖母の悲しみの記念日に)



1. Stá-bat Má-ter do-lo-ró-sa Jux-ta crú-cem la-
 スタバトマテルドロロサ * ユグスタクルテエムラ
 たたずみたまえり、悲しみに沈める聖母は 十字架の下に涙



- cri-mó-sa, Dum pen-dé-bat Fí-li-us. A-men.

クリモサ * フウム ペンデバト フィリオ(最後に)アメン
 にむせびて。 おん子のかかりたまえる時。

2. Cu-jus á-ni-mam ge-mén-tem, Con-tri-stá-tam et do-lén-tem
 クユスアニマムジェメンテム * コントリスタタム エトドレンテム *
 Per-trans-í-vit glá-di-us. 嘆き憂い悲しめるそのおん靈魂は、
 ペルトランスイタイト ユヱイウス するどき双もて貫かれたまえり

3. O quam tri-stis et af-flíc-ta Fu-it il-la be-ne-díc-ta
 オクアムトリステイスイエトアフフリクタ * フイトイラベネディクタ *
 Ma-ter U-ni-gé-ni-ti. 天主のおんひとり子の尊き母が、憂い悲
 マテルウニジェニテイ しみたまえるは、ああいかばかりぞや

4. Quæ mæ-ré-bat et do-lé-bat Pi-a Ma-ter, dum vi-dé-bat
 クエメレバト エトドレバト * ピアマテル フウム ユイデバト *
 Na-ti pœ-nas ín-cly-ti. 尊きおん子の苦痛を見たまえる、いつ
 ナテイ ペナス インクライテイ くしみ深き母は悲しみに沈みたまえり

5. Quis est ho-mo qui non flé-ret, Ma-trem Chri-sti si vi-dé-ret
 クワイエストホモクワイノンフレレト * マトレムクリステイスイウイデレト *
 In tan-to sup-plí-ci-o. キリストのおん母のかく悩みたまえるを
 イタント スアップリチオ 見て、たれか涙を注がざる者あらん

6. Quis non pos-set con-tri-stá-ri, Chri-sti Ma-trem con-tem-plá-ri
 クワイノンポセット コントリスタリ * クリステイマトレム コンテムププリ *
 Do-lén-tem cum Fí-li-o? キリストのおん母のおん子と共にかく苦しみ
 ドレンテム クム フィリオ たもうを見て、たれか悲しまざる者あらん

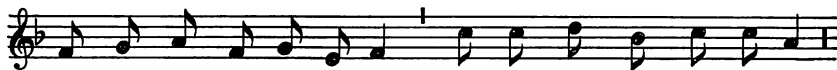
7. Pro pec-cá-tis su-æ gen-tis Vi-dit Je-sum in tor-mén-tis
 プロペッカタイススエジエンタイス * ユイテイタイエス イントルメンタイス *
 Et fla-gél-lis súb-di-tum. 聖母は、イエズスのおのが民の罪により
 エトアップジェリウス スフテイ トウム て、責められむちうたるを見たまえり

8. Vi-dit su-um dul-cem na-tum Mo-ri-én-do de-so-lá-tum,
 ヴイデイト ス ウム フウルヂエム ナ トウム * モリエンド デ ソラ トウム *
 Dum e-mí-sit spí-ri-tum. 聖母はまた最愛のおん子が苦しみのうち
 フウム エ ミスイト スピ リ トウム に棄てられ息絶えたもうを眺めたまえり
9. E-ja, Ma-ter, fons a-mó-ris, Me sen-tí-re vim do-ló-ris:
 エ ヤ マ テル フオンス ア モリス * メ センタイレ ヴイム ドロリス *
 Fac, ut te-cum lú-ge-am. いくしみの泉なるおん母よ、われをしておん悲
 ファク ウト テ クム ルジエアム しみの程を感じしめ、共に涙を流さしめたまえ
10. Fac ut ár-de-at cor me-um In a-mán-do Chri-stum De-um,
 ファク ウト アルデアト コル メ ウム * インア マンド クリ ストウム デ ウム *
 Ut si-bi com-plá-ce-am. わが心をして天主キリストを愛する火に燃
 ウト スイビ コム フラヂエアム えしめ、一にそのみ心にかなわしめたまえ
11. Sanc-ta Ma-ter, i-stud a-gas, Cru-ci-fí-xi fi-ge pla-gas
 サンクタ マ テル イストウフア ガス * クルチフェイス フィジエ フラガス *
 Cor-di me-o vá-li-de. ああ聖母よ、十字架に釘付けにせられたま
 コルタイ メ オ ヴアリデ えるおん子の傷をわが心に深く印したまえ
12. Tu-i na-ti vul-ne-rá-ti, Tam di-gna-ti pro me pa-ti
 トウイ ナタイ ヴルネ ラタイ * タム タイ ヱヤタイ フロ メ パタイ *
 Pœ-nas me-cum dí-vi-de. わがためにかく傷つけられ、苦しみたまい
 ペ ナス メ クト タイ ヴイデ たるおん子の苦痛を、われに分かちたまえ
13. Fac me te-cum pi-e fle-re, Cru-ci-fí-xo con-do-lé-re,
 ファク メ テクム ピエ フレレ * クルチフェイス コン ドレレ *
 Do-nec é-go ví-xe-ro. 命のあらん限り、おん身と共に涙を流して、はりつ
 ド ネヂエ ゴ ヴイセロ けられたまいしイエズスをいたわるを得しめたまえ
14. Jux-ta cru-cem te-cum sta-re Et me ti-bi so-ci-á-re
 ユクタ クルヂエム テクム スタレ * エト メタイビ ソチアレ *
 In planc-tu de-sí-de-ro. われ十字架のかたわらにおん身と
 イン プラントウ デスイデロ 立ちて、相共に嘆かんことを望む
15. Vir-go vír-gi-num præ-clá-ra, Mí-hi jam non sis a-má-ra:
 ヴイルゴ ヴイルジヌム プレクララ * ミヒヤム ノンヌイスアマラ *
 Fac me te-cum plán-ge-re. 童貞の中いともすぐれたる童貞、願わくはわれ
 ファク メ テクム プランジエレ をしりぞけたまわずして、共に嘆かしめたまえ

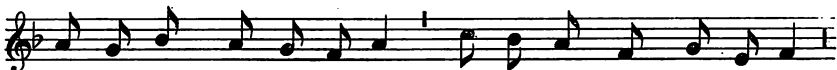
16. **Fac ut por-tem Christi mor-tem, Pas-si-ónis fac con-sór-tem**
 ヲクウト ポル テム クリステイ モル テム * パススイオニス ヲク コンソル テム *
Et pla-gas re-có-le-re. われにキリストの死を思い廻らさしめ、そのご苦難
 エト ヲラ ガス レ コ レ レ を共にせしめ、そのおん傷を深くしのばしめたまえ
17. **Fac me pla-gis vul-ne-rá-ri, Fac me cru-ce in-e-bri-á-ri,**
 ヲク メ ヲラ ジス ヴル ネ ラリ * ヲク メ ムル チ ネ ヲリアリ *
Et cru-ó-re Fí-li-i. おん子の傷をもつてわれを傷つけ、その十字
 エト ムル オ レ ヲイ リイ 架のおん血をもつてわれを酔わしめたまえ
18. **Flam-mis ne u-rar suc-cén-sus, Per te, Vir-go, sim de-fén-sus**
 ヲブム ミス ネ ウラル スツチエン スス * ペル テ ヲイルゴ スイム デフエン スス *
In di-e ju-dí-ci-i. 聖なる童貞よ、地獄の火にわがやけざら
 イン タイ エ ユ タイ チイ ぬため、審判の日にわれを守りたまえ
19. **Chri-ste, cum sit hinc ex-í-re, Da per Ma-trem me ve-ní-re**
 クリ ステ クム サイト ヒンク エクス イレ * ダ ペル マ トレム メ ヲエ ニレ *
Ad pal-mam vic-tó-ri-æ. ああキリストよわれこの世を去らんと
 アド パル マ ヲ イク ト リエ おん母によりて勝利の報いを与えたまえ
20. **Quan-do cor-pus mo-ri-é-tur, Fac ut á-ni-mæ do-né-tur**
 ヲアンド コル プス モリエトル * ヲクウト ア ニ メ ド ネトル *
Pa-ra-dí-si gló-ri-a. A-men. 肉身は死して朽つとも、靈魂には天国の榮福
 パラダイスイ グロリア * ア メン をこうむらしめたまえ。しかあらしめたまえ。

コンコルダイ レタイシア **Concordi laetitia**

(復活節に)



1. **Con-cór-di læ-tí-ti-a, Pro-púl-sa mœ-stí-ti-a**
 コン コルダイ レタイシア * ヲロ プル サ メ スタイ シア *
 共 に 喜 べ、 消えたり 悲 し み は。



Ma-rí-æ præ-có-ni-a Ré-co-lat Ec-clé-si-a,
 マリエ ヲレ コニア * レコラト エク クレシア *
 マリアの 榮 誉 を 歌 え、 教 会 は。



Vir-go Ma-rí-a! A-men.

ヴイルゴ マリア (最親に) アメン

童貞 マリア

2. Quæ fe-lí-ci gaú-di-o, Re-sur-gén-te Dó-mi-no,
クエ フェリチ ガウダイオ * レスル ヅエンテ ドミノ *

Fló-ru-it ut lí-li-um, Vi-vum cer-nens Fí-li-um,
フロルイト ウトリウ * ヴィヴム チェルネッス フィリウム *

Vir-go Ma-rí-a! おん主の復活により、おん子の再生を見て喜びと幸いとに
ヴイルゴ マリア 満ち、おん身はゆりのごとくえみたまえり。童貞マリア。

3. Quam con-cén-tu pá-ri-li Cho-ri lau-dant caé-li-ci,
クアム コンチェントウ パリリ * コリ ラウダント チェリチ *

Et nos cum cæ-lé-sti-bus No-vum me-los pán-gi-mus,
エト ノスクム チェレステイブス * ノヴム メロス パンジムス *

Vir-go Ma-rí-a! 天の歌手は声そろえておん身をたたう。われらも天の
ヴイルゴ マリア 歌隊に声あわせ新しき賛美を歌いまつる。童貞マリア。

4. O re-gí-na vír-gi-num, Vo-tis fa-ve súp-pli-cum,
オレジナ ヴィルジヌム * ヴォテイス ヴァフエ スププリクム *

Et post mor-tis stá-di-um Vi-tæ con-fer praé-mi-um,
エト ポスト モルタイス スタダイウム * ヴィテ コンフェラ ミウム *

Vir-go Ma-rí-a! ああ童貞者の元后よ、願うわれらの望みを顧み、
ヴィゴ マリア 死して後生命の報いを得しめたまえ。童貞マリア。

5. Glo-rí-ó-sa Trí-ni-tas, In-di-ví-sa U-ni-tas,
グロリオサ トリニタス * インデイヴィサ ウニタス *

Ob Ma-rí-æ mé-ri-ta Nos sal-va per saé-cu-la,
オブ マリエ メリタ * ノス サルヴァ ペル セクラ *

Vir-go Ma-rí-a! Amen. 栄光ある三位よ、わかれざる一体よ、マリアの功德
ヴイルゴ マリア * アメン によりてわれらを永遠に救いたまえ。童貞マリア。

聖 母 連 祷 Litaniae lauretanae



○ Ky-ri-e, e-lé-i-son. ij ○ Chri-ste, e-lé-i-son. ij.
 ▲ キリ エ エ レ イ ソ ン ▲ クリ ステ エ レ イ ソ ン
 主 よ あわれみたまえ (二回) キリストよ あわれみたまえ (二回)



○ Ky-ri-e, e-lé-i-son. ij ○ Chri-ste, aú-di nos. ij
 ▲ キリ エ エ レ イ ソ ン ▲ クリ ステ ア ッ テイ ノ ス
 主 よ あわれみたまえ (二回) キリストよわれらの祈りを聞きたまえ (二回)



○ Chri-ste, ex-aú-di nos. ij.
 ▲ クリ ステ エ ッ サ ッ テイ ノ ス
 キリストよわれらの祈りを聞き入れたまえ (二回)



Pá-ter de caé-lis De-us, mi-se-ré-re no-bis.
 ○ パ テ ル デ ヌ エ リ ス デ ウ ス ▲ ミ セ レ レ ノ ビ ス
 天 主 な る お ん 父 あわれみたまえ われらを。

Fi-li Re-dém-p-tor mún-di De-us,
 フ イ リ レ デ ム プ ト ル ム ン デイ デ ウ ス
 天 主 に て 世 の 贖 い 主 な る お ん 子

Spi-ri-tus sanc-te De-us,
 ス ピ リ ト ウ ス サン ク テ デ ウ ス
 天 主 な る 聖 霊

Sanc-ta Tri-ni-tas ú-nus De-us,
 サン ク タ ト リ ニ タ ス ウ ヌ ス デ ウ ス
 唯 一 の 天 主 な る 聖 三 位



1. Sánc-ta Ma-ri-a, ó-ra pro nó-bis. 4. Ma-ter Chri-sti.
 ○ サン ク タ マ リ ア ▲ オ ラ ヲ ロ ノ ビ ス (最初がイタリックになつ)
 聖 マ リ ア 祈りたまえわれらのために (ている句は上のように歌う)

2. Sanc- ta *Dé- i Ge- ni- trix,*
 サンク タ ティ イ ッエ ニ トリクス 天主の聖母
3. Sanc- ta *Vir- go vir- gi- num,*
 サンク タ ヴイル ゴ ヴイル ジ スム 童貞の中にていとも聖なる童貞
4. Má- ter *Chri- sti,*
 マ テル クリ スタイ キリストのおん母
5. Má- ter *di- vi- næ gra- ti- æ,*
 マ テル ティ ヴイ ネ ッラ ヴイ エ 天主の恩恵のおん母
6. Má- ter *pu- ris- si- ma,*
 マ テル プ リススイ マ いと潔きおん母
7. Má- ter *ca- stis- si- ma,*
 マ テル カ ステイススイ マ いと操正しきおん母
8. Má- ter *in- vi- o- la- ta,*
 マ テル イン ヴイ オ ラ タ 終生貞童なるおん母
9. Má- ter *in- te- me- ra- ta,*
 マ テル イン テ メ ラ タ きずなきおん母
10. Má- ter *a- ma- bi- lis,*
 マ テル ア マ ビ リス 愛すべきおん母
11. Má- ter *ad- mi- ra- bi- lis,*
 マ テル アド ミ ラ ビ リス 感ずべきおん母
12. Má- ter *bó- ni con- si- li- i,*
 マ テル ボ ニ コン スイ リイ 善き勧めを賜うおん母
13. Má- ter *Cre- a- to- ris,*
 マ テル クレ ア ト リス 創造主のおん母
14. Má- ter *Sal- va- to- ris,*
 マ テル サル ヴア ト リス 救世主のおん母
15. Vir- go *pru- den- tis- si- ma,*
 ヴイル ゴ プル デン ティススイ マ いとも賢明なる童貞
16. Vir- go *ve- ne- ran- da,*
 ヴイル ゴ ヴエ ネ ラン ダ 敬うべき童貞
17. Vir- go *prae- di- can- da,*
 ヴイル ゴ プレ ティ カン ダ ほむべき童貞

18. *Vir- go pot- ens,*
 ヴイル ゴ ポ テンス 力ある童貞
19. *Vir- go cle- mens,*
 ヴイル ゴ クレ メンス 寛仁なる童貞
20. *Vir- go fi- de- lis,*
 ヴイル ゴ フイ デ リス 信実なる童貞
21. *Spé- cu- lum ju- sti- ti- æ,*
 スペ ク ルム ユ ステイ ッイ エ 正義の鏡
22. *Sé- des sa- pi- en- ti- æ,*
 セ デス サ ピ エン ッイ エ 上知の座
23. *Caú- sa nó- strae læ- ti- ti- æ,*
 カウ サ ノ ストレ レイ ッイ エ われらが喜びの源
24. *Vas spi- ri- tu- a- le,*
 ヴアス スピ リ トウ アレ 靈妙なる器
25. *Vas ho- no- ra- bi- le,*
 ヴアス ホ ノ ラ ビレ あがむべき器
26. *Vas in- sí- gne de- vo- ti- o- nis,*
 ヴアス イン スイ エ デ ヴオ ッイ オ ニス 信心のすぐれたる器
27. *Ró- sa my- sti- ca,*
 ロ サ ミ ステイ カ くすしきばらの花
28. *Túr- ris Da- vi- di- ca,*
 トウル リス ダ ヴイ テイ カ ダヴィドの塔
29. *Túr- ris e- bur- ne- a,*
 トウル リス エ ブル ネ ア 象げの塔
30. *Dó- mus au- re- a,*
 ド ムス アウ レ ア こがねの堂
31. *Foé- de- ris ar- ca,*
 フェ テリス アル カ 契約のひつ
32. *Já- nu- a cæ- li,*
 ヤヌア チエリ 天の門
33. *Stel- la ma- tu- ti- na,*
 ステラ マ トウ ナ あけの星

34. Sá-lus in-fir-mo-rum,
サ ルス イン フィル モ ルム 病人の回復
35. Re-fú-gi-um pec-ca-to-rum,
レ フ ジ ウム ペ ッ カ ト ルム 罪人の寄り所
36. Con-so-lá-trix af-flic-to-rum,
コン ソ プ トリクス ア フ フリク ト ルム 憂き人の慰め
37. Au-xí-li-um Chri-sti-a-no-rum,
ア ックス イ リ ウム クリ スタイ ア ノ ルム キリスト信者の助け
38. Re-gí-na An-ge-lo-rum,
レ ジ ナ アン ジェ ロ ルム 天使の元后
39. Re-gí-na Pa-tri-ar-cha-rum,
レ ジ ナ パ トリ アル カ ルム 太祖の元后
40. Re-gí-na Pro-phe-ta-rum,
レ ジ ナ ッロ ッエ タ ルム 預言者の元后
41. Re-gí-na A-po-sto-lo-rum,
レ ジ ナ ア ポ スト ロ ルム 使徒の元后
42. Re-gí-na Mar-ty-rum,
レ ジ ナ マ ル タイ ルム 殉教者の元后
43. Re-gí-na Con-fes-so-rum,
レ ジ ナ コン フエ ス ソ ルム 証聖者の元后
44. Re-gí-na vir-gi-num,
レ ジ ナ ヴ ィ ル ジ ヌ ム 童貞者の元后
45. Re-gí-na Sanc-to-rum om-ni-um,
レ ジ ナ サンク ト ルム オ ム ニ ウ ム 諸聖人の元后
46. Re-gí-na si-ne lá-be o-ri-gi-ná-li con-cep-ta,
レ ジ ナ ス イ ネ プ ベ オ リ ジ ナ リ コン プ エ ヱ タ 原罪なく宿りし元后
47. Re-gí-na in cœ-lum as-sump-ta,
レ ジ ナ イン テ エ ル ム ア ス ス ヱ ヱ タ 被昇天の元后
48. Re-gí-na sa-cra-tís-si-mi Ro-sa-ri-i,
レ ジ ナ サ ク ラ テ イ ス ス イ ミ ロ サ リ イ いと尊きロザリオの元后
49. Re-gí-na pa-cis,
レ ジ ナ パ チ ス 平和の元后



1-3. A-gnus Dé- i, qui tól- lis pec- cá- ta mun- di,
 ○ ア ヌス デ イ ヲイトルリス ペッカ タ ムンデイ
 天主の小羊 世の罪を除きたもうおん者よ、



1. Pár- ce nó- bis, Dó- mi- ne.

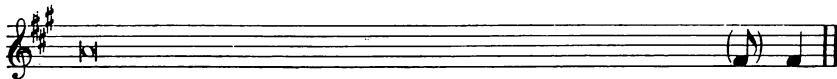
▲ パル テエ ノ ビス ド ミ ネ
 赦したまえ われらを、 主 よ

2. Ex- áu- di nos, Dó- mi- ne.

▲ エク サウテイ ノス ド ミ ネ
 われらの祈りを聞き入れたまえ 主よ

3. Mi- se- ré- re nó- bis.

▲ ミ セ レ レ ノ ビス
 あわれみたまえ、 われらを。



V. O- ra pro no- bis, sanc- ta De- i Gé- ni- trix.

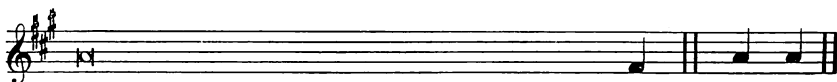
◎ オラ ヲロ ノ ビス サンクタ デイ ヲエ ニトリクス
 祈りたまえ、われらのために 聖なる 天主の おん 母 よ。

R. Ut di- gni ef- fi- ci- á- mur pro- mis- si- ó- ni- bus Chri- sti.

▲ ウトデイ = イエツライチア ムル ヲロ ミススイオニブス クリ ステイ
 われらを かなわしめたまえ、 キリストのおん 約束 に。

*Oremus: Concede nos famulos tuos, quaesumus. Domine Deus, perpetua mentis et corporis sanitate gaudere: † et gloriosa beatæ Mariæ semper Virginis intercessione, * a praesenti liberari tristitia, et aeterna perfrui laetitia.*

祈願せん。主よ、主のしもべなるわれらに精神と肉身との健康とを興えたまえ。かつ、終生童貞なる聖マリアがおん取り次ぎによりて、この世にてはもろもろの悲しみを逃れしめ、後の世にては永遠の楽しみを受くることを得しめたまえ。



Per Chri-stum Dó- mi- num no- strum. R. A- men.

◎ ペル クリストウム ド ミヌム ノ ストルム ▲ アメン
 われらの主キリストによりて しかあらせたまえ

聖母交唱 アルマ・レデムトリス Alma Redemptoris

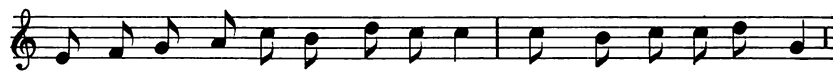
(待降節第1日曜日の前晩から2月2日まで)



Al- ma * Red-emp-tó-ris Ma-ter, quæ pér-vi-a caé-
 ア^ル マ ▲ レ デムトリス マテル ヲエ ペルヴァイ アチエ
 うるわし 救い主の おん母よ、常に入り得る天



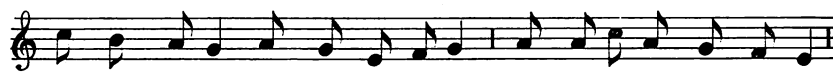
li pór-ta má-nes, et stél-la má-ris, suc-cúr-re ca-dén-ti,
 リ^ポ ルタ マ ネス エトステラ マリス スクルレ カデンテイ
 のとびらよ、 海の星よ、救いたまえ、倒るとも



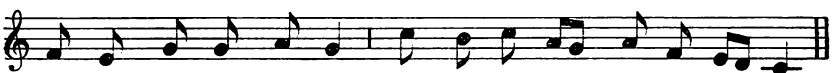
súr-ge-re qui cú-rat pó-pu-lo: Tu quæ ge-nu-í-sti,
 スルジエレクイ クラト ポプロ トウ ヲエ ヲエヌイステイ
 起き上がらんとする 民を。 おん身は 生めり、



na-tú-ra mi-rán-te, tú-um sanc-tum Ge-ni-tó-rem.
 ナトウラ ミランテ トウウム サンクトウム ジエニト レム
 自然の 驚きのうちに おん身の 聖なる 創造主を。



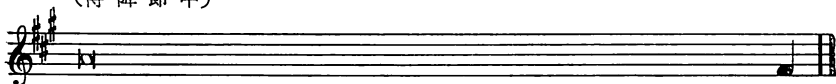
Vir-go pri-us ac po-sté-ri-us, Ga-bri-é-lis ab ó-re
 ヴイルゴプリウス アク ポステリウス ガブリエリス アッオレ
 童貞たり その前及び後にも。 ガブリエルの 口より



su-mens il-lud A-ve, pec-ca-tó-rum mi-se-ré-re.
 スメンシイルド アヴェ ベッカトルム ミセレレ
 かのあいさつを受けて 罪人を あわれみたまえ。

(以下祈願文は聖誕祭の前夜によつてちがう)

(待降節中)



V. *An-ge-lus Dó-mi-ni nun-ti-a-vit Ma-ri-ae.*

◎ アンヂェルス ドミニヌンティアヴィト マリエ
主の使は告げたり、マリアに。

R. *Et con-cé-pit de Spí-ri-tu sanc-to.*

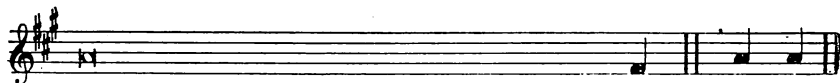
▲ エトコンチエピトデスピリトウサンクト
しかして身ごもりたまえり 聖霊によりて。

Oremus:

祈願せん。

*Gratiam tuam, quaesumus, Domine, mentibus nostris infunde: † ut qui, Angelo nuntiante, Christi Filii tui incarnationem cognovimus, * per passionem ejus et crucem, ad resurrectionis gloriam perducamur.*

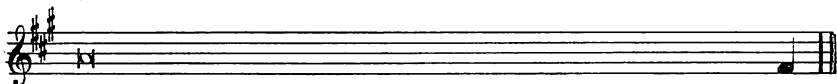
主よわれら天使の告げをもつて、おん子キリストのご託身を知りたれば、ねがわくはご苦難と十字架とによりて、ついにご復活の栄えに達するを得んため、われらの心に恩恵を注ぎたまわんことを。



Per e-un-dem Chri-stum Do-mi-num no-strum. R. A-men.

◎ ペルエウンデムクリストウムドミヌムノストルム ▲ アメン
その同じわれらの主キリストによりて。 しかあれかし。

(聖誕祭の前晩より2月2日まで)



V. *Post par-tum, Vir-go, in-vi-o-la-ta per-man-si-sti.*

◎ ポストパルトウム ヴィルゴ インヴァイオラタ ペルマンシスティ
ご降誕後にも、童貞よきよく おん身はましませり。

R. *Dé-i Gé-ni-trix, in-ter-cé-de pro no-bis.*

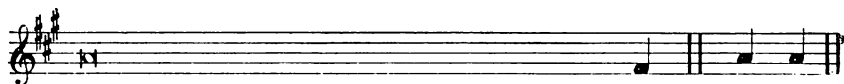
▲ デイジエニトリクス インテルチエデプロノビス
天主のおん母よ とりなしたまえ、われらのために。

Oremus:

祈願せん。

*Deus, qui salutis aeternae beatae Mariae virginitate fecunda, humano generi praemia praestitisti: † tribue, quaesumus, ut ipsam pro nobis intercedere sentiamus, * per quam meruimus auctorem vitae suscipere*

聖母マリアの童貞を實らしめて、永遠の救霊の恵みを人類に与えたまえし天主、われらは生命の本源なる(天主のおん子)受けたてまつるを得たれば、ねがわくはこのおん母が、われらのために取り次ぎをなしたまわんことを



Dominum nostrum Je-sum Chri-stum, Fi-li-um tu-um. R. A-men.

◎ ド ミ ヌ ム ノ ス ト ル ム イ エ ス ム ク リ ス ト ム フ ィ リ ウ ム ト ウ ム ▲ ア メ ン
われらの主 イエズス・キリスト 天主の子を。 しかあれかし

聖 母 交 唱 ア ヴェ・レ ジ ナ Ave Regina

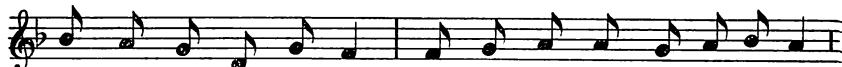
(2月2日より聖水曜日まで)



A-ve, Re-gi-na cae-ló-rum, * A-ve, Dó-mi-na An-
ア ヴェ レ ジ ナ ヌ エ ロ ル ム ▲ ア ヴェ ド ミ ナ アン
めでたし 天 の 元 后、 めでたし 天 使 の 女



ge-ló-rum: Sál-ve rá-dix, sál-ve pór-ta, Ex qua
ア ヴェ ロ ル ム サ ル ヌ エ ラ テ イ ク ス サ ル ヌ エ ポ ル タ エ ク ス ク ア
王、 めでたし 根 よ、 めでたし 門 よ、 これによりて



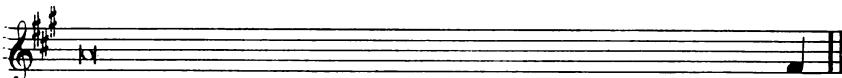
mún-do lux est ór-ta. Gau-de, Vir-go glo-ri-ó-sa,
ム ン ド ル ク ス エ ス ト オ ル タ ガ ッ デ ヴ ァ イ ル ゴ ヲ ロ リ オ サ
世に 光 出でたり。 よろこべ 榮ある 童貞女よ、



Su-per óm-nes spe-ci-ó-sa, Vá-le, o val-de de-
 ス ペル オム ネス スペ チ オ サ ヅ ア ジ オ ヅ ア ヲ デ デ
 すべての女性にまされるうるわしきおん者よ めでたし おお いても うるわ



có-ra, Et pro nó-bis Chri-stum ex-ó-ra.
 コ ラ エト ヲロ ノ ビス ヅ リ ス ト ウ ム エ ヅ ソ ラ
 しきおん者、 しかしてわれらのために キリストに 祈りたまえ



V. *Di-gná-re me lau-dá-re te, Vir-go sa-crá-ta.*

◎ テイニヤレ メ ラ ヅ ダ レ テ ヅ イ ヌ ゴ サ ヅ ラ タ
 われをしておん身をたたえしめたまえ、 聖なる童貞女よ。

R. *Da mí-hi vir-tú-tem con-tra hó-stes tú-os.*

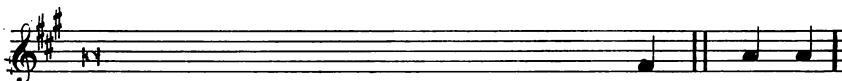
▲ ダ ミ ヒ ヅ イ ル ト ウ テ ム コ ン ト ラ ホ ス テ ス ト ウ オ ス
 与えよ われに 力、 おん身の敵に立ち向かう(力を)。

Oremus:

*Concede, misericors Deus, fragilitati
 nostrae praesidium: † ut, qui sanctae
 Dei Genitricis memoriam agimus, *
 intercessionis ejus auxilio a nostris ini-
 quitatibus resurgamus.*

祈願せん。

あわれみ深き天主よ、われらの弱きを助
 けたまえ。今われらは天主の聖母を記念し
 たてまつれば、なにとぞそのおん取り次ぎ
 によりて、われらをして不義より立ち上
 がるを得しめたまえ。



Per e-un-dem Chri-stum Do-mi-num no-strum. R. A-men.

◎ ペル エ ウ ン デ ム ヅ リ ス ト ウ ス ド ミ ヌ ム ノ ス ト ル ム ▲ ア メ ン
 その同じ われらの主キリストによりて。 しかあせたまえ

聖母交唱 レジナ・マエリ Regina caeli

(聖土曜日から三位一体祭の前日のひるまで)



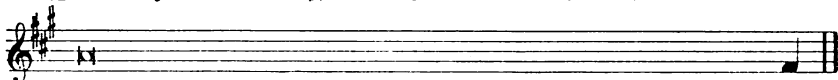
Re-gi-na cae-li, * lae-ta-re, al-le-lu-ja: Qui-a quem me-
 レジナ マエリ ▲ ビタレ アマリヤ ユイア クエム メ
 天の元后 よろこびたまえ。 そは、おん身が



ru-i-sti por-ta-re, al-le-lu-ja: Re-sur-re-xit, sic-ut
 ルイスマイ ポルタレ アマリヤ レスルレクスイトスイクト
 抱くを得しおん者は よみがえりたまえり、のたま



di-xit, al-le-lu-ja: O-ra pro no-bis De-um, al-le-lu-ja.
 ヱイクスイトアマリヤ オラ ヲロ ノビス デウム アマリヤ
 えるごとく。 祈りたまえ。われらのため 主に。



V. Gau-de et lae-ta-re, Vir-go Ma-ri-a, al-le-lu- ja.

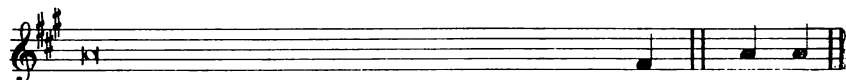
◎ ガウ デ エト ビタレ ユインゴ マリア アマリヤ
 喜びかつ楽しみたまえ、童貞 マリアよ

R. Qui- a sur-re-xit Do-mi-nus ve-re, al-le-lu- ja.

▲ ユイ ア スルレクスイト、ド ミヌス ヲエレ アマリヤ
 そは 復活したればなり、主 じつに。

*Oremus: Deus, qui per resurrectionem Filii
 tui Domini nostri Jesu Christi mundum laeti-
 ficare dignatus es: † praesta, quaesumus, ut
 per ejus Genitricem Virginem Mariam * per-
 petuae capiamus gaudia vitae.*

祈願せん。おん子イエズス・キリス
 トのご復活をもつて世界を喜ばし
 めたまひし天主、ねがわくは、その
 おん母童貞マリアによりて終りなき
 命の喜びをわれらに得しめたまえ。



Per e-un-dem Chri-stum Do-mi-num no-strum. R. A-men.

◎ ペル エウン デム クリ ストウム ド ミヌム ノ ストルム ▲ ア メン
 その同じ われらの主キリストによりて。 しかあれかし

聖母交唱 サル ヲエ ・ レジナ Salve Regina

(三位一体の前晩から待降節まで)



Sál-ve Re-gí-na, * Má-ter mi-se-ri-cór-di-æ, ví-ta,
 サル ヲエ レジナ ▲ マテル ミセリ コルテイ エ ヲイ タ
 めでたし 元后よ、 あわれみ深きおん母よ、 われらの命、



dul-ce-do et spes nó-stra, sal-ve. Ad te cla-má-mus,
 ドウチエド エト スペス ノストラ サル ヲエ アフ テ ヲラ マ ムス
 なぐさめ 及び 希望よ、 めでたし。 おん身に われら叫ぶなり、



éx-su-les, fí-li-i Hé-væ. Ad te su-spi-rá-mus,
 エクス ス ピス ヲイ リ イ ヘ ヲエ アフ テ ス スピ ラ ムス
 しまながしの身 エワの子(われら)は。 おん身を われら仰ぎ望む、



ge-mén-tes et flén-tes in hac la-cri-ma-rum val-le.
 ジエ メン テス エト フレン テス イン ハク ラ ヲリ マ ルム ヲア ヲレ
 なげき 泣くなり、 この涙の谷に。



E-ja er-go, ad-vo-cá-ta no-stra, il-los tú-os
 エヤ エルゴ アフ ヲオ カタ ノストラ イ ヲ ロス トウ オス
 い さ われらの代願者よ、 おん身の



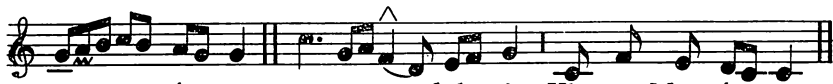
mi-se-ri-cór-des ó-cu-los ad nos con-vér-te
 ミセリ コル デス オク ロス アフ ノス コン ヲエル テ
 あわれみ深き おん目を われらに 注ぎたまえ



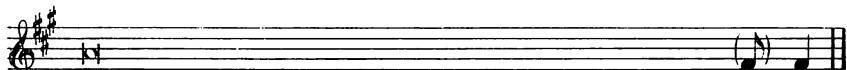
Et Je- sum, be- ne- díc- tum fruc- tum vén- tris tú- i,
 エトイエ スム ベ ネ デイクトウム フルクトウム ヴェントリストウイ
 また イエズス おん身の体なる祝せられしおん子(イエズス)を



nó- bis post hoc ex- sí- li- um o- stén- de. O cle- mens,
 ノビス ポスト ホク エクスイリウム オステンデ オ クレ メンス
 われらに しまながしの終わらん後 示したまえ おお 寛容、



o pí- a, o dul- cis Vir- go Ma- ri- a.
 オ ピア オ ドウシスウイールゴ マリア
 おお 仁慈、 おお 甘美なる 童貞 マリアよ。



V. O- ra pro nó- bis, sanc- ta Dé- i Gé- ni- trix.

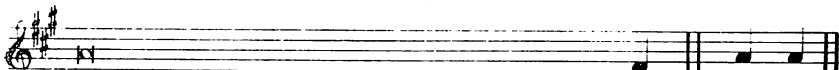
◎ オラ ヲロ ノビス サンクタ デイ ジエ ニトリクス
 祈りたまえわれらのため 聖なる 天主の おん 母 よ。

R. Ut di- gni ef- fi- ci- á- mur pro- mis- si- ó- ni- bus Chri- sti.

▲ ウトディニエフフィチアムプロ ミスシオニブスクリステイ
 かなわしめたまえわれを キリストのおん約束に。

*Oremus: Omnipotens sempiternus Deus, qui gloriosae Virginis Matris Mariae corpus et animam, ut dignum Filii tui habitaculum effici mereretur, Spiritu sancto cooperante, praeparasti: † da, ut cujus commemoratione laetamur, * ejus pia intercessione ab instantibus malis et a morte perpetua liberemur.*

祈願せん。全能、永遠の天主、主は光榮ある童貞聖母マリアのおん肉体ご靈魂をばおん子にふさしき住みかたらしむべく、聖靈のおん協力によりて備えたまえり。ねがわくはおん母を記念して喜べるわれらをして、その懇切なるおん取り次ぎによりて、今の災難および永遠の死よりまぬがれしめたまわんことを。



Per e- un- dem Chri- stum Do- mi- num no- strum. R. A- men.

ペナエウン デム クリストウム ド ミヌム ノ ストルム ▲ ア メン
 その 同じ 主 キリスト によりて。 しかあれかし

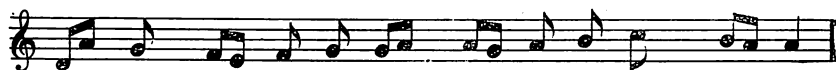
聖ヨゼフ賛歌

IN HONOREM S. JOSEPH

テ・ヨセフ Te Joseph



1. Te Jó- seph cé- le-brent á- gmi- na cáe- li- tum;
 テ ヨ セフ チエ レ ヲレント ア ヂミ ナ チエ リ トウム *
 おん身 ヨゼフを、 たたえよ、 天 軍 は。



Te cúnc- ti ré- so- nent chri- stí- a- dum chó- ri,
 テ クンクタイ レ ソ ネット クリ スタイ ア ドウム コ リ *
 おん身をこぞりて うたえ、キリスト者の 歌隊は。



Qui clá- rus mé- ri- tis, junc- tus es ín- cly- tæ
 クイ グラ ルス メリ タイ ス ユンクトウス エス インクリ テ *
 そは いさおすぐれて つれあいたればなり、 尊 き



Cá- sto foé- de- re Vír- gi- ni. A- men.
 カスト ヲエ デ レ ヴイル ジ ニ (最後に) ア メン
 童貞女と清きちぎりもて。

2. Al- mo cum tú- mi- dam gér- mi- ne cón- ju- gem Ad- mí- rans,

アルモ クム トウミダム ヂエルミネ コンユテム * アド ミランズ
 配偶者が尊き胎児を懐妊せるを いぶかり

dú- bí- o tán- ge- ris án- xi- us, Af- flá- tu sú- pe- ri
 ドウビオ タン ヂエリス アンクスイウス * アッフラトウ スペリ
 案じわづらえるに 「聖霊の奇特に

Flá- mi- nis án- ge- lus Con- cép- tum pú- e- rum do- cet.
 フラ ミ ニス アンジエルス * コンチエフトウム プエルム ドチエト
 よ り て おん子をはらめり」と天使は告ぐ

3. Tu na- tum Dó-mi- num strin- gis, ad éx- te- ras
 トウ ナ トウム ド ミ ヌム ストリン ジス アド エクス テ ラス *
 おん身は生まれし 主 を いたく、 異 国

Ae- gyp- ti pró- fu- gum tu sé- que- ris pla- gas ;
 エ ジ ッ タイ ヲロ フ グム トウ セ ッ エ リス ヲラ ガス *
 エジプトに 避難せしおん子に おん身は 従いて行く。

A- mís- sum Só- ly- mis quæ- ris et ín- ve- nis,
 ア ミス スム ソ リ ヲ ミス ッ エ リス エト イン ヴ エ ニス *
 失いたるを イエルザレムにて さがし そを 見出だせり。

Mis- cens gáu- di- a flé- ti- bus.
 ミ シ エンス ガ ヲ テイ ア ヲ レイ テイ ブス
 交えしなり、 喜 び と 悲しみとを。

4. Post mor- tem ré- li- quos sors pi- a cón- se- crat,
 ポスト モル テム レ リ ヲ ッ オス ソルス ピ ア コン セ ッ ラト *
 死 後 他 の 者 は そのよき臨終によりて 祝せられ

Pal- mám- que e- mé- ri- tos gló- ri- a sú- ci- pit ;
 パル マム ッ エ メ リ トス ッ ロ リ ア ス シ ピト *
 いさおしすぐれしかれらは 栄 光 に 入 る。

Tu vi- vens, sú- pe- ris par, frú- e- ris De- o,
 トウ ヴイ ヴ エンス ス ペ リス パル フル エ リス デ オ *
 おん身は生けるうちより 在天の聖者とひとしく 有 せり、 天主を。

Mi- ra sór- te be- á- ti- or.
 ミ ラ ソル テ ベ ア ヲ イ オル
 そのたえなる定めによりて他にすぐれて幸いなりき。

5. No- bis, sum- ma Tri- as, par- ce pre- cán- ti- bus :
 ノ ビス スム マ トリアス パルチエ ヲレ カン テイ ブス *
 われらを 最上なる 三位よ、 許したまえ 祈り奉る (われらを)

Da, Jo- seph mé- ri- tis, sí- de- ra scán- de- re,
 ダ ヲ セ ヲ メ リ テイ ス スイ デ ラ スカン デ レ *
 ヲセフの功 徳によりて われらをして 天に 昇り

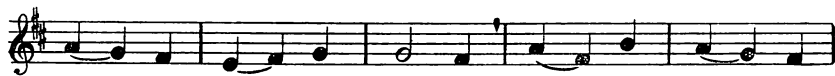
Ut tan- dem lí- ce- at nos ti- bi pér- pe- tim
 ウト ダン デム リ チエ アト ノス テイ ビ ベル ペ テイム *
 つ い に は われら おん身に 永 久 に

Gra- tum pró- me- re cán- ti- cum. A- men.
 ヲラ トウム ヲロ メ レ カン テイ クム * ア メン
 ありがたき賛歌をうたわしめたまえ しかあれかし。

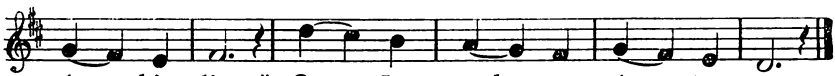
サル ヲエ・パテル Salve Pater



1. Sal- ve, Pa- ter Sal- va- tó- ris, * Sal- ve,
 サル ヲエ パ テル サル ヲア ト リス サル ヲエ
 めでたし 救 い 主 の おん 父 よ めでたし



Cu- stos Red- emp- tó- ris, * O Jo- seph a-
 ク ストス レ デムフ ト リス オ ヨ セフ ア
 あが ない 主 の 保 護 者 よ おお 愛すべしヨセフよ



má- bi- lis, * O Jo- seph a- má- bi- lis.
 マ ビ リス オ ヨ セフ ア マ ビ リス
 おお 愛 す べ き ヨ セ フ よ

2. Sal-ve, spon-se Ma-tris De-i, Sal-ve, ho-spes De-i me-i,
 サル ヲエ スポンセ マトリス デイ * サル ヲエ ホスペス デイ メイ *
 「Jo-seph, ter mi-rá-bi-lis.」 めでたし天主のおん母の配偶者、めでたしわが
 ヨセフ テル ミラビリス 天主の接待者、「妙なる位を有せしヨセフよ。」

3. Cum Ma-rí-a con-ver-sá-ri, De-i na-tum am-ple-xá-ri,
 クム マリア コンヴェルサリ * デイ ナトゥム アムプレクサリ *
 「O quan-tæ de-lí-ci-æ!」 マリアと共に語らい、天主のおん子を
 オ ヲアンテ デリチエ 抱きしこと、「おお大なる喜びよ。」

4. Ex-ul-án-tes con-so-lá-re, Mo-ri-én-tes am-ple-xá-re,
 エクスランテス コンソラレ * モリエンテス アムプレクサレ *
 「Quos hic ha-bes sér-vu-los.」 悲しむ時には慰め、臨終には抱きたまえ、
 ヲオス ヒク ハベス セルヴロス 「現世にておん身のしもべなるわれらを」

5. Te pre-cán-te vi-ta func-ti Sint cum án-ge-lis con-iúnc-ti
 テ プレカンテ ヴィタ フンクティ * スイント クム アンジェリス コンユンクティ *
 「In cæ-lé-sti pá-tri-a.」 おん身の取り次ぎにて死者が、天使と共に
 インチエプリステイ パトリア あらんことを「あまつみ国において」

聖節賛歌

PRO VARIIS TEMPORIBUS ANNI LITURGICI

待降歌 ロラテ Rorate

とりかへし

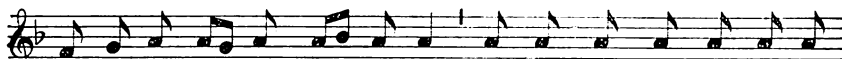


Ro-rá- te caé-li dé-su-per, et nu-bes plu- ant ju- stum.

○ ロラテ ヌエリ デス ペル エト ヌベ ス プレ アント ユ ス トウム

▲ 露ふらせよ 天よ、上より。 また 雲は 降らせよ、義者を。

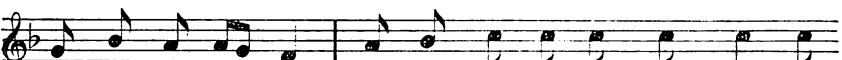
(最初は斉唱でロラテをもう一度くりかえす)



1. Ne i-ra-scá-ris, Dó-mi-ne, ne ul-tra me-mí-ne-ris

○ ネイラ スカ リス ド ミネ ネ ウltra メ ミネ リス

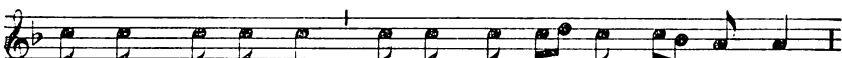
怒りたまわされ 主よ。 ながく おぼえたまわされ



in-i-qui-tá-tis: ec-ce ci-vi-tas Sanc-ti fác-

イ ニ ヲイ タ イス エツチエ チ ヲイ タス サンクテイ ヲアッ

罪 を。 見よ、 聖者の 都は さ



ta est de-sér-ta: Si-on de-sér-ta fac-ta est:

タ エスト デセル タ スイ オン デセル タ ヲアッ タ エスト

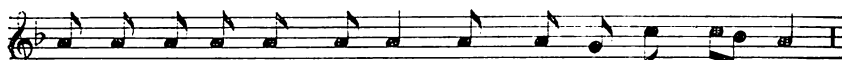
びれた り。 シオンは 荒れた り。



Je-rú-sa-lem de-so-lá-ta est: do-mus sanc-ti-

ィエル サレム デソラ タ エスト ドムス サンクテイ

ィエルザレムは 荒涼た り。 おん 身の



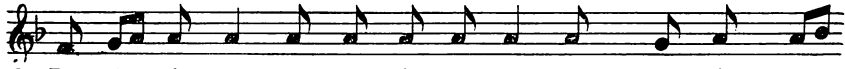
fi-ca-ti-ó-nis tu-ae et gló-ri-ae tu-ae,

ィイ カ ヲイ オニス トウ エ エト ヲロリ エ トウ エ

聖 殿 と 栄光あるご殿は (亡びたり)



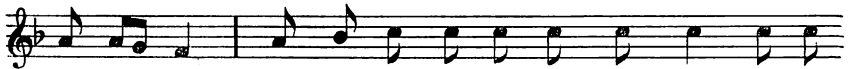
u- bi lau-da- vé- runt te pa- tres no- stri. R. Rorate...
 ウ ビ ラッダ ッエ ルント テ パ トレス ノ ストリ ▲ ロラテ...
 そこにて たたえしなり、 おん身を われらの先祖は。



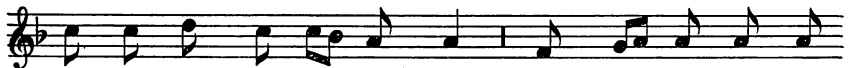
2. *Pec- cá- vi- mus, et fac- ti su- mus tam- quam im- mún-*
 ○ ペッ カ ッイ ムス エト ッア ッテイ ス ムス タム ッア ャ イム ムン
 われら罪を犯し 不 浄 者 の こ と く な れ り、



du- s nos, et ce- cí- di- mus qua- si fó- li- um u-
 ドウス ノス エト ッエ チ テイ ムス ッア スイ ッオ リ° ウム ウ
 われらは。 落 ち た り、 空 の 木 の 葉 の こ と く。



ni- vér- si: et in- i- qui- tá- tes no- strae qua- si
 ニ ッエル スイ エト イ ニ ッイ タ テス ノ ストレ ッア スイ
 わ れ ら の 罪 は 大 風 の



ven- tus abs- tu- le- runt nos: ab- scon- dí- sti fa-
 ッエントウス アブストウ レ ルント ノス アッ スコン テイ ステイ ッア
 こ と く 散 ら し た り われらを。おん身はそむけたまえり。おん身の



ci- em tú- am a no- bis, et al- li- sí- sti nos
 チ エム トウ ア ャ ア ノ ビス エト アッ リ° スイステイ ノス
 おん顔を われらより。 投 じ た ま い た り、 われらを



in ma- nu in- i- qui- tá- tis nó- strae. R. Rorate...
 イン マヌ イ ニ ッイ タ テイス ノ ストレ ▲ ロラテ:
 わ れ ら の 罪 の 手 に



3. *Vi-de, Dó-mi-ne, af-flic-ti-ó-nem pó-pu-li tu-i,*

○ ヴィ デ ド ミ ネ ア ッ プ リ ッ ヲ ネ ム ポ プ リ ト ウ イ
顧みたまえ。主よ、おん身の民のなやみを。



et mit-te quem mis-sú-rus es: e-mít-te A-gnum,

エ ト ミ ト テ ッ エ ム ミ ス ル ス エ ス エ ミ ト テ ア ニ ム
つかわしたまえ、つかわすべきおん者を。 つかわしたまえ、小羊を



do-mi-na-tó-rem ter-rae, de pe-tra de-sér-ti

ド ミ ナ ト レ ム テ ル レ デ ペ ト ラ デ セ ル テ イ
地上をつかさどる(小羊)を 野の岩より



ad mon-tem fi-li-ae Si-on: ut áu-fe-rat ip-se

ア ヲ モ ン テ ム ヲ イ リ ヲ エ ス イ オ ン ウ ト ア ッ エ ラ ト イ ヲ セ
愛したまえるシオンの山に。そはかれは除かんためなり、



ju-gum cap-ti-vi-tá-tis no-strae. R. Rorate……

ユ グ ム カ ヲ テ イ ヲ イ タ テ イ ス ノ ス ト レ ▲ ロ ラ テ ……
われらのどれいたるくびきを。



4. *Con-so-lá-mi-ni, con-so-lá-mi-ni, pó-pu-le mé-us:*

○ コ ン ソ ラ ミ ニ コ ン ソ ラ ミ ニ ポ プ レ メ ウ ス
安んせよ、慰められよ、わが民よ。



ci-to vé-ni-et sá-lus tu-a: qua-re maé-ró-re

チ ト ヲ エ ニ エ ト サ ル ス ト ウ ア ッ ア レ メ ロ レ
ほどなく来たらん なんじの救いは。 なにゆえに 悲しみに



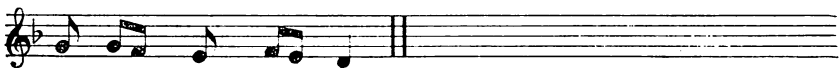
con-sú-me ris, qui-a in-no-vá-vit te do-lor?
 コ ス メ リ ス ャ イ ア イン ノ ヴ ア ヴ イ ト テ ド ポ ン
 く る る や、 なにとて か く は なんじ 憂うるや、



Sal-vá-bo te, no-li ti-mé-re, e-go e-nim
 サ ル ヴ ア ボ テ ノ リ テイ メ レ エ ゴ エ ニ ム
 われ救わん、なんじを。 おそるるなかれ。 そは われ



sum Dó-mi-nus De-us tu-us, Sanc-tus Is-ra-el,
 ス ム ド ミ ヌ ス デ ウ ス ト ウ ス サン ク ト ウ ス イ ス ラ エ ル
 な ん じ の 天 主 な る 主、 イ ス ラ エ ル の 聖 な る 者、



Red-émptor tú-us. R. Rorate.....
 レ デ ム プ ト ル ト ウ ウ ス ▲ ロ ラ テ.....
 なんじの救い主なればなり。

聖 誕 賛 歌 レ ソ ネ ト Resonet



1. Re-sonet in lau-di-bus cum ju-cun-dis
 レ ゾ ネ ト イン ラウ ディ ブ ス ク ム ユ クン ディ ス

2. Pú-eri, con-cí-ni-te,* Na-to Re-gi
 プ エ リ コ ン チ ニ テ ナ ト レ ジ

plau- si- bus * Si- on cum fi- de- li- bus.
 プラウ ジ ブス シ オン クム ヲイ デ リ ブス

psál- li- te, * Vo- ce pi- a dí- ci- te.
 プサル リ テ ヲオ チエ ピ ア ダイ チ テ

Ap-pa- ru- it, ap-pa- ru- it, Quem ge- nu- it Ma-ri- a.
 アッ パル イ アッ パ ル イ ヲエム ヲエ ヌ イ ト マリ ア

Ap-pa- ru- it, ap-pa- ru- it, Quem ge- nu- it Ma-ri- a.
 アッ パル イ アッ パ ル イ ヲエム ヲエ ヌ イ ト マリ ア

3. Si-on, lau-da Dó-mi-num, Sal-va-tó-rem hó-mi-num,
 シオンよ たたえよ 主 を、 人類の救い主なる(主を)

Sal-va- tó- rem crí- mi- num.
 罪人の救い主なる(主を)。

4. Qui re-gnat in aé-the-re, Ve-nit o-vem quae-re-re,
 天の王たる おん 者は 来たれり、小羊を 探すべく、

Nul- lam vo- lens pér- de- re.
 その一頭をも失わざらんことを望みつつ。

レ ソ ネット 訳 詞

1. ねがわくは響き渡らんことを賛美は、喜びの拍手と共に、シオンと信徒とのうちに。(おりかえし) 現われたり、現われたり、マリアの産みたまひしおん者は。
2. 子らよこそぞりて歌え、生まれし王に向かいて詩篇を歌え。信心深き声もて叫べ。

聖誕賛歌 ア デ ス テ Adeste

f

1. Ad- es- te fi- de- les, lae- ti tri- um- phan- tes; .
 アド エス テ ヨイ デ ビス ロ ヲイ トリ ウム ヲアン ナス

2. En gre- ge re- líc- to, hú- mi- les ad cu- nas
 エン グレ ヴエ レ リク ト *ホウ ミ ビス アド ク ナス *

ve- ni- te ve- ni- te in Beth- le- hem. .
 ヴエ ニ テ ヴエ ニ テ イン ベト レ ヲ

Vo- cá- ti pa- stó- res ap- pró- pe- rant:
 ヴオ カ ヲイ パ スト レス ア ヲ ヲロ ペ ラント *

f

Na- tum vi- de- te, re- gem An- ge- lo- rum. .
 ナ トウム ヲイ デ テ レ ジエ ア、 ジエ ロ ルム

Et nos o- ván- ti gra- du fe- sti- né- mus
 エト ノス オ ヲアン テイ * グラ ドウ ヲエ スタイ ネ ムス *

(以下第1節と同じ)

mf *f*

Ve- ni- te ad- o- re- mus, ve- ni- te ad- o- re- mus,
 ヴエ ニ テ アド オ レ ムス ヴエ ニ テ アド オ レ ムス

ve- ni- te ad- o- re- mus Do- mi- num.
 ヴエ ニ テ ア ヲ レ ム ス ド ミ ヌ ム

3. Ae- tér- ni Pa- ré- nis splen- dó- rem æ- tér- num
 エ テル ニ パ レン テ イ ス * ス プ レ ン ド レ ム エ テル ヌ ム *
 永 遠 の お ん 父 の 永 遠 の 輝 き が

Ve- lá- tum sub cár- ne vi- dé- bi- mus:
 ヴエ ラ ト ウ ム ス カ ル ネ ヴ イ デ ビ ム ス *
 肉 に 潜 め る を われら見まつるならん。

「De- um in- fán- tem, pan- nis in- vo- lú- tum: Veníte...
 デ ウ ム イン フ ァ ン テ ム * パ ン ニ ス イン ヴ オ ル ト ウ ム * ヴ エ ニ テ ...
 天 主 なる 幼 子 産 衣 に 包 ま れ た ま い し を 。 来 た れ ...」

4. Pro no- bis e- gé- num et foe- no cu- bán- tem
 ヲ ロ ノ ビ ス エ ヱ エ ヌ ム * エ ト ヲ エ ノ ク パ ン テ ム *
 われらのため 卑しき者となりて 枯草の上にやすみたまえるを

Pi- is fo- ve- á- mus am- plé- xi- bus: *
 ピ イ ス ヲ オ ヴ エ ア ム ス ア ム プ レ ク ス イ プ ス
 う や う や し き 抱 擁 も て 愛 し た て ま つ ら ん。

「Sic nos a- mán- tem quis non re- da- má- ret? Veníte...
 ス イ ク ノ ス ア マ ン テ ム * ヲ イ ス ノ ン レ ダ マ レ ト * ヴ エ ニ テ ...
 か く わ れ ら を 愛 し た ま え る を た れ か 愛 し 返 さ ざ る や あ る べ き 。 き た れ ...」

ア デ ス テ 訳 詞

- きたれ信徒よ、凱旋の喜びもて、来たれや来たれベトレヘムへ。
 「見よ産まれたまいし、天使の王を。
 来たれ、われら拝みまつらん、きたれ、われら拝みまつらん。
 きたれ、われら拝みまつらん、主を。」
- 見よ群を離れて、いやしき産屋に、呼ばれて羊牧いらは急ぎ来たる。
 「われらも喜びて、はせ行かん。
 来たれ、われら拝みまつらん……………」

四 句 節 歌 ア、テ、ン、デ Attende



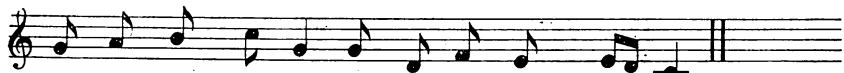
At-tén-de, Dó-mi-ne, et mi-se-ré-re, qui-a pec-cá-
 ○ ア、テ、ン、デ ド ミ ネ エ、ト ミ セ レ レ ッ イ ア ペ、カ
 ▲ 願 みた ま え 主 よ、 し か し て あ わ れ み た ま え。 そ は わ れ ら 背 き



vi-mus tí-bi. 1. Ad te, Rex súm-me, óm-ni-um Red-
 ヲ イ ム ス、テ、イ ビ ○ ア、テ、レ、ク、ス、ス、ム、メ オ、ム、ニ、ウ、ム、レ
 たればなり、おん身に。 いと高き王よ、 諸 人 の 救
 (最初は斉唱でア、テ、ン、デをもう一度くりかえす)



émp-tor, ó-cu-los nó-stros sub-le-vá-mus flen-tes:
 デ、ム、ト、ル * オ、ク、ロ、ス、ノ、ス、ト、ロ、ス、ス、ッ、レ、ッ、ア、ム、ス、ッ、レ、ン、テ、ス *
 世主よ、 われらの目をあぐるなり、 泣きつつ
 (5 pro im-pi-is...)



ex-aú-di, Chri-ste, sup-pli-cán-tum pré-ces. R. Atténde...
 エ、ク、サ、ウ、テ、イ、ク、リ、ス、テ、ス、ッ、フ、リ、カ、ン、ト、ウ、ム、ッ、レ、テ、エ、ス、▲ ア、テ、ン、デ
 きき入れたまえ キリストよ、 哀願しまつるわれらの 願いを。(各節同じ)

2. Dég-te-ra Pa-tris, la-pis an-gu-lá-ris, vi-a sa-lú-tis,
 ○ デ、ク、ス、テ、ラ パ、ト、リ、ス、ラ、ピ、ス、ア、ン、グ、ラ、リ、ス * ヲ、イ、ア、サ、ル、テ、イ、ス
 おん父の右なるおん者よ、 限、石、よ、 すくいの道よ、

já-nu-a cae-lé-stis, áb-lu-e no-stri má-cu-las de-líc-ti.
 ヤ、ヌ、ア、テ、エ、レ、ス、テ、イ、ス * ア、ブ、ル、エ、ノ、ス、ト、リ、マ、ク、ラ、ス、デ、リ、ク、テ、イ
 天 の 門 よ、 清めたまえわれらの 罪 の 汚 れ を。

3. Ro-gá-mus, De-us, tu-am ma-je-stá-tem: áu-ri-bus sa-cris
 ○ ロ、ガ、ム、ス、デ、ウ、ス、ト、ウ、ア、ム、マ、イ、エ、ス、タ、テ、ム * ア、ウ、リ、ブ、ス、サ、ク、リ、ス
 われら願う 天主よ、 おん身の ご 靈 威 に。 尊きおん耳もて

gé-mi-tus ex-aú-di: cri-mi-na no-stra plá-ci-dus in-dúl-ge.

ジエ ミトウス エクサウヂイ * ッリ ミナ ノストラ ヲアチドウス インドウ^ルジエ
嘆 き を ききたまえ。 われらの罪を 寛容もて許したまえ。

4. *Ti-bi fa-té-mur cri-mi-na ad-mís-sa: con-trí-to cor-de*

○ テイ ビ ヲア テ ムル ッリ ミナ アド ミス サ * コントリト コルデ
おん身にわれら告白しまつる、犯 し し 罪 を。 痛 悔 の 念 も て

pán-di-mus oc-cúl-ta: tu-a, Red-émptor, pí-e-tas i-gnó-scat.

パンヂイ ムス オククルタ * トウア レ デムアトル ピエタス イニヨスカト
あらわさん 隠れし罪をも。 教主よおん身の慈悲もて許したまえ

5. *In-no-cens cap-tus, nec re-pú-gnans duc-tus, té-sti-bus fa-lsis*

○ インノチエンス カプトウス ネク レ プニヤンス ドウクトウス * テステイブス ヲア^ルス イス
無罪なりしも捕えられ 反抗したまわずして引かれたり。偽証人によりて

pro ím-pi-is dam-ná-tus: quos red-e-mí-sti, tu con-sér-va, Chri-ste.

プロイムピイスダムナトウス * ッオス レデミステイトウ コンセルヴァ ッリ ステ
罪人のため宣告を受けしかば、 おん身が救いし者をおん身守りたまえキリストよ。

痛 悔 歌 パルチエ・ドミネ Parce, Domine

(四句節及び黙想会などに)



Pár-ce, Dó-mi-ne, pár-ce pó-pu-lo tú-o:
パルチエ ド ミ ネ パルチエ ポ プ ロ トウ オ
許したまえ、主 よ。 許したまえ、おん身の民を。



ne in æ-tér-num i-ra-scá-ris nó-bis.
ネ イン エ テル ヌ ム イ ラ ス カ リ ス ノ ビ ス
と こ し え に 怒りたまわされ、われらを

十字架賛歌 ヲエ ヲスイルラ Vexilla

(受難節中および十字架称賛の日に)



1. Ve-xíl-la Ré-gis pród-e-unt: Fúl-get Crú-
 ヲエ ヲスイルラ レ ジス ヲロ デ ウント * フル ヲエト ヲル
 王 の み 旗 は ひる が える。 輝くよ、 十字
 (4 アル ボル デ コー レト フル シダ)



cis my-sté-ri-um, Qua vi-ta mór-tem pér-
 チス ミステリウム * ヲア ヲイ タ モル テム ペル
 架の 妙 理 は。 それに 生 は 死 を 受



tu-lit, Et mór-te vi-tam pró-tu-lit.
 トウ リト * エト モル、 テ ヲイ タム ヲロ トウ リト
 け 死 も て 生 を 賜 いた り。

2. Quæ vul-ne-rá-ta lán-ce-æ Mu-cró-ne di-ro, crí-mi-num
 ヲエ ヲル ネラタ ランチエエ * ム ヲロ ネ テイロ ヲリ ミヌム *
 傷つけられたり、 槍の するとき先もて。 罪 悪の

Ut nos la-vá-ret sór-di-bus, Ma-ná-vit un-dá et sán-gui-ne.
 ウト ノス ラ ヲアレト ソルデイブス * マナ ヲイトウシ デト サン ヲイネ
 汚れよりわれらを清めんため 流れたり、 水 と 血 と は

3. Im-plé-ta sunt quæ cón-ci-nit Da-vid fi-dé-li cár-mi-ne,
 イム プレタ スント ヲエ コンチニト * ダ ヲイフ ヲイデラ カルミネ *
 成 れ り、 歌 い し ダヴィドの 真実の 詩 は。

Di-cén-do na-ti-ó-ni-bus: Re-gná-vit a li-gno De-us.
 デイチェンド ナツイオニブス * レ ヲヤ ヲイト アリ ヲヨ デウス
 告げたり 万 民 に。 支配したもうなり 木もて 天主は。

4. Ar-bor de-có-ra et fúl-gi-da, Or-ná-ta Re-gis púr-pu-ra,
 アルボル デコレト フルシダ * オルナタ レジス プル プラ *
 木よ、 うるわしく 輝く(木よ)。 装われたり、 王の 赤き血潮もて。

E-léc-ta di-gno stí-pi-te Tam sanc-ta mem-bra tán-ge-re.

エ レ ッ タ テ イ ニ ヨ ス テ イ ピ テ * タ ム サ ン ッ タ メ ム ッ ラ タ ン ジ エ レ
ふさわしき価もて選ばれたり、 かくも 高価なる 肢体 に ふれんため。

5. Be-á-ta, cu-jus brá-chi-is Pré-ti-um pe-pén-dit saé-cu-li:

ベ ア タ ク ヌ ス ッ ラ キ イ ス * プ レ ッ イ ウ ム ペ ペ ン テ イ ト セ ク リ *
幸なるかな。木 よ、その横木に 世のあがないは掛かりたまえり。

Sta-té-ra fac-ta cór-po-ris, Tu-lít-que praé-dam tár-ta-ri.

ス タ テ ラ ッ ア ッ タ コ ル ポ リ ス * ト ウ リ ッ ト ク エ プ レ ダ ム タ ル タ リ
その木はおん体のはかりとなりて 取りもどせり、地 獄 の 獲 物 を。

(以下第六節と第七節とは次の「オ・クルクス」と同じ)

十 字 架 賛 歌 オ・クルクス O Crux



1. O Crux, á-ve, spes ú-ni-ca, Hoc pas-si-ó-

オ ク ル ク ス ア ヴ エ ス ペ ス ウ ニ カ * ホ ク パ ス ス イ オ
お 十 字 架 め で た し 唯 一 の 希 望 よ、 こ の 受 難



nis tém-po-re: Pi-is ad-aú-ge grá-ti-am,

ニ ス テ ム ポ レ * ピ イ ス ア ダ ッ ジ エ ッ ラ ッ イ ア ム *
の 節 に お い て 信 心 深 き 者 に は 加 え た ま え、 め ぐ み を。



Re-ís- que dé-le crí-mi-na. A-men.

レ イ ス ッ エ デ レ ッ リ ミ ナ (最後) ア メ ン
罪 人 に は 許 し た ま え そ の 罪 を。

2. Te, fons sa-lú-tis Trí-ni-tas, Col-laú-det om-nis spí-ri-tus:

テ ッ オ ン ス サ ル テ イ ス ト リ ニ タ ス * コ ラ ッ デ ッ ト オ ム ニ ス ス ピ リ ト ウ ス *
おん身救霊の源なる 三位を うたわん、すべての 霊は。

Qui-bus cru-cis vic-tó-ri-am Lar-gí-ris, ad-de praé-mi-um.

ク イ ブ ス ク ル チ ス ヱ イ ッ ト リ ア ム * ラ ル ジ リ ス ア ッ デ プ レ ミ ウ ム
これらに 十字架の 勝利を 与えしかば、増したまえその報いを。

A-men.

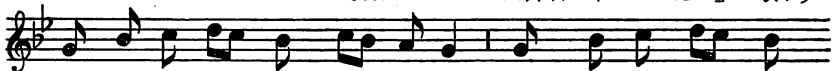
ア メ ン

復活賛唱 オ・フイリイ O filii

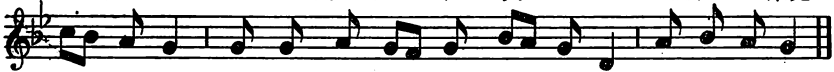


Al-le-lú-ja, al-le-lú-ja, al-le-lú-ja.
 ○ アレ ル ヤ アレ ル ヤ アレ ル ヤ
 ▲ 主を賛美せよ

(最初にはもう一回斉唱で「おりかえし」を歌う)



1. O fi-li-i et fi-li-ae, Rex cae-lé-stis, Rex
 ○ オ フイ リ イ エ、フイ リ エ * レクス チエ プステイス レクス
 おお男子よ 女子よ、天の王、栄光



gló-ri-ae, Mór-te sur-ré-xit hó-di-e, al-le-lú-ja.
 ヲ リ エ * モルテ スルレクスイト ホ フイ エ * アレ ル ヤ
 ある王は、死よりよみがえりたり、きようぞ。

R. Al-le-lú-ja...

▲ アレ ル ヤ...

2. Et ma-ne pri-ma sáb-ba-ti Ad ó-sti-um mo-nu-mén-ti

○ エト マネ (マリ) マ サッパタイ * アド オスタイウム モヌメンタイ *
 安息日の次の日の朝まだき おん墓の入口に

Ac-ces-sé-runt di-scí-pu-li, al-le-lú-ja. R. Al-le-lú-ja...

アツセスセルンティシプリ * アレ ル ヤ ▲ アレ ル ヤ...
 走り来たれり、弟子らは。

3. Et Ma-ri-a Mag-da-lé-ne, Et Ja-có-bi et Sa-ló-me

○ エト マリア マダレネ * エト ヤコビエト サロメ *
 マリア・マグダレナと ヤコブ(母)と サロメとは

Ve-né-runt cor-pus ún-ge-re, al-le-lú-ja. R. Al-le-lú-ja...

ヴェネルンツ コルプスウンゲレ * アレ ル ヤ ▲ アレ ル ヤ...
 来たれり、おん体に塗油せんとて。

4. In al-bis se-dens An-ge-lus Prae-di-xit mu-li-é-ri-bus:

○ イン アルビス セデンス アンジェルルス * プラエディクシト ムリエリブス *
 白衣をまとい 天使は座して 告げたり、婦人たちに。

In Ga-li-laë-a est Dó-mi-nus, al-le-lú-ja. R. Al-le-lú-ja...

イン ガリラエスタ ドミヌス * アレ ル ヤ ▲ アレ ル ヤ...
 「ガリレアにおわすなり、主は」と。

5. *Et Jo-án-nes A-pó-sto-lus Cu-cúr-rit Pe-tro cí-ti-us,*
 ○ エト ヨ アンネス ア ポストルス * ク クルリト ペトロ チツイウス *
 ヨ ハ ネ 使 徒 は 走りたり ペトロ より早く。
Mo-nu-mén-to ve-nit pri-us, al-le-lú-ja. R. Al-le-lú-ja...
 モヌ メント ヲエ ニト プリウス * アレ ル ヤ ▲ アレ ル ヤ...
 おん墓に 着きたり、先 に。
6. *Di-scí-pu-lis ad-stán-ti-bus, In mé-di-o ste-tit Chri-stus,*
 ○ デイ シ プ リ ス ア フ ス タ ン テ イ ブ ス * イン メ デ イ オ ス テ テ イ ト ク リ ス ト ウ ス *
 弟 子 ら の 集 り いた る 処 その真中に立ちたまえり キリストは。
Di-cens: Pax vo-bis óm-ni-bus, al-le-lú-ja. R. Al-le-lú-ja...
 デイ チ エ ン ス バ ク ス ヲ オ ビ ス オ ム ニ ブ ス * アレ ル ヤ ▲ アレ ル ヤ...
 宣いたり、「平安あれ、なんじらすべてに」と
7. *Ut in-tel-lé-xit Dí-dy-mus, Qui-a sur-ré-xe-rat Jé-sus,*
 ウト イン テ ル レ ク ス イ ト デ イ デ イ ム ス * ヲ イ ア ス ル レ ク セ ラ ト イ エ ス ス *
 チ チ モ (トマ) は 知 り し 時 すなわちイエズスのよみがえりしを。
Re-mán-sit fe-re dú-bi-us, al-le-lú-ja. R. Al-le-lú-ja...
 レ マ ン ス イ ト フ エ レ ヲ ウ ビ ウ ス * アレ ル ヤ ▲ アレ ル ヤ...
 な お 疑 い て あ り き
8. *Vi-de, Tho-ma, vi-de la-tus, Vi-de pe-des, vi-de ma-nus,*
 ○ ヲ イ デ ト マ ヲ イ デ ラ ト ウ ス * ヲ イ デ ベ デ ス ヲ イ デ マ ヌ ス *
 み よ ト マ、み よ 脇腹を、 み よ 足 を、み よ 手 を。
No-li és-se in-cré-du-lus, al-le-lú-ja. R. Al-le-lú-ja...
 ノ リ エ ス セ イン ク レ ヲ ウ ル ス * アレ ル ヤ ▲ アレ ル ヤ...
 なる な か れ、不 信 者 と。
9. *Quan-do Tho-mas Chri-sti la-tus, Pe-des vi-dit at-que ma-nus,*
 ○ ク アン ド ト マ ス ク リ ス テ イ ラ ト ウ ス * ペ デ ス ヲ イ デ イ ト ア ト ク エ マ ヌ ス *
 ト マ は キ リ ス ト の お ん 脇、 お ん 足 を 見 た り、ま た お ん 手 を も。
Di-xit: Tú es De-us me-us, al-le-lú-ja. R. Al-le-lú-ja...
 デ イ ク ス イ ト ウ エ ス デ ウ ス メ ウ ス * アレ ル ヤ ▲ アレ ル ヤ...
 言 え ら く 「おん身はわが天主」と。
10. *Be-a-ti qui non vi-dé-runt Et fir-mi-ter cre-di-dé-runt,*
 ○ ベ ア テ イ ク イ ノ ン ヲ イ デ ル ン ト * エ ト フ イ ル ミ テ ル ク レ デ イ デ ル ン ト *
 幸いなり、 見 ず し て か た く 信 ぜ し 人 々。
Vi-tam ae-tér-nam ha-bé-bunt, al-le-lú-ja. R. Al-le-lú-ja...
 ヲ イ タ ム エ テ ル ナ ム ハ ベ プ ン ト * アレ ル ヤ ▲ アレ ル ヤ...
 永 遠 の 生 命 を か れ ら に 有 せ ん。

11. *In hoc fe-sto sanc-tis-si-mo* *Sit laus et ju-bi-lá-ti-o,*
 イン ホク フェスト サンク タイ ススイ モ * スイト ラッス エト ユ ビ ラッイオ *
 この 聖なる 祝日において あれや、 賛美と喜びとは。
Be-ne-di-cá-mus Dó-mi-no, *al-le-lú-ja. R. Al-le-lú-ja...*
 ベ ネ ヱイ カ ムス ド ミ ノ * アッレ ル ヤ ▲ アッレ ル ヤ...
 われらほめたたえん、 主 を。
12. *De qui-bus nos hu-míl-li-mas,* *De-vó-tas at-que dé-bi-tas*
 デ ヱイ ブス ノス ホウ ミ ヲリ マス * デ ヱオ タス アトケ デ ビ タス *
 これらにつきてわれらはいと謙遜に うやうやしくかつ 務めとして
De-o di-cá-mus grá-ti-as, *al-le-lú-ja. R. Al-le-lú-ja...*
 デ オ ヱイ カ ムス グ ラ イ アス * アッレ ル ヤ ▲ アッレ ル ヤ...
 主になさん 感謝を。

復活賛唱 カンタテ・ドミノ Cantate Domino

f Allegro G. Haendel.

Can-ta-te Do-mi-no can-ti-cum no-vum:
 カン タ テ ド ミ ノ カン タイ ク ム ノ ム

う た え、主 に 新 し き 賛 歌 を

can-ta-te, om-nis ter-ra. Al-le-lu-ia.
 カン タ テ オ ムニス テル ラ アッレ ル ヤ

う た え、全 地 よ。 主 を 賛 美 せ よ。

mf soli

Ju- bi- la- te De- o, o- mnis ter- ra:
ユ ビ ラ テ デ オ オ ムニ ス テル ラ

喜びの声あげよ 天主に、 全 地 よ。

cresc

can- ta- te et ex- sul- ta- te et psal- li- te.
カン タ テ エト エクスル タ ナ エト プサル リ テ

うたい、かつ喜びおどり、 また 詩篇をうたえ。

soli

Be- ne- di- ci- te, gen- tes, De- um no- strum,
ベ ネ ダイ チ テ ジエン テス デ ク ノ ストルム

たたえまつれ民よ、 われらの天主を。

da- te glo- ri- am lau- di, lau- di e- jus.
ダ テ グロ リ ア ム ダウ ダイ プラウ ダイ エ ユス

栄光あらしめよ、 主への賛美には。

聖霊賛歌 ヲエニ・クレアトル Veni Creator



1. Ve - ni, Cre - á - tor Spí - ri - tus, Mén - tes tu - ó -
 ヲエ ニ クレ ア トル スピ リ トゥス * メン テス トウ オ
 来たりたまえ、創造主にまします聖 霊 よ 心 に、おん身の信者
 (3, テイツ トゥス)
 (4, イン・フン・ダ モ)



- rum ví - si - ta: Im - ple su - pér - na grá - ti - a,
 ルム ヴィ スイ タ * イム プレ ス ペル ナ ヲラ ヴィ ア *
 の(心)に訪れたまえ。 満したまえ、超 自然 の めぐみもて。
 (7 ヲイア) (6, テ ク トリ ウス ヲエ)



- Quæ tu cre - á - sti péc - to - ra. A - men.
 クエ トウ クレ ア スタイ ペク ト ラ (最後に) ア メン
 おん身の造りたまえる 胸 を。

2. Qui dí - ce - ris Pa - rá - cli - tus, Al - tís - si - mi do - num De - i,
 ヲイ デイテ エリス パ ラ クリ トゥス * アルティスシミドヌム デイ *
 おん身は呼ばれたもう、なぐさめ主、 いと高き天主のたまもの、

- Fons vi - vos, i - gnis, cá - ri - tas Et spi - ri - tá - lis únc - ti - o.
 フォンス ヴィ ヴス イニス カリタス * エト スピリタリス ウンクタイオ
 生ける泉、 火、 愛、 および 霊油 を 注ぐおん者と。

3. Tu sep - ti - fór - mis mú - ne - re, Dí - gi - tus pa - tér - næ dex - te - ræ, *
 トウ セプティフォルミス ムネレ * デイツトウス パテル ネ デクステレ
 おん身は七つのたまものを賜う。 おん 父 の 右手の指なり。

- Tu ri - te pro - mís - sum Pa - tris, Ser - mó - ne dí - tans gút - tu - ra.
 トウ リテ プロ ミス スム パトリ * セルモネ デイタンス グトウラ
 御身は御父より正しく約せられし御者よ、 人ののどをして言葉に富ましたもう

4. Ac - cén - de lu - men sén - si - bus, In - fúnde a - mó - rem cór - di - bus,
 アッチエン デル メン センスイブス * インフンダモレム コルタイブス *
 照らしたまえ、光りを五官に。 注ぎたまえ、愛 を 心 に。

- In - fir - ma no - stri cór - po - ris Vir - tú - te fir - mans pér - pe - ti.
 インフィル マ ノストリ コルポリス * ヴイルトウ テフィル マンス ペル ペティ
 われらの身体の弱きを 絶えざる力もて強めたまえ。

5. Hó-stem re-pél-las lón-gi-us, Pa-cém-que do-nes pró-ti-nus:
 ホ ステム レ ペルラス ロン ジウス * パテム エドネス ヲロタイヌス *
 敵 を 退かしたまえ、遠 く。 平 安 を 与えたまえ ただちに。

Duc-tó-re sic te praé-vi-o, Vi-té-mus óm-ne nó-xi-um.
 フウクトレスイタテ プレウイオ * ヴイ テ ムス オム ネ ノクスイウム
 おん 身は かく 導きたまいて われらを 逃れしめよ、すべての 悪より。

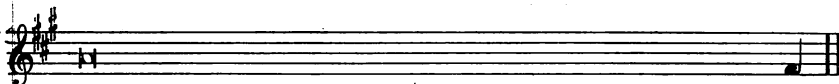
6. Per te sci-á-mus da Pa-trem, No-scá-mus at-que Fí-li-um,
 ペル テ シア ムス ダ パトレム * ノスカ ムスアトクエウイリウム *
 おん 身によりて 知らせよ、 おん 父を。 わきまをしめたまえ、 おん 子を。

Te-que u-tri-ús-que Spí-ri-tum Cre-dá-mus om-ni tém-po-re.
 テ ク トリウス クエ スピリトゥム * クレダ ムスオム ニテム ポレ
 なお 兩位より 出でたもう 霊なる おん 身を 信ぜしめたまえ、い つ も。

7. De-o Pa-tri sit gló-ri-a Et Fí-li-o qui a mór-tu-is
 デオ パトリスイト ヲプロリア * エトウイリオ クイ ア モルトウイス *
 父なる 天主に 栄光あれ、 また おん 子に、 死者より

Sur-ré-xit, ac Pa-rá-clit-o In sæ-cu-ló-rum saé-cu-la.
 スル レクスイト アク パラクリト * イン セクロルム セクラ
 よみがえりし(おん 子に) 慰め主にも、 世 世 くに。

A-men.
 ア メン



V. E-mit-te Spi-ri-tum tu-um et cre-a-bún-tur.
 ○ エミッテ スピリトゥム トウウム エトクレアブン トウム
 つかわしたまえ おん 身の 霊を、 しかしてすべては 造られん。

(T. P.) Al-le-lú-ja.
 (復活節に) アレ ル ヤ

R. Et re-no-vá-bis fá-ci-em tér-ræ.
 ▲ エト レ ノヴァビス ファチエム テル レ
 また 新たになさん、 地 の お も て を。

(T. P.) Al-le-lú-ja.
 (復活節に) アレ ル ヤ

Oremus: Deus, qui corda fidélium sancti
 Spíritus illustratióne docuisti: † da
 nobis in eódem Spíritu recta sápere, *
 et de ejus semper consolatiónne gaudére.
 Per Christum Dóminum nostrum.

祈願せん。聖霊の光りをもつて信者の心を
 照らしたまいし天主、同じく聖霊をもつて
 われらに正しきことを悟らしめ、そのおん
 慰めによりて常に喜ぶことを得しめたまえ
 われらの主キリストによりて。

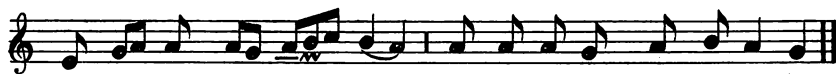
R. Amen.

▲ アーメン。

感 謝 唱

IN GRATIARUM ACTIONEM

テ・デウム Te Deum



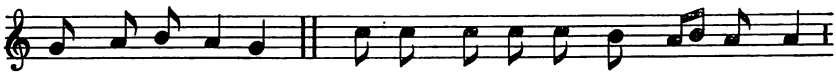
1. *Te De- um lau-dá- mus: * te Dó-mi-num con-fi-té-mur.*
 テ デ ウム ラッダ ムス テ ド ミ ヌム コッパイテ ムル
 おん身 天主を われらたたえ おん身主 を われら賛美しまつる



2. *Te æ-tér-num Pa-trem om-nis ter-ra ve-ne-rá-tur.*
 テ エ テル ヌム パ トレム オム ニス テル ラ ヅエ ネ ラ トウル
 おん身 永遠の おん父を 全 地は 拝みまつる



3. *Ti-bi om-nes An-ge-li, ti-bi cæ-li et u-ni-vér-*
 タイ ビ オム ネス アン ジエ リ タイ ビ チエ リ エト ウ ニ ヅエル
 おん身に すべてのの 天 使、 おん身に 天 と すべての



sæ Po-te-stá-tes: 4. Ti-bi Ché-ru-bim et Sé-ra-phim
 セ ポ テ スタ テス タイ ビ ケ ル ビ ム エト セ ラ ヱム
 の 権力ある者、 おん身に ケルビム も セラフイム も



in-ces-sá-bi-li vo-ce pro-clá-mant: 5. Sanc-tus,
 イン ェス サ ビ リ ヅオ ヌエ ヅロ ヅラ マント サンク トウス
 絶え間なく 声 はり上げて歌うらく 聖なるかな



6. *Sanc-tus,* 7. *Sanc-tus Dó-mi-nus De-us Sá-ba-oth.*
 サンク トウス サンク トウス ド ミ ヌス デ ウス サ バ オト
 聖なるかな 聖なるかな 万軍の 天主なる主



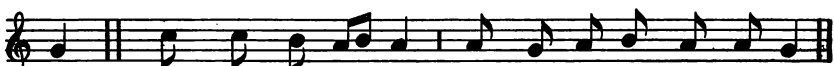
8. Ple-ni sunt caé-li et ter-ra ma-je-stá-tis gló-ri-

ッレ ニ スト ャエ リ° エト テル ラ マイ エ ス タ イ ス ヨロ リ
みち満てり、天 と 地 は おん身の栄光あるご靈威にと。



æ tu-æ. 9. Te gló-ri-ó-sus A-po-sto-ló-rum chó-

エ ト ウ エ テ ヨロ リ オ ス ス ア ポ ス ト ロ ル ム コ
おん身をか が や く 使 徒 の 群



rus: 10. Te Pro-pher-tá-rum lau-dá-bi-lis nú-me-rus:

ル ス テ ヨロ ャエ タ ル ム ラ ッ ダ ビ リ ス ヌ メ ル ス
は、 おん身を預 言 者 の と う と き あ つ ま り は、



11. Te Már-ty-rum can-di-dá-tus lau-dat ex-ér-ci-tus.

テ マ ル タイ ル ム カン タイ ダ ト ウ ス ラ ッ ダ ト エ ク セ ル チ ト ウ ス
おん身を清 き 殉 教 者 の 一 軍 は た た え、



12. Te per or-bem ter-rá-rum sanc-ta con-fi-té-tur Ec-

テ ペ ル オ ル ベ ム テル ラ ル ム サン ク タ コ ャイ テ ト ウ ル エ ク
おん身を全 地 に あ ま ね き 聖 会 も 賛 美 し ま つ る な り



clé-si-a: 13. Pa-trem im-mén-sæ ma-je-stá-tis:

ッレ ス イ ア パ ト レ ム イ ム メ ン セ マイ エ ス タ イ ス
おん 父 よ、 限 り な き ご 靈 威 の (おん 父 よ)



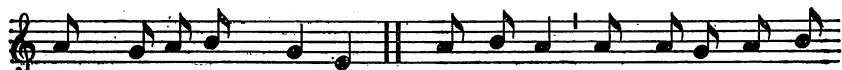
14. Ve-ne-rán-dum tu-um ve-rum et ú-ni-cum Fí-li-um:

ウ エ ネ ラ ン ド ウ ム ト ウ ウ ム ウ エ ル ム エ ト ウ ニ ク ム ナ イ リ ウ ム
い と た か き おん身の まことの ひとりの おん子



15. Sanc- tum quo- que Pa- rá- cli- tum Spí- ri- tum. 16. Tu

サンク トウム クオ ヲエ パ ラ クリトウム スピリトウム トウ
聖にして 慰さめ主なる 霊と共に。 おん身



Rex gló-ri-æ, Chri- ste. 17. Tu Pa- tris sem- pi- tér- nus es

レクス グロリエ クリステ トウ パトリス セム ピテルヌス エス
栄光ある王 キリストよ、 おん身 おん父の 永 遠 の



Fí- li- us. 18. Tu, ad li- be- rán- dum sus- cep- tú- rus

フィリウス トウ アド リベ ラン ドウム スセプトウルス
おん子 おん身 すくいのため 人とならんとて



hó- mi- nem, non hor- ru- í- sti. Vír- gi- nis ú- te- rum.

ホ ミ ネム ノン ホル ル イステイ ヴァイル ジ ニス ウ テ ルム
いとわざりき、童貞女の 胎をも。



19. Tu, de- ví- to mór- tis a- cú- le- o, a- pe- ru- í- sti cre-

トウ デヴィクト モルティス アクレオ アペルイステイ クレ
おん身 勝ちたまえり 死の とげに。 開きたまえり 信



dén- ti- bus re- gna cæ- ló- rum. 20. Tu ad déx- te- ram De-

デンティブス レニヤチエポルム トウ アド デクステラム デ
ずる者に 天 国 を。 おん身 天主の右に



i se- des, in gló- ri- a Pa- tris. 21. Ju- dex cré- de- ris

イセデス イン グロリア パトリス ユ デクスクレデリス
座したもう、 おん父の栄光のうちに。 さばき主として



és-se ven-tú-rus. 22. Te er-go quaé-su-mus, tú-is fá-
 エス セ ヲ エントウ ルス テ エルゴ ヲ エ ス ム ス トウ イ ス ヲ フ
 来たらんと信ぜらる。(跪座)おん身に 願ひまつる。おん身のしも



mu-lis súb-ve-ni, quos pre-ti-ó-so sán-gui-ne red-e-
 ム ヲ ス ス ヲ ヲ エ ニ ヲ オ ス ヲ レ ヲ イ オ ソ サ ヲ ヲ イ ネ レ デ
 べなるを 助けたまへ 尊 き おん血もてあがないたま



mí-sti. 23. Ae-tér-na fac cum Sanc-tis tu-is in gló-
 ミ ス テ イ エ テ ル ナ ヲ フ ヲ ク ム サ ヲ ヲ テ イ ス トウ イ ス イ ン ヲ フ
 いしをば。(起立)とこしえに 得しめよ、おん身の諸聖人を共に 栄光の



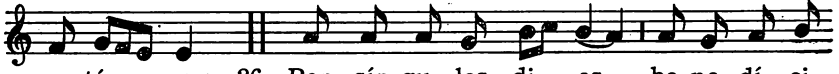
ri-a nu-me-rá-ri. 24. Sal-vum fac pó-pu-lum tu-um,
 リ ア ヌ メ ラ リ サ ル ヲ ム ヲ フ ヲ ポ プ ル ム トウ ウ ム
 うちに 数えらるるを。 救いたまへ おん身の民を、



Dó-mi-ne, et bé-ne-dic hæ-re-di-tá-ti tu-æ.
 ド ミ ネ エ ト ベ ネ テ イ ヲ ヘ レ テ イ タ テ イ トウ エ
 主 よ また 祝したまへ おん身の世嗣を。



25. Et re-ge e-os et ex-tól-le il-los us-que in
 エ ト レ ヲ エ エ オ ス エ ト エ ク ス ト ル レ イ ル ロ ス ウ ス ヲ エ イ ン
 たま 治めたまへかれらを。 また 高く導きたまへ、かれらをとこしえ



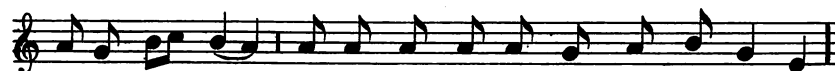
æ-tér-num. 26. Per sín-gu-los di-es be-ne-dí-ci-
 エ テ ル ヌ ス ベ ル ス イ シ ン グ ロ ス テ イ エ ス ベ ネ テ イ チ
 に至るまで。 日々 に われら謝しまつ



mus te. 27. Et lau-dá-mus no-men tu-um in saé-cu-lum,
 ムス テ エト ラッダ ムス ノ メントウウ ム イン セ ク ルム
 るおん身に。また たたえまつる おん身のみ名を 世 に。



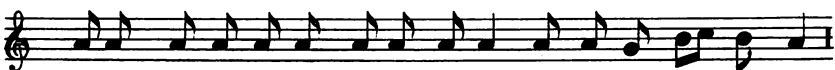
et in saé-cu-lum saé-cu-li. 28. Di-gná-re, Dó-mi-ne,
 エト イン セ ク ルム セ ク リ ヲ デイ エヤ レ ド ミ ネ
 また 世 々 に 願いまつる。主 よ



di-e i-sto, si-ne pec-cá-to nos cu-sto-dí-re.
 デイ エ イ スト スイ ネ ペッ カ ト ノ ス ク スト デイ レ
 こ の 日 罪 な く われらを 守りたまえ



29. Mi-se-ré-re no-stri, Dó-mi-ne, mi-se-ré-re no-stri.
 ミ セ レ レ ノ ス ト リ ド ミ ネ ミ セ レ レ ノ ス ト リ
 あわれみたまえ われらを、主 よ あわれみたまえ われらを。



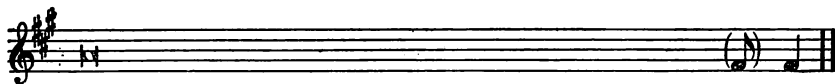
30. Fi-at mi-se-ri-cór-di-a tu-a, Dó-mi-ne, su-per nos,
 フイ ア ト ミ セ リ コル デイ ア ト ウ ア ド ミ ネ ス ペ ル ノ ス
 垂れたまえ、おん身の慈悲を、主 よ われらの上に



quem-ád-mo-dum spe-rá-vi-mus in te. 31. In te, Dó-mi-
 ク エ ム ア ド モ ド ウ ム ス ベ ラ ヲ イ ム ス イン テ イン テ ド ミ
 おん身にわれら寄り頼みし程に。おん身に主よ



ne, spe-rá-vi: non con-fún-dar in æ-tér-num.
 ネ ス ペ ラ ヲ イ ノ ャ コ ャ フ ャ ン ダ ル イン エ テ ル ヌ ム
 寄り頼むなり。むなしからまじ 永 遠 に。



V. *Be-ne-dí-cá-mus Pa-trem et Fi-li-um cum sanc-to Spi-ri-tu.*

◎ ベネデイカ ムス パトレム エトイザウ ムクム サンクトスピリトウ
われらたたえん おん父とおん子とを 聖霊と共に。

R. *Lau-dé-mus et su-per-ex-al-té-mus é-um in saé-cu-la.*

▲ ラウデ ムスエトス ペレクサラテ ムス エウ ム イン セ ク ラ
われら賛美せん、またわれらほめあげん 主を とこしえに。

V. *Be-ne-díc-tus es, Dó-mi-ne, in fir-ma-mén-to cae-li.*

◎ ベネディクトゥス エス ドミネ インフィルマメントチエザ
祝せられたもうなり、おん身主よ、天堂においで。

R. *Et lau-dá-bi-lis, et glo-ri-ó-sus,*

▲ エト ラウダビリ ス エト グロリオ ス
ほめらるべき、また 栄光あり、

et su-per-ex-al-tá-tus in saé-cu-la.

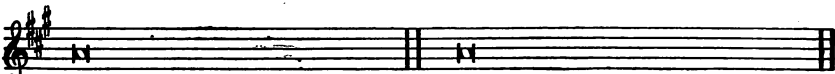
エト スペレクサラタトゥス イン セ ク ラ
またすべてに越ゆる(主は) とこしえに

V. *Dó-mi-ne, ex-aú-di o-ra-ti-ó-nem mé-am.*

◎ ドミネ エクサウディオラティオネ ム メ アム
主よ きき入れたまえわれらの祈りを。

R. *Et clá-mor mé-us ad te vé-ni-at.*

▲ エト クラモル ム ウス アド テ ヴェニ アト
またわが叫びをして み前に 至らしめたまえ

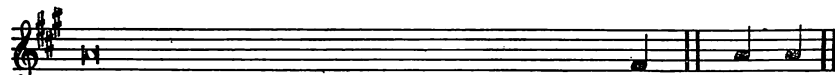


V. *Dó-mi-nus vo-bis-cum.* R. *Et cum spí-ri-tu tú-o.*

◎ ドミヌス ヴオビス クム ▲ エト クム スピリトウ トウオ

*Oremus: Deus, cujus misericórdiae non est número, et bonitátis infínitus est the-sáurus; † píssimae majestáti tuae pro collátis donis grátias ágimus, tuam sem-per cleméntiam exorántes; * ut qui pe-téntibus postuláta concédís, eósdem non déserens, ad praemia futúra dispónas.*

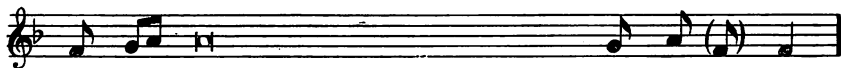
祈願せん。そのおん慈悲は極みなくその善は量り得たまわざる主よ。与えたまいしおん恵みをおん身の慈悲深きおん靈威に感謝しまつる。おん身に向かいて祈る人々にその願いをかなえさせたまえば、かれらを見棄てたもうことなく、未来の報いを得るにかなわしめたまわんことをおん身の寛容によりて願いまつる。



Per Chri-stum Dó-mi-num no-strum. R. A-men.

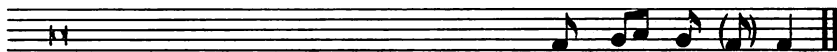
ペル クリストウ ム ド ミヌ ム ノ ストル ム ▲ アメン

聖母感謝唱 (一) マニファイカト Magnificat



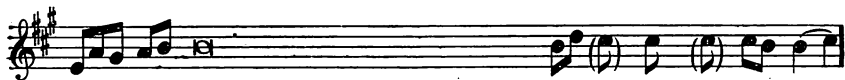
1. Ma-gní-fi-cat *
マニファイカト
2. Et ex-sul-tá-vit spí-ri-tus me-us *
エト エクス スル タ ヴァイト スピリトゥス メウス
3. Qui-a re-spé-xit hu-mi-li-tá-tem an-cíl-lae su-æ: *
クワイアレ スペクスイトホウ ミリタテム アンチルリス エ
4. Qui-a fe-cit mi-hi ma-gna qui po-tens est *
クワイア フェチト ミヒ マニヤ クワイポテンヌ エスト
5. Et mi-se-ri-cór-di-a e-jus a pro-gé-nie in pro-ge-ni-es *
エト ミセリコルディアエユスア ヲロジエニエイソ ヲロジエニ
6. Fe-cit po-tén-ti-am brá-chi-o su-o: *
フェチト ポテンティアム ブラキオ スオ
7. De-pó-su-it po-tén-tes de-se-de, *
デポスイト ポテンテス デセデ
8. E-su-ri-én-tes im-plé-vit bo-nis: *
エスリエンテス イムプレ ヴァイト ボニス
9. Sus-cé-pit Is-ra-el ser-vum su-um, *
スシェピト イスラエル セル ヴム スウム
10. Sic-ut lo-cú-tus est ad pá-tres no-stros, *
スイクト ロクトウス エスト アド パトレス ノストロス
11. Gló-ri-a Pa-tri, et Fi-li-o, *
グロリア パトリ エト フィリオ
12. Si-cut e-rat in prin-cí-pi-o, et nunc et sem-per, *
スイクト エラト イン プリンチピオ エト ヌンク エト セムペル

(訳詞は342ページにある)



á- ni- ma ア ニ マ	me a Do- mi- num. メ ア ド ミ ヌム
in De- o sal- va- イン デ オ サルヴァ	tó- re me- o. ト レ メ オ
ec- ce e- nim ex hoc be- á- tam me エッチエエニム エクス ホク ペア タム メ	
di- cent om- nes ge- ne- ヂイ チェント オム ネス ジエ ネ	ra- ti- o- nes. ラ ッイ オ ネス
et sanc- tum エト サンクトウム	no- men e- jus. ノ メン エ ユス
ti- mén- テイ メン	ti- bus e- um. テイ ブス エ ウム
di- spér- sit su- pér- bos men- te ヂイ スペルスイト ス ペル ボス メン テ	cor- dis su- i. コルヂイス ス イ
et ex- al- エト エクサル	tá- vit hu- mi- les. タ ヴイト ホウ ミ レス
et dí- vi- tes di- mí- エトヂイ ヴイ テス テイ ミ	sit in- a- nes. サイト イ ナ ネ
re- cor- dá- tus mi- se- ri- cór- レ コル ダトウス ミセリコル	di- ae su- æ. ヂイ エ ス エ
er- ga Ab- ra- ham et sé- men e- エルガ アブラハム エト セ メン エ	jus in sae- cu- la. ユス イン セ ク ラ
et Spi- rí- エト スピリ	tu- i sanc- to. トウ イ サンクト
et in sae- cu- la sæ- cu- エト イン セ ク ラ セ ク	ló- rum. A- men. ロ ルム ア メン

聖母感謝唱 (二) マニフィカト Magnificat



1. Ma- gni- fi- cat *

マニフィカト

3. Qui- a re- spé- xit hu- mi- li- tá- tem an- cil- læ su- æ *

クイアレスペクシトホウミリタテムアンチルレスエ

5. Et mi- se- ri- cór- di- a e- jus a pro- gé- nie in pro- ge- ni- es *

エトミセリコルディアエユスアノロゲニエインノロゲニエス

7. De- pó- su- it po- tent- es de se- de, *

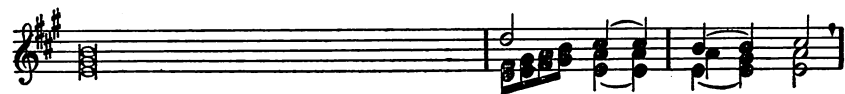
デポスイトポテンテスデセデ

9. Sus- cé- pit Is- ra- el ser- vum su- um, *

ススンエピトイスラエルセルヴァムスウム

11. Gló- ri- a Pa- tri et Fi- li- o, *

グロリアパトリエトフィリオ



2. Et ex- sul- tá- vit spi- ri- tus me- us *

エトエクスタヴィトスピリトゥスメウス

4. Qui- a fe- cit mi- hi ma- gna qui- pot- ens est: *

クイアフェチトミヒマニヤタイポテンシエスト

6. Fe- cit po- tén- ti- am bra- chi- o su- o: *

フェチトポテンシアムブラキオスオ

8. E- su- ri- én- tes im- ple- vit bo- nis *

エスリエンテスイムプレヴィトボニス

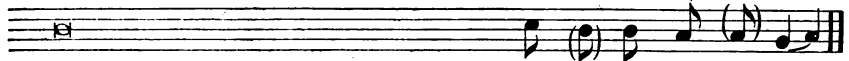
10. Sic- ut lo- cú- tus est ad pa- tres no- stros: *

スイクトロクトウスエストアドパトレスノストロス

12. Sic- ut e- rat in prin- cí- pi- o, et nunc, et sem- per, *

スイクトエラトインプリンチピオエトヌンクエトセムペル

(本歌は二種の譜に分けてあるが全部グレゴリオ曲であるいは全部合唱曲で歌つてもよい)



á- ni- ma me- a Do- mi-num.
マ ニ マ メ ア ド ミ ヌム

ec-ce e-nim ex hoc be-á-tam me
エツチエ エニム エクス ホク ペアタム メ

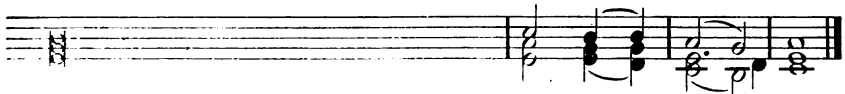
di-cent om-nes ge-ne- ra- ti- o- nes.
ダイチセント オム ネス ジエ ネ ラ ッイ オ ネス

ti- men-ti- bus e- um.
テイ メンテイ ブス エ ウム

et ex- al- ta- vit hu- mi- les.
エト エク サル タ ヴイト ホウ ミレス

re-cor-dá-tus mi-se-ri- cor-di- æ su- æ:
レ コル ダトウス ミセリ コルテイ エ ス エ

et Spi- ri- tu- i sanc- to.
エト スピ リトウ イ サンク ト



in De-o sal-va- to- re me- o.
イン デオ サルヴァ ト レ メ オ

et sanc- tum no- men e- jus.
エト サンクタウム ノ メン エ ユス

di-spér-sit su-pér-bos men-te cor- dis su- i.
ダイスペルスイト ス ペル ボス メンテ コルティス ス イ

et dí-vi-tes dí- mi- sit in- a- nes.
エト ダイヴィテス ダイ ミスイト イ ナ ネス

er-ga Ab-ra-ham et sé- men e- jus in sae- cu- la.
エルガ アブラ ハム エト セ メン エ ユスイン セ ク ラ

et in saé- cu- la sae- cu- lo- rum. A- men.
エト イン セ ク ラ セ ク プ ルム ア メン

(聖母感謝唱訳詞)

1. 崇めまつる * わが靈魂は主を。
2. わが精神は喜びに堪えず * わが救い主なる天主によりて。
3. そはおん召使いのいやしきを顧みたまいたればなり * けだし見よ、今よりよろず世にいたるまで、人われを幸いなる者となえん。
4. 全能にましますおん者、われに大事をなしたまいたればなり * 聖なるかな、そのみ名。
5. そのおんあわれみは世々 * これをおそる人々の上にあります。
6. みずからおん腕の権能を現わし * おのが心の思いにおこれる人々を打ち散らしたまえり。
7. 権力ある者をその座より下し * いやしき者をば高めたまえり。
8. 飢えたる者をよき物に飽かせ * 富める者をば手をむなうして去らしめたまえり。
9. そのしもベイスラエルを引き受けたまえり * おんあわれみを忘れず。
10. われらの先祖にのたまひしごとく * アブラハムにも、その子孫にも世々に限りなく及ぼしたまわん。
11. 栄光あれ、父と子と * 聖霊とに。
12. 初めにありしごとく今もいつも * 世々にいたるまで、アーメン。

雑

詠

教皇祈願歌 (一) オレムス Oremus



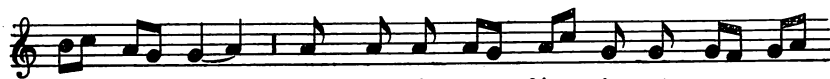
O-ré- mus pro Pon-tí-fi-ce no- stro N.

○ オレ ムス プロ ポンテイ ヲイテエ ノ ストロ
われら祈らん われらの教父 × × のために。



R. Dó-mi-nus con-sér-vet e- um et vi- ví- fi-

▲ ド ミ ヌス コン セル ヲエト エ ウム エト ヲイ ヲイ ヲイ
主 守りたまえ かれを また ながらえしめた



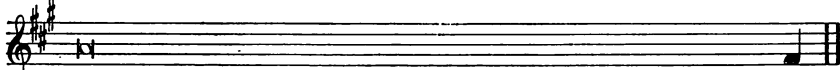
cet e- um, et be- á- tum fá- ci- at e- um
 ヌエト エ ウム エト ペ ア トウム ヲア チ アト エ ウム
 まえ かれを また 幸 い ならしめたまえ、かれを



in ter- ra, et non tra- dat e- um in á- ni- mam
 イン テルラ エト ノットラ ダト エ ウム イン ア ニ マム
 世において。 また わたしたまわされ かれを、 敵 の



in- i- mi- có- rum e- jus.
 イ ニ ミ コ ルム エ ユス
 手 に。

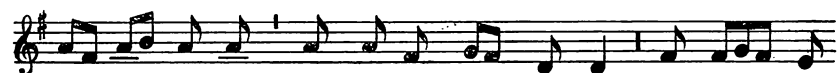


V. Tu es Pe- trus.
 ◎ トウ エス ペ ルス
 なんじ ベトロ なり

R. Et su- per hanc pe- tram æ- di- fi- cá- bo ec- clé- si- am me- am.
 ▲ エト ス ペル ハンク ペトラム エディフィカボエクκλησιαム メ アム
 この岩の上に われ建てん、わが教会を。

(以下祈願文は 344 ページにあるトウ・エス・ペトルスの祈願文と同じ)

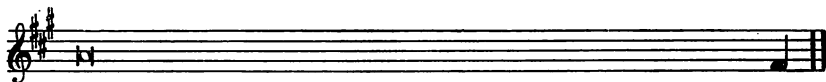
教皇祈願歌 (二) トウ・エス・ペトルス Tu es Petrus



Tu es Pe- trus * et su- per hanc pe- tram æ- di- fi-
 トウ エス ペトルス ▲ エト ス ペル ハンク ペトラム エディフィ
 なんじ ベトロ なり この岩の上に われ建て



cá- bo ec- clé- si- am me- am. T. P. Al- le- lú- ja.
 カボ エクκλησιαム メ アム アルレリヤ
 ん、わが教会を (復活節に)



V. *Fi-at ma-nus tu-a su-per vi-rum d'ex-te-rae tu-ae.*

◎ ファイアト マヌストウア スペルワイルム デクステレトウ エ
あれよかし おん手 おん身の右側なる人の上に。

R. *Et su-per fi-li-um hó-mi-nis, quem con-fir-má-sti ti-bi.*

▲ エト スペルワイリウム ホミニス クエム コンファイム マスタイティビ
また おん身のため固めたまいし人の子の上にも

Oremus: Deus, omnium fidelium pastor et rector, famulum tuum N. quem pastorem Ecclesiae Tuae praeesse voluisti, propitius respice: da ei, quaesumus, verbo et exemplo, quibus praeest, proficere; ut ad vitam, una cum grege sibi credito, perveniat sempiternam. Per Christum Dóminum nostrum. R. Amen.

祈願せん。すべての信者の牧者、かつ主宰者にてまします天主、主はおん摂理によりて主のしもべなる教父を公教会の牧者として、これをつかさどらしめたまえり。ねがわくはおん慈悲を垂れ、教父をしてその教訓とその模範とによりて、すべての信者をますます善徳に進ましめ、ゆだねられたる群とともに、永遠の生命に至らしめたまえ。われらの主キリストによりて、 ▲ アーメン。

平安祈願歌 *ダ・パチエム Da pacem*



*Da pa-cem, Dó-mi-ne, * in di-é-bus no-stris, qui-a*

○ ダ パチエム ドミネ ▲ インデイエプス ノストリス クイア
平安を賜え、主よ、われらの時代において。そは



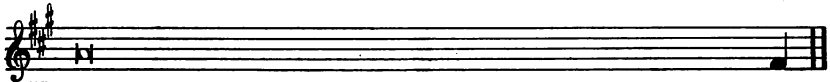
non est á-li-us, qui pu-gnet pro no-bis

ノン エスト アリウス クイプニエト プロ ノビス
他にあらざればなり、われらのため戦うおん者は



ni-si tu, De-us no-ster.

ニスイトウ デウス ノステル
われらの天主なるおん身の(他に)



V. *Fi-at pax in vir-tú-te tu-* a.

◎ *フイアト パクス イン ヴァルトウテ トウ* ア
 平安あれ、おん身の力において

R. *Et a-bun-dán-ti-a in túr-ri-bus tu-* is.

▲ *エトアブン ダンタイア イン トウルリブストウ* イス
 また豊かなれ、おん身のやぐらの中は。

*Oremus: Deus, a quo sancta desideria,
 recta consilia et justa sunt opera: da
 servis tuis illam, quam mundus dare non
 potest, pacem; ut et corda nostra man-
 datis tuis dedita et hostium sublata
 formidine, tempora sint tua protectione
 tranquilla. Per Christum Dominum
 nostrum. R. Amen.*

祈願せん。主よ、聖なる望み、正しき勸
 め、かつ正しき行ないはおん身より出ずる
 がゆえに、世の与え得ざるかの平安をしも
 べに与えたまえ。そはわれらの心がおん身
 の命により従順となり、敵の怖れは除かれ、
 時世はおん身の保護の下に、おだやかなら
 んためなり。われらの主キリストによりて。

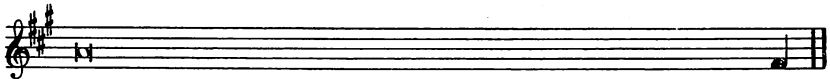
▲ アーメン。

降福式祈願文

ORATIONES ANTE BENEDICTIONEM
 CUM SS. SACRAMENTO

聖霊祈願文 De Spiritu sancto (331ページにある)

イエズス聖心祈願文 De Ss. Corde Jesu



V. *Je-su, mi-tis et hú-mi-lis cor-* de.

◎ *イエス ミテイス エトホウ ミリス コル* デ
 心の柔和けんそんなるイエズス

R. *Fac cor no-strum se-cún-dum cor tu-* um.

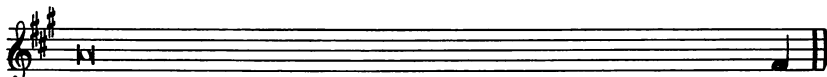
▲ *フアク コル ノストルム セクンドウム コルトウ* ウム
 われらの心をあやからせたまえ み心に。

Oremus: Omnipotens sempiternus Deus, respice in Cor dilectissimi Filii tui: et in laudes et satisfactiones quas in nomine peccatorum tibi persolvit, usque misericordiam tuam petentibus tu veniam concede placatus, in nomine ejusdem Filii tui Jesu Christi. Qui tecum vivit et regnat in unitate Spiritus sancti Deus, per omnia saecula saeculorum. R. Amen.

祈願せん。全能永遠にまします天主、いとつくしみたもうおん子のみ心をみそなわし、罪人のために主の献げたもう賛美と償いとを願みたまいて、これになだめられ、おん哀れみを求めまつる者に許しを賜わらんことを、聖霊と共にとこしえに生きかつしろしめたもう天主なるおん子イエズス・キリストのみ名によりて願いたてまつる
▲ アーメン。

聖母祈願文 De B. M. V. (一般304ページ、聖節306ページにある)

聖ヨゼフ祈願文 De S. Joseph



V. Con- sti- tu- it e- um do- mi- num do- mus su- ae.

◎ コンステイトウイト エウム ド ミヌム ド ムス ス エ
主は定めたまえり、かれをおのが一家の首長と。

R. Et prin- ci- pem om- nis pos- ses- si- ó- nis su- æ.

▲ エト プリンチペム オム ニス ポスセスイオニス ス エ
しかしてつかさどらしめたまえり、すべてのその所有物を。

Oremus: Deus, qui ineffabili providentia beatum Joseph sanctissimae Genitricis tuae Sponsum eligere dignatus es: praesta quaesumus; ut quem protectorem veneramus in terris, intercessorem habere mereamur in caelis. Qui vivis et regnas in saecula saeculorum.

祈願せん。絶妙なる摂理により至聖なるおん母の浄配として主の選みたまいたる聖ヨゼフを、地上において保護者と尊敬しまつるわれらをして、その天上よりの代禱を蒙るに耐うべき者たることを得しめたまえ、世々生きかつしろしめたもう主によりて

R. Amen.

▲ アーメン。

教皇祈願文 Pro Papa (342ページにある)

平安祈願文 Pro Pace (344ページにある)

感謝唱祈願文 Pro gratiarum actione (337ページにある)

降福式祈願文 Oratio de Ss. Sacramento (351ページにある)

降 福 式 賛 歌

祝 福 前 タントウム・エルゴ (一) Tantum ergo



1. Tan-tum er-go Sa-cra-mén-tum Ve-ne-ré-mur cé-nu-i:

タントウム エルゴ サクラメントウム* ヴェネレムル チエルヌイ*
大いなる 秘 跡 を われら 拝み 平伏さん。



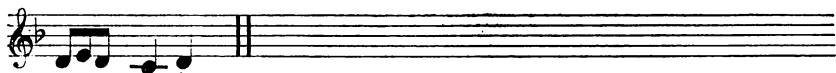
Et an-tí-quum do-cu-mén-tum Nó-vo cé-dat rí-tu-i.

エト アンティクウム ドクメントウム* ノヴォチエダトリトゥイ*
いにしえの 式は去りて 新しき祭式はなれり。



Prae-stet fi-des sup-ple-mén-tum Sén-su-um de-féc-tu-i.

プレステットフェイスプレメントウム* センスム デフェクトウイ*
ねがわくは 信仰は 補えよかし、 五官の 足らざる 所を。



A- men.

ア メン

2. Ge-ni-tó-ri Ge-ni-tó-que Laus et ju-bi-lá-ti-o:

ジェニトリ ジェニトクエ* ラウス エト ユビラットイオ*
おん父、おん子に ほまれとよろこび、

Sa-lus, ho-nor, vir-tus quo-que Sit et be-ne-díc-ti-o:

サルス ホノル ヴイルトゥス クオクエ* サイトエトベネディクットイオ*
たすかり、栄光、力、および 祝 福 あ れ

Pro-ce-dén-ti ab u-tró-que Com-par sit lau-dá-ti-o.

プロチエデントイアウトロクエ* コムパルサイトラウダットイオ*
兩位より出たもうおん者にも 同じくほまれあれ

A- men.

ア メン (以下351ページへつづく)

祝 福 前 タントウム・エルゴ (二) Tantum ergo



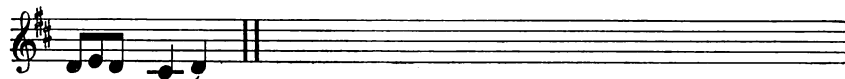
1. Tan-tum er-go Sa-cra-mén-tum Ve-ne-ré-mur cér-nu-i
 タントウム エルゴ サクラ メントウム * ヲエ ネレ ムル ヌエル ヌイ *



Et an-tí-quum do-cu-mén-tum No-vo cé-dat rí-tu-i:
 エト アンテイ クウム ドク メントウム * ノウオ ヌエダト リトウイ



Præ-stet fi-des sup-ple-mén-tum Sén-su-um de-féc-tu-i.
 プレステトウイ デス スプッレ メントウム * セン スウム デフエクトウイ



A- men.
 ア メン

2. Ge-ni-tó-ri Ge-ni-tó-que Laus et ju-bi-lá-ti-o:
 ヲエニトリ ヲエニトクエ * ラウス エト ユビラッイオ *
 Sa-lus, ho-nor, vir-tus quo-que Sit et be-ne-díc-ti-o
 サルス ホ ノル ヴイルトウス クオクエ * スイトエトベネデイクッイオ *
 Pro-ce-dén-ti ab u-tró-que Com-par sit lau-dá-ti-o.
 プロチエデンテイ アウトロクエ * コム パルスイト ラッダッイオ
 A- men.
 ア メン (以下351ページへつづく)

祝 福 前 タントウム・エルゴ (三) Tantum ergo



1. Tan-tum er-go Sa-cra-men-tum Ve-ne-re-mur
 2. Ge-ni-to-ri, Ge-ni-to-que Laus et ju-bi-



cer- nu- i: Et an- ti- quum do- cu- men- tum
la- ti- o Sa- lus, ho- nor, vir- tus quo- que,

mf No- vo ce- dat ri- tu- i: *p* Prae- stet fi- des
Sit et be- ne- dic- ti- o: Pro- ce- den- ti

sup- ple- men- tum Sen- su- um de- fec- tu- i.
ab u- tro- que Com- par- sit lau- da- ti- o.

f Sen- su- um de- fec- tu- i.
Com- par- sit lau- da- ti- o. A- men.

祝 福 前 タントウム・エルゴ (四) Tantum ergo

Moderato *f* S. M.

1. Tan- tum er- go Sa- cra- men- tum Ve- ne- re- mur
2. Ge- ni- to- ri, Ge- ni- to- que Laus et ju- bi-

p *cresc*

cer- nu- i: Et an- ti- quum do- cu- men- tum No- vo
la- ti- o: Sa- lus, ho- nor. vir- tus quo- que, Sit et

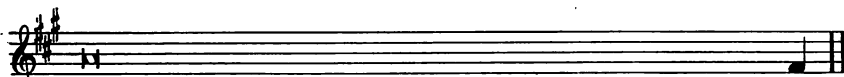
mf

ce- dat ri- tu- i: Prae- stet fi- des sup- ple-
be- ne- dic- ti- o: Pro- ce- den- ti ab u-

f

men- tum Sen- su- um de- fec- tu- i.
tro- que Com- par sit lau- da- ti- o. A- men.

タントウム・エルゴの後



V. Pa-nem de cae-lo prae-sti-ti-sti e- is.

◎ パ ネム デ チエロ プレ スタイ テイス タイ エ イス
パンを 天より おん身は与えたまえり か れ ら じ。

(T.P.) Al-le-lú- ja.

(復活節と聖体祭の週間とに加える) ア レ ル ヤ

R. Om-ne de-lec-ta-mén-tum in se ha-bén-tem.

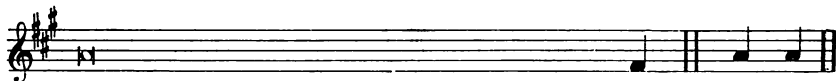
▲ オム ネ デ レクタ メントウム イン セ ハ ベン テム
すべての た の し み を その中に 含みたまひし (パンを)

(T.P.) Al-le-lú- ja.

ア レ ル ヤ

Orémus: Deus, qui nobis sub Sacraménto mirábili passiónis tuae memóriam reliquísti: tribue, quaesumus: ita nos Corporis et Sánguinis tui sacra mystéria venerári, ut redemptionis tuae fructum in nobis júgiter sentiamus.

祈願せん。たえなる秘跡の下にわれらに
ご苦難の記念を残したまえる天主ねがわく
はわれらをしておん体とおん血との真正な
る奥義を適当に尊敬し、もつて絶えずわれ
らの身にあがないの恵みを感じるを得しめ
たまわんことを



Qui vi-vis et re-gnas in saé-cu-la sae-cu-ló-rum. R. A-men.

クイ ヴィ ヴィ イス エト レ ャ ス イン セ ク ラ セ ク ロ ルム ▲ ア メン
世々に生きしるしめしたもう主に祈りまつる。

聖 体 降 福 式 賛 美

1. 天主は、賛美せられさせたまえ。
2. 天主のみ名は、賛美せられさせたまえ。
3. まことの天主、まことの人なるイエズス・キリストは、賛美せられさせたまえ。
4. イエズスのみ名は、賛美せられさせたまえ。
5. イエズスの至聖なる聖心は、賛美せられさせたまえ。
6. いと尊き聖体の秘跡にましましたもうイエズスは、賛美せられさせたまえ。
7. 天主のおん母聖マリアは、賛美せられさせたまえ。
8. 聖マリアの原罪の汚れなきおん宿りは、賛美せられさせたまえ。
9. その栄えある被昇天は、賛美せられさせたまえ。
10. 童貞にして母なる聖マリアのみ名は、賛美せられさせたまえ。
11. 聖マリアの浄配なる聖ヨゼフは、賛美せられさせたまえ。
12. すべての天使と聖人において、天主は賛美せられさせたまえ。

司教入堂歌

IN RECEPTIONE EPISCOPI

サ^チエルドス Sacerdos



Sa-cér-dos et Pón-ti-fex * et vir-tú-tum

サ^チエルドス エト ポン^テイ^フエクス ▲ エト ヴァイルトウ^トウム
司祭 および 司教よ、 また 善徳を



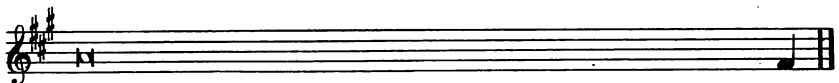
ó-pi-fex, pa-stor bó-ne in pó-pu-lo,

オピ^フエクス パ^ストル ボネ イン ポ^プロ
行なりおん者よ、 民に対してよき牧者よ、



sic pla-cu-í-sti Dó-mi-no. (T.P.) Al-le-lú-ja.

スイ^ク プラ^ク イ^スタイ ド^ミ ノ ア^レ ル^ル ヤ
かないたまえり 主に、(復活節)



V. Pro-téc-tor no-ster, ád-spi-ce, De- us.

◎ フロ^テク^{トル} ノ^ステル ア^ドスピ^チエ^デ ウス
われらの保護者よ 顧みたまえ、 主よ。

R. Et ré-spi-ce in fá-ci-em Chri-sti tu- i.

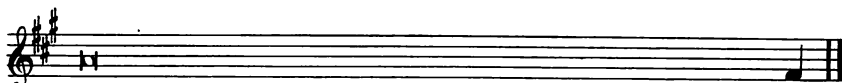
▲ エト レ^スピ^チエ^{イン} ヲ^チエム クリ^スタイ^トウ イ
また 見そなわしたまえ 選ばれしおん者のおん顔を、

V. Sal-vum fac ser-vum tu- um.

◎ サ^ル ヴ^ム ファ^ク セ^ル ヴ^ム トウ ウム
たすけたまえ、 おん身のしもべを、

R. De-us me-us, spe-rán-tem in te.

▲ デ^{ウス} メ^{ウス} スペ^{ラン} テ^ム イン テ
わが天主よ、 おん身によりて頼みまつる(しもべを)



V. *Mit-te e-i, Dó-mi-ne, au-xí-li-um de sanc-to.*

◎ ミト テ エ イ ド ミ ネ アックスイ ヴ ム デ サンク ト
かれに与えたまえ 主 よ た す け を 聖なる所より。

R. *Et de Si-on tu-é-re e- um.*

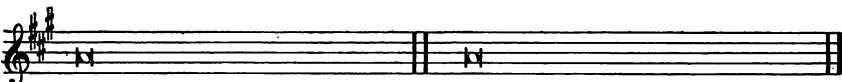
▲ エト デ スイ オン ト ウ エ レ エ ム
かつ シオンより 守りたまえ かれを

V. *Ni-hil pro-fi-ci-at in-i-mí-cus in e-o.*

◎ ニ ヒル ヲロ ヲイ チ アト イ ニ ミ ク ス イ シ エ オ
勝つことなからしめたまえ、 悪 霊 が かれに対して。

R. *Et fí-li-us in-i-qui-tá-tis non ap-pó-nat no-cé-re e-i.*

▲ エト ヲイ ヴ ム ス イ ニ ヲイ タ ヲ イ ス ノン ア ヲポ ナト ノ ヌ エ レ エ イ
また 罪 の 子 が かれを害せんとはかるをとどめたまえ。

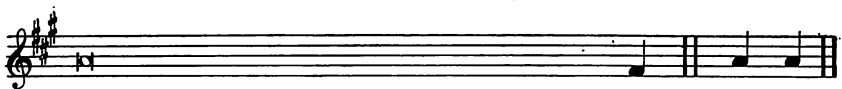


V. *Dó-mi-nus vo-bis-cum.* R. *Et cum spí-ri-tu tu-o.*

◎ ド ミ ヌ ス ヲ オ ビ ス ク ム ▲ エト ク ム ス ピ リ ト ウ ト ウ オ
主 なんじと共に また なんじの 霊 と 共に

*Orémus: Omnipotens sempitérne Deus, qui facis mirabilia magna solus, † praetérnde super hunc fámulum tuum, et cunctas congregatiónes illi commisas, spiritum grátiae salutáris: * et ut in veritáte tibi compláceat, perpétuum ei rorem tuae benedictiónis infúnde.*

祈願せん。大いなる奇跡をひとりにてな
したまいし全能永遠の天主よ、おん身のこ
のしもべとかれにゆだねられたるすべての
つどい（教会）に、益ある恵みの精神を与
えたまえ。またかれの真実もてみ旨にかな
いまつるを得るよう、おん身の祝福の断え
ざる露を注ぎたまえ。

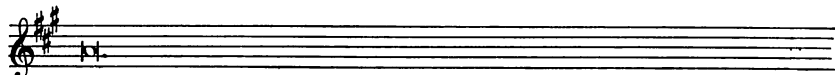


Per Chri-stum Dó-mi-num no-strum. R. A-men.

ペル クリ スト ム ド ミ ヌ ム ノ ストル ム ▲ ア メン
われらの主 キリス ト によ り て しかあらしめたまえ

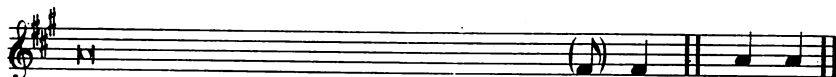
授 堅 式

DE CONFIRMANDIS



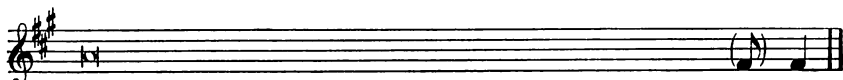
V. *Spi-ri-tus sanc-tus su-per-vé-ni-at in vos, et vir-tus*

◎ スピリトウス サンクトウス ス ペルヴェニアト イン ヴオス エト ヴイルトウス
 聖 霊 来たりたまえ なんじの上に。 また おん力が



Al-tis-si-mi cu-stó-di-at vos a pec-cá-tis. R. A-men.

アルティッシミ クストディアト ヴオス ア ペク カ ティス ▲ ア メン
 最上者の (おん力が) 守りたまえ。なんじらを罪より。



V. *Ad-ju-tó-ri-um no-strum in nó-mi-ne Dó-mi-ni.*

◎ アジュトリウム ノ ストルム イン ノ ミネ ド ミ ニ
 われらの助けは 主のみ名にあり。

R. *Qui fe-cit cæ-lum et tér-ram.*

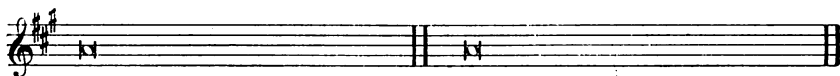
▲ クイフェチトエルクム エト テル ラム
 そは かれ天地を造りたまいたればなり。

V. *Dó-mi-ne, ex-áu-di o-ra-ti-ó-nem me-am.*

◎ ドミネ エクサウチイ オラッイオネム メ アム
 主よ、ききたまえ、わが祈を。

R. *Et cla-mor me-us ad te vé-ni-at.*

▲ エトクラモル メウス アテ ヴェニ アト
 また わが叫びをして み前に 至らしめたまえ。



V. *Dó-mi-nus vo-bis-cum. R. Et cum spí-ri-tu tu-o.*

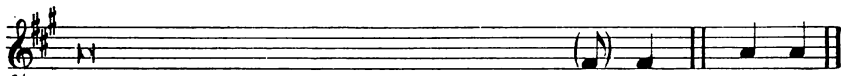
◎ ドミヌス ヴオビス クム ▲ エト クム スピリトウ トウ オ
 主 なんじらと共に、 また なんじの霊と共に。

Orémus: Omnipotens sempitérne Deus, qui regenerere dignátus es hos fámulos tuos ex aqua et Spíritu sancto: †

祈願せん。おん身のこのしもべらを水と聖霊とによりてふたたび生みたまひ、かれらにすべての罪のゆるしを与えたまひし全

*quique dedisti eis remissionem omnium
peccatorum; * emitte in eos septiformem
Spiritus tuum*

能永遠の天主よ、かれらの上に七つの、た
まものを与えたもうおん身の霊をつかわし
たまえ。



sanc-tum Pa-rá-clí-tum de cae-lis. R. A-men.
◎ サンクトゥム パラクリトゥム デ チエ リス ▲ ア メン
聖なる なぐさめ主を 天 よ り。

Spi-ri-tum sa-pi-én-ti-ae et in-tel-léc-tus. R. A-men.
◎ スピリトゥム サピエンツィエ エトインテルレクタウス ▲ ア メン
霊を、上 智 と 聰明との(霊を)

Spi-ri-tum con-sí-li-i et for-tí-tú-di-nis. R. A-men.
◎ スピリトゥム コンスイリイ エトフォルティトゥデイニス ▲ ア メン
霊を、賢慮 と 剛毅との(霊を)

Spi-ri-tum sci-én-ti-ae et pi-e-tá-tis. R. A-men.
◎ スピリトゥス シエンツィエ エトピエタテイス ▲ ア メン
霊を、知識 と 孝愛との(霊を)

Adimple eos Spíritu timóris tui, et consigno eos signo cru-
◎ かれらをおん身の敬畏の霊もて満たしたまえ。しかして

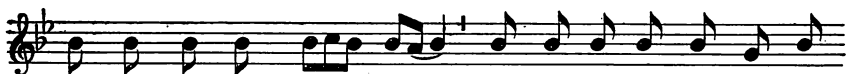
✠ *cis Christi, in vitam propitiátus aetérnam. Per eundem*
おん慈悲もてかれらに キリストの十字の記号を印したまえ

Dominum nostrum Jesum Christum Filium tuum, qui
永遠の生命に至らんため、主と聖霊と共に(世々)

tecum vivit et regnat in unitate ejusdem Spíritus sancti
生きかつしろしめたもう そのおん子われらの主キリストによりて

Deus, per omnia saecula saeculó-rum. R. A-men.
世 世 に。 ▲ ア メン

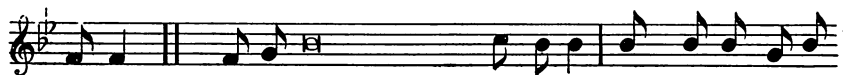
(ここで司教は受堅者に塗油する。終わつて歌隊は次を歌う)



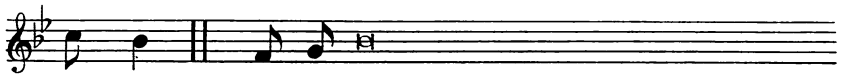
*Con-fír-ma hoc, Dé-us, * quod o-pe-rá-tus es in-*
コンファイル マ ホク デ ウス ▲ ヴォド オ ペ ラ ト ウ ス エ ス イ ン
かためたまえ、 天主よ われらのうちに行ないしことを、



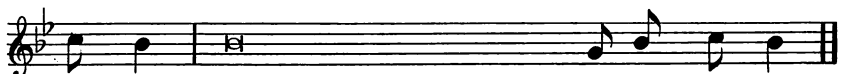
nó-bis, a tém- plo sanc-to tú-o, quod est in Je-rú-
 ノ ビス ア テム プロ サント トウ オ クオ エスト イン シエル
 おん身の聖殿より イエルザレムにある



sa-lem. V. Gló-ri- a Pa-tri, et Fí-li-o, et Spi-ri- tu- i
 サレム ○ ヲロリア パトリ エト フィリオ エト スピリトゥイ
 (聖殿より) 栄光あれ 父 と 子 と 聖 霊

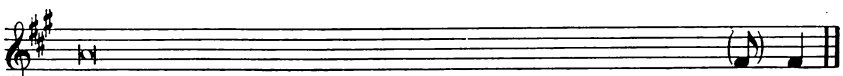


sanc-to. R. Sic- ut é-rat in prin-cí-pi-o, et nunc, et
 サント ▲ スイ クト エラト イン プリンチピオ エト ヌンク エト
 とに。 始めにありしごとく 今も



sem- per et in saé-cu-la sae-cu- ló-rum. A- men.
 セム ペル エト イン セクラ セク ロルム ア メン
 いつも 世 世 に。

(前にもどつてコンフィルマをイエルサレムまで歌つて次に移る)

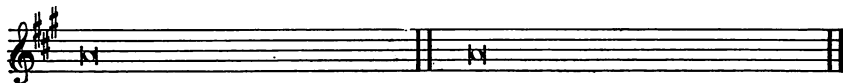


V. O- sten- de no- bis, Dó- mi- ne, mi- se- ri- cór- di- am tu- am.
 ◎ オステンデ ノビス ドミネ ミセリコルディアム トウ アム
 示したまえ われらに 主 よ おん身のおんあわれみを、

R. Et sa- lu- tá- re tu- um da no- bis.
 ▲ エトサルタレトウ ウム ダノ ビス
 しかしておん身の救いを 与えたまえ われらに。

V. Dó- mi- ne, ex- áu- di o- ra- ti- ó- nem me- am.
 ◎ ドミネ エクサウディ オラティオンム メ アム
 主 よ ききたまえ わが祈りを

R. Et cla- mor me- us ad te vé- ni- at.
 ▲ エトクラモル メウス アド テ ヌエ ニアト
 また わが叫びをして み前に 至らしめたまえ



V. *Dó-mi-nus vo-bis-cum.* R. *Et cum spí-ri-tu tu-o.*

◎ ド ミ ヌス ヌオ ビス クム
主 よ なんじらと共に、

▲ エト クム スピ リトウ トウオ
また なんじの靈と共に、

*Orémus: Deus, qui Apostolis tuis sanctum dedisti Spíritum, et per eos, eorumque successóres, céteris fidélibus tradendum esse voluisti: † respice propitiús ad humilitátis nostrae famulatum, et praesta; ut eorum corda, quorum frontes sacro chrísmate delinívimus, et signo sanctae Crucis signávimus, * idem Spíritus sanctus in eis supervéniens, templum glóriæ suae dignánter inhabitándo perficiat; qui cum Patre, et eódem Spíritu sancto vivis et regnas Deus, in saécula saeculórum R. Amen.*

Ecce sic benedicétur omnis homo, qui timet Dóminum.

Benedicat vos Dóminus ex Sion, ut videátis bona Jerúsalem omnibus diébus vitae vestrae, et habeátis vitam aetérnam.

R. Amen.

祈願せん。おん身の使徒たちに聖靈を与え、かれらとかれらの相統者とによりて他の信徒にも与えんと望みし天主よ。おん身の卑しきしもべを慈悲もて顧みたまえ。またわれが聖香油をその額に注ぎ聖なる十字架の記号を印したる人々の心に同一なる聖靈が降り、常に住みたまいておん身の栄光ある聖殿とならしめたまえ。おん父と同じ聖靈と共に世々生きかつしろしめしたもう天主よ。

▲ アーメン。

見よ、天主をおそる人々はかく祝せられん。

ねがわくは主がなんじらをシオンより祝したまわんことを。そはなんじらはイエルザレムのよきことをなんじらの全生涯において見、しかして永遠の生命に至らんがためなり。▲ アーメン。

昭和18年2月25日第一版発行
昭和25年9月10日第二版発行
昭和28年7月25日第三版発行
昭和34年9月5日第四版増補印刷
昭和34年9月10日第四版増補発行

定価 280 円

不
許
複
製

札幌市北十一条東二丁目
編者 光 明 社

札幌市北十一条東二丁目
発行者 ブ ラ イ ト ン

札幌市北十二条東三丁目
印刷者 長 内 タ カ

札幌市北十二条東三丁目
印刷所 天使院印刷製本部

札幌市北十一条東二丁目
発行所 光 明 社

振替小樽 4664
